

Copyright Notice

This document is provided under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License (CC BY-NC-SA 4.0):

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/>

You are free to:

- Share — copy and redistribute the material in any medium or format
- Adapt — remix, transform, and build upon the material

Under the following terms:

- Attribution — You must give appropriate credit to the publisher, provide a link to the license, and indicate if changes were made. You may do so in any reasonable manner, but not in any way that suggests the licensor endorses you or your use.
- NonCommercial — You may not use the material for commercial purposes.
- ShareAlike — If you remix, transform, or build upon the material, you must distribute your contributions under the same license as the original.

About the Project

This document was created with the permission of participating publishers as part of the Japanese Multi-Volume Sets Discoverability Improvement Project, funded by the Council on East Asian Libraries and the Mellon Foundation for Innovation Grants for East Asian Librarians.

『外事警察報』解説・総目次・索引

不二出版

第一〜第二三号 欠

第二四号 一九二四（大正一三）年六月

資料

露国共産党内部に於ける分派成立事情 一〇

ロシア共産党第十三回会議 一一〇

新経済政策の成績 三三〇

内外情報

露国事情

極東共産党の現状 四〇〇

東洋民族共産会議 五一〇

労農政府の日本研究委員会組織 五二〇

ソウエートロシアの財界不況 五四〇

独逸事情 ゲルマニツシエ会の発覚 五六〇

米国事情 露国共産党宣伝 五七〇

支那事情

閉鎖後のメストコム 五八〇

露国帝政復興派臨時委員会議 六一〇

陳独秀と全国学生聯合会 六二〇

支那官憲の華工渡日阻止 六三〇

国恥記念日 六四〇

国内事情

支那国民党東京支部設置準備 七八〇

僑日共済会の現在 七八〇

旅大回収と留日支那人 七九〇

彙報

ロシア各大会の開催／浦塩に於ける共産党青年會議／

イルクツク共産党宣伝学校拡張／莫斯科共産党大学卒

業式／共産党新入党者心得／露国の外交關係／仏国首

相の対露問題に関する陳述／ブルガリア共産党の解散

／希臘王朝の廃止／芬蘭反社会党の勝利／独逸総選挙

に於ける反動傾向／仏国左党団体の活躍／伊国フアッ

スチ党大勝／支那に於けるK・K・K／時計行商露国

人

人事動靜 九五〇

雜報 一〇二

米国領事の身元引受拒否／ロシア日刊新聞／ソウエー

トロシアと各国との科学著作交換／レニングラードの
人口／国際聯盟議事予定／露西亜通過雜記／支那人犯

罪事件調

附録

在留外人一覽表

第二五号 一九二四（大正一三）年七月

資料

共産党大会と露国刻下の問題 一〇 八

ソヴェート組織以後の極東 八〇 一七

露国に於ける一九二二、三年經濟年度狀況 一八〇 三〇

内外事情

露国事情

露西亜共産党第十三回大会 三一〇 三六

第十一回全露委員大会 三六〇 四七

勞農露国の兵役義務 四八〇 五一

ウクライナに於ける共産党の組織 五一〇 五五

極東政治經濟狀況一般 五五〇 五七

浦塩に於ける支那人俱樂部設立 五七

浦塩鮮人黨員の淘汰 五八

独逸事情

独逸共産党會議 五八〇 五九

独逸共産党の陣容 五九〇 六五

チエツコ・スロヴァキア事情 六六〇 六九

ア国に於ける共産主義の終熄 六六〇 六九

印度事情 印度共産党主義者の陰謀 六九〇 六九

支那事情

支那共産党會議 七〇〇 七〇

上海共産党會議 七〇〇 七〇

上海白軍殘党の狀況 七一〇 七二

露支交渉と支那の露国承認 七二〇 七六

執照条例の制定と支那紙の論調 七三〇 七九

奉天に於ける外人対支文化研究委員會の宣言

七九〇 八〇

支那のメーデー 八〇〇 八四

中華学芸社 八五〇 一〇三

国内事情

京城露人の逃仕度 一〇四〇 一〇四

露国大使館の近況 一〇五

米国大使館の警備隊警告 一〇五〜一〇六

在留外国人の米国排日対策運動 一〇六〜一〇九

支那人労働者入国禁止及労働取締緩和運動 一〇九〜一二四

旅大回収後援会役員及留日学生役員改選

日華学生協和会 一二五〜一二六

中華留日基督教信徒聯合会 一二六〜一二八

支那留日学生の現在 一二九〜一三〇

一三一〜一三四

彙報

一三五〜一七七

レーニン追悼演説／一九二四年一月に於けるロシアの

状態／欧露赤軍首脳者の陰謀／万国赤色職業組合同盟

機関雑誌記者／水平運動とソウエート・ロシア／労農

ロシアのメーデー檄文／万国共産党対日本宣伝／莫斯科

科東洋芸術陳列館／ソウエート政府に対する敵対干渉

計画／露西亜帝政派宣伝文／露支交渉に対する露紙の

論調／赤旗紙の日米観／ペ港保安部の取締振／独逸総

選挙の情況／国際労働者聯盟の労働祭檄文／仏国に対

する労働インターナショナル／伊国ファシスチ党の暴

挙と政界の危機／新回々教主の即位と廃教主の教書／

北京在留白色露国民の北滿落ち／支那国境出入居住露

国人取締規則／支那K・K・K党綱領と同党幹部逮捕

／支那各党の国家救済策／米国排日案に対する在留外

国人の感想と主たる本邦外字新聞の論調／憤死事件及

帝国ホテル闖入事件に対する在留米人の感想と米紙の

論調／在米日本人の外務大臣宛通電／丁抹総選挙／ヅ

ウメルク大統領の就任とエリオ内閣成立／イスメット

改造内閣員顔触／秘露新内閣の成立／南阿総選挙の結

果／日本芬蘭間新通商条約調印

人事動静 一七八〜一八三

雑報 一八四〜一九〇

露西亜通過雑記／労農政府の内幕／東洋労働者共産大

学／上海独立新聞の収支決算／外事警察講習会開催

附録 露国労働法規集 (一)〜(五四)

第二六号 一九二四(大正一三)年八月

資料

資料

独逸共産党運動

一〇 二九

支那馬賊の起源と其の活動

三〇 三五

内外情報

露国事情

第五回万国共産党大会下準備

三六 三七

第五回万国共産党大会

三七 四二

露国の利権政策

四三 四七

露国革命者援助会の現在

四七 四八

労農露国のメーデー

四八 五〇

浦塩極東宣伝部開始

五〇 五一

ロシアの東支鉄道新理事任命

五一 五一

波蘭事情 波蘭共産党と其取締

五二 五五

独逸事情

独逸に於けるロシア帝政派大会

五五 六七

独逸労働組合の増加

六七 六八

米国事情 農民労働急進派の会合

六八 六九

支那事情

中国共産党の決議

六九 七〇

旧露国公使館領事館庁舎及附属財産引渡の経緯

七〇 七四

支那国民党の内訌

七五

反帝国主義運動

七六

天津に排日の兆

七六

日本留学に関する吉林教育庁の訓令 七七 八一

国内事情

名のみの日露相扶会

八二 八四

駐日華僑聯合会

八四 八九

中華学芸社の寄附金募集

九〇

彙報

ロシア政治移民の帰露の問題／露国関係短信一束／ロシアに於ける失業状態／入露手続と避難露人帰国手続

九一 一一七

一九二四年前半期に於ける労農聯邦の外国貿易／浦

塩斯德税関概況／聯邦成立第一週年記念日檄文／反戦

争檄文／ニコライウイチ大公の労農政府観／米国大学

総長連の対排日立法宣言／汎太平洋食糧保存会議開催

計画／在哈市共産党の主要人物／支那社会党再成立／

上海露西亜事務局閉鎖／東支鉄道に關聯せる露支兩國

に対する通告／上海仮政府臨時憲法改正案／露国義勇

艦隊の起源と本邦に於ける活動の沿革／諾威新内閣組

織／羅馬尼内閣突如顛覆／葡萄牙内閣更迭／南阿聯邦

内閣成立／智利内閣成る／日白間通商条約調印

人事動靜

雑報

赤露の帝政派發給旅券所持者入国阻止／露西亞の陸軍

／一婦人の見たロシア／露国の新聞紙／欧羅巴の勞銀

／北京司法部苔刑廢止／無条約及条約の適用を受けぬ

植民地／帝国政府の旅券査証料改正

第二七号 一九二四(大正一三)年九月

資料

支那政局と政党

支那に於けるキリスト教

維納國際警察會議決議

内外情報

露国事情

ロシア共産党の農民

西比利亞白党謀叛の討滅

ロシアの幣制改革

露国市民権喪失章程

一一八〜一二二

一二三〜一三〇

露国の特赦令

波蘭事情 波蘭に於ける共産党

バルカン事情 バルカンに於ける過激主義

比島事情 比島の共産主義宣伝

支那事情

支那軍閥の分布

留日同学会設立運動

広東の赤化

中国共産党北京支部の決議

国民党幹部會議と共産党の対策

中国社会党の宣言

チエツカ密偵の活動

沙面罷業と勞資階級戦の開始

広東農民会

直隸公署の主義者嚴罰命令

上海廢約運動同盟会成立

湖南省反帝運動

上海に於ける六三記念会

市民対日外交大会

六四

六五

六五〜六七

六八

六八〜九〇

九一〜一〇〇

一〇〇〜一〇六

一〇六〜一〇七

一〇七〜一〇八

一〇八〜一一六

一一六〜一一八

一一九〜一二二

一二二〜一二五

一二五〜一二六

一二六〜一二七

一二七〜一二八

一二八

一二八

一二八〜一三〇

第六回全国学生大会開催	一三〇	一三一
上海に於ける印度シク族	一三一	一三二
米人の武器密輸入	一三二	一三三
白軍士官候補生帰国	一三三	
国内事情		

震災遭難日本人救済事業中止	一三四	
支那国民党東京支部発会式	一三四	一三五
留日支那学生学費補助反対宣言	一三六	一三八
ヤンコフ一派に対する退去命令	一三八	一四〇

彙報

ソヴェート・露西亞の近情／露独の關係／露独紛争解決／ソヴェート行政機關の單純化運動／白ロシア地方の反革命パルチザン／東部トルキスタン地方に於ける叛乱／世界大戦十週年紀念檄文／第三インタナシヨナルの對東方民族宣言／露国労働者と農民との結合／東洋諸国の經濟的団結／ソヴェット恐怖時代／露国商務館条例／著作物檢閲法案／ロシアに於ける教育の現況／ロシア農村の教育状態／在露支那人の待遇／ロシアに對するヨーロッパ諸国の同盟／反第三インタナシヨナル同盟／アルバニアの私有土地没収／對独賠償問題	一四一	一八二
--	-----	-----

解決／墨西哥政府の露国承認／上海露国避難民狀況／カラハン大使信任状奉呈／レーニン紀念碑建立計画／日支諸案件に對する孫総理の答弁／中国国民党の對日宣言／對日市民大会／南方支那労働事情一斑／米國對支鐵道策／諾威新内閣成立／希臘内閣亦々更迭／セルブ・クロアート・スロヴェニア内閣更迭／サン・ドミング大統領決定／智利内閣更迭	一八三	一八六
人事動靜	一八七	一九二
雜報		
ルーターと通信員片山潜／ソヴェート政治の真相／赤軍の近情／統計より見たるモスクワ／ルトウイノフの自殺／ノーギンの死／支那労働者の露国渡航希望／新渡米者査証嚴重となる／新移民法実施後の第一船／米國經由外人旅客査証身元證明書／デカリスト港湾の価値／支那領事館の露国人取扱規定改正		

附録

外事警察研究資料（第三輯）——労働党が天下を取るなら	（一）	（四五）
英国蔵相（スノーデン）の予算説明		
	（四七）	（五八）

第二八号 一九二四(大正一三)年一〇月

資料

独逸共産党運動(其の二)

一〇五二

労農露国の教育施設概況

五三〇七〇

内外事情

露国事情

労農政府内共産党員の内訌

七一〇七二

極東通報局設置

七二

波蘭事情 在波蘭露国公使館員召還

七二〇七三

印度事情 印度の両教徒軋轢

七三

支那事情

奉露協定と其影響

七四〇八一

海市露国共産党の示威運動

八一〇八二

上海在住西古族の秘密会合

八二〇八三

香港労働団体聯合会の成立

八三

滿洲に於ける支那官民の排日概況

八三〇八六

支那時局の交通機関に及ぼせる影響及通信言論の取

締状況

八六〇九〇

国内事情

支那の時局に対する帝国政府の声明

九一

在留支那人労働者生活状態

九一〇九八

釣銭詐欺外国人の横行

九九〇一〇〇

彙報

一〇一〇〇九

トリーブナ紙の震災一年後の日本／露国漁業監視船の

本邦漁船拿捕／チリル大公の露国皇帝宣言／英露条約

に関する英国の輿論／英露条約反対運動に対する英国

労働組合の対抗運動／英仏米三国共産党代表者の孫逸

仙宛通電／支那に於ける労農旗掲揚式／メルラン総督

日本訪問の印度支那に於ける影響／猶太教新年祈禱祭

／英国議會解散と共産党事件／智利国内閣亦更迭す／

支那内閣成立／ギリシヤ新内閣組織／ヘツヂヤス国王

子王位継承／墨国大統領当選／デーリー・テレグラフ

の日本観

人事動靜

一一〇〇一一二

雜報

一一三〇一一四

全米國動員日／奉天在住露国人私立小学校設立計画／

猶太教教会堂財産の売却／帝国政府の仏国人に対する

旅券査証料改正

附録

外事警察研究資料（第五輯）——社会主義の真相暴露

アイアン・デー・コルヴェイン（一）～（四九）

第二九号 一九二四（大正一三）年一月

資料

独逸共産党運動（其の三） 一～七五

米国の支那に於ける基督宣伝の解剖 七六～八七

内外情報

露国事情

労農露西亜の叛乱 八八～九二

万国共産党の世界無産者記者団組織計画 九二

露国赤軍内政治委員廃止 九二～九三

労農支那不干渉協会 九三

ハバロフスク極東共産党会議 九四～九五

伊太利事情 ファシスチー黒シヤツ衣軍改正法制定 九五～九八

印度事情 印度革命者大検挙 九八～九九

支那事情

支那反帝国主義運動 九九～一〇五

廢約同盟会委員代表と会見 一一六

支那廢約運動国恥紀念日 一一七

外人経営学校廢止会組織と其の宣言書

東支鉄道の近況 一一七～一二〇

在北京労農ゲペウ機関 一二〇～一二五

哈爾濱に外国宣伝部設置 一二五

広東農工団の軍団編成 一二六～一二八

広東武装労農団の成立宣言 一二八

米国の対支文化事業米支委员会の成立

国内事情 一二八～一二九

露国領事館の今昔 一二九～一三九

北海道在住露国人概況 一三九～一四〇

薩哈唎よりの露国避難民 一四〇～一四一

日米協会役員改選 一四一～一四二

支那国民党員等の時局に対策行動 一四二～一四三

支那留學生の対日国民大会 一四三～一四五

支那国慶紀念日 一四五～一四六

国際聯盟協會学生支部

一四六

彙報

一四七〜一七四

第三〇号

一九二四(大正一三)年一二月

共産主義学校用教科書内容梗概／対支文化事業補助学
費金分配弁法／問題のジノヴィエフの書簡／労農政府在
外通商代表機關住所及人名／旧露国大蔵官吏統一会／

資料

露国広東政府を見縊る／支那動乱と日本の帝国主義者

支那秘密結社「幫」

一〜七

／社会政策協會設立計画／俄文法政専門学校の内容／

会

七〜二〇

在支労農官庁／哈爾濱政變の避難民長春に入る／撫順

独逸共産党行動掌程

二〇〜二七

露人学校設立／東洋研究会極東支部の活動／長江沿岸

内外事情

二八〜三六

の労働問題と其傾向／支那側の米國留学生制限弁法／

英国事情 ジノヴィエフの書翰事件

二八〜三六

孫文撲滅弁法五条／米御用紙大陸報の醜態暴露／米人

露国事情

三六〜三七

記者の見たる支那の新聞業／汪公使並蒞留日学生事務

労農政府の恐怖政治

三六〜三七

總裁渡日の経緯／仏国の露国承認とソヴェト政府の書

全露中央執行委員会附属社会専門学会

三七〜三八

簡／瑞典社会党内閣成立／希臘内閣総辞職／秘露新内

露国共産党のトロツキー排斥決議

三八〜三九

閣組織／支那内閣更迭／日秘通商条約調印／日墨修好

露国の奥国赤化計画

三八〜三九

条約改正

エストニヤ事情

三九

人事動靜

一七五〜一七八

エストニヤ事情

三九

雜報

一七九〜一八五

巴爾幹事情

四〇〜四四

プロレタリア裁判の一例／ロシア国立図書館出版局の活

巴爾幹に於けるボルシエヴィズム宣伝運動

四〇〜四四

躍／労農露国苗字取替自由自在／在外露国避難民数

四〇〜四四

クロアチア農民党員検挙

四五

人事動静

八二〇 八六

伊太利事情 伊国国境警備隊派遣

四五

雑報

八七〇 九二

伯刺西爾事情 伯刺西爾国叛乱終了

四六

支那事情

清室に対するクーデター

四六〇 五六

北京政府の在留露国人取締規定制定

五六〇 五七

満鉄撫順炭坑露人労働者状況

五七〇 六二

国内事情

横浜在留外国人復興状況

六二〇 六八

英国在郷軍人会東京支部

六八〇 七一

彙報

七二〇 八一

第三二号 一九二五(大正一四)年一月

資料

外人の入国拒絶及追放

一〇 一七

外事警察より観たる日露関係

一七〇 六二

内外事情

露国事情

露国領内に於けるモルダヴィー共和国の建設

六三〇 六四

イア国内閣成立／葡萄牙民主党内閣成立／土耳其新内閣成立

／埃及新内閣組織／奥国内閣成立／段祺瑞の臨時執政就任と支那新内閣組織

露国新経済政策の衰退

六四〇 六七

／支那臨時執政令公布

第五回ブラ・ソウエート大会決議

六七〇 六八

浦塩自由埠頭開設令発布 六八〇 七〇

仏国事情 仏国政府の共産党圧迫 七〇〇 七一

印度事情 ベンゴール省に於ける革命主義者の大検挙 七二〇 七五

支那事情

支那国民思想と警察官の暴動 七五〇 七八

支那の反過激傾向 七八〇 八〇

北京の政変と思想団の活躍 八一〇 八四

国内事情

支那留日学生取締状況 八四〇 九一

留日支那学生生活状態 九二〇 九四

駐日華僑聯合会新会員募集 九五〇 九五

東京亜米利加人協会 九五〇 一〇一

彙報

最近に於けるトロツキの行動／露国農村の階級戦／社

会主義ソウエート共和聯合国予算／労農露国外務省在

内代表者／共産主義に対する羅馬法皇廷の態度／日本

国瑞西国間司法的解決条約の調印／吉会鉄道説再燃と

労農の対策／哈爾賓共産党思想交換会設立計画／伊太

利政変／智利国新内閣員顔触

人事動靜 一〇九〇 一一一

雑報 一一二〇 一二〇

露国商人の庫倫及ザバイカル方面視察談／共産党イン

ターナシヨナル主要紀念日／ロスタ通信社支社及通信

員所在地／寛城子メストコム集會／支那人の在支日

本人裏面観／東京外国通信員

附録

外事警察研究資料(第七輯)——共産党綱領

ニコライ・ブハリン (一一〇) (一一〇)

第三二号 一九二五(大正一四)年二月

資料 独逸共産党の運動(其の四) 一〇 三四

内外事情

露国事情

トロツキ問題と共産党各派の勢力 三五〇 四〇

万国共産党とアムステルダム労働同盟との提携運動

四〇〇 四一

支那事情

国民党左傾派の民国委員制案 四一〜 四四

中華民国委員制政府組織大綱 四四〜 六二

蒙古共和国憲法制定 六二〜 六五

国内事情 本邦入国外国人の査証廃止 六五〜 六六

彙報 六七〜 八五

仏蘭西の赤禍／列国の労農代表者待遇振／露国の極東

宣伝方策／日露相扶会支部設置許可／支那官憲の不逞

鮮人取締／独逸新内閣成立／革命後の智利内閣成立／

アルバニア最初の大統領

人事動静 八六〜 八七

雑報 八八〜 一〇三

労農政府幹部の略歴／帝政派露人の活動／露国共産党

員の旅券改竄／日本に対する宣伝歌／露国共産党標語

集

附録

外事警察研究資料(第八輯)——共産主義ABC(一)

エヌ・ブハリン(一)〜(一四〇)

第三三三号 一九二五(大正一四)年三月

資料

日本国及ソヴェイト社会主義共和国聯邦間の關係を律

する基本的法則に関する条約 一〜 二〇

内外事情

露国事情

土耳其斯丹社会主義ソヴェイト自治共和国組織変更 二一〜 二二

万国革命者援助会二週年紀念祭 二二〜 二四

極東に於ける万国革命者援助会の活躍 二四〜 二五

支那事情

最近支那政局

香港独立運動 二五〜 四四

フエタ通信の真相 四五〜 四七

天津ゲ・ペ・ウ機関設置 四七〜 四九

中国共産党第四回大会決議 五〇〜 五二

五三〜 六九

彙報

日露協定成立／蒙古の現況と将来／レーニン一週年紀
念祭／露国共産党とIWWとの連絡／トロツキーの後
任／英国の対ソヴェート策／リスミア内閣更迭／芬
蘭内閣成立

人事動靜

七〇〃 七二

雑報

七三〃 八六

一時的用務又は遊覧の為米国人者心得／労農露西亜
の生活／極東露西亜の近況／ソヴェート露西亜の親族
關係／露国共産党機關及黨員の現在

附録

外事警察研究資料(第一〇輯)——共産主義ABC(二)

エヌ・ブハリン(二)〃(九五)

第三四号 一九二五(大正一四)年四月

資料

支那社会主義沿革史

一〃 二九

内外事情

露国事情

労農政府の各国に於ける宣伝情況及各国の取締対策

極東共産党情況

三〇〃 五〇

万国革命者援助会のステートメント 五一〃 五一

支那事情 上海紡績職工罷業と裏面運動 五二〃 五三

五四〃 六一

国内事情 樺太及日本内地の露国密偵

六二

彙報

六三〃 七二

駐露帝国大使館開設／浦塩日本総領事館開設／哈爾賓
露国総領事更迭と駐日領事内定／白党露人の政治運動
／カラハン、セミヨノフ密約説／孫文の死亡と労農側
の哀悼／高麗共産党解散命令／独逸共和国大統領の薨
去と新大統領の選挙／白耳義国総選挙／反統義府派の
暗号

人事動靜

七三〃 七五

雑報

七六〃 八八

錫蘭島事情／労農露国出入国手続／露国内に於ける外
国人土地使用権／支那在留露国人取扱／欧露の現状／
労農露国の変遷と児童／埃及に於ける本邦人の法律上
の地位

附録

外事警察研究資料(第一輯)——共產主義ABC(三)

エヌ・ブハリン(一)〜(二〇八)

国内事情 京浜在留支那学生の現況 一三五〜一三六
彙報 一三七〜一五六

第三五号 一九二五(大正一四)年五月

資料

独逸共産党運動(其の五)

一〜九四

内外事情

露国事情

社会主義ソヴェート共和国聯邦中央執行委員会第三

回大会

九五〜一〇七

国際労働婦人大会

一〇七〜一一〇

巴爾幹事情 反露巴爾幹同盟説と露紙

一一〇〜一一二

米国事情 米国に於ける社会運動と第三党

一一二〜一二三

支那事情

中国社会主義青年団

一二三〜一三一

福州の排米運動の真相

一三一〜一三三

哈爾濱共産党機関紙の閉鎖

一三三〜一三五

人事動靜

雜報

英国職工組合代表者の觀たる勞農露国／上海共同租界

警察狀況／露国義勇艦隊の近況／北京勞農大使館員の

異動／ジノヴィエフの日本觀／米国領事の勞農露国觀

一五七〜一六一
一六二〜一七二

第三六号 一九二五(大正一四)年六月

資料

支那に於ける国恥紀念運動情況

一〜三四

支那に於けるメーデー情況

三四〜四八

内外事情

露国事情

万国共産党執行委員会總會

四九〜六六

労農露国の在外諜報者及手先使用方針の変更

六六〜 六九

仏国事情 仏国に於ける共産主義運動

六九〜 八五

奥国事情 奥国共産党の現況

八五〜 八八

瑞典事情 瑞典共産党の分立

八八〜 九二

勃牙利事情 勃牙利の擾乱

九二〜 九五

支那事情

コップ大使演説問題の真相

九六〜一〇二

青島紡績罷業と共産派の策動

一〇二〜一一五

第二回全支労働者大会

一一五〜一二八

極東赤化秘密実行委員会設置計画

一一八〜一二九

国内事情 露国領事館設置請願運動

一二〇〜一二二

彙報

各地に於けるメーデー情況／ソヴェエト社会主義共和

一二三〜一三一

国聯邦組成分子／寛城子婦人共産党員の日本婦人赤化

一二三〜一三一

方針／李烈鈞の不敬演説／哈爾賓共産党機関紙エホー

一二三〜一三一

の発刊／哈爾賓白系露紙の発行禁止／北樺太の現況／

一二三〜一三一

商店、会社員等の入米問題

一二三〜一三三

人事動静

一三二〜一三三

雑報

一三四〜一三八

西伯利亞經由歐洲旅行者への注意／ソヴェエト政府の

少年密使／露国共産党員の使用する通信用秘密インキ

／浦塩の近情／外蒙古に於ける片山潜

第三七号 一九二五（大正一四）年七月

資料

支那に於ける思想運動一般概況

一〜一六

上海騒擾事件と各地の反響

一六〜四五

内外事情

露国事情

露国共産党第十四回大会概要

四六〜六〇

労農政府の個人資本圧迫政策廃止

六〇〜六五

沿海道露領方面の近況

六五〜六六

仏国事情 巴里に於ける共産主義者の暴行

六七〜六八

支那事情

労働組合組織禁止訓令発布

六八〜六九

北京学生聯合会の分裂

六九〜七二

彙報

七三〜九五

第三九号 一九二五（大正一四）年九月

ブラジル国に於ける外国人の法律上の地位／ファシスト国民党綱領及産業団体の規約／ファシスト産業団体規約団体同盟規則抜萃／在本邦露国公館の査証事務開始／ソヴェート社会主義共和国聯邦旅券規則抜萃／函館露国領事館開館式／労農聯邦政府委員の新任／露国共産党代表者の英国行／白耳義内閣成立／新駐日英国大使任命

資料

人事動静

ソヴェート社会主義共和国聯邦第三回ソヴェート大会
一〇 四九

雑報

内外事情

露国事情 タツス通信社新設
五〇 〇 五一

附録

九六 〇 九八

仏国事情

五二 〇 五二

外事法規研究資料（第三輯）——伊太利国公衆保安ニ

九九 〇 一〇二

国際労働社会主義者会議

五二 〇 五三

者／労農政府の在米露国農夫帰還希望

支那事情

五四 〇 五九

関スル法律

極東に於ける共産黨員の活動

五四 〇 五九

（二） 〇 （五六）

共産党秘密結社組織計画

六〇 〇 六一

無政府主義宣伝取締暫行条例

六一 〇 六二

上海紡績罷業問題解決

六二 〇 六四

天津裕大紡績工場暴行事件

六四 〇 六八

支那工会条例

六八 〇 七六

彙報

七七 〇 一〇五

第三八号 欠

彙報

各国共産党運動／露国の世界革命政策と列強の脅威／

露国共産党の宣伝戦術／万国農民同盟常置委員及万国
共産党執行委員会東方部主任／聯邦中央執行委員会及
人民委員選挙／労農側の鮮人宣伝養成説／北滿高麗共
産党青年会幹部の捕縛／労農教育機関及日支鮮人主義
者／労働代表一行の露国談／在奉天白党露人の近況／
労農赤化宣伝員潜入説／オレゴン州に於ける邦人追放
事件／広東国民政府委員会／葡萄牙民主党内閣成立／
和蘭新内閣成立／ニューサウスウェールズ労働党内閣
成立／駐日米国大使逝去／在留支那人の排英運動／労
農の活動写真宣伝／東鉄商業部利用の東洋赤化計画
人事動静
一〇六〜一〇八
一〇九〜一一八

ソウエート聯邦入国及出国規定／労農政府の国外旅行
者所持金制限／露国無旅券入国者取締令／露国方面入
国者提示金／関東庁の入国提示金廃止／米国下院議員
の支那赤化談／広東省一部の共産制実施／浦塩の状況
／片山潜の日本革命政策

第四〇号 一九二五（大正一四）年一〇月

資料

第三インターナショナルの極東赤化政策と支那の過激

傾向 一〜一一

第三インターナショナル反対国際同盟 一一〜二二

内外事情

露国事情

共産党の各国植民地騒乱計画 二二〜二三

労農の日本赤化運動 二三〜二七

田中大使暗殺陰謀説 二七〜二八

国際革命軍人後援会の勃牙利革命援助

二八〜三〇

国際共産党青年団

三〇〜三一

支那事情

支那時局 三一〜三四

廖仲愷の暗殺と民党内部の暗闘 三四〜三七

共産主義宣伝の指針／秘密経済情報蒐集取締規則／日

彙報

三八〜四六

本無産政党と露紙／智利国憲法改正／民治主義同志会
 ／留日学生監督処条例／寛城子少年共産党員宣誓式／
 北京学生聯合会の近情／労働団体と関係ある左傾定期
 出版物

人事動靜

四七〇 五〇〇

雜報

五一〇 六四〇

タツス通信社設立に関する規程／露國極東新聞網／露
 國の近情／渋谷少佐の露國談（渋谷三郎）／労働政策
 に失望せる台湾人／労働者の手紙／東支鉄道沿線支那
 人職業組合同盟／労働領事館員の自國宣伝／訪露飛行
 と露紙

第四一号 一九二五（大正一四）年二月

資料

労働露國の対支活動と官憲の取締

一〇 二二〇

内外事情

露國事情

第三インターナショナルの事業

二二〇 二八〇

最近のソヴェート露國共産党

二八〇 三〇〇

第三インターナショナルと露國共産党

三〇〇 三一〇

國事犯人交換に対する労働政府の態度

三一〇 三二〇

露國共産党員數

三二〇 三三〇

露國共産党沿岸道高麗部の三年間

三三〇 三三九

鮮人共和国建設の失敗

三三九 三九九

仏國事情 第二インターナショナル大会

四〇〇 四二〇

羅馬尼亞に於ける共産党の活動

四二〇 四三〇

米國事情

玖瑪島共産党大会

四三〇 四四〇

米國の共産主義者入國禁止

四四〇 四四〇

印度事情 印度に於ける共産主義運動

四四〇 四五〇

支那事情

労働治下の外蒙古

四五〇 五四〇

ボクラニーチナヤ事件

五四〇 六〇〇

国内事情

全露労働組合代表渡來顛末

六〇〇 七九〇

在京羅紗行商露国人

七九〇 八〇

彙報

八一〇 九四

第三インターナショナル戦闘団の組織／露領に於ける

共産青年党／露国共産少年団の任務／国際無産青年

デー／旧露国人のソヴェート国籍／本邦人の入露手続

／長崎労働露国領事館国旗掲揚式／英国汽船会社と日

本船員の紛擾／日本国チエツコスロヴァキア国間通商

条約調印／仏国改造内閣成立／労働宣伝劇の失敗

人事動静

九五〇 九七

雑報

九八〇 一一一

労働革命記念の沿革／移民法に対する基督教徒の意嚮

／共産主義新聞紙の発達／露国労働代表の渡来に関する

外字新聞の論調／職工組合主義の将来

第四二号 一九二五(大正二四)年一二月

資料

ピオネル(露国共産少年団)の法律及習慣

ウ・ソローキン 一〇 二四

独逸国ニ於ケル外国人及旅行免状警察法規

「ソヴェート」聯邦「ソヴェート」及商業勤務者職業組合規

約 六九〇 八八

内外事情

露国事情

レーニングラードに於ける反ソヴェート大陰謀

八九〇 九一

露国青年共産党同盟の教育事業

九二〇 九三

英国事情 英国共産党陰謀者の大検挙 九三〇 九四

匈牙利事情 匈牙利に於ける社会運動と共産党 九四〇 九九

支那事情

支那時局と労働の活躍 九九〇 一〇八

馮玉祥と労働露国 一〇八〇 一一六

彙報

一一七〇 一六五

支那現在職員表(大正一四年一月三日現在)／支那

関税特別会議／労働露国の実情／労働革命記念祭／在

本邦露国官民の革命記念祝賀／露国共産党に於けるト

ロツキの地位／莫斯科支那大学設立／IWW機関紙

／仏国新内閣成立／智利大統領選挙と同盟罷業

人事動靜

一六六〜一六八

雜報

一六九〜一八〇

在京外交団名簿／共産党内に於ける民族／鮮人共産村

／カラハンの帰任と暗殺説／英国労働党議員の露国視

察報告／ファシスト祝典とムツソリニの演説／世界宗

教大会

労働組合と露西亜

一三一〜一三三

伊太利

トリエストに於けるファシストの暴行

一三三〜一三四

共産黨員とムツソリニー派の争闘

チエク・スロワキヤ

チエク・スロワキヤ共産党の勢力

チエク・スロワキヤ兩院解散

西班牙 西班牙新内閣成立

内国事情

米国雜誌通信員の本邦労働争議視察

郭松齡の追悼会

研究資料

英国高等法院の露西亜政府公文書に関する判決

一四一〜一四四

彙報

諾威労働代表者の莫斯科視察／英国労働党と共産主義

者／英国労働党議員の赤化宣伝の防止策反対／英国共

産党事件に関する示威運動／社会主義者とロカルノ条

約／移民問題に対する米大統領の施政方針／独逸共産

第四三三号 一九二六(大正一五)年一月

レーニン主義の理論及實際

アイ・スターリン 一〜九四

外国事情

支那

東亜に於ける労働の事業 九五〜一二二

イワノフの日露条約観と露紙 一一二〜一二六

支那に於ける反共産主義運動 一一六〜一二七

上海五卅事件に関する責任 一二七〜一二八

露西亜 労働露西亜と近東 一二八〜一三〇

英吉利

英国海軍の赤化宣伝警戒 一三〇〜一三一

党の戦略／在外伊太利フアシストの代表会議／敦賀露
国領事館の開館式

人事動静

一六五〜一六九

雑報

一七〇〜一八八

労農露国国歌／労農露国の見聞記／英国内務大臣と共

産党員逮捕事件／ムツソリニーは皇帝なり／澳太利官

吏の同盟罷業計画／土耳其軍艦エルトグルール号遭難

者護送事件

第四四号 一九二六（大正一五）年二月

英吉利共産党幹部検挙事件

一〜二八

外国事情

西伯利亚 極東青年共産党の事業

二九〜三六

支那

東支鉄道紛争事件

三六〜四七

北滿に於ける共産党の勢力

四七〜四九

内蒙赤化の一階梯

四九〜五七

労農政府の東洋赤化政策

五七〜六〇

露西亞

第十四回露国共産党大会

六〇〜六八

歐洲に於ける国際状態

六八〜七三

露国の失業者と其の救済策

七三〜七四

南露に於ける反ソヴェート運動

七四〜七五

世界革命と露国の發展

七五

内国事情

伯刺西爾国大使事件

七六〜七九

共産主義書籍の密輸入

七九〜八〇

研究資料

澳太利国結社及集会法規

八一〜一三〇

彙報

哈爾賓白党自衛団／在奉天労農領事館員／露国の極東

一三一〜一三六

移住民策／極東に於ける日本の政治とソヴェート聯邦

の利害／米国に於ける支那人逮捕事件

人事動静

一三七〜一三九

雑報

露国共産党中央執行委員会名簿／哈爾賓に於ける露支

新聞／哈爾賓エホー紙の勢力／露国の村落通信員／露

国の猶太人植民／英国式党労働者／日独両国間旅券査

証相互廃止

証相互廃止

第四五号 一九二六(大正一五)年三月

共産主義及ファシステイズムと米國労働総同盟

九二〇 九三

研究資料

労農露國國家組織 エヌ・レヴユルトル 一〇 四九

全「ソウエート」聯邦共和國共産党党則改正

九四〇 一二七

外國事情

西伯利亞 第三回極東共産青年大会 五一

和蘭國結社及集会取締法規

一二九〇 一四五

支那

伊太利國新聞紙法改正

一四七〇 一四八

奇抜なる支那官憲の取締

五二〇 五三

彙報

支那に於ける排日示威運動

五三〇 六七

支那の労働運動／高麗部の鮮人入境手續制定／留日支

支那に於ける國民革命運動と支那共産党の戦術

六七〇 七五

那學生の機関紙／張作霖の露國人士官學校設立／廣東

支那に於ける反共産主義運動

七五〇 七七

士官學校の擴張／土耳其曆法改正／莫斯科支那新聞發

勞農領事館増設問題

七七〇 七八

行／國際革命家後援協會の事業／勞農露國內外貿易人

露西亞 露國共産党の内訌

七八〇 八五

民委員會新制度／露國獨逸領事館員逮捕事件／本邦駐

英吉利

八五〇 八九

在露國領事館管轄區域／米國加州の邦人

英吉利

八九〇 九一

人事動靜

一六一〇 一六三

英國労働党の左翼戦闘派組織計画

一六四〇 一七六

雜報

オックスフォード大学学生事件

一七六〇 一七八

共産党領袖クラシン／勞農露國內の猶太人／東京外字

仏蘭西 仏國に於ける共産主義者

一七八〇 一九一

新聞雜誌通信社調／獨逸とソウエート／米國の外國人

北米合衆國

登録法

米國の外國人入國拒絶と對露態度

一九一〇 一九二

第四六号 一九二六(大正一五)年四月

国際公法提要

テイジエー・ローレンス
パーシー・エイチ・ウインフィールド増補 一〇五〇

外国事情

西伯利亞

第三回極東青年共産党大会

五一〇 六六

極東労働同盟大会

六六〇 七〇

支那

労働露国と極東

七〇〇 七八

支那に於ける反共産主義運動(其の三)

七八〇 八二

労働大使館に於ける秘密会議

八二〇 八五

大沽事件国民大会

八五〇 九〇

国民党と左傾分子の活躍

九〇〇 一〇四

黄埔軍官学校

一〇四〇 一〇七

阿富汗 阿富汗に於ける露西亞の活動

一〇七〇 一〇七

露西亞

国際職業同盟(赤派)

一〇八〇 一一〇

国際共産主義運動の当面問題 一一〇〇 一二七

国際農民会議の基本的作業方針 一二七〇 一三五

万国プロレタリアート著述局設置 一三五〇 一三六

青年共産同盟の急速なる発達 一三六〇 一三七

白耳義 国際労働救済会議 一三七〇 一三八

ラトヴィア ソウェート外交伝書使暗殺事件 一三八〇 一三九

濠洲 濠洲労働党聯合 一四〇〇 一四二

研究資料

新嘉坡に於ける新緊急取締法令 一四三〇 一四四

支那新聞営業管理規則 一四四〇 一四六

彙報 一四七〇 一五三

在莫斯科孫逸仙大学／露国の官衙廃合／英露關係其の

他／囚人釈放示威運動／大連独逸領事館開館／ソウ

エート農場の失敗

人事動靜 一五四

雑報

在京外交団／露国見聞記(其の三)／列国内閣閣員／

露国刑務所の組織／露国に於ける公休日休息日／トロ

ツキーの英米攻撃／労働治下の露西亞劇壇

第四七号 一九二六(大正一五)年五月

国際公法提要(続)

テイジエー・ローレンス	一〇	六四
パーシー・エイチ・ウインフィールド増補	一〇	六四
東支鉄道沿線に於ける所謂赤化運動の概況	六五	九六

外国事情

支那

中国済難会の正体と其の活動	九七	九九
上海に於ける国際的反赤化運動	九九	一〇三
露西亞 第七回全露金属工大会	一〇四	一一九
独逸 独逸コムソモール十週年祭	一一〇	一二〇
英吉利		

英国労働党の地方政党除名

英国少数派運動の業績

英国に於ける少年僚友聯盟大会

仏蘭西 仏国共産党リオン地方委員会の活動

一一九〇一三三

澳太利 澳太利社会民主党会議に於ける訪露労働代表

の報告

匈牙利 匈牙利左翼労働者の逮捕	一三三	一三四
ユーゴー・スラヴィア ユーゴー・スラヴィアの新恐	一三四	一三五
怖時代	一三四	一三五
瑞典 第十回瑞典コムソモール大会	一三五	一三五
南阿聯邦 南阿共産党大会	一三六	一三六

研究資料

英領植民地外事法規

彙報

レーニン党の心得／レーニン主義の七要点／英国独立労働党と露国共産党／米國労働組合と露國／第二回全露政治犯人大会	二〇六	二〇七
人事動靜	二〇八	二一一
雜報	二〇八	二一一

白耳義対露文化的親交促進会／労農治下に於ける寺院の状況／奇妙な共産主義者／埃及に於ける共産主義者の処刑／チャーチルの英国社会主義者攻撃／英国保守党議員の露國訪問／露領沿海県在住者の人口及人種別

第四八号 一九二六(大正一五)年六月

万国共産青年党とは何ぞや

エフゲニー・ゲルル 一〇 二四

ボルシエヴィズム乎ファシズム乎(梗概)

カミーユ・エマール 二五〇 四三

国際労働運動の新現象

四三〇 六六

外国事情

支那

共産党の陰謀

六七〇 六九

国民軍の北京撤退と労農側の時局対策

七〇〇 七八

広東に於ける蔣介石のクーデター

七八〇 八一

仏領印度支那 仏領印度支那の不安

八一〇 八二

露西亜

全露コムソモール大会とブハーリンの報告

八二〇 九三

露国労働組合の状況

九四〇 九五

波蘭

波蘭対露西亜関係

九五〇 九六

波蘭共産党の活動

九六〇

和蘭 第二インターナショナル中央委員会例会

九六〇 九八

埃太利 埃国社会民主主義領袖の露国共産党分科会に

対する回答

九八〇 九九

英吉利 教員と階級闘争

九九〇 一〇二

仏蘭西

仏国共産党の労働者に対する宣伝文

一〇二〇 一〇五

一九二五年度に於ける仏国の共産党取締

一〇五〇

北米合衆国 トロツキの米国観

一〇六〇 一一二

内国事情

在京左傾内外人の会合

一一三〇 一一四

労農露国保安部長ジェルジンスキーの葬式

一一四〇

研究資料

仏蘭西外事法規

一一五〇 一二七

和蘭外事法規

一二九〇 一九〇

波蘭外事法規

一九一〇 二〇五

土耳其外事法規

二〇六〇 二一八

華盛頓州外事法規

二一九〜二二三

彙報

二二三〜二三五

宗教としてのレーニン主義／労農露国と其の対外政策

／労農露国経済難の原因／労農露国の村落経済状況／

独逸に於ける社会思潮／米国警察の罷業取締／独露中

立条約の内容／数字に現はれたる露国共産党

人事動静

二二六〜二三八

雑報

二二九〜二四一

英国警察の新取締／仏国に於ける一鉄工場罷業と警察

の警戒／独逸赤色戦線同盟と労農露国との協調／対土

耳古伊希秘密条約の内容／波蘭共和国大統領の選任

第四九号 一九二六（大正一五）年七月

露西亜共産党は如何に構成されてゐるか

エル・エム・カガノーウイチ 一〜 四九

共産党のレーニンの団結について

五〇

英吉利に於ける共産主義運動の概観

五一〜 八五

社会主義の将来

八六

外国事情

支那

反国民軍聯合軍の赤化分子掃蕩

八七〜 九一

第三回全国労働大会

九一〜 九九

露西亜

トロツキイの活躍

九九〜一〇一

向ふ五箇年間に於けるソウエート工業の予定計画

一〇一〜一〇四

労農露国に於ける農民状態

一〇四〜一〇七

波蘭 ピルズドスキイ暴動中波蘭共産党の戦術

一〇七〜一〇九

チェツク・スロヴァキア チェツク・スロヴァキアの

新政治

一〇九〜一一〇

仏蘭西 仏国共産党の宣伝運動状況

一一〇〜一一七

英吉利

少数派運動の大会

一一七〜一二六

共産党と労働党及独立労働党

一二六〜一三二

内国事情

伊太利黒シャツ党東京支部発会式

一三三〜一三四

独逸に於ける波蘭労働者問題

一三四

研究資料

ロシアレニン共産主義青年同盟規則及綱領

一三五〜一六〇

彙報

一六一〜一七一

英国保守党議員代表の労農露国視察報告／奥太利訪露

労働代表の宣言／労農露国労働青年代表の訪奥／軍備

縮小会議に対する仏国共産党員の批評／巴里コムミ

ユーン記念祭示威運動

人事動静

一七二〜一七三

雑報

一七四〜一七六

ピランクール罷業に於ける警官の暴行／波蘭に於ける

ピルズドスキイの専制／巴里市参事会員の補助警察創

設提案／ソウエート政府と法王庁／労農露国労働者の

休日

第五〇号 一九二六（大正一五）年八月

露西亞赤化史（其の一）

ア・イ・スピリドローウキチ 一〜 五八

外国事情

支那

孫逸仙死してより一年後の支那と国民党

五九〜 六三

広東農民大会

六三〜 六九

露西亞

万国革命者援助会（モープル）の三年間

六九〜 七八

ヂェルゼンスキイの急死と彼没後の共産党の状勢

七八〜 八一

独逸

独逸共産党の腐敗

八一〜 八三

独逸王室財産無償没収問題の概要

八三〜 八六

瑞典 瑞典社会党内閣の瓦解

八六〜 八七

英吉利

共産党執行委員会の会合

八七〜 九四

総罷業に於ける共産主義者の逮捕

九四〜 九九

万国革命者援助会の急速なる発達

九九〜 一〇〇

仏蘭西 西班牙無政府主義者の陰謀事件

一〇一〜 一〇三

亞爾然丁 亞爾然丁国に於けるソウエートの活動

一〇四

内国事情

亜細亞民族會議概要

一〇五〜一一一

米国人宣教師の鮮童私刑事件

一一一〜一一五

研究資料

革命的秩序維持ノ非常手段ニ関スル全露中央執行委員

會及人民委員會議決定

一一六〜一二五

中国濟難會章程ト特派員須知事項

一二五〜一三六

クループスカヤ記念レーニングラード共產政治教育學

校入學規則

一三六〜一四〇

彙報

一四一〜一五五

勞農露國諜報取締規則／中央亞細亞に於ける英國間諜

の失敗／勞農政府と外蒙／英吉利に於ける少数派運動

と時局／英帝國主義と埃及の政情／コミンテルンのラ

ヂオ利用

人事動靜

一五六〜一五八

雜報

一五九〜一六五

英國大使館及領事官のエジプト國及エストニア國國民

の利益代表／勞農露國稅関通関規則改正／勞農露國共

産党幹部の極東視察説／赤色勞働組合インターナシヨ

ナルの通牒／英吉利炭坑夫の通信／独逸瑞典通商条約

に對する瑞典輿論の反對／邦人主義者に關する奉天新

聞記事／高麗共產党の共產主義宣伝歌／共產主義劇／

莫斯科武官學校在學の外人／支那福清県に於ける本邦

婦人開墾地外在住狀況／仏蘭西に於ける女工の活動

(＊六号記事)

仏蘭西政府の反米示威運動禁止

一〇四

羅馬尼警察の勞働者逮捕

一一五

勞農露國の國際關係

一四〇

獨逸に於ける共產青年同盟大會

一五八

第五一号 一九二六(大正一五)年九月

社會主義宣伝の研究

ゾムバルト 一〜 四七

勞農露國管見

ジエー・エム・キーンズ 四七〜 七〇

外國事情

支那

支那

廣東軍隊の赤化機關

七一〜 七四

勞農政府の對支政策

七四〜 七五

支那に於ける反赤運動

七五〜 七七

大連紡績罷業に對する勞働団体の宣言

露西亞 七七〇 七九

農民の反政府的傾向

七九〇 八二

共産インターナショナル執行委員会各機関の選挙並

に秘書部の改組

八二〇 八五

ルクセンブルグ ルクセンブルグに於ける共産党の取

締

八五〇 八五

羅馬尼 羅馬尼に於けるファシストの擡頭

八六〇 八七

北米合衆国 亜米利加共産党の七年間

八八〇 九二

内国事情

勞農露国大使館主催国状紹介展覽会の状況

九三〇 九六

研究資料

共産主義文書

九七〇 一六九

支那全国学生聯合会總會の組織

一七一〇 一八〇

北京に於て發布せられたる保安条例

一八〇〇 一八二

彙報

一八三〇 一九二

勞農露国内乱説の誤謬／支那共産党の宣伝大綱／露独

条約成立に対する白系露人の觀察／第三インターナシ

ヨナルの宣伝文書／仏国鉄道従業員全国大会に於ける
露国代表の演説

人事動靜

一九三〇 一九六

雜報

一九七〇 二〇二

亡命露国人二百万の現状／独逸金屬工組合選挙に於ける
共産党の勝利／在浦潮中国共産党の馬賊操縦説／勞

農露国の労働者軍／ムソリニの労働者压制令／勞農露

国の労働賃金増加／英国渡航者の携帶品中税関に於て

申告を要すべき主要品目

(*六号記事)

九二

ベルリン共産党と警察との衝突

九五

ジジヴィエフ事件と独逸共産党

一七〇

米國労働組合員の露國承認要望

一九六

ファシスト暴行統計

二〇二

第四インターナショナル

一九二六

第五二号

一九二六

(大正一五)年一〇月

露西亞赤化史(其の二)

ア・イ・スピリドゥウキチ 一〇 六四

外国事情

支那

奉天を中心とする共産主義の活動と赤白露人団体運

動の概況

六五〇 七二

労働政府の西北に於ける施設

七二〇 七三

露西亜

労働露国の資本主義復帰

七四〇 七九

第三インターナショナルの党勢拡張決議

七九〇 八二

万国共産主義青年同盟執行委員会総会の総勘定

八二〇 八七

独逸 第二回独逸労働代表訪露

八七〇 九〇

仏蘭西 仏蘭西青年共産党の実際活動の例

九〇〇 九二

奥太利 奥太利の選挙に於ける共産党の勝利

九二〇 九三

西班牙 西班牙の陰謀の原因

九三〇 九四

内国事情

産業文化博覧会の露西亜デーの状況

九五〇 九七

在上海労働官吏名簿

九八〇一〇五

彙報

一〇六〇一一八

青年同盟と共産党／中露聯合の意義／支那政府の入露

支那人制限／独逸共産党機関紙の発行停止／露独政治

犯人交換／国際エスペラント会議／セメヨノフの行動

人事動靜

一一九〇一二三

雑報

一二四〇一三四

大阪外国語講師の引致／労働露国の貧農救済事業の反

面／労働露国諸学校の授業料徴収案／労働政府の禁酒

法発布／独逸に於ける外国人届出規定廃止問題／東京

ロータリー倶楽部の会則／国籍法改正以来一年間に於

ける在米出生児童の国籍調／「リスミアニア」国通過査

証／西伯利鉄道旅行者に対する参考事項

附録

英吉利総罷業の内幕

ハミルトン・ファイフ 一三五〇二〇七

第五三〇第五六号

欠

研究資料

第五七号 一九二七(昭和二)年三月

職業同盟工場委員会と査定調停委員会 一〇 四七

外国事情

支那

上海総同盟罷工の情況 四九〇 六九

広東政府の発達と終局の目的 六九〇 七二

武漢地方に於ける共産党の活動 七二〇 七四

中国国民党の宣伝状況 七五〇 七八

露西亞

赤色国際職業同盟の事業経過並に将来

七八〇 八七

国際婦人デー 八七〇 九三

英吉利 英国炭坑争議に対する労働組合総聯合の態度 九三〇 九七

葡萄牙 葡萄牙の暴動 九七〇 九九

研究資料

全露下級職業同盟細胞査定調停委員会其ノ他ニ関スル

諸規則(其ノ一) 一〇〇〇一三〇

彙報

一三一〇一六一

哈爾賓及び広東に於ける国際婦人デーの状況ノ南京事件の概況ノ哈爾濱地方に於ける二月革命紀念日ノポロ

ヂン夫人の逮捕ノ譚平山の第三インターナショナル大会の報告と感想談ノ中国国民党の農民運動に関する決

議ノ労働政府の公文書送達方法ノ在滿鮮人団代表者会

議ノ国民党の農民運動講習所設立ノ上海に於ける左傾

暴力団の状況

人事動静 一六二〇一六四

雑報 一六五〇一七七

ピリニヤク日本印象記(其の二)ノ北京労働大使館の

通信機関ノ各省に於ける国民党省党部及び省政府の構

成ノ広州文化侵略反抗同盟会の組織ノ日露森林利権交

渉委員の帰來談ノ国民政府の露国人顧問ノ国民党広東

省党部の民衆運動日曆制定ノ西伯利に於ける犯罪数ノ

労働露国の都市人口調査ノ国民党中央執行委員会の構

成

六号記事

労働政府幹部の任命 四八

哈爾濱に於ける労働ゲペウの組織 九九・一六一

第五八号 一九二七(昭和二)年四月

露西亞赤化史(其の四)

ア・イ・スピリドーウキチ 一〇四〇

外国事情

支那

武漢に於ける国民党及び国民政府最高機関の状況

四一〇 八五

中国共産党の活動方針

八五〇 九二

露西亞 共産インターナショナルの使命

九二〇 一一四

波蘭

波蘭に於ける共産主義運動の機関

一一四〇 一一五

波蘭の罷業

一一五〇 一一六

独逸 独逸共産党内分派問題

一一六〇 一二〇

仏蘭西 仏国の国際婦人デー

一一二〇 一二二

研究資料

全露下級職業同盟細胞査定調停委員会其ノ他ニ関スル

諸規則(其の二)

一二五〇 一四八

彙報

一四九〇 一六〇

南京事件と赤露の宣伝／万国婦人共産デーの檄文／国民党右傾派の工会組織／タシケンドに於ける共産主義

宣伝学校／赤色労働組合支那中央部常務委員会の革命

政策／東省特別区ソウエート職業同盟会の状況／被圧

迫民族聯合会の内情／香港工団總會の解散

人事動靜

一六一〇 一六三

雜報

一六四〇 一八五

在京外交団／在本邦各国領事館員／在莫斯科孫逸仙大

学の状況

(*六号記事)

支那に於ける共産党組織の農民協會給計表 一二四

第五九号 一九二七(昭和二)年五月

創造的革命(其の一)

エデン・パウエル、セダー・パウエル 一〇五三

外国事情

支那 国民党と農民運動

五五〇 九二

独逸 第十回独逸共産青年同盟大会

九二〇 九五

白耳義 植民地圧迫反対国際大会 九五〜一〇七

内国事情

最近における社会運動 一〇八〜一三四

研究資料

中国国民党農民協会章程 一三五〜一五一

農民自衛軍組織大綱 一五一〜一五三

彙報 一五四〜一七九

ヨツフェの日本観／各地に於けるメーデーの概況／支

那問題に関するスターリンのテーゼ／上海に於ける五

九記念大会／労農ゲ・ペ・ウの連絡系統／労農政府の

支那革命援助の予算／漢口に於ける第三インターナシ

ヨナル代表の演説／労農露国の囚人待遇／巴里に於け

る自動車工の罷業

人事動静 一八〇〜一八二

雑報 一八三〜一八八

謬れる国民党観／ロゾフスキーの日支労働運動観／労

農政府米国武官の旅券査証を拒絶す／万国農民同盟の

中央執行委員／莫斯科に於て反共産団体の発見

(*六号記事)

共産党と仏国軍隊 一〇七

第六〇号 一九二七(昭和二)年六月

創造的革命(其の二)

エデン・パウル、セダー・パウル 一〜四六

外国事情

支那 武漢を中心とする最近労働運動の状況 四七〜八八

露西亞 共産インターナショナル執行委員会総会の状

況 八八〜八九

波蘭 波蘭政府の共産党承認 九〇

仏蘭西 仏蘭西の共産党 九〇〜九二

独逸 第十一回独逸共産党大会 九二〜一〇九

労働運動と其の戦術 一〇九〜一一四

伯林労働組合会議 一一四〜一二〇

第二回独逸赤色救済会全国大会 一二一〜一二三

伊太利 伊太利に於ける労働運動の傾向 一二三〜一二五

北米合衆国 米国の共産派 一二五〜一二六

北米合衆国 米国の共産派 一二五〜一二六

北米合衆国 米国の共産派 一二五〜一二六

北米合衆国 米国の共産派 一二五〜一二六

内国事情

中国国民党員と本邦無産団体代表の会合

一二七〜一三〇

婦人茶話会の組織

一三〇〜一三二

研究資料

支那共産党訓練班講義

一三三〜一五三

彙報

ボルシエウキズムの十年間／浜江高麗青年会の設立／

一五四〜一六四

広東への労農露国の送金方法／黄埔中央軍事政治学校

の教育綱領／ソウエート聯盟の選挙情勢／独逸共産党

の衰微／希臘に於ける共産党の活躍／バルカンに於け

る労農露国の計画／武漢政府の農務省設立

人事動静

一六五〜一六九

雑報

一七〇〜一八〇

ボロヂンと其の遣り口／南京に於ける国民党の党员養

成機関の開設／共産インターナショナルの十六戒／東

方労働者共産大学の卒業式／露国人の生活／革命文学

の国際夜会／露国に於ける王党／共産党员数及びソウ

エート大会参加代表者色別／労農政府の新訓令

(*六号記事)

チエクスロワキヤの共産党

一二六

横浜駐在智利総領事館の移転

一三二

第六一号 一九二七(昭和二)年七月

創造的の革命(其の三)

エデン・パウ、セダー・パウ 一〜五八

外国事情

支那

上海時局と中国共産党の策動 五九〜一三八

安国軍の活動 一三八〜一四五

波蘭 ソウエート大使暗殺事件 一四五〜一四七

瑞西 瑞西に於ける共産党 一四八〜一四九

白耳義 反共産主義宣伝を目的とする国際協調団体の

活動 一四九〜一五一

英吉利 倫敦に於けるアルコス商会搜索事件

一五一〜一五七

仏蘭西 仏国共産党の得意

一五七〜一五八

彙報

支那各地に於ける共産党员迫害運動／全聯盟青年共産

一五九〜一六九

党中央委員会より同共産黨員並にソウェート聯邦全青

年労働者に宛てたる檄文／支那に対する第三インター

ナショナルの方策／西班牙及び葡萄牙に於ける共産主

義／第三インターナショナルの宣言に対するファシス

トの反駁／労農露国の極東港湾修築計画

人事動静

一七〇〜一七一

雑報

一七二〜一七八

支那の将来に対するボロヂンの觀察／ファシズムの真

試練／莫斯科に於ける反労農陰謀／中国共産党内部組

織及び職員表／南京国民党の黨員養成機関

第六二号 一九二七（昭和二）年八月

共産インターナショナル發達の概観（其の一）

一〜 四二

外国事情

支那

漢口に於ける汎太平洋労働會議の情況

四三〜一〇七

武漢派国民党と共産党との分裂 一〇八〜一一二

漢口に於ける第四次全国労働大会の状況

一一二〜一二四

支那に於ける国家主義団体の擡頭 一二四〜一二六

露西亞

支那問題に関する共産インターナショナル執行委員

会総会の決議

一二六〜一四一

支那革命に就ての莫斯科共産党党務委員会集會に於

けるブハーリンの報告

一四一〜一五四

支那共産党革命指導失敗の原因

一五五〜一六一

英吉利 英国の謀反煽動的及び不敬冒瀆的教育取締法

案

一六一〜一六四

比律賓群島 比律賓に於ける労働団体

一六四〜一六六

内国事情

新露西亞美術展覽會の開催

一六七〜一六九

研究資料

伊太利労働憲章

一七〇〜一七六

彙報

赤色国際職業同盟第四回大会開催準備／ボロヂン夫人

一七七〜一九八

等の釈放／北京軍警当局の学生逮捕／京津地方に於け

る露国共産党員の近況／湖南省政府の小作農保護法規
／馮玉祥の共産党に対する態度／武漢政府の全党員に
対する通電／第三インターナショナルの英国に関する
決議／タツス通信員スレパツクの講演／全露共産党会
議に於けるブハーリンの演説／白系紙の観たるゲ・ペ
・ウの活動／仏国共産党員カシヤンの服罪／労農露国
と英国労働組合会議

人事動静

一九九〜二〇一

雑報

二〇二〜二〇八

労農官憲の牧師迫害／労農露国失業者の増加／英国少
年の露国見学中止／在巴里白系新聞の労農政府攻撃記
事／上海に於ける労農露国ダリバンク捜査及び封鎖事
件

(＊六号記事)

在莫斯科要注意邦人数

一六九

労農露国は英国との関係回復を辞せず

一九八

露国教員其の他の俸給

二〇一

第六三号 一九二七(昭和二)年九月

露西亜赤化史(其の五)

ア・イ・スピリドールウキチ 一〜 四九

外国事情

西伯利亞 第八回極東地方共産党会議の状況

五〇〜一一七

露西亜 共産インターナショナルの危機と同執行委員

会総会

一一八〜一四四

支那

本溪湖煤鉄公司罷業団の暴動 一四五〜一五三

蔣介石の下野と国民党其の後の状況

一五三〜一六四

独逸 伯林に於ける国民社会党員の大検挙

一六四〜一六五

匈牙利 匈牙利に於ける罷業熱の流行

一六五〜一六八

内国事情

関東庁の共産党員検挙事件

一六九〜一七二

本邦に於けるサツコ、ヴァンゼツチ死刑反対運動

一七三〜一七九

露国共産党の文芸政策

三〇〜三六

彙報

一八〇〜二〇一

支那

赤都武漢を脱出するの記(周仏海)／南昌に成立せる

上海に於ける共産党最近の活動

三七〜六〇

共産派革命政府の没落／ソウエート政府の東支に於ける

東三省に於ける排日運動

六〇〜七二

る新政策／労農露国の英国間牒逮捕

北京軍政府の学制改組と反抗運動

七二〜八〇

人事動静

二〇二〜二〇四

紛糾せる国民党の状況

八〇〜九五

雑報

二〇五〜二一〇

露西亜

言論の自由無き労農露西亜／米国政府の労農露国への

露国共産党中央執行委員会及び中央監督委員会聯合

九六〜一〇三

武器輸出禁止／米国人の露国視察団

総会

一〇四〜一〇七

(*六号記事)

英国少数運動の会議

一六八

波蘭 ピルズドスキー政府鉄道従業員団の支持を失ふ

一〇七〜一〇八

亜細亜聯盟会議及び其の議題

一七九

独逸 独逸共産党の地方選挙成績

一〇八〜一一〇

スツツトガルトに於ける青年インターナショナルの廿

伊太利 伊太利に於ける共産党の勢力

一一〇〜一一二

週年祝典

二〇一

第六四号 一九二七(昭和二)年一〇月

内国事情

共産インターナショナル発達の概観(其の二)

関東庁の共産党事件の判決

一一三〜一一八

共産インターナショナル発達の概観(其の二)

国旗問題に関する在留支那人大会

一一八〜一二九

一〇三〇

研究資料

全露下級職業同盟細胞査定調停委員会其ノ他ニ関スル

諸規則 (其ノ三)

一一〇〜一五五

彙報

一五六〜一七〇

南京及び武漢に於ける双十節の状況／露領状況一束／

全露中央執行委員会会議状況の一斑／駐仏労農大使ラ

コフスキーの召還事情／北京軍警当局の国民党員及び

共産党員逮捕／安国軍の討赤宣伝隊／蒙古に於ける労

働運動／英国労働組合会議の少数運動加盟団体に対す

る除名決議／独逸社会民主党支部の共産党転籍／ボリ

ヴィア共産派の陰謀援助の文書発表

人事動静 一七一〜一七三

雑報 一七四〜一八二

布哇に於ける日本人種の投票問題／国民党の改定宣伝

標語／哈爾濱に於けるラ・ビ・スの現状／共産イン

ターナショナル中央機関の組織

附録 自大正一二年九月至昭和二年九月社会問題に関する出

版物 一八三〜二三六

(*六号記事)

ラコフスキーが署名せる共産党宣言書中の問題の一節

南米に於ける共産党の暴動煽動

一一二

第六五号 一九二七(昭和二)年一月

労農露国の対外重要問題 スターリン 一〜二三

国際農民同盟及び国際労働者後援会の概観

外国事情 二三〜二八

支那

支那に於ける学生運動の情况 二九〜五七

南支那に於ける国民党の現情 五七〜六七

支那各地に於ける十月革命記念日の情况 六八〜八三

露西亜

ソウェイト社会主義共和国聯盟中央執行委員会第四

回第二次会議 八三〜八八

トロツキー及びジノヴキエフ等に対する党籍除名問

題 八八〜九一

チエツクスロワキヤ

アルバニア公使暗殺事件 九二〇 九五

チエツクスロワキヤ地方選挙成績 九五〇 九六

独逸 中部独逸に於ける炭坑夫大罷業 九六〇 一〇二

英吉利

エチンバラ大会前後に於ける英国労働組合界の情況 一〇三〇 一〇五

バターシーに於ける全英少数派運動会議の概況 一〇六〇 一〇七

仏蘭西

仏国の共産主義取締情況 一〇七〇 一〇八

仏国に於ける国際赤色救済会全国大会の概況 一〇八〇 一一五

内国事情

大連駐在労農領事館員遭難事件 一一六〇 一三一

研究資料

労農露国外事法規 一三二〇 一七八

彙報

第一回ソウェート婦人大会の概況／労農露西亜に於ける

紀念祭日の変更／露国共産党内の内訌の真相／北京

軍警当局の共産党員検挙統報／支那国民政府の不動産

登記法案／片山潜在アドヴァタイザー記者に宛たる書
信／猶太民族の全人口

人事動靜 一九九〇 二〇二

雑報 二〇三〇 二〇六

労農露国内の官公吏給料不払問題／東支鉄道管理局部
内の大異動／哈爾濱へ輸入せられたる宣伝標語入の織
物／全聯盟共産党隊列中の婦人共産党員数

(*六号記事)

労農露国保安部の密偵団検挙 一一五

関東庁に於ける共産党事件の判決言渡 一三一

第六六号 一九二七(昭和二)年一二月

共産インターナショナル各国支部組織事業の一般及び其
の欠陥並に当面の任務(其の一)

オー・ピヤトニツキー 一〇 二三

外国事情

支那

中国共産党の中央緊急會議の決議 二五〇 六七

最近に於ける中国国民党の状況 六七〇 八〇

上海に於ける郵船碼頭使用人及び電車従業員の罷業

八〇〽 八七

露西亜

露国共産党党内訶問題に関する中央委員会並に中央

監督委員会聯合總會の情況 八七〽一二三

ソウェート聯邦に於ける革命十週年祭の情況

一二三〽一三六

ソウェート聯邦の標榜せる七時間労働制問題

一三六〽一三九

仏蘭西 仏国青年共産党主催の壮丁大会の概況

一四〇〽一四一

土耳其 新興土耳其の国情

一四一〽一四四

北米合衆国 米国労働運動の新賃銀政策

一四四〽一四六

内国事情 本邦内地に於ける露国革命十週年紀念日の狀況

一四七〽一五〇

彙報

各国に於ける革命十週年紀念祝賀の概況／在浦塩第一

一五一〽一六九

師団高級参謀一行の国境巡視狀況／中国国民党西山派

の時局に対する態度声明／中国国民党の監察機関と監

察院組織条例／広東省政府の工会統一法案／広東に於

けるクーデター／職業組合赤色インターナショナルの

全世界労働者に対する声明／維納市長ファシストに襲

はる／伊太利ファシストの近況／希臘大統領襲撃さる

人事動靜

一七〇〽一七一

雜報

一七二〽一八〇

ソウェート共和国聯邦に於ける通過及び入国査証／南

京国民政府の湖南湖北に於ける行政機関整理／露蒙鉄

道借款協定成立説／中国に於ける大学院設置問題／広

東省政府の土地政策／北京に於ける共産黨員等検挙

全聯邦共産党中央機関新幹部名簿 二三〽 二四

露国入出旅客の所持金新規定 一四六

第六七号 一九二八（昭和三）年一月

露西亜に於ける労働運動小史

外国事情 一〽 四一

支那

上海に於ける第二回汎亜細亞聯盟会議の情況

四二〇 七八

広州及び長沙に於ける共産党の暴動

七八〇 九六

湖南地方に於ける共産党の罪惡

九六〇 一〇八

露西亞

一〇八〇 一二四

全聯盟共産党第十五回大会

一二五〇 一二七

波蘭 波蘭共産党の近情

一二七〇 一二九

英吉利

一二九〇 一三一

第九回英国共産党大会

一三一〇 一三三

英国共産党の近情

一三三〇 一三四

伊太利 伊太利の共産黨員に対する裁判問題

一三五〇 一五三

無産党の擡頭

人事動靜

雜報

最近の露西亞事情実見談／奉天に於けるソウエート共産主義宣伝と猶太図書館の開設／外蒙古国民政府委員の改選／在莫斯科孫文大学の衰微

(＊六号記事)

パレスチナに於ける失業者暴動

日瑞間旅券査証相互廢止

第六八号 一九二八(昭和三)年二月

共産インターナショナル各国支部組織事業の一般及び其の欠陥並に当面の任務(其の二)

オー・ピヤトニツキー 一〇 一九

外国事情

支那

最近に於ける中国国民党と中国共産党との關係

東辺道下に於ける大刀会の狀況

二〇〇 四八

四八〇 六一

支那

最近に於ける中国国民党と中国共産党との關係

二〇〇 四八

四八〇 六一

蒋介石の復職と国民党最近の状況 六一〜六五

南北合同の国民会議開催運動 六六〜六九

露西亞 勞農露西亞に於ける婦人の生活

アレクサンドラ・ラコフスキー 六九〜七五

白耳義 反帝國主義及び民族獨立期成同盟總委員會

議の状況 七六〜七九

仏蘭西

仏国に於ける外国人労働者の移入及び取締情况

七九〜九一

共産党に対する仏国の危惧 九一〜九二

仏蘭西共産党の総選挙対策 九三〜九四

伊太利 ファツシストの新刑法 九四〜九六

波斯 波斯共産党第二回大会 九六〜九九

近東諸邦 パレスチナに於けるシオン運動の衰微

九九〜一〇一

彙報

一〇二〜一二一

滿洲に於ける支那巡警の罷業状況／奉天省農村自治軍の組織計画／武漢に於ける農工其の他民衆団体の解散／江蘇省政府に於ける反党分子裁判機關の設置／長沙地方に於ける共産党の暴動計画／上海に於ける工会統

轄機關の現状／ソウェート聯邦共産党規則に関する第

十五回共産党大会の決定／日本左傾労働団体と莫斯科

との関係／リトワニヤに於ける共産黨員大検査／ムツ

ソリニ社会党を創立す／印度労働組合總聯盟第八回大

会に宛てたるプロフィンテルンの書面／米國労働運動

宣伝總聯盟に宛てたるプロフィンテルンの書面／南米

諸国に於ける赤色労働組合の運動協調

人事動靜 一二二〜一二五

雜報 一二六〜一四五

最近の勞農露西亞事情／浦塩に於ける共産党活動写真

班の活動／極東各地に於ける主なる白系機關

(*六号記事)

露国在外大公使館で雇用する其の國の共産黨員を罷免

するに決す 一四五

國民政府の各部長更迭 一四六

附録

上海工部局の警察組織 一三六

上海工部局警察組織表

第六九号 一九二八(昭和三)年三月

露西亞赤化史(其の六)

ア・イ・スピリドーフキチ 一〇四一

外国事情

支那

中国国民党第二期中央執行委員會第四次全体會議の

狀況 四二〇 七二

広東共產革命の考察 七二〇 九一

国民党との提携断絶に於ける中国共産党の策略

九一〇 一〇七

露西亞

ソウエート聯邦より觀たる日本社会運動概評と其の

指導策 一〇七〇 一一七

共産インターナショナル勢力の衰退とソウエート国

策の基調に関する一考察 一一八〇 一二一

独逸 自由思想家インターナショナル大会

一二一〇 一二五

仏蘭西 仏蘭西共産党組織會議

一二五〇 一三三

伊太利 ムソリニの反動的労働政策 一三三〇 一三七

土耳其 ケマル・パシヤの同化政策と諸民族の国語問

題 一三七〇 一三九

研究資料

労農露国行政警察関係法令 一四〇〇 一四七

彙報 一四八〇 一六六

哈爾濱に於ける二月革命紀念日の概況／最近に於ける

在哈爾濱赤白露人の一般情況／哈爾濱地方に於ける国

際婦人デー／南京に於ける孫文三週年紀念会／国民政

府の反党分子裁判機關／国民党最近の反帝国主義政策

／中国共産党の土匪操縦策／労働組合赤色インターナ

ショナルの第四次會議／ウクライナに於ける共産党檢

挙／独逸に於ける赤色前衛同盟支部の解散

人事動靜 一六七〇 一六九

雜報 一七〇〇 一八二

ヨツフェの遺書／国民政府最近の農民政策／国民党の

教育方針／国民政府の農民銀行／国民政府の在外支那

人管理機關／露支国交断絶後の上海に於ける労働通商

機關／丁抹国と本邦間旅券査証相互廢止

(*六号記事)

張作霖白系露人のために満洲に植民地を与ふ 一六六

彙報

一九五〇二〇七

第七〇号 一九二八（昭和三）年四月

露西亞赤化史（其の七）

ア・イ・スピリドローウキチ 一〇 四六

人事動靜

二〇八〇二一一

外国事情

雜報

二二二〇二二〇〇

支那

北伐後の中国国民党の情况 四七〇一〇九

広東市暴動の意義と教訓 一〇九〇一四〇

汎太平洋労働組合會議秘書処の工作と国際局面に關

する報告 ジョージ・ハーデイ 一四〇〇一五六

露西亞

第三インターナショナルの日本共產主義運動に對す

る批判 一五六〇一六八

第二回全聯邦モープル大会の概況 一六八〇一七一

露国共産党内の新内訌 一七一〇一七二

独逸 独逸に於ける重工業労働争議 一七二〇一七四

仏蘭西 仏蘭西共産党全体會議の状況

一七四〇一九四

極東に於ける白系露人の活動狀況／広東省党部の今後

の工人運動方策／チェカの十年／労農政府の搾取農所

有地没収問題／印度に於ける民族運動／智利の共產主

義者の追放

人事動靜

雜報

ソウエート国民經濟の危機／回族の南京政府に對する

解放請願／国民党の各省党部指導員任命／トロツキ

殘党の処置／希国クレート島の騷擾／米国务務郷の對

露態度再声明

（*六号記事）

諾威国と本邦間旅券の査証相互廃止 一九四

青年共産インターナショナル第五回万国大会の召集

二〇七

第七一号 一九二八（昭和三）年五月

露国に於ける革命青年運動の發達

一〇 二六

共産主義戰術としての共同戦線及び合同運動

外国事情

二七〇 四一

支那

汎太平洋労働組合会議秘書処会議 四三〇 六〇

上海に於ける露西亞人の概況 六〇〇 七七

最近に於ける中国共産党の重要決議 七七〇 九五

露西亞

第九回第三インターナショナル執行委員会例会の概況 九六〇 一〇三

ドンバス炭坑陰謀事件を通して観たる労農露国の近情 一〇三〇 一〇八

独逸 独逸青年共産党全国会議 一〇八〇 一〇九

独逸政府の共産主義団体の禁止 一〇九〇 一九

仏蘭西

仏国共産主義青年同盟全国会議 一一〇〇 一一二

仏国合同労働総同盟全国聯合委員会の概況 一一三〇 一一五

英吉利

英国に於ける「ソウエート朋友」大会 一一六〇 一一六

伊太利 伊太利新下院議員選挙法 一一七〇 一二〇

研究資料

中国共産党秘密工作須知 一二一〇 一二二

彙報

各地に於けるメイデーの概況／極東猶太自治共和国の建設／北京教育界の国恥紀念週間／露国の収獲独裁官任命／トロツキー追放の情況／露国に於ける反猶太人運動／嚴重なる露国の検閲制度／幹部派に帰順せるトロツキー派の二巨頭／露国銀行理事七名に対する死刑宣告／露国の軍備拡張／コミンテルン執行委員会會員

仏国に於て逮捕さる／労農政府経済施設関係役員を処罰す／芬蘭に於ける共産党の陰謀／仏国に於ける無政府主義者の暴行

人事動靜 一五八〇 一六二

雜報 一六三〇 一七八

在京外交団／労農露国の土地法／露国下層網用共産主義的教科書の作製／諾威と本邦間の旅行査証相互廃止

／ソウエート聯邦共産黨員たる外国人數／白系露人の

勘察加独立計画／グアム島の近況／渡米邦人に対する

米国領事の査証拒絶並に警戒／米国官憲の外船取締／

スターリンとルイコフ意見を異にす

(*六号記事)

全聯邦共産党十月革命記念募集成績予想 四二

第七二号 一九二八(昭和三)年六月

世界赤化運動の十年(其の一) 一〇 五六

外国事情

支那

支那に於ける共産主義運動 五七〇 九〇

滿洲に於ける不逞鮮人団体の統一運動

九〇〇 一〇〇

上海に於ける工会統一運動の状況 一〇一〇 一〇二

印度 印度に於ける共産主義運動 一〇三〇 一〇六

露西亞 労農露国の経済的危機 一〇六〇 一〇七

独逸 独逸赤色戦線団の禁止問題 一〇七〇 一〇八

仏蘭西 仏国下院議員総選挙の結果 一〇八〇 一一五

英吉利 英国造船労働組合内の共産主義運動

一一五〇 一一七

奥太利 奥太利に於ける工場新聞 一一七〇 一二〇

研究資料

革命闘士国際援助協会の概観 一二一 一四九

彙報 一五〇 一七五

極東露領の状況／極東露領に於ける朝鮮人共和国建設

運動／国民党の省政府組織法の改正／哈爾濱地方に於

ける排日問題の概況／支那に於けるモープルの活動／

上海に於ける白系露国人統一機関設立運動／上海に於

ける五卅紀念祭の状況／中国共産党最近の秘密活動／

ソウェート聯邦の反革命罪に関する刑法／労農露国の

政策／少数運動の戦術

人事動靜 一七六 一七九

雑報 一八〇 一九八

中国共産党の革命軍日課問答／ソウェート治下の生活

／ムツソリニの姓名検閲

(*六号記事)

露国メーデー標語の変化 一一〇

第七三号 一九二八(昭和三)年七月

英国に於ける共産運動

外国事情

ドクトル・エー・シヤドウエル 一〇三〇

支那

在滬不逞鮮人団体の現状 三一〇 四〇

広東に於ける共産党の策動 四一〇 四三

印度 印度赤化運動 四三〇 五六

露西亞

東方民族大学の政治的使命 五七〇 六九

スターリン 五七〇 六九

日本の山東出兵と國際無産階級の任務 六九〇 七五

ドンバス炭坑事件の判決 七六〇 七七

ボルシエウキズムの十年 七七〇 八七

チェックスロワキヤ チェックスロワキヤ共産党会議 八八〇 九〇

芬蘭 芬蘭の共産黨員検挙 九〇〇 九二

独逸 独逸に於けるソウエート聯邦朋友万国会議 九二〇 九八

仏蘭西 仏国に於ける國際坑夫同盟第十八回大会 九八〇 一〇一

研究資料

共産黨員紹介須知 一〇二〇 一〇八

彙報 一〇九〇 一三二

共産インターナショナル第六回國際大会／共産イン

ターナショナル西歐事務局の支那問題に関する檄文／

高麗農民共産青年会の綱領及び規則／国民政府の対内

及び対外宣言／日本の対支干渉に關しコムインテルン

中央委員会の通檄／中国濟南会の工作方針／支那官憲

の赤化取締と其の内情／国民政府の共産党書籍の販売

禁止布告／北京地方に於ける各種社会運動団体の組織

人事動靜 一三三〇 一三六

雜報 一三七〇 一四二

最近のレニングラード／米国官憲の禁制品密輸入取締

狀況／シリヤの現況／数字より見た露西亞共産党／米

国武官の我が税関及び旅券検査觀／共産党の海外補助

金／北京並に直隸省の名称改正

(*附録)

東支鉄道組織表

第七四号 一九二八（昭和三）年八月

支那共産党歴史の概説

一〇 五六

外国事情

支那

支那に於ける武力団体（一）

五七〇 九一

中国共産党の労働争議に於ける指導状況

九一〇 九六

支那西北疆域の近況

九六〇 九九

蘭領東印度 蘭領東印度に於ける共産党の宣伝

九九〇 一〇〇

露西亞

全聯邦共産党中央委員会七月幹部会議の総決算

一〇〇〇 一〇五

労働者新聞の根本問題

一〇五〇 一一二

仏蘭西 総選挙後の政治経済事情に関するテーゼ案

一一二〇 一二四

和蘭

和蘭新露西亞協会

一二五〇 一二六

和蘭共産党の近況

一二六〇 一二七

英吉利 英国機械工組合と共産党

一二七〇 一二九

北米合衆国 米大統領選挙戦に対する米共産党の

方針及び指令

一二九〇 一三三

研究資料

レニニズムのプロレタリアート及び国家論

一三四〇 一六二

彙報

希臘の罷業と官憲の取締／北京総工会の解散／蒙古国

民党及び東三省／河北省政府の施政大綱／広東工人の

共産化／支那共産党の工人煽動に対する官憲の取締／

東三省憲法草案改訂／浦塩斯徳に於ける共産党創立廿

五年祭／閩錫山の対政府改革建議／蒙青暫行自治条例

／広東工人の共産化／西班牙共産党の陰謀／埃及に於

ける共産主義運動／ムツソリーニの議會制度改正意見

人事動靜

一七九〇 一八三

雑報

国民党宣伝標語腐化の語義／グードの露西亞視察談／

ドポラヴォーロ／在伊太利ファシスト黨員証明書配布

／北京の商用「印花」の改正問題／共産党江蘇省執

行委員会より黨員に指示せる工作方針／北米合衆国共產党の活動／在天津露国領事の時局談／仏国巴里及び其の郊外に於ける共産党の示威運動／瑞典警察露国スパイを捕縛す／仏国の外字労働新聞の取締

第七五号 一九二八（昭和三）年九月

赤色国際職業同盟の概観

一〇三四

外国事情

支那

支那に於ける武力団体（二）——「紅槍会」

三五〇 五八

国民党第五次全体会議

五八〇 八六

中国共産党の宣伝大綱

八七〇 九四

中国共産党の支那時局批判

九四〇 一〇〇

呼倫貝爾に於ける騷擾事件

一〇〇〇 一〇六

露西亜

大連に於ける秘密結社の検挙

一〇六〇 一一二

コミンテルン第六回大会の状況（其の一）

一一三〇 一四三

ソヴェート露西亜最近の対支活動 一四三〇一四六

白耳義 第二インタアナショナル第三回世界大会

一四六〇一五九

仏蘭西 仏国共産党全国會議

一五九〇一七六

勃牙利 勃牙利に於ける殺戮

一七六〇一七八

内国事情

北樺太に於けるソヴェートの近況 一七九〇一八一

研究資料

国民政府の「中華民国刑法」（其の一）一八二〇二〇二

彙報

中国共産党の第三党組織運動／奉天当局の共産党取締

／共産党の江蘇省内に於ける工作計画／上海総工会の

組織／蒙古自治条例の制定／英国新聞の我国に於ける

共産主義運動取締批評／英国労働組合會議と共産党／

西班牙に於ける陰謀／反帝國主義聯盟／アフガニスタ

ンの現代化

人事動靜

雜報

極東に於ける白色パルチザンの活動状況／中華民國滅

赤救国聯合会の活動／莫斯科の近状／外蒙最近の情勢

／北京に於ける労働者生活状況／労働露国政府の米国人観光客吸収策／労働露国の資金と英国共産主義者／海外に於ける伊太利ファシスト黨員／上海に於ける国際青年記念日の状況／図書館を通じての共産主義宣伝／瑞典の総選挙／瑞典に於ける露国船の赤化宣伝／白系露人の国境警備隊編成運動／英国婦人巡査採用

(＊六号記事)

独逸社会主義機関の露西亜評

一七八

第七六号 一九二八(昭和三)年一〇月

露国社会民主主義労働党第二回大会第二十五週年紀念

テーゼ

一 四一

外国事情

支那

第四次全体会議以後に於ける中国国民党の状況

四二 六八

国民政府組織法及び訓政綱要

六八 七二

印度 公安を害する外国人追放法案

七三 八一

露西亜 コミンテルン第六回大会の状況(其の二)

八一 一一三

独逸 独逸一般労働組合同盟第十三回大会の状況

一一三 一二六

仏蘭西

国際赤色救済会巴里地方第三回大会の状況

一二六 一二八

仏国教育同盟第二十三回大会の状況

一二九 一三四

研究資料

国民政府の「中華民国刑法」(其の二) 一三五 一八六

一八七 二〇九

彙報

支那労働運動と第二インターナショナル／最近に於ける支那共産運動の状況／最近に於ける広東当局の共産党弾圧状況／中国共産青年団の宣伝／印度に於ける共産党の目的／独逸共産党の活動／印度及びアフガニスタンに於ける赤化宣伝状況／埃、洪国に於ける共産主義者の逮捕／共産インターナショナル東方常置事務局の設置／和蘭に於ける共産党示威運動の失敗／留日支那学生管理事務規程公布／呼倫貝爾事件と赤露／支那国恥紀念日調査表

人事動静

二一〇〜二一四

雑報

二一五〜二二八

露国官憲の発給する上陸許可証／外国船に本邦人の乗船拒絶／露国より帰朝せる日本電通社員の談片／最近本邦より帰国せる露国人よりの近況通信／本邦に於けるトルストイ百年祭記念講演会／新嘉坡に於て排日示威運動を策せし支那共産党員の検挙／ユーゴスラヴィアの共産党／巴里に於ける国際労働青年デーの情況／ソウエート新聞の十年／露国新制度の一たる公衆食堂／ソウエート労働聯合会の公衆食堂／赤系露字新聞社と日本無産大衆党の論争に対するタツス通信員の態度／国民政府委員並に五院院長の就任／北京市政府の禁煙条例公布／英国警官遺族扶助基金財団／沿海州の禁煙状

第七七号 一九二八(昭和三)年一月

露西亜赤化史(其の八)

ア・イ・スピリドウキチ 一〜 八六

外国事情

支那

八七会議と一年來の中國革命 八七〜 九九

双十節と上海地方に於ける支那共産党の活動 九九〜一〇七

最近更新されたる中國共産党の指導原理 一〇八〜一一四

中國共産党江蘇省委員會宣傳部の秘密命令 一一五〜一二七

露西亜

コミンテルン第六回大会の状況(其の三) 一二八〜一三九

シユルレル 一三九〜一四五

蘇聯邦國民經濟の困難と右翼危險の發生 一四七〜一五二

羅馬尼 羅馬尼の共産主義取締評 一四七〜一五二

研究資料

ソウエート聯邦の警察制度 一五三〜一七八

彙報

北平に於て發行せられたる排日パンフレット／國民政府の諸條例／極東露領に於ける物資欠乏の爲め労働

府の諸條例／極東露領に於ける物資欠乏の爲め労働

コーペラチーフ組織の変更／ソ連邦共産党内訌の再燃
／仏国共産党巴里地方第七区の事業計画案／共産党の
武器としての「戦争」

人事動靜

雑報

一九四〇～一九八
一九九〇～二一四
ソ連邦人の詐欺入国手段／最近の労農露国に関する同
国帰來者の談／仏領アルジェリアに於ける自治労働組
合の傾向／アルジェル港に於ける共産主義宣伝／天津
における露西亜人の近況／国民党第三次全国代表大会
の延期／広東の軍警赤化運動／勃牙利に於ける第三イ
ンターナショナルの活動／羅馬尼に於ける共産主義宣
伝／労農露国の外資歓迎／赤派の宣伝文書の伝送方法
／全露共産黨員数／在本邦労農機関に於ける露西亜革
命記念日の状況／哈爾濱に於ける十月革命記念日の状
況／極東露領に於ける朝鮮移民の人口及び分布状態／
中国共産黨員被処罰統計表

(*六号記事)

スターリンの人物

一九八

第七八号 一九二八(昭和三)年二月

村落少年「ピオネル」の事業 スモーリチ 一〇一五七
外国事情

支那

支那に於ける最近の排日運動 一五八〇～二三四
中国共産党第六回大会 二三四〇～二五四

露西亜 コミンテルン第六回大会(其の四)

エヌ・ブハリン 二五五〇～三一二

仏蘭西 仏国の統一労働総同盟全国委員会議

三三三〇～三三三〇

彙報

三三三〇～三三五一

国民政府の訓政宣言／ソウエートロシヤ第三インター
ナショナル共産党本部より發送したる世界各国共産党
機構系統、現状に関する報告書／歐洲共産主義の衰頹
／支那革命援助策と共産党の両意見其の他／露国に於
ける糧食の不足／サツコー及びヴァンゼツチ事件に関
する新宣誓書／米國國務省共産党の惡辣手段を發く／
高麗共産党の組織表

人事動静

三五二〜三五五

雑報

三五六〜三七二

露国科学協会英国の態度を列国に訴ふ／プロフィールテ

ルの反日的檄文／コンミニュニスト、インターナシヨ

ナル仏国共産党の活動を促さんとす／沿海州方面の窮

状／ソウエート聯邦の経済状態／羅馬尼に於ける印刷

物検閲制度廃止並に戒嚴令の解除／スターリンの経歴

／米国露国高官二名の入国を拒絶す／对在米黒人の共

産主義宣伝プログラム／在欧白系露人所有の機関紙／

在北平漢字新聞社並に通信社調査表

(*六号記事)

高麗共産党共利組合の状況

三三〇

サウエート教育界の十一年間

三五五

第七九号 一九二九(昭和四)年一月

支那に於ける労働運動

一〜一五三

外国事情

支那

中国共産党第六回大会の諸決議

一五四〜二一七

支那に於ける最近の排日運動

二一七〜二二六

中華革命党宣言草案

二二六〜二四一

国民政府の学制改革と学生の反対運動

二四一〜二五八

露西亜

コミンテルン第六回大会の状況(其の五)

二五九〜二七二

ソ聯邦共産党中央委員会十一月例会の概況と党内の

動揺

二七二〜二八二

独逸 独逸共産党の十年

二八二〜二八五

仏蘭西 仏国共産党巴里地方支部報告総会

二八五〜二八九

研究資料

国民政府の諸条例

二九〇〜三二〇

彙報

日本共産党の政治的及び組織的任務／トロツキーの新

著に就て／北平に於ける反共産宣伝週聞挙行計画／国

民党の宣伝品審査条例／浦潮市及び近郊の共産細胞委

員の改選並に其の情勢／哈爾賓モルワ新聞の発行停止

／英国の社会党／右傾的傾斜は重大危険——大農成金

圧迫が食糧難緩和の根本策

人事動静

三四三〜三四四

雑報

三四五〜三五二

露国共産党反対派の擡頭／巴里郊外に於ける労働者の大戦講和記念祭／スターリンと反対派／北平市反日大会と日本憲兵に対する暴行／日本に於ける流血の示威運動／アメリカ共産党の戦争に対する闘争／仏国一兵卒法廷に赤旗を振る／ポーランド共産党創立十週年／露国頻りに富農に死刑を宣告す／波蘭反ソウエート戦を準備

附録

第一 在京外交団員名簿 三五三〜三六二

第二 中国国民政府の重要職員 三六三〜三六九

(＊六号記事)

後貝加爾州から支那領に避難民殺到 二五八

第八〇号 一九二九(昭和四)年二月

プロフインテルン労働組合インターナショナル第四回大会に就て
ロゾフスキー 一〜九二

外国事情

支那

支那に於ける共産党 九三〜一〇五

中国共産主義青年団の過去と現在 一〇六〜一二八

中国共産党全体同志に告ぐる書 一二九〜一四二

露西亜 コミンテルン第六回大会の状況(其の六)

独逸 カール、ローザ記念祭 一四三〜一五八

仏蘭西

コミンテルン第六回世界大会に於ける仏国問題の討議に関する仏国共産党中央委員会の決議

巴里地方労働婦人会議 一五九〜一六三

仏国に於ける官吏自治聯盟大会 一六三〜一六五

仏国共産党政治部の改造挙国内閣反対声明 一六五〜一六八

研究資料

ユーゴースラヴィアの治安維持法 一六八〜一七〇

中国共産党入党規則及び中国共産青年団入団規則 一七一〜一七四

一七四〜一八五

彙報

一八六〜一九九

(*六号記事)

日本の共産党は益々拡大

二〇二

歐洲に於ける有力な共産主義新聞紙／伯林に於ける屋外集会の禁止／独逸新聞に掲載されたる日本女工の書翰／日本に関する国際青年共産党の意嚮／日本社会運動に対する在露日本共産党員の論評／プロフィール

第八一号 一九二九(昭和四)年三月

ン代表の演説並に新選役員／浦塩日本人の同市市会議員当選／浦塩市会議員の改選の結果／本邦『アイストランド』間の旅券査証相互廃止／赤軍兵士の反政府的傾向

トロツキーの反幹部運動

ベルトラム・ド・ウオルフ 一〜六三

人事動靜

支那 外国事情

人事動靜

二〇〇〜二〇二

中国共産党第六回大会の土地問題決議

六四〜八〇

雑報

二〇三〜二一六

露国労働組合英国労働組合を非難す／露国労働組合の不始末／露国村落に於ける階級戦の失敗／トロツキーの流滴地変更説／リスアニアに於ける共産主義者起訴

支那に於ける最近の共産主義運動

八〇〜九〇

／国民主義インターナショナル組織の下相談／列車爆破事件対議會に対する全満日本人大会の態度／張家口方面に於ける共産党／東支鉄道教育庁第四科長の免職

日本共産党及び中国共産党の共同宣言

九一〜九八

／労農露国七時間労働制実施予告／張学良の排日思潮

国民編遣委員會議の状況

九八〜一二六

／国民軍北伐経過の日曆／農村に於けるソウエート総選挙の大勢

露西亞

九八〜一二六

／国民軍北伐経過の日曆／農村に於けるソウエート総選挙の大勢

コミンテルン第六回大会の状況(其の七)

一二七〜一六〇

／国民軍北伐経過の日曆／農村に於けるソウエート総選挙の大勢

露西亞義勇軍極東軍団

一六〇〜一六二

／国民軍北伐経過の日曆／農村に於けるソウエート総選挙の大勢

国際海員俱樂部と其の任務

一六三〜一六六

／国民軍北伐経過の日曆／農村に於けるソウエート総選挙の大勢

露西亞義勇軍極東軍団

一六〇〜一六二

／国民軍北伐経過の日曆／農村に於けるソウエート総選挙の大勢

国際海員俱樂部と其の任務

一六三〜一六六

露国の東洋革命企図 一六六〜一六九

印度

印度共産党の検挙 一六九〜一七〇

公安を害する外国人追放法案の再提議

一七〇〜一七五

印度独立聯盟

クリーメンス・ダット 一七五〜一七九

独逸

ケルンに於ける帝国主義及び植民地圧制反対同盟執

行委員会 一八〇〜一九四

少年スパルタクス同盟第八回全国会議

一九四〜一九六

仏蘭西

仏国共産党大会準備に関する共産主義青年同盟中央

委員の声明 一九六〜二一一

仏国共産党の企業細胞論

ミシエル・マルチイ 二一一〜二一七

英国 英国共産党第十回大会に就て 二一八〜二二〇

彙報 二二一〜二四一

共産インターナショナルの十年／亜細亜インターナシ

ヨナルの創設に関する露字新聞記事／奉天に於ける楊

宇霆の処刑と其の重大性／支那東三省特別区路警管理

処長の赤化宣伝取締規程公布／浦塩市ソウエートの改

選／哈爾濱に於ける共産党の状況／日本労働民衆と

レーニン／国際共産婦人デー祝祭に関する共産党中央

委員会の指令内容／渡辺政之輔追悼の記事／ギリシャ

の反共産主義法案の目的／露国政府の選挙対策

人事動静 二四二〜二四四

雑報 二四五〜二五二

国民党の革命及び国恥記念日の紀念方法／サウエート

露西亞の人種／浦塩に於けるレーニン祭の状況／東鉄

労働側宣伝費支出方法／ソ聯邦国境通過査証に就て／

ソ聯邦行政区劃の変更／中国共産党の全国農民協会統

計表 (*六号記事)

露国の『紙』飢饉 六三

露国政府の排宗教運動 一二六

附録

蘇聯管轄及系統指示図

第八二号 一九二九(昭和四)年四月

労働組合主義と労働組合法案

ラムゼイ・ミュイル 一〇 八九

外国事情

支那

資産階級と買弁地主階級の把持する局面中の闘争

九〇〇 九八

蒋介石派对広西派の争闘

九九〇 一一三

長江一帯に於ける国民党左派及び共産党最近の活動

一一三〇 一一五

奉賢に於ける共産党の暴動

一一五〇 一二四

上海に於ける黄色労働組合団体

一二五〇 一三〇

国民政府の言論圧迫

一三〇〇 一三三

北平特別市党部の近状

一三三〇 一三九

露西亜
印度 共産党の検挙

一三九〇 一四二

露西亜

コミンテルン第六回大会の状況(其の八)

一四三〇 一五五

ソウエート聯邦内部の闘争 一五五〇 一五八

コミンテルン十週年記念会 一五八〇 一六二

ソウエート聯邦に於ける一九二六年より一九二八年

までの労働組合運動 一六三〇 一六七

露国に於ける新階級戦 一六七〇 一六九

独逸

国際反ファシズム大会 一六九〇 一七六

トロツキーの独逸入国問題 一七六〇 一八一

英吉利

英国共産党第十回年次大会と其の新方針

一八二〇 一九三

グラスゴー共産党の労働党会議妨害 一九四

研究資料

中国共産党党章 一九五〇 二一〇

彙報

細分されたサンヂカリズムの国(日本)に於て/中

国共産党の巧妙なる宣伝/露国政府の反宗教戦/労働

露国のアフガニスタン民族戦闘与/雄々しき日本農民

/国民政府の外人記者退去要求

人事動静

二二〇〇 二二三

雑報 二二四～二三二

アルベール・トーマの極東視察感想／露国の失業者／

反帝国主義聯盟／タイムス記者とトロツキーの会談／

独逸の露国フィルム上映禁止／支那当局の罷工並に遊

行厳禁／邦人と孫文の銅像／上海総工会の正会員証

(＊六号記事)

ハ爾濱ソウエートの北満洲研究会創設 一四二

コミンテルンの十ヶ年 二一〇

附録

在京外交団員の移動 二三三～二三五

東京支鉄道従業員の内容 二三五～二三六

第八三号 一九二九(昭和四)年五月

第五次全体会議以後に於ける中国国民党 一～六五

外国事情

支那

北平に於ける民衆運動団体の状況 六六～九六

国民政府と共産革命 九六～一〇五

上海地方に於ける中国共産党最近の動静

一〇六～一〇九

露西亞 コミンテルン第六回大会の状況(其の九)

一一〇～一三〇

独逸 国際労働者救援会中央委員会会議

一三一～一三三

仏蘭西 罷業戦術戦略会議の決議

一三四～一五五

英吉利 英国共産党第十回大会に就て

一五五～一六三

研究資料

支那労働者の賃銀並に生活費の調査 一八二～二〇一

〔附録〕天津に於ける女工労働事情 二〇一～二一三

彙報

国民政府の出版物取締／コミンテルンと印度／国際労

働會議支那代表と其の提案／仏国共産党巴里地方大会

に於ける警官と黨員との衝突／リュマニツテ社の家宅

搜索／国民政府の人権保障令／国際共産党中央執行委

員会政治部の朝鮮問題に対する決議／全露中央執行委

員會議第一議會召集当選委員名

人事動静

二二六～二二九

雑報

二三〇〜二三四

帝国主義及び植民地圧制反対同盟に加盟し若は之に同情を有する各国の団体一覧表／コミンテルンの支部六十

(＊六号記事)

ブルガリヤに於ける共産党の運動

六五

モープルの状勢

二一三

第八四号 一九二九(昭和四)年六月

労働組合主義及び労働組合法案

ラムゼイ・ミュイル 一〜 四三

外国事情

支那

中国共産党第六回大会の決議案(上) 四五〜 八二

中国共産党青年団機関誌の内容改善策に対する中央執行委員会の指導状況 八二〜 八四

支那婦女運動の過去と将来 八五〜 八七

蒙古人民共和国の国際的地位と帝国主義者の政策

八七〜 九二

印度

動乱の起らんとする印度

ファイリツプ・スプラット 九二〜 九五

印度に於ける階級闘争の激化 九五〜一〇七

印度に於ける共産党の活動 一〇七〜一一二

露西亞

青年共産インターナショナル第五回大会

一一二〜一二九

全聯邦共産党第十六回全聯邦会議 一二九〜一五二

労農露国の英国に対する陰謀 一五二〜一五四

英吉利 共産主義宣伝問題を中心とする英露関係

一五四〜一八一

研究資料

中国国民政府行政院各部組織法 一八二〜二二三

国民党各級党部經費支配弁法 二二三〜二三一

彙報 二二三〜二四三

國際農民同盟極東部の対鮮組織宣伝／日本の白色テ

ロール／日本社会主義運動に関する伯林新聞記事／在

米労働新聞のメーデーに関する記事／ソウエート聯邦

に於ける民族と用語

人事動静

二四四

六八〇 七〇〇

雑報

二四五〇二五八

七〇〇 七一〇

最近のロシア視察談／プロレタリアは如何に働いて居るか

七二〇 八六〇

(*六号記事)

全ソウエート共産党中央執行委員会宣伝団体網組織

四四

八六〇 八八〇

北平反日会改名

一八一

八八〇 一〇〇〇

大農階級の反サウエート綱領

二四四

一〇〇〇 一〇三〇

第八五号 一九二九(昭和四)年七月

英吉利

英国総選挙と英国共産党

一二七〇 一四七〇

共産主義インターナショナルの十年

一〇 三五

トロツキーの英国入国問題

一四七〇 一五二〇

外国事情

支那 中国共産党第六回大会の決議案(下)

三七〇 六五〇

北米合衆国 亜米利加合衆国内に於ける黒人労働者問題
リチャード・ビー・ムアー 一五二〇 一五七〇

彙報

一五九〇 一六九〇

印度

選挙闘争に於ける印度共産党

日本帝国主義と太平洋上の戦争の危険／国際共産党中央執行委員会政治部の朝鮮問題に対する決議(続)／

エム・エヌ・ロイ 六六〇 六八〇

思想取締の公平／国際ファシズムと其の対抗策

印度の革命的危機及び英国のテロリズム

人事動静

一七〇〇

雑報 一七一〜一八八

奉露協定とは／ソウエート国籍取得と赤旗の掲揚／蔣

介石の青年に告ぐる書／露西亜鉄道職員の日本鉄道観

／赤軍内共産黨員十万を算ぶ

(＊六号記事)

共産党新入党者の種類 三六

モスコ―共産黨員数 一五八

第八六号 一九二九(昭和四)年八月

労働組合の国際的合同 ウヤイネ・プツケ 一〜二八

汎太平洋労働組合会議に就て 二八〜四四

外国事情

支那

中国共産党内の状勢 四五〜五三

中国共産党第六回大会を通過したる「組織問題決議

案」 五四〜六三

中国共産党の発行する刊行物 六三〜六六

国民党の現状と反帝国主義運動 六六〜六八

印度

共産党事件に関する印度総督の演説 六九

孟買の罷業と暴動 七〇〜七一

露西亜 ソウエートの対蒙赤化政策と其の影響

七一〜七九

白耳義 白耳義共産党第四回大会 七九〜八二

仏蘭西 仏国共産党第六回大会の状況(下)

八二〜九九

奥太利 奥太利共産党全国労働組合会議

九九〜一〇九

勃牙利 勃牙利に於ける共産党陰謀 一〇九〜一一〇

英吉利 英国総選挙と英国共産党(続) 一一〇〜一二六

英国総選挙費用 一二六〜一二七

研究資料

支那労働者の賃銀と生活費の調査 一二八〜一三八

国民政府公布の民法総則 一三九〜一六五

彙報 一六七〜一七八

北満事件に関する共産主義インターナショナルの檄

北満事件に関する共産主義青年インターナショナルの

檄／天津に於ける共産党の活動と在留露人／北平に於

ける共産党の宣伝／日本帝国主義の強大化と太平洋に

於ける戦争の危険／伯林に於ける屋外集会並に示威運

動禁止の解除／英国少数運動と莫斯科／労農露国の印

度監視／本邦とラトヴィア国間旅券査証の相互廃止／

国際共産党の世界宣伝費

人事動靜

一七九〜一八〇

雑報

一八一〜一八七

アジア労働会議議事規則草案／支那小学校教員の工

会／浦塩方面の視察談／国民党員の必読書籍／露国の

食糧難／奉天当局の対露不売条例

(*六号記事)

ソウエート高級新聞記者養成

一三八

西班牙の憲法草案

一六六

附録

共産党に関する書籍——(Communist Book

Catalogue (*卷末英文) (一)〜(三八)

第八七号 一九二九(昭和四)年九月

反戦デーと各国に於ける其の状況

一〜六八

外国事情

支那

北平及び天津に於ける反俄劇共(反ソウエート共産

党劇滅)運動

六九〜八〇

東鉄問題に關し労農積極分子の活動と秘密新聞発行

所發覺

八〇〜八四

支那各地に於ける辛丑条約国恥紀念日の状況

八四〜九〇

反帝国主義戦争大同盟の活動状況

九一〜一〇二

印度

印度労働組合運動左翼当面の任務

一〇三〜一一二

印度共産党の公判

一一三〜一二四

亞刺比亞 亞刺比亞に於こける共産党の陰謀

一一四〜一二六

露西亞

汎太平洋労働組合第二回大会の状況

一一七〜一二四

ソウエート聯邦近情

一二六〜一三四

デクテーター格のスターリン

一三四〜一五九

独逸 反帝国主義同盟第二回世界大会

英吉利

一六〇〜一六八

雑報

二三七〜二五〇

英国総選挙と英国共産党(続)

一六八〜一九三

トロツキーの英国入国問題

一九三〜一九四

アルコスの活動

一九四〜一九五

墨西奇 墨西奇に於ける白色テロル

一九五〜一九七

埃及 埃及社会秩序維持法案の制定

一九七〜一九八

(*六号記事)

党中央委員兼煽動課長の脱党

研究資料

支那に於ける政治警察組織計画案

一九九〜二一三

在外ロシヤ避難民数

六八

国民政府立法院の工会法原則

二一三〜二一五

第八八号 一九二九(昭和四)年一〇月

浦塩共産党大学入学規定

二一五〜二一六

彙報

二一七〜二三〇

莫斯科見聞記(上)

アンリ・ベロウ 一〜六五

如何に反軍国主義戦を避くべき乎(エル・アルフレツ

支那

支那に於ける赤色軍

六七〜九五

ド) / 学生の急進主義研究に対する取締の緩和 / 極東

に於ける改良主義 / 共産党の凋落 / 国民党中央党部の

在滬中国共産党の幹部員調査

九五〜九七

裁兵協会簡章 / 北平廃約促進会の日貨検査所取消 / 印

中国共産党の党内に於ける反対派粛清

九八〜一〇二

度に於ける騒擾煽動 / 土耳其古の警官 / 米国共産党領袖

の除名 / 太平洋運動労働組合第二回大会 / ユーゴスラ

国軍編遣実施会議の状況

一〇二〜一二九

人事動靜

二三一〜二三六

反蔣介石運動の状況

一二九〜一四三

露西亜

汎太平洋労働組合第二回大会の状況

一四三〜一六七

第五回全聯邦ソウエート大会

一六七〜一八五

独逸 独逸に於ける憲法発布記念日の状況

一八六〜一九〇

白耳義 白耳義共産党の勢力失墜

一九〇〜一九一

端西 猶太人建国運動第十六回大会に就て

一九一〜一九三

埃太利 反埃太利ファシズム中欧共産党コンスタンス

会議

一九四〜一九五

羅馬尼 羅馬尼のファシスト団体

一九五

希臘 希臘の反共産主義法

一九六〜一九七

伊太利

伊太利に於ける反ファシスト運動 一九八〜一九九

ファシスト民兵 一九九〜二〇一

英吉利

英国に於ける共産主義系諸団体の現勢

二〇二〜二二一

英国議會補欠選挙に於ける英国共産党の活動

二二一〜二二八

英国総選挙の反響

シヨウカツト・ウスマニ 二二八〜二二二

全国少数運動の年次大会 二二二〜二二三

北米合衆国 ガストニヤ事件 二二四〜二二七

コロンビヤ コロンビヤの不穩 二二七〜二二八

研究資料

中国国民政府の労働組合法 二二九〜二四一

英国労働党の党規及び党則改正 二四一〜二四八

仏国の密偵制度 二四八〜二五一

労働者スポーツ団体の經濟闘争参加に関するテーゼ

二五一〜二五九

彙報

コミンテルン第六回大会のテーゼに現はれたる日本共

産党に関する記事／現代の日本／太平洋上の有色海員

に就て（ウラノフスキー）／朝鮮の労働者運動／印度

ミラット公判廷で赤色徽章問題となる／瑞典共産党

の危機／独逸テロリスト陰謀団逮捕／パレスタインに

対する英国施政の非難／亜拉比亜のイエメン国とソウ

エート聯邦との条約／レニングラードの反革命団大檢

挙

人事動靜

二七六〜二八一

雑報

二八二〜三〇四

ゴストルグの組織変更とロシア共和国の新商業政策／
労農露国の日曜日廃止／露国炭坑の惨状／ロシア労働
者は何を読んで居るか／浦塩支那ソウェート党学校の
開設／英国労働者の露国視察／マックストン反帝同盟
より除名さる／ソウェート露西亜に於ける娼婦撲滅運
動／ソ聯邦に於ける無線電信電話の状況

(＊六号記事)

ブハリンの失脚

六六

五日労働週間実施に対するソウェート聯邦人民委員会
の規定 二六〇

第八九号 一九二九(昭和四)年一月

莫斯科見聞記(下)

アンリ・ベロウ 一〜五五

外国事情

支那

支那官憲の駐哈労農総領事館搜索事件

五七〜一〇八

哈爾濱に戒嚴令施行

一〇八〜一一二

中国共産党の秋収闘争策略

一一二〜一一九

北平に於ける電車暴動事件

一一九〜一五七

露西亜

汎太平洋労働組合第二回大会の状況(三)

一五八〜一八八

第二回交通運輸労働者会議

一八八〜一九一

ソウェート露西亜の内政重要問題

一九一〜二〇〇

独逸

独逸共産青年同盟第十一回大会

二〇〇〜二〇九

独逸に於ける右翼在郷軍人団スタアルヘルムの概況

と極右社会運動の趨勢

二〇九〜二一一

独逸に於ける右翼在郷軍人団スタアルヘルムの結社

禁止

二一一〜二一七

仏蘭西 仏国統一労働総同盟第五回大会

二一八〜二三〇

英吉利

英国共産党内に於ける左右両翼の抗争

二三〇〜二三九

英国共産党の内訌 二二九〜二四〇

英国労働組合大会に於ける共産党非難

二四〇〜二四二

莫斯科の覚醒

二四二〜二四三

内国事情

撫順に於ける支那共産党員検挙

二四四〜二六四

研究資料

中国国民党改組派の思想に関する研究

二六五〜三一八

中国共産青年団章程(団則)

三一八〜三三一

マルクス・エンゲルス学院規則

三三一〜三三六

彙報

三三七〜三五〇

中国共産党の恐怖手段／支那官憲の哈市ダリバンク武

力占領／哈市共産党陰謀団の検挙／国民党内部に於ける

る新国際建設運動と朝鮮新任総領事／ロシヤの予算と

反政府熱及び極東事情／露字新聞の日本殖民政策論評

／タヂキスタンのソ聯邦加入／露国に於ける教育／露

国に於ける反革命陰謀／ソウェート聯邦工場独裁者／

英議會に於ける英露新協定中宣伝に関する質問応答／

巴里に於ける共産党員の逮捕／巴里に反ソウェート団

組織さる／露国九名の富農及び僧侶に死刑宣告

人事動静

三五一〜三五四

雑報

三五五〜三六二

ベセドフスキー事件／天津方面ソウェート人の動静／

ルイコフ除名を警告さる／アンガズダ通信社の活動／

在哈セミヨノフ系の活動／露国の反宗教大学設立

(*六号記事)

一九二九年度極東大学新学生就学状況

五六

第九〇号 一九二九(昭和四)年一二月

ソウェート経済発展五年計画

一〜五七

外国事情

支那

東支鉄道強制回収事件

五九〜九七

支那赤色軍の近況

九七〜一〇三

中国共産党全国総工会労働大会の開催

一〇三〜一〇七

北平電車暴動事件と共産党の関係

一〇七〜一一五

北平電車暴動事件関係者の処罰

一一五〜一二七

反蔣介石運動の状況 一七〇～二二二

中国国民党左派の除名決議 一二三～一二四

印度 印度総督のメッセージと其の結果

一二四～一二六

露西亜

コミンテルン執行委員会第十回総会のテーゼと決議

一二七～一七八

白系露字新聞に発表せるベセドフスキーの手記

(上) 一七八～二〇二

仏蘭西 仏国青年共産主義同盟第六回大会

二〇二～二二二

奥太利

奥太利共産青年同盟第九回全国大会の状況

二二二～二二八

奥国の危機

二二八～二三〇

伊太利

ファツシズムの勢力

二二二～二二三

ファツシズムの新局面

二二三～二二四

英吉利

英国労働党第二十九回年次大会

二二五～二四五

英国共産少年の国際ピオネル大会出席

二四五～二四八

英国全国少数運動第六回年次会議

ハーリー・ポリット 二四八～二五一

北米合衆国 革命的米労働組合同盟の創立大会

リツチマン 二五一～二五四

研究資料

改正露西亜社会主義聯邦ソウエート共和国憲法

二五五～二八四

彙報

二八五～二九九

太平洋沿岸革命と露字紙／露国共産党反対派の動静／

露国共産党反対派巨頭連の降伏／洪牙利共産主義者の

断食同盟／イスヴエスチャ紙と英露関係／ユーゴスラ

ヴィア、ファツシズムに対する国際赤色救援会の檄／

共産党事件に関する極東執行委員会機関紙の記事／露

字紙の日本階級闘争に関する論説(テー・ヤマガタ)

／日本人と露支事件／伯林反帝同盟と大韓民国臨時政

府／支那官憲のソウエート露人調査／中国国家主義青

年団の六週年記念日に対する示威運動状況

人事動静 三〇〇～三〇二

亜細亜労働会議規約草案／天津白系露人大会の開催／
 天津に於ける露西亞避難民協会／天津に於ける最近の
 露支共産党員の活動状況／東鉄沿線在留旧露人の救済
 運動／仏国に於ける白系露人の活動状況／ファツシス
 ト団体附属『ファツシストの友』部の新設／露国共産
 党内訌／ソウエート露西亞近情／ファツシスト国防裁
 判所のオルエウナ団員に対する裁判／在本邦ソウエー
 ト通商関係主任会議開催／トロツキートブレレスト新
 聞記者の会見談

(＊六号記事)

全露共産党の入党者 五八
 ロシヤ国内猶太人共産党員数 二八四

第九一号 一九三〇(昭和五)年一月

英国の共産主義對抗戦

カムバーランド・クラーク 一〇 四二
 反帝国主義同盟の新任務 四二〜 五六

外国事情

露支紛争解決の予備交渉成立と実施状況

露支秘密協定の内容 五七〜 六五
 六五〜 六七

中国共産党済難会の代表大会 六七〜 七〇

中国国家主義青年団天津部の活動 七〇〜 七二

上海青年反帝大同盟の最近工作 七二〜 七八

露西亜

コミンテルン第六回大会の状況(其の十一)

七八〜 九八

白系露字紙に発表せるベセドフスキーの手記(下)

九八〜 一二一

ソウエート対外文化連絡協会の四年間

一二一〜 一二六

波蘭 波蘭共産党の労働組合運動方針

一二六〜 一三八

独逸 独逸共産党右翼反幹部派の概況

一三八〜 一五八

英吉利

共産主義宣伝問題より見たる英露外交関係の復活

一五八〜一七五

英国共産党第十一回大会前後に於ける英国共産主義

運動状況(上)

一七五〜一八一

北米合衆国 ガストニヤ事件

一八一〜一八四

研究資料

中国国民政府制定工場法

一八五〜二〇一

彙報

二〇三〜二一一

青年共産インターナショナル十週年記念日のスローガ

ン／新労農党に関する露字紙の記事／朝鮮に関する赤

紙の記事／支那官憲の奥地旅行邦人の取締状況／ソウ

エート最高国民経済会議の品質改良新法令／孫文大学

の経費とソ聯邦国家予算

人事動静

二一二〜二二〇

雑報

二二一〜二三三

上海に於ける露字新聞／上海に於ける反基督教運動／

滬西赤色労働婦女会の成立／国立北京大学学生思想の

一斑／天津に於ける工会／片山潜に対するコミンテル

ン幹部の祝辞／赤系新聞ハルピン・ヘラルドの発行／

最近の米国視察談／在本邦チエコスロヴァキア国名譽

領事館の管轄区域／旧露国人の詐欺行商検挙／婦女の

東胸纏足其他の悪習禁止／在哈サウエート通商代表公
館の事務開始

(*六号記事)

プロフィールテルン執行局並に書記部員の改選 五六

ハルピンヘラルド及アンガズダ紙の論調 一八四

ソ聯邦の個人商業庄迫 二〇二

サウエート聯邦政府の農務省建設 二四四

附録

在京外交団員名簿 二三三〜二四三

第九二号 一九三〇(昭和五)年二月

英国の共産主義對抗戦(下)

カムバールランド・クラーク 一〜四三

史的轉換期に立つ青年国際共産運動 四四〜五一

プロフィールテルン第五回大会の準備に就いて 五二〜六四

工場に於ける革命的代表者の組織に就いて

ズスマノヴィツチ 六五〜七〇

外国事情

支那

支那官憲の駐哈勞農総領事館搜索事件

七一〜九七

白系露人の東鉄管理局襲撃事件

九七〜一〇〇

支那ソウエートの旗の下に

チウ・ウイト 一〇一〜一〇六

コムインテルン執行委員会政治書記局の支那共産党

中央委員会に発せる指令

一〇六〜一一三

上海支那監獄囚人の騒擾

一一三〜一一五

印度

印度中央委員会の報告

一一六〜一二七

印度コンGRES党大会

一一七〜一二九

印度自由党、コンGRES党の政策に反対す

一二〇〜一二二

ガンヂの独立運動

一二一〜一二二

ガンヂの非軍事的抵抗固執

一二二〜一二三

印度労働組合大会

一二四〜一二五

露西亜

コムインテルン第六回大会の状況(其の十二)

一二六〜一四一

敵重なる露国の検閲

一四一〜一四二

全聯邦共産党中央委員会の組織変更

一四二〜一四三

蘇聯邦人民委員会の決議

一四四〜一四五

多難なる露国の前途

一四五〜一四八

露国学校に於ける宣伝

一四八〜一五〇

芬蘭 芬蘭共産党の活動と其の取締

一五〇〜一五一

独逸 独逸労働組合内革命的反対派運動の新発展段階

パウル・メルケル 一五一〜一五八

英吉利

共産主義宣伝問題より見たる英露関係

一五八〜一七一

英国共産党第十一次大会前後に於ける共産主義運動

一七一〜一八六

状況(中)

英国共産党内紛に関する英国青年共産聯盟の決議

一八六〜一八八

仏蘭西 巴里に於けるゲ・ペ・ウの活動

一八八〜一九〇

伊太利 ファシスト伊太利に於ける階級協調

一九〇〜一九七

北米合衆国 米国南部諸州に於ける労働運動

一九七〇～一九九〇

墨西哥 墨露間の国交断絶

一九九〇～二〇〇〇

研究資料

中国共産党の党員訓練案

二〇一〇～二〇一〇

支那の国籍証明書発給規定

二〇一〇～二〇一八

彙報

日本共産党に関するコミンタンの西欧局の決議／日本に於ける死刑地獄の切迫（アルナ）／ハバロフスク無電

二一九〇～二二三二

の日本総選挙批判放送／上海に於ける太平洋労働組合

二一九〇～二二三二

会議／広東に於ける共産党の検挙／江西省政府の共産

二一九〇～二二三二

党員自首の勧誘布告／韓人の独立運動と中国民族解放

二一九〇～二二三二

運動との関係／印度ベンゴール騒擾煽動事件判決／労

二一九〇～二二三二

農階級の敵側に加担し帰国を肯ぜざる蘇聯邦官吏に対

二一九〇～二二三二

する裁判の公布／独逸共産党示威運動に対する警察官

二一九〇～二二三二

憲の取締／国際共産党西欧事務局並に国際赤色労働組

二一九〇～二二三二

合欧洲書記局の檄

二一九〇～二二三二

人事動静

二二三三～二三五五

雑報

二二三七～二五五四

中国共産党革命互済会の共産軍派遣軍医募集／天津

二二三七～二五五四

ゴールデン・ホール事件／寛城子並に審門に於けるメ

二二三七～二五五四

ストコム等の状況／共産インタの満洲赤化／英国共産
党員キヤムベル旅券を拒絶さる／赤軍記念日に於ける
駐日蘇聯邦機関の動静／ソ聯邦通商代表部函館支部事
務所の移転／クテポフ將軍の失踪／スターリンの経歴
／露国児童より独逸児童への通信／莫斯科士官学校在
学朝鮮人の通信／駐露英国商務官の復活／上海に於け
る支那官憲各機関職員関係統計

（*六号記事）

大刀会の再起

二三五

露西亞の労働階級者増加

二三六

第九三号 一九三〇（昭和五）年三月

中華民国国民党の党化教育

一〇八

外国事情

支那

中国共産党全国総工会労働大会の諸決議（上）

八九〇～一〇一

中国共産党の財政方針変更

一〇一～一〇三

中国共産党全国総工会のソウエート聯邦参観代表組

織計画

一〇三〜一〇八

唐山に於ける労働争議と共産党の策動

一〇八〜一一一

軍閥闘争と共産党員の策動

一一一〜一一三

蔣閥両軍閥間の争闘

一一四〜一二七

哈爾濱油房争議

一二七〜一二八

印度

非軍事的反抗に関する総督の演説

一二九

反コンGRES党運動

一三〇

露西亜

コミンテルン第六回大会の状況(其の十三)

一三一〜一四六

ソウエート露西亜の近況

一四六〜一四九

露国に於ける新たなテロル

一五〇

研究資料

上海に於ける支那人労働者の賃銀並に生活費調査

一六二〜二八二

彙報

国際的失業反対日の檄／日本に於ける来るべき総選挙

二八三〜二九九

及び日本共産党／日本無産党の選挙失敗／日本の革命的傾向／プロフィンテルンの各国に対する活動／プロ

フィンテルンの新計画／太平洋労働組合書記局浦塩分局の開設／在暹羅支那人共産党員逮捕／支那の人民団

体組織法案／印度の独立デー／芬蘭の反労働者的新結

社法／在支朝鮮思想青年団体の地方化運動／東洋殖民

地はレーニンを知る／各国に於ける青年共産党及

青年共産インターナショナル／南洋、暹羅華僑聯合会

の印韓独立運動援助宣伝

人事動静

三〇〇〜三〇二

雑報

中国共産党機関紙の読者の答案募集／支那留学生各省

經理員氏名表／在天津赤系露国人の調査／北平タツス

通信の動静／アンガズダ天津支局の活動／ゲ・ペ・ウ

一五九〜一六一

の在外牒報組織／共産党の対宗教態度／露国共同農場
政策の実施と其の影響／農村共営化の結果／露国再訪
記／露国に招聘の本邦鉄道技師の渡浦／ハバロフスク
の近況

(*六号記事)

全露レニン共産青年団員数

一六二

国際革命競争運動

二四四

第九四号 一九三〇(昭和五)年四月

支那に於ける農民運動(上)

一〇一〇四

外国事情

支那

中国共産党全国総工会労働大会の諸決議(下)

一〇五〇二二五

上海に於ける中国共産党秘密機関

一二五〇二二六

順直共産党の機関紙

一二六〇二二八

中国革命互済会順直省総拡大会議の経過

一二九〇二三〇

共産赤色軍朱徳、毛沢東軍の近況

一三〇〇二三一

露西亜

コミンテルン第六回大会の状況(其の十四)

一三二〇一五四

全聯邦共産党中央委員十一月総会に関するカガノウ

キチの報告演説

一五五〇一九六

ソウエート聯邦共産党の内訌説

一九六〇一九七

独逸 独逸に於ける国際失業デーの概況

一九七〇二〇七

英吉利 英国共産党第十一回大会前後に於ける共産主

義運動状況(下)

二〇七〇二一四

北米合衆国

米国共産党の運動概況

二一四〇二一七

紐育市に於ける共産党

二一七〇二二〇

米国共産党内に於ける右翼分派主義者の内訌

二二〇

研究資料

中華民国国民政府の労働争議処理法修正公布

二二一〇二二二

修正労働争議処理法

二二二〇二二三〇

中国革命互済会総章程

二二三〇二三五

彙報

二三七〜二五四

留日学生監督処組織改正大綱

二三六

日本の産業合理化と大衆闘争／近時に於ける日本帝国主義者の弾圧と朝鮮に於ける革命運動／日本に於ける総選挙と革命的闘争／日本に於ける無産政党／失業問題に關する国際赤色犠牲者救援会の檄／コミンテルン南米書記局の発せる檄／中国共産党全国ソウエート区域代表大会召集／国民政府の共産党事件発表禁止密令／宗教迫害に關するカリーニンの声明／ソウエート人民委員会の規定／在哈爾濱ダリバンクの復活／本邦思想界其他に關するシヨットウエル教授の評論

人事動靜

二五五〜二六〇

雜報

二六一〜二八四

世界各地に於ける国際失業者デーの概況／順天時報及華北正報の廃刊と支那側の輿論／支那芸術劇社の成立／上海革命支那人警察官委員会名の宣伝印刷／浦塩在留邦人の近況／クテーポフ將軍の行衛不明事件／日埃通商暫定取極の成立／マルクス・エンゲルス研究所／露西亞の真相／浦塩ソウエート官憲の日本船舶臨検状況と市況

埋草

第九五号 一九三〇（昭和五）年五・六月

支那に於ける農民運動（中） 一〜四五

世界經濟の恐慌裡の日本 片山 潜 四五〜六三

切迫せる世界的經濟恐慌と労働運動の目標

ルビンスタイン 六三〜八一

外国事情

支那

共産インターナショナル第十回総会の決議に対する

中国共産党の決議 八三〜九〇

北平共産黨員の検挙 九一〜一〇四

奉天共産黨員の検挙 一〇四〜一一五

奉天政府の共産党取締 一一五〜一二七

滿洲に於ける共産党最近の活動概況

一一七〜一二五

ソウエート聯邦影響下の滿洲群衆の革命闘争

一二五〜一二八

武漢、南京に於ける共産党と長江流域に於ける共産

赤色軍

一二九〜一三二

ウクライナ反革命の痙攣

一八七〜一九六

中国共産党の群衆大会

一三二〜一三四

独逸 ソウエート聯邦の友の会第二回国際会議

一九六〜二〇三

上海に於ける赤色工会の組織

一三五〜一三七

天津紗廠工人代表会の赤色工会設立準備

一三七〜一三九

仏蘭西 仏国共産党全国会議

二〇三〜二一一

墨西哥 墨西哥がソウエート聯邦と断交する前後

二一一〜二一四

中国自由運動大同盟

一三九〜一四三

上海紡績総工会の成立

一四三〜一四六

研究資料

二一四〜二一八

東方被圧民族反帝同盟の最近の策動

一四六

東方民族研究会の組織

二一五〜二二一

馮閻両軍閥の反蔣運動

一四七〜一五九

極東地方共産党大学の採用規定と人員

二二一〜二二八

印度

印度の労資闘争

一五九〜一六一

彙報

二二九〜二五四

全印度労働組合同議の行動開始

一六一〜一六三

日本に於ける失業者と産業争議／プロフィールンテルン第

ガンヂの非軍事的不服従運動

一六三〜一六四

五回大会に就て／コンミュン政策領域内に於ける共

比律賓 比律賓共産党の活躍

一六四

産インターナショナル諸セクションの任務／太平洋沿

露西亜

コミンテルン第六回大会の状況（其の十五）

一六五〜一七二

岸諸国の失業／端西の共産党関係外人入国禁止令／国

コミンテルン執行委員会第十回拡大総会の決議

一七二〜一八四

民政府のパスポート規則／東鉄特別区警察総管理処長

電報／中国革命互済会の東京市電罷業に対する激励

一八四〜一八七

罰規則／中華全国総工会の東京市電罷業に対する激励

勘察加共産党発達状況

一八四〜一八七

電報／中国革命互済会の中国自由運動大同盟擁護通告

／国際失業反対闘争デーの総結果

一八四〜一八七

／国際失業反対闘争デーの総結果

人事動靜

二五五〜二六四

雜報

二六五〜二八八

ソ聯邦総領事館の本邦在留ソ聯邦人処遇狀況／中国国

民党駐日総支部の廃止／北平日本公使館壁上の共産主

義宣伝樂書／露国で教育をうけた印度人の感想／莫斯

科託児所訪問記／スターリンの近情／コルホズに対す

る免税／露西亜農民党極東支部の反共産檄文／プロレ

タリアート婦人の国際日／極東にラジオ放送局の設立

／ソウエート通商代表部員の行動綱領／在米通商代表

部の行動／露国の宗教迫害／露国富農民庄迫／支那に

於けるソウエート密偵／国際児童デーの開催／全日本

ロータリー倶楽部総会／芬蘭公使館の移転

埋草
赤系露字紙の見た日本議會 八二

第九六号 一九三〇（昭和五）年七月

支那に於ける農民運動（下） 一〜 八六

外国事情

支那

中国共産党全国総工会労働大会の諸決議

八七〜 九六

警察官に対する共産主義宣伝パンフレット

九六〜一〇四

中華全国ソウエート区域代表大会の狀況

一〇四〜一一三

中国共産党の女工、農婦運動の工作コース

一一三〜一一七

奉天共産黨員取調の狀況

一一七〜一二八

江西省に於ける赤色軍の近状

一二八〜一二二

国際的無産者祖国の警戒に任ずる支那共産党

一二三〜一二五

印度
ガンヂの運動に就て

一二五〜一二八

緊急印度総督令の発布

一二八〜一二九

仏領印度支那 仏領印度支那に於ける革命運動

一二九〜一三五

露西亜

コミンテルン第六回大会の狀況（終）

一三七〜一五〇

コルホズ政策退却に対する批判 一五〇～一六六
ソウエート聯邦内警察機関の拡張 一六六～一六七
特別赤旗極東軍第一回共産党大会の情況 一六七～一六八

反共産運動団体露西亜農民党の主義と党略

蘇聯邦共産党員の状勢 一六八～一七七
一七八～一八一

極東地方炭坑労働者農民の叛乱 一八一～一八三

独逸 对共産党破壊作業防止課の設置

一八三～一八五

希臘 希臘に於ける革命的闘争と叛乱

一八五～一八七

北米合衆国 紐育アムトルグ商会幹部の秘密文書摘発

事件 一八七～一九一

研究資料

仏国共産主義聯盟（共産党反幹部派）の規約

一九三～一九五

中国共産党の童子団組織法 一九六～一九八

中華民国工会法施行法 一九八～二〇〇

彙報 二〇一～二一六

日本に於ける赤色犠牲者救援会（アマリ）／プラウダ

紙の任務／コミンテルン西欧局のロンドン移転／中国

共産党の童子団の活動狀況／世界黒人大会／伯林共産

党印刷所の発見／ソウエート聯邦の勲章規定／米国共

産党

人事動靜 二一七～二二二

雑報 二二三～二三四

ソウエートロシア見聞記／反ソウエート傾向／ソウ

エート個人所有船舶の国有化／在奉天ソウエート領事

館の近況／在英露国民に対する帰国命令／独逸ブラン

デンブルグ警察練習所の情況／ソウエート密偵ポガ

テーエフの追放

埋草

ピオネル団の状勢 一三六

ソウエート赤軍士官学校網 一九二

第九七号 一九三〇（昭和五）年八月

国際労働者救援会（I・A・H）の概況 一～四四

外国事情

支那

露西亞

支那当面の時局問題に対する考察 四五〇 五二

社会主義建設に於ける露国労働組合の活躍 一四二〇一四五

中国全国ソウェート区域代表大会の決議 五二〇 七二

全聯邦共產大学の改称と組織変更 一四五〇一四七

中国共産青年団第五次大会の諸決議 七二〇一〇七

独逸 国際法曹同盟の創立 一四八〇一六二

中国共産党の五月運動 一〇七〇一二〇

英吉利

六・一七紀念日と中国共産党の活動 一二〇〇一二五

英国に於ける共産主義宣伝 一六二〇一六四

厦門及蘇州に於ける破獄事件 一二五〇一二八

コミンテルンの倫敦移転と英国共産党 一六四〇一六五

広東汕頭に於ける中国共産党員の大檢舉 一二八〇一三〇

北米合衆国 合衆国反帝同盟の復活 一六六〇一六七

研究資料

全国学生聯合会総会の北遷と改組派及共産党との関係 一三〇〇一三二

独逸新共和擁護法 一六九〇一七八

係

彙報

仏領印度支那 仏領印度支那に於ける示威運動 一三二〇一三三

日本共産青年同盟の情勢と任務（ポレツキー）／日本のプロレタリアと経済恐慌／オーストラリアの蘇聯邦

印度

印度の新聞紙法改正 一三三〇一三五

援助協会規則／ソウェート聯邦の刑法改正草案／國際

ガンヂの逮捕 一三五〇一三九

黒人大会に就て／第三インターの漢文機関紙発行／中

ガンヂ米国民に訴ふ 一三九〇一四一

国革命互済会の外国語雑誌刊行計画／最近に於ける中

印度総督と回教領袖間の意見交換 一四一〇一四二

人事動靜

一九七〇二〇二

雜報

二〇三〜二一六

北滿に於ける共産党活動の概況(其一)

ペョートル・シーシキン 二八〜五〇

ソウエート聯邦大使館の移転／駐日仏國大使館邸及事務所の一部移転／福音協會婦人伝道会日本支部第十二回大会／北洋漁業視察団の組織／露国蟹工船の離礁／ソ聯邦海外駐在員の帰国命令不応／最近のソ聯邦社会主義建設状況／哈爾濱露字新聞ウオストツクの発刊／極東露国避難民会役員の改変／ソ聯邦交通人民委員長の更迭／滿洲里、海拉爾に於けるソウエート秘密探偵／本邦と洪牙利間の旅券査証の相互廃止

外国事情

支那

上海に於ける反帝同盟の近情 五一〜六五

中国共産党当面の組織問題(上)

周恩來 六五〜八二

中華全国ソウエート中央政府樹立計画

八二〜八五

北平共産党員の入学試験場擾乱

八五〜八六

支那の赤化状態

八七

埋草

露西亜通過旅客の旅券査証容易となる

一四七

赤色スポーツ戦線統一

一六七

露西亜共産党員の義務心得

一九五・二〇二

(*附録)

最近赤色工会組織系統表

第九八号 一九三〇(昭和五)年九月

露西亜

ソウエートの経済的破算

ソウエート聯邦国籍法の改正

全聯邦共産党員増加状況

一一二〜一一六

一一六〜一二〇

一二〇〜一二二

印度革命運動

印度の騷擾

一〇七〜一一二

ミラット公判に於て検事が陳述せる起訴理由

八八〜一〇四

印度

コミンテルンと大衆獲得の闘争

ロゾフスキー 一〜二八

ソウエート幹部の更迭 一二二〜一二三

西部線方面白色パルチザンの近状 一二三〜一二五

芬蘭 芬蘭の反共産党運動 一二五〜一二六

白耳義 エドキンテルン一九三〇年大会に関する報告 一二七〜一二九

研究資料

独逸共和国擁護団体ライヒスバナーに就て

一三一〜一七四

彙報

日本に於ける革命運動の實際問題／国際聯盟労働局支

那支局の新設／仏国に於ける社会保険法反対運動

人事動靜

雜報

在外ソ聯邦人不帰国者の団体組織／本邦亡命露人協会

創立／白系露人極東會議／沿海州方面に於ける白系パ

ルチザンの積極行動／極東銀行上海支店再開／在大阪

独逸領事館の開館／ソウエート通商代表部大阪支部の

開設／ソウエート聯邦船員の感想談／河北第三監獄に

於ける共産党の絶食運動

埋草

中国共産党員の逮捕屠殺者数統計 一三〇

外国人待遇弁法 一八八

第九九号 一九三〇（昭和五）年一〇月

北滿に於ける共産党活動の概況（其二） 一〜八八

外国事情

支那

中国共産党当面の組織問題（下） 八九〜一〇九

共産軍長沙占領事件 一〇九〜一三一

中国革命互済会の紅軍士官募集 一三一〜一三五

上海公安局の女検査員 一三五〜一三七

露西亞

第十六回聯邦共産党大会の概況（其一）

一三七〜一五七

プロフィンテルン第五回大会の概況

一五七〜一六五

芬蘭 芬蘭に於ける反共産党運動 一六五〜一六六

独逸 独逸国民の民族的及び社会的解放についての綱

領宣言

一六六〜一七三

仏蘭西 仏蘭西に於ける革命的労働組合運動とC・G

・T・Uの任務 一七四〜一八〇

研究資料

独逸に於ける外国人追放制度(上) 一八一〜二〇六

彙報 二〇七〜二二二

国際運輸労働者聯盟の歴史の頁／太平洋労働組合書

記局を中心とする濠洲及桑港の左翼運動／中国共産党

の暴動取締及処罰方に付ての軍警會議の決議／在哈ソ

ウエート労働軍事友団／中国共産党の党報通信員条例

人事動靜 二二三〜二二七

雜報 二一八〜二二八

ヴァンデル・ヴェルドと外紙／セミノフの反コミン

テルン聯盟組織計画／赤色教授養成大学の近況／ソウ

エート聯邦に於ける児童大学の創立／クルプスカヤ共

産主義学院／極東銀行神戸支店の暫定的營業認可／第

十九回国際統計協會會議／反ソウエート宣伝ラヂオ放

送／コムソモール員現在數

埋草

西伯利を東西兩部に分割 一八〇

第一〇〇号 一九三〇(昭和五)年二月

北滿に於ける共産党活動の概況(其三) 一〜七八

外国事情

支那

支那革命と農民運動の戰略 七九〜一〇四

滿洲の農民運動の工作 一〇四〜一一〇

中華全国ソウエート中央政府樹立計画委員會の経過

長沙事件の被害額 一一〇〜一一一

露西亞 一一二〜一一三

露西亞

第十六回全聯邦共産党大会の概況(其二) 一一三〜一五九

プロフィンテルン第五回大会の概況(其二) 一五九〜一六九

プロフィンテルン第五回大会の概況(其二) 一五九〜一六九

瑞典

国際労働組合聯合(アムステルダム・インターナシ

ヨナル)第五回大会の状況 一六九〜一七六

スカンデネヴィヤ、芬蘭聯合反ファシスト會議

独逸 一七六〜一七七

人事動靜 二四九〜二五五
雑報 二五六〜二六四

独逸赤色犠牲者救援会の概況(上) 一七七〜一九三

国際労働者救援会独逸支部の状況 一九三〜二〇九

独逸共産党の進出と其の任務 二〇九〜二二一

独逸労働者階級への独逸共産党中央委員会のアツ

ピール 二二一〜二二四

仏蘭西 仏国北部地方に於ける大ストライキ

シリヤ シリヤ共産党の出現 二二四〜二二七

埃及 埃及の独立の為に 二二八〜二三〇

北米合衆国 紐育地方共産主義宣伝実情調査の為下院

特別委員会の現地聴取会開催 二二三〜二三〇

彙報 二三一〜二四八

彙報

極東白系露人会議と其の決議／ブラック・インターナ

ショナルの反ソウェイト陰謀／第一回国際青年会議

(ウォルター・カーシエー)／国際協同組合同盟第十

三回大会／世界黒人大会／汎亜細亞聯盟の抗議／支那

の共産党取締及び同賞罰条例／洪牙利共産党首領の逮

捕

白系露人問題と哈府無電放送局／北満白系露人の活動
と露紙の抗議／ソウェイト聯邦の經濟年度変更／ソウ
エート聯邦極東地方に於ける日支鮮人の労働状態／富
山工船扱捉丸事件／浦汐鮮銀支店検査強行問題／在仏
白系露人首領クテーポフの行方不明事件／ゲ・ペ・ウ
が人質として露国少年を誘拐す／トロツキー配所脱出
の噂／波斯公使館の移転／上海に於て新労働新聞の発
刊計画／極東共産大学の開設

附録 数字から見たソ聯邦労働団体(一) 七八

数字から見たソ聯邦労働団体(二) 二四八

赤色犠牲者救援会の統計 二六五〜二七六

第一〇一号 一九三〇(昭和五)年二月

北満に於ける共産党の活動状況(其四) 一〜六二

外国事情

附録

数字から見たソ聯邦労働団体(一) 七八

数字から見たソ聯邦労働団体(二) 二四八

赤色犠牲者救援会の統計 二六五〜二七六

第一〇一号 一九三〇(昭和五)年二月

北満に於ける共産党の活動状況(其四) 一〜六二

外国事情

附録

数字から見たソ聯邦労働団体(一) 七八

数字から見たソ聯邦労働団体(二) 二四八

赤色犠牲者救援会の統計 二六五〜二七六

第一〇一号 一九三〇(昭和五)年二月

支那

中国共産党の目前時局に対する宣言 六三〇 七三

中国新革命の情勢 七四〇 八二

中国共産党第三次中央全体会議と政治決議討論大綱 八二〇 八四

露西亞

第十六回聯邦共産党大会の概況(其三)

八五〇 一〇三

第五回プロフィンテルン大会の決議(上)

一〇三〇 一二三

莫斯科最近の政情

一二四〇 一二八

独逸

独逸赤色犠牲者救援会の概況(下) 一二八〇 一四〇

独逸共産党と総選挙運動の状況 一四〇〇 一六五

総選挙後の独逸共産党

エルンスト・テールマン 一六五〇 一七五

伊太利 伊太利共産党の諸問題 一七五〇 一八九

彙報

日本に於ける革命的労働組合運動の任務／コミンテル

ンの人員と其の増加／台湾蕃人騷擾事件の反響／天津

一九〇〇 二二二

ソウエート準備委員会の成立／中国の外人写真撮影取

締方針／ソウエートロシヤの失業救助金支払廃止／中

国共産党事件の上告判決言渡

人事動静

雑報

露人の見た日本警察のスパイ政策／在北滿白系露人問

題に対する支那側の回答と対策／在京亡命露人協会の

臨時總會並に同協会附属青年団の創立／哈府ラヂオ労

農大學聴講生募集／革命記念日のスローガン放送と其

の揶揄的放送／在上海蘇聯邦不帰国者同盟成立／極東

ゲペウの活動／莫斯科に於ける第十三回革命記念日の

状況／極東銀行神戸支店の閉鎖

第一〇二号 一九三一年一月 (昭和六)

北滿に於ける共産党活動の概況(其五)

外国事情

支那

中国に於ける最近の赤色労働運動(上)

六五〇 八一

中国問題決議

八一〜九一

ての意義

一七五〜一八一

中国共産党の内訌分裂

九一〜九四

仏蘭西 国際赤色救援会に於ける仏国共産党の政策

仏領印度支那 仏領印度支那に於けるコンミニュニスト

ジー・コルナヴァン 一八一〜一八七

の大勢

九四〜九九

彙報

一八八〜一九六

露西亜

第五回プロフィンテルン大会の決議(下)

九九〜一一二

中華全国革命ソウエート代表大会の延期／第一回国際

一一二〜一一七

青年会議の成果／日本工場共同管理に対する露紙の論

煽動宣伝会議の結果

一一二〜一一七

調／洮南に於ける我が警察官退去強要／ソ聯邦人と無

第一回労働婦人国際労働組合会議

一一八〜一二三

国籍人との結婚及其の間に出生したる子女の登記に關

テール・ゲッツ

一二三〜一三二

人事動靜

一九七〜一九九

革命文芸国際局拡大會議の状況

一三二〜一三六

雜報

二〇〇〜二一四

ブハーリンの態度説明

一三六〜一四三

各国プロレタリア作家のイズヴェスチャ紙への投稿記

ソ聯邦駐外機関勤労員の労働条件

一四三〜一五一

事／中国ソウエート生活スケッチ／ハカススキー自治

第六回ソウエート大会召集とソウエート選挙に關す

一五一〜一五二

州の新設／ルキコフの失脚／ソ聯邦人民委員會議長ス

る中央執行委員幹部会の新指令

一五二〜一五七

リモフの略歴／ソユーズ上海支部に贈られた爆弾／赤

第十六回聯邦共産党大会の概況(其の四)

一五七〜一七一

軍とロシヤ共産党／江西省に於ける共産被害状況調査

一七一〜一七二

表

独逸

埋草

独逸共産党機関紙の発行禁止

一七二〜一七五

ソ聯邦共産党出身新聞記者数

一八七

プロフィンテルン第五回大会の独逸労働組合にとつ

第一〇三号 一九三一年(昭和六)年二月

研究資料

一六一〜一六六

独逸に於ける外国人追放制度(中) 一六七〜一七六

彙報 一七七〜一八二

北滿に於ける共産党の活動概況(其の六) 一〜五八

莫斯科の対印度計画／ソ聯邦の恩給法制度／白色パル

外国事情

チザンの取締に関するソ聯邦当局の対中国再抗議／印

中国に於ける最近の赤色労働運動(下) 五九〜六九

度コンGRES党の新対抗策／全聯邦の全ピオネル、小

国民政府の紅軍討伐 八四〜八八

学生及び勤労児童に対する中央事務局の檄文

露西亞 第十六回聯邦共産党大会の概況(其の五) 八九〜一〇九

人事動靜 一八三〜一八四

産業党事件(上) 一〇九〜一二六

雜報 一八五〜一九三

ソウエート聯邦の一九三一年の国民経済計画 一二六〜一三三

朝鮮銀行浦塩支店の閉鎖理由／ガンズの為人／レーニ

埋草

ン第七周年祭／蘇聯邦極東地方の漁夫移民／蘇聯邦大

独逸 独逸共和国議會総選挙に於ける独逸共産党の活

使館の新聞雜誌通信社代表の招待会／蘇聯邦通商代表

動(其の一) 一三四〜一六一

部取引書類署名様式の更改／日滿貨物連絡運輸會議終

仏蘭西 仏国共産党機関紙リユマニテ防衛の大衆運動

了／第六回全聯邦ソウエート大会開催と議事日程

附録 上海に於ける蘇聯邦関係各機関勤務員名簿

附録

ソウエート聯邦人民委員会會員氏名表 一九六

一九四〜一九六

一九四〜一九六

一九四〜一九六

一九四〜一九六

第一〇四号 一九三一（昭和六）年三月

プロフィールン第五回大会の意義

オー・ピヤトニツキー 一〇 二七

印度共産党行動綱領草案 二七〇 四八

外国事情

中華民國

中国ソヴェート代表大会選挙運動大綱

四九〇 六一

上海に於ける中国共産党幹部の検挙 六一〇 六四

博克図に於ける支那軍隊の共産党暴動計画

六四〇 六五

上海に於ける東方反帝大同盟籌備会創立

六五〇 六九

中国共産党の学生運動に関する秘密指令

六九〇 七三

露西亜

産業党事件（中）

七三〇 九八

ソヴェート改選に関する合同総会の決議

チホン 九九〇一〇三

ソ聯邦の労働状況 一〇三〇一〇九

全聯邦レーニン主義共産青年同盟の状況

一〇九〇一〇六

ソ聯邦共和国及自治共和国の内務人民委員部廃止

一一六〇一〇八

ゲ・ペ・ウの存否問題

一一八〇一二〇

労働力の雇傭及び配分手続並移動防止に関する新規

定 一二〇〇一二三

独逸 独逸共和国議會選挙に於ける独逸共産党の活動

（其の二） 一二三〇一五二

仏蘭西 仏蘭西に於けるトロツキー反幹部派の運動

一五二〇一五六

研究資料

独逸に於ける外国人追放制度（下） 一五七〇一七六

彙報 一七七〇一九八

無産婦人運動と各国共産党の任務／中国共産党北方局

の組織状況／中国国家主義青年団の活動／プロフィールン

テルン執行部の決議／上海にて新労働新聞の発刊／ソ

聯邦労働国防會議附属燃料委員會の創設／中国共産党

の機関紙「党的建設」の発刊／中国に於ける国際失業
労働者運動方針

人事動静

一九九〜二〇〇

雑報

二〇一〜二一二

日本背教者等の行く道／我労働組合法案と露紙の評論
／日本の議会紛擾と中国新聞の感想／ソウェート船員
の朝鮮見聞記／横浜駐在ポルトガル名誉領事館の閉館
並東京駐在同国名誉領事館の開設／労農通商代表部小
樽支部の開設／間諜地方に於ける中国共産党直接行動
員の現勢力其他／米國労働者に宛てたるレーニンの書
簡

埋草

中央新聞紙発行部数の増加表

四八

附録

一、プロフィールンテレン第五回大会に於ける日本代表

(一)

二二三〜二二六

二、在京外交団員名簿

二二七〜二三八

第一〇五号 一九三二（昭和六）年四月

ソ聯邦五ヶ年計画第三年度の重要問題 一〜三八

外国事情

中華民国

プロフィールンテレンの中国労働運動に対する批判

三九〜四三

中国共産党四中全会の決議

四四〜五一

中国共産党政治局の党報に関する決議

五一〜五三

中国共産党海外支部の組織系統及暫行組織法

五三〜五四

露西亞

産業党事件（中の二）

五四〜八三

聯邦人民委員會議直屬実施委員會設置

八三〜八五

全聯邦共産青年同盟の發達狀況

八六〜八七

ソ聯邦コムソモール第九回大会の概況

八七〜九五

独逸 独逸共和国議會総選挙に於ける独逸共産党の活

動(其の三)

九六〜一一七

西班牙 西班牙に於ける革命的情勢と西班牙共産党の

任務

一一七〜一二四

北米合衆国 米国の恐慌と共産党の活動

一二五〜一三二

研究資料

ソウエート聯邦国籍法及ヒ関係法規 一三三〜一三九

浦塩斯徳入港外国船舶取締規定 一四〇〜一四三

無政府主義又は共産主義外国人の放逐に関するバクマ

ン案

一四三〜一四六

彙報

プロフィールン第五回大会に於ける日本問題／世界

的危機の渦中にある日本(片山潜)／日本婦人の労働

に関する露字紙記事／在上海支那赤色革命救援会の機

関紙発刊／赤系ハルピン・ヘラルド紙の発行停止／共

産党反対派国際会議従属団体と其の機関紙／ソウエー

ト聯邦水運人民委員部新設／國民政府の調査に依る十

九年度共産党及共産軍受難統計

人事動靜

一五九〜一六〇

雜報

一六一〜一七〇

上海共同租界工部局警察使用の防弾衣／英国の国際失

業デー／ロシヤ野営監獄の状態／浦塩監獄の生活実状

／哈爾賓に於けるソ聯邦無神論者協会組織／哈爾賓露

人婦女擁護同盟の設立計画

埋草

在浦塩ゲペウ支部の日中兩國密偵警戒 一八八

附録

プロフィールン第五回大会に於ける日本代表団

(二)

一七一〜一七六

中国ソウエート政府、党軍事関係組織系統図

一七七〜一八五

ソヴェエト聯邦政府ニ関スル註

ソヴェエト聯邦共産党ニ関スル註

ソヴェエト聯邦政府及共産党組織及職員一覽表

中華民国東北四省行政組織及重要職員一覽表

中華民国國民政府組織系統及重要職員表

第一〇六号 一九三一（昭和六）年五月

全聯邦共産党とコミンテルン

エム・グリシン 一〇 三六

外国事情

中華民国

中国革命の失敗と中国共産党の内訌（上）

三七〇 五三

紅軍の擁護発展に関する中国共産党の訓令

五三〇 五九

中国革命互済会の内容充実計画

五九〇 六一

中国共産党の組織発展計画

六一〇 六四

中国共産党の宣伝充実と機関紙の改題

六四〇 六八

第一次亜洲文化協会代表大会

六八〇 七一

露西亞

比律賓 比律賓に於ける革命的氣運

七七〇 七九

産業党事件（下）

八〇〇 九八

第三回全聯邦モープル大会の状況

九八〇 一〇〇

ソ聯邦失業問題の宣伝と實際

一〇〇〇 一一〇

メンシエビキ聯盟局の公判とソ聯邦当局の政策

一一〇〇 一一七

ソウエート聯邦中央執行委員会及人民委員会幹部会
の新組織 一一七〇 一一九

ソウエート聯邦に於ける反宗教運動の現状

一一九〇 一二一

独逸

独逸共和国議會総選挙に於ける独逸共産党の活動

一二二〇 一三五

（其の四）

独逸共産党の組織活動の現状とその当面の任務

一三六〇 一五一

アウグスト・クロイツブルク

一五一〇 一五五

仏蘭西 仏蘭西共産党中央委員会の重要會議

一五五〇 一六四

北米合衆国 米国に於ける邦人共産主義者の審問

一六四〇 一六四

内国事情

ソ聯邦通商代表アニケーエフ遭難事件

研究資料

一六五〜一六六

エム・グリシン 一〜二二三

中国に於ける治安維持法

一六七〜一七六

プチブルジョア階級内に於ける共産党の活動

テイ・ネイバウエル 二四〜四四

中国ノ外人入国護照検査規則並施行細則

一七六〜一八〇

外国事情

中華民国

彙報

一八一〜一九〇

中国革命の失敗と中国共産党の内訌(中)

四五〜八一

露西亜共和国に於ける出版物及ラヂオ放送等の検閲／ソウエート露国の新給料制度／ピオネル団体の全聯邦社会主義契約／反帝国主義闘争(アール・ブリッヂマン)

プロフィンテルンより中華全国総工会に与へたる指令と之に対する工会の決議 八二〜九三

人事動靜

雑報

一九一〜一九五

南京政府の国民会議召集と共産党の批判

九三〜一一〇

観光客と警察／元ゲ・ペ・ウ部員の手記／各国国際失業反対デーの状況／ソ聯邦人の中国への避難増加

一九六〜二一〇

中国左派共産主義反対派の政綱

一一〇〜一一九

埋草

露西亜

コミンテルン執行委員会第十一回総会の要綱と決議 一一九〜一四六

資本主義諸国に於ける恐慌と失業者数

独逸 独逸共和国議會総選挙に於ける独逸共産党の活動(其の五) 一四六〜一六二

第一〇七号 一九三二(昭和六)年六月

全聯邦共産党とコミンテルン(其の二)

一九五

西班牙 西班牙に於ける革命労働運動

一六二〜一六六

英吉利

英国独立労働党の頽勢

一六六〜一六九

全聯邦共産党とコミンテルン(其の二)

英国独立労働党の頽勢

一六六〜一六九

英国自由党の衰退 一六九〜一七〇

サ聯邦の面積と人口

一七三

北米合衆国 米国に於ける失業戦の一年

一七一〜一七三

第一〇八号 一九三二（昭和六）年七月

内国事情

中国共産党日本特別支部の検挙 一七四〜一九六

全聯邦共産党とコミンテルン（其の三）

一〜二九

彙報

一九七〜二一八

エム・グリシン 一〜二九

モープルと国際的教育事業の諸任務（エ・スターソフ）／コミンテルンの新革命段階に於ける組織問題／

国際失業反対闘争デーの暫定的成果

三〇〜六六

日本資本主義の恐慌／白国に於ける外国人労働者の入

外国事情

六七〜九一

国制限勅令／中国共産党の宣伝方策と機関紙／上海に

中国革命の失敗と中国共産党の内訌（下）

九一〜一二三

於ける最近の労働運動／赤露の外豪侵略の真相

一二四〜一三八

人事動静

二一九〜二二〇

満洲に於ける中国共産党（上）

一三九〜一四二

雑報

二二一〜二三四

支那革命の現勢

一四三〜一四七

テルミドール途上にあるソウエート聯邦（其の一）／

中華全国总工会の当面に於ける具体的工作計画

一四八〜一五二

西班牙国籍法の修正／第三インター派遣中国人宣伝員

中華全国总工会の運動費

一五三〜一五七

のポクラ国境に於ける逮捕と其の陳述／トロツキーの

中華全国海員港務总工会の工作計画

一五八〜一六二

スペイン入国不許可／鮮銀浦塩支店の引揚げ条件／ハ

印度 ミーラット被告人の弁論

一六三〜一六七

ルピン・コメルチエスカヤポチタ紙の買収／セミヨー

露西亞 ソ聯邦新聞界の現状

一六八〜一七二

ノフの行動に対するプラウダ紙の論調

印度 ミーラット被告人の弁論

一七三〜一七七

埋草

露西亞 ソ聯邦新聞界の現状

一七八〜一八二

独逸 独逸共産党の農民救済綱領 一五六〜一五八
西班牙

西班牙帝政の倒壊 一五八〜一六〇
帝国主義の列強が利用せんとする西班牙

一六〇〜一六二
一六三〜一六四
一六四〜一六六

西班牙の帝国主義を倒せ
西班牙共産党の活躍
仏蘭西 仏蘭西鉱山労働者のストライキ

一六七〜一七二

内国事情

紐育スタンダード石油会社の本邦に於ける営業状況

一七三〜一七九

研究資料

独逸における政治運動取締に関する緊急命令発布

一八一〜一八八

ソウエート聯邦国籍法の改正

一八八〜一九四
一九五〜二〇六

彙報

国際労働組合聯盟一九三一〜二年の行動綱領／露紙の

見た本邦の政治経済思想問題／独逸の工業上の機密保

持に対する注意振り／莫斯科の無線宣伝／共産党の対

英計画／中国の外国人入国令／外蒙独立十周年祝賀放
送

人事動静 二〇七〜二一〇
雑報 二一一〜二三四

テルミドール途上にあるソウエート聯邦／第六回欧亜
旅客連絡運輸会議及第二回欧亜貨物連絡運輸会議の開

催／ソ聯邦脱出談／来遊外人の我国観光に関する感想
／蘇聯邦の近情／巴奈馬領事館の移転／アルゼンチン

国公使館の移転／シベリヤ鉄道に対する外国人の不平

埋草

ソ聯邦共産農場加入状態

六六
コムソモールの近況 一七九

一八〇
歐洲に於ける共和国

第一〇九号 一九三一（昭和六）年八月

共産主義青年インターナショナルの近況（其の一）

一〜三〇

共産インターナショナル及主要各国共産党の状況

三〇〜五八

外国事情

中華民國

滿洲に於ける中国共産党(中) 五九〇 八五

ドルコムの現状と其使命並に秘密工作要領

八六〇 九六

中国の時局と共産党の宣伝

九七〇 一〇〇

国民政府の赤匪討伐報告書

一〇〇〇 一〇七

中央紅軍の猖獗と中央討伐の失敗

一〇七〇 一一一

江西省に於ける紅軍

一一一〇 一二三

延辺防共弁事処の組織及弁事規則

一一四〇 一二六

露西亞

ソ聯邦共産党の最近六ヶ年間に於ける發達狀況

一一六〇 一二九

ソ聯邦共産党中央委員会並に総会の狀況

一二三〇 一二三三

ソ聯邦労働法規の改正

一二三三 一二三五

レーニングラード・エヌキーゼ東方学院

一二三五 一二三八

独逸

独逸社会民主党ライプツヒ大会と独逸共産党の任

務

独逸赤色競技運動と弾圧方針

一三九〇 一四八〇

瑞典 瑞典に於ける階級闘争の尖鋭化

一四八〇 一五七〇

白耳義 白耳義共産党第五回大会

一五七〇 一六〇〇

仏蘭西 C・G・T・Uの近況

一六〇〇 一六六〇

伊太利 伊太利共産党第四回大会

一六六〇 一七〇〇

土耳其 土耳其に於ける共産党の現況

一七〇〇 一七二〇

英吉利 労働者憲章運動

一七二〇 一七三〇

英国共産党の消長

一七三〇 一七四〇

北米合衆国 米青年デーの創定

一七四〇 一七五〇

濠太刺利 濠洲共産党党則及グループ組織

一七五〇 一七七〇

研究資料

瑞西外国人取締令

一七七〇 一七八〇

彙報

日華共産党合作に関する中央公布のパンフレット/世界革命文学中に於ける日本革命文学の地位/労働者国

一八九〇 二〇〇〇

二〇〇〇 二〇一〇

際救済会／赤色インターナショナルとアムステルダム
インターナショナル／中華海員工会の分裂／赤色国際
労働組合機関誌「東方及び殖民」

人事動靜

二〇九〜二一二

雑報

二一三〜二二八

在浦塩一日本人主義者の手記／上海公安局管轄下の警
察力統計表／ソ聯言論機関に対する支那官憲の弾圧／
上海に於ける「五卅」六週年記念日の状況／共産主義
文書送附先アドレス／上海各工場内に於ける赤色工会
会員の統計／蘇聯邦通商代表部の移転／上海に於ける
台湾併合記念日／各国社会民主党黨員数

埋草

在上海邦人共産者聯盟

一八八

第一一〇号 一九三一（昭和六）年九月

共産主義青年インターナショナルの近況（其二）

一〜四〇

外国事情

中華民國

満洲に於ける中国共産党（下） 四一〜七〇

中国共産党江蘇省委の上海市発行工作に関する決議 七〇〜七三

中国革命互済会の宣伝活動 七三〜七七

江西紅軍討伐の状況 七七〜七九

中国共産党領袖連の逮捕 八〇〜八五

ソ聯北満労働組合の政治情勢と当面の任務

八五〜八八

中国工場法の実施

八八〜九二

万宝山事件後に於ける哈爾濱地方の排日運動

九二〜一〇七

露西亜

ソ聯工業建設の新指導方針

一〇七〜一二五

コルホズの模範収益分配に関する布告

一二五〜一三〇

瑞典 瑞典に於ける共産党の任務 一三〇〜一三六

独逸 独逸労働組合内革命的反对派の任務

一三六〜一四二

彙報

日本左翼労働組合に対する攻撃／日本共産党裁判と

一四三〜一六〇

チーホ・オケアンスカヤ・ズウエズダ紙の論調／革命的地下工作の組織問題／ソ聯北滿労働組合の白系新聞

非買同盟／西班牙革命と共産青年同盟の任務

人事動靜

雜報

テルミドール途上にあるソウェート聯邦(其三)／中

共青年団北滿委員會の「哈爾賓の学生に告ぐる書」／

中国革命互済会の作製せる白色恐怖統計表／波蘭の対

少数民族政策

埋草

サハリン管区青年共産黨員數

第二一一号 一九三二(昭和六)年一〇月

共産主義青年インターナショナルの近況(其三)

一〇三六

コミンテルン大会史 イ・ミングウリン 三七〇 九二

外国事情

中華民国

外蒙古革命運動の現状

九三〇一〇一

中共党の機関組織と工作方式の変更

一〇一〇二

中国共産青年団組織問題決議案

一〇三〇六

哈爾濱地方に於けるモープルの組織並に活動狀況

一〇六〇一〇

北滿労働組合協議会の積極的活動

一一〇〇一四

蔣介石の第三回赤軍討伐の失敗

一一四〇一七

赤軍応募員に関する北滿労働者への訓令

一一七〇二〇

露西亞

現下のソ聯労働問題

一二〇〇三九

ソ聯邦共産党の現勢

一四〇〇一四五

コルホズ化の速度とコルホズ強化の諸任務に関する

一四五〇一四七

布告

独逸

独逸共産党最近の活動

一四七〇一五九

国民投票の二三の教訓

一六〇〇一六五

西班牙 西班牙に於ける民族問題

一六六〇一六九

澳大利 澳大利共産党第十一回大会

一七〇〇一七一

英吉利 英国失業対策委員会

一七二〇一七五

北米合衆国

米国ミシガンに於ける不正入国者排斥立法

一七六〇一七八

米国に於けるソ聯邦学生

一七八〇一七九

亜爾然丁 亜爾然丁に於けるソウェイト通商館の搜索
とプロレタリア迫害

一七九〇一八一

彙報

一八三〇二〇一

共産青年インタナショナル支部の生長の現状とこの領

域に於けるその任務／革命的非合法組織の問題／国際

労働者救援会の国際大会準備と国際婦人労働者大会の

開催／革命闘士国際援助協会と国際労働者救援会の関

係及其の協調

人事動静

二〇二〇二〇五

雑報

二〇六〇二一二

第十七回国際青年デーに就ての檄／支那無政府主義者

機関誌ラ・アナルキオ／蘇聯邦の脱出と浦塩の市民生

活情況／波蘭国内に於けるコムインテルン諜報網暴露

／波蘭の政治犯人特権廃止／蘇聯邦神戸総領事館の移

転

埋草

浦塩斯徳市共産党支部の新委員会

一八二

第一一二号 一九三二（昭和六）年二月

共産主義青年インターナショナルの近況（其四）

一〇四二

コムインテルン大会史（其二）

エム・ヤブロンスキー 四三〇 八八

外国事情

中華民國

滿洲事変と中国共産党の活動

八九〇一〇七

上海に於ける排日運動

一〇八〇一一八

支那赤軍の状況

一一八〇一四〇

中国の水災に関する中国共産党の指令

一四〇〇一四三

国内戦争と中国に於けるソウェイト運動

一四三〇一五九

比律賓 比律賓共産党第一回大会

一五九〇一六三

露西亞 滿洲事変とソ聯邦の態度

一六三〇一七九

独逸 独逸赤色国民投票運動の状況

一八〇〇二一五

仏蘭西 仏蘭西共産党の反軍国主義運動

二二五〜二二三

第一一三号 一九三二（昭和六）年一二月

チエツコ・スロワキヤ 失業反対闘争国際会議

二二三〜二三六

共産主義青年インターナショナルの近況（其五）

英吉利 英国共産党と政局

二三六〜二三九

一〜四六

彙報

二四〇〜二四四

外国事情

赤色スポーツ・インターナショナルの執行委員会第六

中華民国

回総会／ソ聯邦視察消費組合代表団の帰英／中日共産

北滿に於けるソ聯邦の現勢力及政策の概要

党の日本軍東三省侵略に対する宣言／中国共産党中央

四七〜六七

機関紙の再現／浦塩市第三回共産党会議

中国共産党の組織的任務

六七〜七五

人事動静

二四五〜二四九

中国ソウエート第一次全国代表大会開催

雑報

二五〇〜二五四

七五〜八五

中国警察官の暴徒射殺／滿洲事変と哈爾賓露字新聞の

紅軍運用の方策

八六〜八八

頻出／国際労働者救援会の中国水災救援計画並に大会

中国ソウエート区域に於ける反共産団体の問題

に対する中国代表の派遣懇瀆／支那文字のラテン化運

八八〜九二

動／伯林警察と共産党／ペルー国公使館の移転／土耳

仏領印度支那 仏領印度支那に於ける革命的発展

古国大使館の移転

九二〜一〇一

埋草

露西亜

世界の失業者数

二三九

滿洲事変とソ聯邦の態度（其二）

一〇一〜一一〇

滿洲事変とコミンテルン

一一〇〜一二七

ソ聯交通人民委員会首脳部の更迭事情と鉄道運輸の
情況 一二七〜一三六

に於ける人民食堂の改善／満洲事変と中国共産党の対
巡査赤化宣伝

独逸 満洲事変に関する独逸共産党機関紙の論調

一三六〜一四二

第一一四号 一九三二(昭和七)年一月

仏蘭西 C・G・T・U少数派幹部に関するプロフィール

一四二〜一四六

共産主義青年インターナショナルの近況(其六)

ソテルン執行局の決議

一四六〜一五六

コミンテルン大会史(其四)

北米合衆国

エフ・グラウバウフ 五〇〜六七

米国に於ける共産党の活動(其一) 一五七〜一八四

外国事情

米国は共産主義運動を軽視す

一八四〜一八六

中華民国

彙報

一八七〜一九六

中国共産党の緊急任務

六八〜七八

キムの現勢／日本に於ける革命的組合運動の根本問題

中華全国第一次ソウエート大会に関する文献

／暹羅国新発布入国制限条例／日本帝国主義に反対す

七八〜八一

る日本のプロレタリア／英米陸戦隊に対する上海革命

中国共産党の国民軍に対する工作

八二〜八四

士兵委員会の赤化宣伝

中国共産党江蘇省委員会の党報に関する決議

人事動静

一九七〜一九八

中国革命互済会の大衆獲得運動

雑報

一九九〜二〇四

露西亜 中国革命互済会の大衆獲得運動 八六〜九四

中国国民党の排日意嚮調査／中国に於ける排日歌／上

露西亜

海に於て親蘇新聞の発刊／ラヂオで赤化宣伝／ソ聯邦

全聯邦共産党中央委員会十月総会の決議

ソ聯邦最近の經濟情勢

九四〇 九七
九七〇 一一〇

独逸 独逸共産党の個人的暴力行為排撃

一一一〇 一一六

白耳義 エドキンテルン総書記局最近の集会

一一六〇 一二二

仏蘭西 第二インターナショナル拡大事務局会議

一二三〇 一二六

北米合衆国 米国に於ける共産党の活動(其の二)

一二六〇 一四六

加奈陀

加奈陀共産党の目的と党員の処刑 一四六〇 一四七

加奈陀共産党に対する反動的攻撃(上)

一四七〇 一四八

研究資料

国際共産党支部組織に関する資料(上) 一四九〇 一六二

彙報 一六三〇 一七〇

革命的作家国際同盟／青年失業者の闘争の為の要求綱

領／南濠洲に於ける反共産党闘争／南亞米利加共産党

の戦列建直し／満洲事変に対するデーリ・ワーカー

(英)の所論／ソウエート聯邦を訪れる外国人

人事動靜

一七一〇 一七二

雜報

一七三〇 一八〇

在哈日本官衙爆破陰謀団の発覚／反逆者に対する中国

共産党の復讐／伊太利新聞記者高等委員会の任命

埋草

ソ聯邦都市の發展

一七二

第一一五号 一九三二(昭和七)年二月

コミンテルン大会史(其五)

エフ・グラウバウフ 一〇 三四

外国事情

中華民国

中国共産党の党内紛糾(上) 三五〇 四九

中国に於ける革命危機と中国共産主義者の任務

四九〇 五九

中華ソウエート第一次全国大会の状況

五九〇 六八

共産党の策動と抗日救国大会

六八〇 七四

上海反帝聯合会の綱領 七四〇 七七

比律賓 比律賓に於ける革命運動に対する帝国主義の

攻勢並共產党の任務 七八〇 八七

印度 印度に於ける共產主義運動及コンGRES党との

関係 八七〇 九三

露西亞 一九三二年度のソ聯国民經濟計画

九四〇 一〇四

独逸

独逸に於ける労働組合の主義主張(其一)

一〇四〇 一二二

海員、港湾労働者インタナショナル總會

一二二〇 一二六

仏蘭西 C・G・T・U第六回大会 一二七〇 一三三

北米合衆国

米国に於ける共產党の活動(其三) 一三四〇 一五七

米国共產党の全国饑餓行列 一五七〇 一六八

加奈陀

加奈陀共產党に対する反動的攻撃(下)

一六九〇 一七一

加奈陀共產党員の検挙と公判 一七二〇 一七四

研究資料

国際共產党支部組織に関する資料(下) 一七五〇 一九三

彙報 一九四〇 二一六

日本革命的労働組合運動の最重要なる諸問題／太平洋

労働組合書記局と其業績／共産青年国際の現状と任務

(スウェルドロフ)／プロフィンテルン評議会第八回

會議に於ける日本関係問題論議／上海反帝代表会の開

催と伯林反帝同盟本部よりの指令／民衆自動反帝十人

団簡章／英国共產党運動と露国との関係／鄧演達の死

刑 二一七〇 二一九

人事動靜

雜報 二二〇〇 二二四

滿洲新独立国の建設と白系露人の将来／支那巡警と露

人群衆の衝突／日本大使館に対する示威運動／大阪領

事団の設立／在大阪及神戸英国領事館の組織変更／上

海に於ける親蘇新聞の廃刊／レーニングラードに外国

人労働者大学開設／横浜在留印度人の神戸移転問題／

サ聯邦要人の任免移動

第一一六号 一九三二（昭和七）年三月

独逸国粹社会党の概況

一〇 三八

外国事情

中華民国

中国共産党の党内紛糾（下）

三九〇 五四

上海事件と共産党の活動

五四〇 五八

中国共産党の宣伝強化

五八〇 六一

中国共産青年団のソウエート区域少年に対する宣伝

書

六一〇 六三

中共中央委員瞿秋白等二百余名の脱退声明書

六三〇 六四

上海市民反日大会の状況

六四〇 六九

中国左翼作家聯盟の宣伝

六九〇 七二

時局に就き中共中央の黨員に与へた指令

七二〇 七五

中共中央の土地平分決議案

七六〇 七九

中共中央に宛てたるコミンテルンの指示

七九〇 八〇

国民政府のソウエート区域攻撃に就て中共中央より

各級党部に与へし指示

八〇〇 八四

印度 印度労働者福祉同盟

八五〇 八七

露西亜 ソ聯邦の極東研究機関

八七〇 九二

独逸

独逸に於ける労働組合の主義主張（其二）

九二〇 一〇四

大統領選挙に対する独逸共産党の態度

一〇五〇 一〇七

仏蘭西

仏蘭西共産党内に於けるグループの精神及び実践に

対する闘争

一〇八〇 一一八

仏国 C・G・T・U の現勢

一一九〇 一二一

英吉利 ミーンス・テスト 反対闘争並に英国共産党の

発展

一二一〇 一二四

北米合衆国 米国に於ける共産党の活動（其四）

一二四〇 一二四

智利 智利に於ける共産党の暴動

一四四〇 一四五

彙報

満洲に於ける戦争／満洲に於ける戦争と共産青年同盟

一四六〇 一五九

の任務／南濠洲に於ける罷業煽動運動／和蘭国軍隊に
対する共産主義の宣伝／上海失業労働者の不穩行動／

ソウエートの文芸雑誌

人事動靜

一六〇〜一六四

雜報

一六五〜一八八

テルミドール途上にあるソウエート聯邦／中国ソウ

エート臨時中央政府の顧順章逮捕令／南京国民党中央

党部幹部表／レーニン公衆図書館開設

第一一七号 一九三二（昭和七）年四月

最近独逸社会民主党史観

一〜四〇

外国事情

中華民国

中国共産党の反対派の近状

四一〜四六

上海事変に対するコミンテルンの指令及び其の反響

四七〜五〇

上海反帝聯合会の綱領及び其の活動状況

五〇〜五五

南京軍顧問独逸将校の観たる中国政情

露西亞

五五〜六五

プロフィンテルン各支部の状態と經濟闘争並失業者

運動指導上の役割 ロゾフスキー 六六〜九三

世界的經濟恐慌とソウエート聯邦 九三〜九六

労働聯邦と農民 九六〜九八

第十七回全聯邦共産党會議の報告 九八〜一二七

独逸

独逸に於ける労働組合の主義主張（其三）

一二七〜一四〇

「赤色労働者戦線」の結成 一四〇〜一四四

英吉利 英国共産党の善処すべき問題

一四四〜一五三

埃太利 一九三一年に於ける埃国共産党の活動状況及

現状 一五三〜一五五

西班牙 西班牙に於ける共産党員罷業

一五六〜一五七

北米合衆国 米国に於ける共産党の活動（其五）

一五七〜一七四

研究資料

ユーゴスラヴィア国に於ける結社集会に関する法律公
布

一七五〜一八四

彙報

一八五〜二〇六

戦争煽動者インターナショナルの眞の面貌(片山潜)

／ソウエート露西亜の運命(ペ・エツチ・ミリニコ

フ)／ソウエート貯蔵配給委員会の新設／ソウエート

労働組合員軍育運動／ソウエート聯邦の労働状態／

ツリーツヒに於ける共産黨員の騷擾／ソ聯邦の排日教

育／日支衝突事件と国際共産主義運動／血腥き世界反

革命計画を粉碎せよ!／日支紛争に対する反帝同盟の

檄／運輸従業員国際聯合和蘭部書記長エド・フキメン

の極東視察旅行談／ウルガイに於ける共産党の煽動運

動／加奈陀左翼団体と本邦左翼団体との連絡

人事動靜

二〇七〜二〇九

雜報

二一〇〜二一八

第十七回全露共産党大会に於ける議題／第十七回全露

共産党大会役員会の役員選出／労農赤軍創立第十四週

年記念日近づく／労農赤軍十四年／新「滿洲国」の成

立／在京伊太利国大使館の移転／在京キューバ国公使

館の移転／デュツセルドルフに於ける日本人労働代表

の革命演説／ナリマノフ東洋学院に朝鮮語科新設／出

稼ぎ諾威労働者のソ聯邦談／ソ聯邦政府、日ソ滿三国

交渉を提議せん／和蘭国共産主義者の対日示威運動

埋草

日本の学生

二〇九

第一一八号 一九三二(昭和七)年五月

最近独逸社会民主党史観

一〜四二

外国事情

中華民國 国際赤色労働組合中央評議會第八回會議に

於ける演説及決議

四三〜六四

露西亜

滿洲事変以後に現はれたソ聯邦の極東政策

六四〜九〇

極東露領の近況

プロフィンテルン中央評議會第八回會議に於ける日

本に関する報告及決議

九四〜一一四

露国の産業

ソウエート聯邦に於ける穀類運動

一一四〜一一六
一一七

極東に於けるソ聯邦の活動 一一七〜一一八
北米合衆国

フォード工場に於ける暴動 一一八〜一一九

市俄古に於ける共産党示威運動 一一九

独逸

独逸大統領選挙 一二〇〜一二四〇

独逸国粹社会党弾圧 一四〇〜一四一

芬蘭 芬蘭に於けるファシストの脅威

一四一〜一四三

伊太利 伊太利ファシスト党の新政策

一四三〜一四五

英吉利 英国革命的労働者に対するテロルの増大

一四五〜一四七

研究資料

「ゲペウ」通過取締所事務に関する訓令

一四九〜一九二

第四次経済財政の安定並国内平和擁護に関する緊急大

統領令 一九二〜二一三

彙報 二一四〜二三〇

支那戦線に於て我陸海軍人に対して撒かれた日本文不

稷文書／中国共産党満洲省委員会の拡大会議討議事項

／総選挙と日本共産党の任務／ソウェート聯邦と日本

／ソ聯邦の新極東対策／ロシア島其他に居住する者並

に右諸島に来る者に対する浦潮斯徳市ソウェートの決

定／独逸大統領総選挙に関する独逸共産党中央委員会

の声明書／雅典発行の共産党機関紙の論調／ソ聯が個

人経営農民に特典を与ふ

人事動静

雑報

二三一〜二三三

二三四〜二四四

「今日の日本」と題する露紙記事／名古屋汎太平洋俱

楽部の創立／本邦在留米国宣教師団の日支問題声明書

発表／故田中首相の「鉄血政策」と支那掠奪行為／印

度国民会議日本支部の状況／イルクーツク共産党總會

状況／最近亞港官憲の対市民態度／共産党の示威運動

／共産党員の反戦示威運動／モスクワの売笑婦減少現

在では僅かに七百名

埋草

ソウェート聯邦共産党のメーデー標語及之に関する同

聯邦新聞論調

一四八

第二一九号 一九三二(昭和七)年六月

最近ドイツ社会民主党史観

一〇 四九

外国事情

中華民國 上海に於ける爆弾投擲事件の概況

五一〇 五八

印度 印度共産青年同盟の行動綱領草案

五八〇 七〇

露西亞

第九回全ソ聯邦労働組合大会の状況

七一〇 八七

第三インターナショナルの活動

八七〇 九五

最近に於ける赤衛軍事情

九五〇 一〇一

独逸 飢餓とファシズムに対する共同闘争

一〇二〇 一〇六

エルンスト・テールマンの最後通牒

一〇六〇 一一一

仏蘭西

伯林に於けるメーデーの状況

一一一〇 一二四

如何にしてフランス共産党の組織を強化せしむべき

か 一一四〇 一二二

フランス共産党第七回大会

一〇二〇 一二六

西班牙 西班牙革命の現段階

一〇二〇 一二六

研究資料 国権獲得に関する独逸大統領令

一〇二〇 一二六

彙報 日本軍部の独裁運動／浦塩斯徳の近況／戦争製造者イ

ンタナショナルの真相／ファシズムと社会民主主義と

共産主義／ブリヤード・モンゴリ共和国諸機関への

軍事的指令／労働検査人民委員会「ビュロー・ジ

ヤローブ」の事業振興／赤旗紙十五周年／「工場聯合

を組織せよ」／ファシスト伊太利に於ける騒擾／西班

牙に於ける共産主義／倫敦のメーデー準備／亜米利加

共産党機関紙の記事／帝国主義戦争反対闘争国際会議

人事動静 一七八〇 一八四

雑報 一八五〇 二二二

国際懇談会及び京都インターナショナル倶楽部の創立

／中国共産党の党员除名／極東の事態に対する米国の

見解／極東和平策に対するモロトフの演説／国際婦人デーに対するコミンテルンの檄／国際婦人デーのスローガン／第一回児童大会の開催／トロツキーの入国拒絶／「トロツキー」の日ソ開戦観／ソ聯邦に於ける私貿易商／国粋社会党に対する警察の手入／プロシヤ邦と国粋社会党／波蘭総罷業の失敗／「ポーランドに於けるプロレタリア大衆革命的罷業」／チエツク坑夫罷業／西班牙アンテケラの暴動／失業者の警官襲撃／米国の炭坑夫罷業／アフドールのコムソモール軍事教育援助／中共党満洲省委緊急通知／東方海員倶楽部組織計画と外国船員のメーデー参加問題

埋草
米国グワム島の近況 四九〇～五〇〇
共産党員市役所を占領す 一三四

第一二〇号 一九三二（昭和七）年七月

コミンテルン大会史（其六） 一〇 六五

外国事情

中華民國

ソウエート革命に反対する各党派 六七〇～八〇〇
国際聯盟調査団の報告に対する中国共産党の論評 八〇〇～八七〇

ソウエート聯邦

第二次五ヶ年計画と国際労働運動 八八〇～九七〇
ロシアの食糧問題の展望 九七〇～九九〇
独逸 闘争のメーデー、赤色統一戦線の旗の下に！

エルンスト・テールマン 一〇〇〇～一〇八〇

仏蘭西 フランスに於けるメーデー 一〇八〇～一一二〇

西班牙

スペイン共産党第四回大会 一一二〇～一一五〇

西班牙のテロリスト 一一五〇～一一六〇

英吉利

英国共産党中央委員会総会 一一七〇～一二一〇

帝国主義の御用を勤める英国独立労働党 一二一〇～一二三〇

北米合衆国 米共産党の第十四回中央委員会総会とその任務 一二四〇～一二四〇

研究資料

希国外国人入国及滞在取締法 一三五〇～一三七〇

「カルト・デイダンテイテ」ニ関スル内務大臣ヨリ大
統領宛ノ報告(一) 一三八〜一四〇

「カルトデイダンテイテ」発給並ニ宿泊業者ノ申告ノ
件ニ関スル大統領宛報告(二) 一四〇〜一四二

彙報

一四三〜一六三

支那に於ける日本帝国主義の掠奪戦と日本プロレタリ
ア階級の戦争反対運動／中国共産主義者の見たる日本
の蘇聯邦に対する不断の挑戦范兀／倫敦のメーデー／
各国に於けるメーデー状況

人事動靜

一六四〜一七一

雜報

一七二〜二二〇

日本共産党の反戦闘争(片山潜)／東京に於けるファ
シストの爆弾／日本内に戦争内閣組織さる／日本プロ
レタリアの反戦運動／荒木陸相の対露戦争準備と仏国
将校メロ中佐の談／日本ファシストの進軍と社会民主
主義者の面目／日米協会主催新任米国大使歓迎晩餐会
の状況／西欧各国及び米国共産党の中国革命及び蘇聯
邦保護の爲め工人及び労働群衆に告ぐる書／極東問題
に関する社会主義労働者インターナショナルの決議／
日仏協会の近況／印度再度の騷擾／浦塩居留邦人数／

日ソ関係に対するソ聯邦有力政客の意見／日蘇関係に
対する米紙の論調／警戒しようではないか！／モープ
ル世界大会の爲の国際的大衆動員／伯林日本人会に対
する共産系暴漢の襲撃／西班牙ヒュエルヴァ市に於け
る共産党の煽動／西班牙の革命陰謀／ブカレスト学生
騒動／歐洲諸国の共産党執行委員会の連署せる反戦の
檄／ラインランドに於ける共産党の暴動／英吉利共産
党一派の我対支行動反対示威運動／米国に於ける社会
主義運動の状況／紐育共産主義者の対日示威運動／ラ
テン・アメリカ諸国に於ける露国の所謂赤化宣伝／一
九三二年六月「アトランチック・マンズリ」誌に掲載
せるKK河上の論文の概要／バーナード・シヨウのソ
聯邦観

埋草

盆買の暴動

六六

ファシズムの意義(ムツソリーニの定義)

一七一

第一二二号 一九三二(昭和七)年八月

最近独逸社会民主党史観

一〇三〇

外国事情

ソウエート聯邦

北滿に於ける蘇聯共産党と一九三二年のテロル事件

三一〇 九五

階級の一掃

アンドリユース

五五〇 六〇

印度 印度の騷擾

六〇〇 六一

独逸

プロレタリア無神者同盟に解散命令下る

六一〇 六六

何故に独逸青年は政変を要望するか

ウルリツヒ・ケルステン

六六〇 七三

勃牙利 勃牙利に於ける共産党の活動

七三〇 七四

智利 智利革命

七四〇 八〇

研究資料

政治的暴動ニ対スル緊急大統領令

八一〇 九二

政治的暴力に對する第二回緊急大統領令

九二〇 九四

集会及び示威に関する内務大臣緊急令

九四〇 九六

一九三二年度ノ選挙ニ対スル第三回緊急令

九六〇 九七

一九三二年度ノ選挙ニ対スル第三回緊急令

九六〇 九七

社会保安上選挙時間ノ延長ニ関スル緊急令

九七〇 九八

彙報

九九〇 一三五

日本の現状と日本共産党の諸任務／日本に於ける革命的組合闘争／帝国主義戦争製造者の戦線に於ける「社会主義青年インターナショナル」／反帝同盟報告書

(五、六月号) 大要／青年大衆獲得への道／一九三二年東部西比利共産党大学入学規定

人事動静

一三六〇 一三八〇

最近の日本輿論に對する露字紙の批判／日本の新政府

／蘇聯邦スターリンの演説日を記念す／ソウエートの囚役労働／国際赤色スポーツ大会準備／ソウエート監獄の実状／蘇聯邦の自由商業布告／ソウエート農民の

雑報

一三九〇 一五六〇

状態／ソウエート政府の農民への讓歩／伊太利に於ける反ファシスト陰謀／新西蘭労働者の暴動／外国人慈善団体神戸外国婦人同情会の近況／米副領事の日支時局觀(グレン・ブルナー)／日亜協会の創立

埋草

浦塩地方より出国する日支人に対する留貨交換

七九〇

米国汽船会社の対支那人宣伝 一三五

日本労働作家救援を訴ふ 一三八

附録

独逸国粹社会党と其の世界観的根本思想

ゴッドフリード・フェダー 一五七〜二〇一

第二一二二号 一九三二(昭和七)年九月

コミンテルン第五回大会史

ヴイリヤムス、ロゾフスキー編 一〜三二

外国事情

中華民国に於ける鮮人共産主義運動 三三〜五一

ソヴェート聯邦

最近に於けるソ聯邦の物資欠乏の状況

五一〜六六

全露共産党第十七回大会の総決算について

六六〜九三

ソヴェート聯邦の戦争準備

第九回全「ソ」聯邦職業組合大会調書

一〇三〜一一四

仏蘭西 仏国共産党中央委員会 一一五〜一一九

伊太利 イタリアに於ける戦争準備組織内の反戦、反

ファシズム闘争 一二〇〜一二二

英吉利 罷業の経験と其の教訓 一二三〜一二五

智利 チリーの最新独裁 一二五〜一二八

研究資料

国民社会主義独逸労働者党を中心とする最近ドイツの

情勢 一二九〜一六六

彙報

蘇聯機関紙の対日論調の推移並に最近の日本経済状態

の暴露／帝国内主義的戦争に反対しソ聯邦を擁護せよ／

諾威の反ソ陰謀／一九三二年度コルホズに於ける収益

分配／ソ共産党の数的質的現勢／独逸将校の赤軍観

／日米戦争問題に対する米人の所感(ウイルヘルム・

エッチ・エッチ・ローズ)／米国社会党大会／コミン

テルン網に於ける南亞米利加

人事動静

雑報

一加奈陀人の時局談(リチャード・エス・ヒューバー

ト)／日本革命的プロレタリアートの戦争反対闘争

(ソ聯邦第九回労働組合大会に於ける同志田中「山本懸蔵?」の演説) / 米国領事館の対邦人旅券査証 / 日本
 のファシスト党 / 洪牙利に於ける新聞紙の発行停止
 / 和蘭の新社会党 / 労働組合国際聯合の宣言書 / 日本
 ツーラン協会設立 / 北樺太の発展 / 独逸大使ゾルフの
 極東観 / 復讐政策は支那の立場からしても愚である
 (エイチ・ダブリュ・ウツドヘッド) / 水害避難民に
 対する中国共産党の伝単 / 排日中華民国人に対する退
 去命令 / 不良外国人の諭示退去 / 暹羅の革命 / レーニ
 ングラードに於ける労働者の食糧問題 / 児童国際オリ
 ンピック大会の開催 / ソウエート聯邦学士院極東支部
 の組織 / ソウエートの自由商業政策 / 国際反戦大会ジ
 ュネーブに於て開催 / 国民社会主義独逸労働者党褐色
 軍の復活 / ナーチスとコミュニニストの闘争 / 独逸に
 於ける政治的騷擾 / 独逸諸邦と国民社会主義独逸労働
 者党 / ラインランド地方の騷擾 / 奥国ナーチスの暴行
 / 伊太利に於ける爆撃陰謀 / 警察用としての無線電信

附録

国民社会主義独逸労働者党の綱領と其の世界観の根本

思想

フェーダー 二二一〜二六四

第一二三号 一九三二(昭和七)年一〇月

コミンテルン第五回大会史(二) 一〜三〇

外国事情

中華民国 中国に於けるファツシヨ運動

三一〜四二

ソウエート聯邦

蘇聯邦第一次五ヶ年計画の総結及び第二次五ヶ年計

画の報告大綱 四二〜五二

第二次五ヶ年計画に於ける交通の發達と改造

イ・ウンシリフト 五二〜五八

国際赤色犠牲者救援会(モープル)ソウエート聯邦

支部の概況 五八〜七〇

労働組合フラクシヨンの活動に就て 七〇〜八五

ソウエート今日の生活状態

アントン・フォン・ブラウン 八五〜九〇

独逸

独逸ファシズムの經濟綱領 九〇〜九六

独逸国会解散より新選挙まで 九七〜一〇六

独逸総選挙批判

一〇六〜一一一

仏蘭西 仏蘭西帝国主義と戦争

アンドレ・マルテイ 一一一〜一二七

研究資料

中華蘇維埃共和国憲法大綱及土地法 一一九〜一二七

彙報

一二八〜二二一

日本に於ける反戦闘争の二三の教訓／日本の秘密的インフレーション／中国紅軍の編成／帝国主義戦争反対闘争の若干問題に就いて／社会民主主義的伝統打破による各資本主義国共産党のボル化（ピヤトニツキ）／ソウエート商業小史／アムステルダム国際反戦大会の状況／反戦大会に於ける日本代表片山潜の演説／八月一日に於ける反戦デー

人事動静

二二二

雑報

二二三〜二五〇

内田外相の施政演説に対する羅外交部長の駁論／満洲国承認に関するソウエート側の言動／満洲問題に関する露紙の論調／満洲各地の匪賊状況／英領印度の港湾警備／十月革命当時の奮闘的準備会議に就いて／被圧迫民衆に対する社会的改革意見／ソウエート政府の官

紀振肅／日本帝国主義の新進攻に反対する五分間報告

大綱／浦潮夜学共産主義大学の一九三二〜三三年度入学規則／戦争の煽動者／共産党員と白色カラー／ソウ

エートの産業脱走者／第一回世界革命的水上運輸労働者聯合大会に於ける日本代表の演説／日ソの戦備と米

ソ復交／ソ聯邦の宝库シベリヤへの進出／独逸に於ける政治的暴行／独逸ファシストの横暴／ファツシヨ突

撃隊員の不満高まる／瑞典に於ける罷業／英国独立労働党、労働党と分離す／米国ファツシズムの擡頭／秘

露に於ける共産党の叛乱／智利社会主義革命の真相

埋草

ソウエートの食糧問題 一一八

再燃する支那軍閥の内争 二二一

附録

在京外交団員名簿 二五一〜二七四

第一二四号 一九三二（昭和七）年十一月

全露レーニン共産青年同盟第七回会議の総決算

一〜二〇

外国事情

中華民国

上海に於ける「九・一八」記念日の情況

二一〇 三二

北方各省の職工運動に於ける数個の主要なる任務に

関する決議

三一〇 五二

満洲国 在満鮮人民族主義運動の沿革と現状

五二〇 八三

ソウエート聯邦 コルホズの公共財産保護の新法に關

する露紙記事

八三〇 八八

独逸

独逸国会再解散に至るまで

八八〇 一〇七

独逸に於けるファシズム

一〇七〇 一一〇

独逸に於けるファシスト団体

一一〇〇 一一三

西班牙

スペインに於ける君主主義者クーデター陰謀と共産

党の任務

一一三〇 一一六

クーデター失敗後に於けるスペイン政情

一一六〇 一二〇

英吉利 英国独立労働党と労働党

一二〇〇 一二九

研究資料

独逸に於ける諸政党と其の綱領

一二九〇 一七四

彙報

一七五〇 二二四

行動中の日本帝國主義／帝國主義者の支那分割戦／北

支那の戦争勃発を前にして／上海韓聞記事／汎太平洋

労働組合秘書庁責任者ヴァン・デル・クルイセンの逮

捕処刑／印度支那共産党行動綱領／露国の貨銀／第一

線に立てる青年／露西亜に於ける穀物盜賊／ソウエー

ト聯邦関税法の改正／労働婦人とファシズム／反戦会

議代表に寄す／瑞典の労働争議

人事動靜

二二五〇 二二八

雜報

二二九〇 二五〇

「九・一八」一週年記念に當つて日本兵士兄弟に告ぐ

／左翼海員の國際連絡機關／中共江蘇省委の新黨員訓

練方指令／リットン報告は米を煽動、反日輿論を強化

するもの／露国の食糧問題／教職者インターナシヨナ

ル國際大会／高等共産主義農業学校の組織に就て／独

逸に於ける騷擾／伯林に於ける反國民社會主義獨逸勞

働者黨員の集會／漢堡及ブレーメンに於ける國際海員

組合の活動／國民社會主義獨逸労働者党と伯林警察官

／マルセイユ国際海員倶楽部の対本邦船員檄文の配布
 ／白耳義に於ける罷業騒動／和蘭政府のソ聯代表入国
 拒絶／西班牙の郡部に於ける共産党員の騷擾／不正入
 国米国人の送還／米国外使館員の時局観／新スパイ洪
 水／国際帝国主義強盜聯盟報告書発表
 埋草

第十七次共産党大会とスターリンの決意 一二七

1、機関紙「戦闘」の発刊 一七四

2、「東北紅旗」第二期の出版 一七四

附録

ロシア共産党並びに共産インターナショナルの史的発

展 二五一〜二七九

第一二五号 一九三二（昭和七）年一二月

大衆のボルシエウイキー的活動を目指して

モーリス・トレー 一〜 一二

外国事情

満洲国 哈爾濱に於ける十月革命記念日の状況

一三〜 二〇

印度 印度の被奴隷化、被圧迫農民へ寄す

二一〜 二五

ソウエート聯邦

蘇聯邦対外政策を改訂す

二五〜 三〇

ドネープル河の勝利

三一〜 三四

独逸 独逸共産党ボルシエウイキー化の新段階

エルンスト・テールマン 三四〜 五二

西班牙 西班牙の叛乱

五三〜 五九

北米合衆国 米国共産党中央委員会第十五回総会決議

五九〜 七二

研究資料

外国人取扱ニ関スル警察命令（プロシア）

七三〜 九〇

彙報

満洲事変の一周年／現代の感想（ホルワット）／極東

露領地方の共産党状況／十月革命十五週年記念を控へ

て社会主義的勝利の国は強固なる軍隊を有す！／世界

経済恐慌とプロレタリアート構成の変化／世界的罷業

の波／ファシズムを撲滅せずして独逸国民の解放は

なし／アムステルダム国際反戦大会の状況／アムステ

ルダム国際反戦大会に於けるソウエート代表マクシム・ゴリキ一の演説／国際プロレタリア・エスペランチスト同盟規約／ハンスト大衆よ!!何処へ行く?

人事動静

一四八〜一四九

雑報

一五〇〜一九〇

日本の満洲買収案(外国人の賛成せる提案)／傍若無人たる荒木の声明／満洲獲得闘争の新段階／浦塩に於ける文化教育機関／浦塩地方に於ける物価一覽表／マクシムゴリキ一と日本の労働者(片山潜)／極東地方の行政区画変更／蘇聯邦の対日満政策(満鉄情報)／外人より観たるソウエートロシアの内情／英国人の観たる蘇聯邦に於ける人跡稀なる一自治州(JFスチュワート)／全聯邦共産党中央委員会の十月革命十五周年スローガン／五ヶ年計画の前途に低迷する暗雲／コミンテルン執行委員会第十二回総会の決議／リットン報告書について／ルーマニア、ソウエート不可侵条約を巡る懸引／共産党議会フラクシヨンのコミニユニケ／共産青年インターナシヨナル執行委員会の檄／世界大会準備に於けるフランス共産党の努力／国際労働組合同盟所屬教員国際労働組書記局大会／ユーゴー

スラヴィヤ国に於ける船員手帳関係規則／英米の矛盾、日米の撞着／米国上院議員ポーラ氏ソウエート聯邦との国交回復を強調す／米国共産党に対する弾圧の激化

埋草

秘露に於ける共産黨員の蜂起

一四七

第一二六号 一九三三(昭和八)年一月

独逸内閣の更迭と国民社会主義独逸労働者のタクテイク

一〜二三

外国事情

中華民國 中国共産党及び紅軍の近況 二五〜 四六

ソウエート聯邦

第十二回コミンテルン執行委員会総会の決議

四六〜一〇五

全聯邦共産党(一)

一〇五〜一三〇

独逸 独逸プロレタリアートの現状(一)

ペーター・ヨットユカス 一三〇〜一四五

研究資料

「ソウエート」社会主義共和国聯邦出入国関係法令

彙報

一四七〜一六六
一六七〜二三五

第三インターナショナルと中国共産党／所謂中国ソウ
エート政権の将来に対する中国共産党の観測／ソウ
エート政権は中国を統治し得んや／上海民衆反帝聯合
会綱領／モツプル全世界大会開催さる／国際赤色救援
会世界大会に対する片山潜の祝辞／旧ボルシエヴイ
キー協會の祝辞／旧政治徒刑囚協會の祝辞／「モツプ
ルの十年」／十月革命十五週年記念日に対する全聯邦
共産党中央委員會のスローガン／全世界のプロレタリ
ア被搾取民族並にソウエート聯邦労働者コルホズニツ
ク諸君に与ふるコミンテルンの檄／全聯邦レーニン共
産党青年同盟（ソ聯コムソモール）／世界反戦大会後
の任務／米国に於ける元軍人の運動

人事動靜

二二六〜二三七

雜報

二二八〜二九四

ソ聯ピオネル現勢／日本に於けるテロルと赤色救援会
（片山潜）／日出づる国に於て人は如何に生活して居
るか／西部西伯利地方共産党支部の党勢一斑／十月革
命記念祝賀会席上に於ける「カリーニン」の演説／浦

潮に於ける十月革命記念祭状況／全露共産党の内部情
勢／革命後の十五ヶ年間に於けるソウエート聯邦の産
業の推移／革命劇団国際拡大會議開催さる／ロシアの
凶作と農民の窮迫／十月革命後の十五年と反ソ十字軍
の先頭に立つフランス帝国主義／共産党攻勢の焦点に
あるヒットラーファシズム！／神戸在留独逸人対諸外
国人間の親睦状態復活／独逸共産党會議の状況とこれ
に対するプラウダ紙の社説／独逸共産党會議に対する
プラウダ紙の社説／伊太利に於ける大檢挙／伊太利に
於けるファシスト独裁十年の決算／チエツコスロヴァ
キアに於てソウエートの友の会禁止さる／ジュネーヴ
に於けるマルクス主義暴動／帝国主义戦争反対闘争常
設世界委員會／モツプルの十年／智利国に於ける共産
主義刊行物取締大統領令／中共江蘇省委員會の失業運
動日に関する闘争綱領

埋草

モツプル執行委員會の檄

二四

「ソ」聯邦の産業状態に就て赤色独裁官の衝動的演説

一四六

附録

ロシア共産党並びに共産インターナショナルの史的発

展(二)

二九五〜三二一

第一二七号 一九三三(昭和八)年二月

コミンテルンの近況(一)

一〜一八

外国事情

ソウエート聯邦 全聯邦共産党(二)

一九〜三五

独逸 独逸プロレタリアートの現状(二)三五〜四八

仏蘭西 仏蘭西共産党中央委員会決議 四八〜五四

英吉利 英国共産党第十二回大会 五四〜七〇

彙報

七〜一三一

日本共産党の第十年を迎へて／蘇炳文引渡問題に関する日蘇両国間の折衝／過去十五ヶ年の蘇聯邦經濟／ソ聯に於けるコルホズ商業／ソウエート商業小史／ソ聯邦共産党の第三次廓清／国際海員並に港湾労働者ハンブルク會議の状況／ファシスト独裁反対共同闘争へ団結せよ！／独逸国会選挙概観(十一月六日挙行)／社会民主主義に対するフランス共産党の闘争

人事動靜

一三二〜一三三

雜報

一三四〜一六八

日本のモツプル運動／日本のブルジョア第三党(国民同盟)に対するプラウダ紙の論評／七億五千万円の赤字、六十八億五千万円の負債、三百万人の失業者／日本の軍事プログラム／平和獲得闘争の四年／ソ聯邦政府の国際状態確立五年計画／全露「子供の友の会」の設立／革命の忠実な守衛／蘇聯邦の農村「コムソモール」の指導政策／ソ宣伝本部ベルリンより撤退報告／「ゲ・ペ・ウ」について／プロレタリア革命成功してより第十六周年を迎ふ／北氷洋航路局開設／ムツソリーニは常に正し(シー・エツチ・アバツド)／仏国資本主義安定の終局／ハンガリーに於ける共産党の活躍之に対する政府当局の処置／英国社会主義者の眼に映じた日本、支那共産党の闘争状態

附録

ロシア共産党並びに共産インターナショナルの史的発展
(三)
一六九〜一八五

コミンテルンの近況(二)

一〇 二二

外国事情

ソウエート聯邦

全聯邦共産党(三)

二三〇 四二

プロレタリア独裁の擁護者たるオ・ゲ・ベ・ウの十

五年祭を迎へるに当りて

四二〇 四四

独逸 シュライヘル内閣成立よりヒットラー内閣成立

まで

四四〇 六三

仏蘭西 パリに於ける国際反戦委員会の状況

六三〇 六七

比律賓 比律賓の状況と比島共産党の任務

六八〇 七七

研究資料

労働者に対する供給並切符制度の改善に関する布告と

ソ聯の供給状態

七九〇 八四

彙報

八五〇 一六五

日本共産党創立十週年紀念に於ける祝辞と檄／日本の

革命的出版物／日本の戦争準備に関する在上海米系新

聞の論説／中国共産党及び中国共産主義青年団幹部の

国民党への寝返り／全聯邦労働組合(二)／万国勤勞

者の反帝統一戦線／蘇聯邦作家同盟組織委員会の状況

／巴里の共産党大会に於けるテールマンの演説／太平

洋沿岸は新世界戦争の主要なる温床である(エル・マ

ヂャール)／帝国主義戦争に対して闘争せよ／米国官

憲邦人船客、船員、労働者等に対する取締状況／自殺

者の激増驚くに足らず、資本主義大英帝国国民の窮乏状

態益々尖鋭化する(ライス・ウイリアム)

人事動静

一六六〇 一六七

雑報

一六八〇 一九六

帝国主義の結び目は緊張してゆく／プロットの国際演

劇オリンピヤード日本代表派遣対策／私はかうして日

本へ上陸した(セシル・チェスタント)／南京放送局

日本語放送について方治夫妻語る／共産主義運動に於

けるスターリンの任務／ソウエート露西亞の食糧欠乏

穀物盗人に対する死刑続出／モツプル万国会議／ソウ

エート平和政策新なる勝利を博す／ソウエート聯邦合

同国家保安部直轄労働警察本部の設立に関する全聯邦

中央執行委員会並に人民委員會議規定／ソウエート聯

(一)

一〇 四六

邦合同国家保安部直轄労働警察本部構成法／合同国家

外国事情

保安部直轄労働警察本部長官任命に関する人民委員会

中華民国

議規定／ソウエート捕鯨船の不開港場入港／ゼネヴァ

中国共産党の指導する反帝国主義運動の現状

の共産黨員暴動／ルール占領第十年に際しフランス共

四七〇 五四

産党より独逸勤労者に送る／国際反戦委員会の決議／

支那ソウエート政権樹立運動についての考察(一)

共産党和蘭の十二月會議／ニューサウス・ウエールズ

五五〇 八一

に於ける共産黨員の煽動的運動／濠洲に於ける労働者

広東コミュニューンの五周年

八二〇 八六

のゼネスト画策／欧洲の選挙運動は急激なる転向を指

ソウエート聯邦

示す／米国汽船の臨検警察官に対する乗船拒絶／在哈

ソ聯邦に於ける赤色知識階級並に青年労働者層の素

米国領事の露国人避難民救済

質 八六〇一〇〇

埋草

第五回全聯邦技師技手大会 一〇〇〇一五

露西亞共産党の清党運動

七八

独逸 ヒットラー、パーペン内閣の独裁と労働者階級

ロシア共産党並の共産党インターナショナルの史的発

一一五〇一二〇

展(四) 一九七〇二二一

独逸共産党大会——第十二回プレナム決議の実行に

関して 一二〇〇一二六

第一二九号 一九三三(昭和八)年四月

カール・リープクネヒトハウス前における国民社会

主義独逸労働者党の挑戦とその教訓

全聯邦共産党中央委員会及中央統制委員会合同總會

エルンスト・テールマン 一二六〇一三三

彙報

一三四〜一六七

第一三〇号 一九三三（昭和八）年五月

中国共産党及其の附属機関組成分子／社会主義建設の
真相を知らしむる為に！！ソウエート聯邦擁護の為に／

全聯邦労働組合（二）／エッセン会議

全聯邦共産党中央委員会及中央統制委員会合同總會

人事動靜

一六八〜一六九

（二）

一〜三八

雑報

一七〇〜一八二

外国事情

日本に於て如何して排米感情が助成せられて居るか／

独逸 ヒットラー内閣の施政実況 三九〜一五五

西伯利亚に於けるパルチザン運動／印度ミラーラット被

中華民國 支那ソウエート政権樹立運動についての考

告人への判決／一九三二年一月キム執行委員会總會

察 一五五〜一九七

の総合決議／世界革命博物館建設に關し出品方勧誘／

北米合衆国 アメリカ農民の窮状 一九八〜二〇六

國際反戦委員会の決議／國際反戦委員会の極東事情調

研究資料

査委員派遣決議／警察権と街頭示威運動、巴里に於け

独逸に於ける出国査証の一時的復活 二〇七〜二一一

る取締法成功／ファシストの祝賀及び革命展覽会開催

彙報 二二二〜二三九

／反ファシズムの國際的闘争の為に！！仏、独、波共産

党共同宣言

労働赤軍十五週年記念日を迎へるに當りて／共營農場

埋草

スペイン革命的社會党共産党に加入す 一六九

の強化についてソ聯中央執行委員会決議／独逸社会民

主党の危機／伊太利に於けるファシショ独裁十ヶ年の

成果（エム・ニコレッツチ）

附録

ロシア共産党並に共産インターナショナルの史的発展

人事動靜

二四〇〜二四二

（五）

雑報 二四三〜二六〇

一八三〜二〇五

日本プロレタリアを援助せよ／日本の世界戦争準備

(片山潜) / 同志上田及び岩田を記念して / 英紙の我
 国反動思想に関する論調 / 日本及支那に於けるキム支
 部 / カール・マルクス五十年祭の状況 / 一九三二年中
 浦塩斯徳市に於ける共産党新入党者数 / ヒットラーの
 四ヶ年計画 / 独逸労働者及独逸共産党同志に送る伊太
 利共産党中央委員会の檄 / 「ローマ進軍」よりヒット
 ラー内閣の成立まで (エルコリ)
 埋草

波蘭の情勢と共産党

三七

政府及び州同盟間の大軋轢

二〇五

西班牙の不穩

二〇五

第一三二号 一九三三 (昭和八) 年六月

全聯邦共産党中央委員会及中央統制委員会合同總會

(三)

一〇 四五

外国事情

ソウエート聯邦

共産党の成果欠陥及び其の任務

ピヤトニツキー 四五〇 六六

国際情勢と我等の任務

六七〇 七二

独逸

独逸に於けるメーデーの状況

七二〇 八七

ヒットラー内閣成立直後に於ける独逸の情勢

八七〇 九三

独逸の現状に関しコミンテルンより發せる社会民主

主義諸政党への共同戦線提議及之が反響

九三〇 一〇三

ヒットラー政府の労働組合に対する行動

一〇三〇 一一一

「統監法」

一一一〇 一一四

ファシズムかコムニズムか?

一一四〇 一二一

仏蘭西 フランス共産党の組織状態

アロワイエ 一二一〇 一二三

北米合衆国 米国共産党第十六回中央委員会決議

一二四〇 一三七

彙報

一三八〇 一七四

赤衛軍創立十五週年 / 党清掃に関する党中央委員会

並に中央統制委員会の決議 / ユダヤ人ボイコット / フ

ランスに於ける官公吏の運動と改良主義指導者の策謀

／英国に於ける階級戦囚人／ミラット囚人を釈放せよ／各国のメーデー状況

人事動静

一七五〜一七六

雑報

一七七〜一九七

国民禦侮自教会組織／満洲国政府の国外在留民仮登録

規則公布／ソウエートコルホズのブラツクリスト、政府当局の苛酷なる処分／国民革命／独逸赤色救援会プレス／総選挙を終へて／反ファシストヨーロッパ大会の準備及之に関する統一労働総同盟の檄／希臘国共産

黨員動静／倫敦反戦会議状況／米国ミネソタ州知事の私有財産没収威嚇／加洲プロレタリア文化同盟、宣言

―綱領―規約サークル細則

埋葬

印度における非軍事的抵抗

ロシアの食糧欠乏

ブルガリヤと共産党

附録

ロシア共産党並びに共産インターナショナルの史的発展(六)

在京外交団員名簿

一九九〜二三四

一九九〜二五二

第一三二二号 一九三三(昭和八)年七月

国民社会党の突撃隊概況

一〜三九

外国事情

ソウエート聯邦

共産インターナショナル第十二回執行委員会プレナムの結果と共青インターセクションの勤労青年獲得闘争任務に関する同志チェモダノウの報告について

メトロポリタン・ウイツカース会社技師逮捕事件

ソウエート聯邦に於けるメーデー祝辞

独逸 ヒットラー内閣の施政実況(其の二)

仏蘭西

仏蘭西に於ける労働階級の革命的統一戦線の為に

反ファシストヨーロッパ大会

四一〜五〇

五一〜六一

六一〜七一

七二〜九二

九二〜九八

九八〜一〇五

西班牙 スペイン共産党拡大中央委員会

一〇五〜一〇八

英吉利

英国に於けるファシズム

一〇八〜一一二

両インターナショナルと共同戦線

一一二〜一一八

愛蘭共産党の設立

一一九〜一二〇

研究資料

機密国家警察部創設ニ関スル法律

一一一

政治警察部創設に関する訓令

一一二〜一二六

独逸国民保護に関する大統領令施行細則(第二次)

一二七

県郡警察官庁の権限決定ニ関する一九三一年十月一日

及ヒ一九三三年三月二日命令ニ対スル追加規定

一二七〜一二八

政治暴力行為取締法

一二八〜一二九

国民的標章保護に関する法律

一二九〜一三一

共産党財産ノ没収ニ関スル法律

一三一〜一三二

大同二年六月十七日満洲国民政部令第八号「外国人入

国取締規則」

一三二〜一三三

彙報

一三四〜一七三

日本共産党出版物の検討／日本軍事機関内の不満／向

上しつある日本に於ける革命運動／中共及青年団全

体同志に告ぐる書／州、地区及び下級党清掃委員会に

対する中央清掃委員会指令／清党に就て／ジノウイエ

フ及カメネフの党復帰に関する声明／印度に於ける政

治犯の状態／ナチスの猶太人排斥運動に関する英紙の

断片／フランスに於けるメーデー

人事動静

一七四〜一七八

雑報

一七九〜一八六

沿海州ソウエート黨員学校の内容／国際革命演劇オリ

ンピアード／ソウエートロシアゲー・ペー・ウーの拷

問状況(ブイ・チャーナビン)／ソウエート農民の進

退両難／ロシアの浮浪児童／印度に於ける非軍事的抵

抗／シヤム国親日傾向と華僑入国制限に依る入国金改

定／瑞西国政府の党服着用禁止に関する緊急命令／共

産主義と英国労働界／ソコルニコフの任命／愛蘭に対

するコミンテルンの計画／独逸に於ける敵しい社会主

義取締

埋草

独逸建築家の見た日本の皇室

四〇

暹羅国の最近に於ける親英仏的政情 一七三

抗日華僑被逐帰国団後援会籌備会宣言 一七八

第一三三三号 一九三三（昭和八）年八月

ヒットラー内閣の施政実況（其の三） 一〇四四

外国事情

ソウエート聯邦

ソウエート露西亜に於ける政治警察ゲ・ペ・ウ 四五〇

ソ聯現下の工業状態 六五〇

最近に於けるソウエート農村の党活動 六九〇

独逸

職業建設と独逸労働戦線根本思想 九一〇

独逸

ライ 九一〇

独逸労働組合のファッショ化と労働者階級の統一戦

線獲得闘争 ロゾフスキー 一〇四〇

ヒットラーとライパルト 一一六〇

奥地利 オーストリア共産党の禁止 一二五〇

英吉利

英吉利

反戦大会状況 一二八〇

国際労働擁護会 一四〇〇

英国緑シャツ運動の目的 一四四〇

愛蘭自由国の総選挙と愛蘭共産党の任務 一四八〇

北米合衆国 米国革命的青年運動の諸問題 一五三〇

研究資料

独逸に於ける政治社会各種運動の取締制限 一六一〇

研究資料

独逸国民経済妨害に対する法律 一六三〇

彙報 一七三〇

日本共産党機関紙に対する批判（其の二）／新なる挑

戦計画を失敗せしめよ（片山、岡野、山本）／非合法

共産党党アクチヴの予備について／農村に於ける独逸

ファシズム／教育大会に於ける内相フリックの施政方

針演説／八月一日、戦争及び対ソ対支干渉反対の国際

闘争日！／フランス、デモクラシーのファッショ化／

メールート事件宣告に対する英国共産党の批判

人事動靜

二〇六〜二〇七

雜報

二〇八〜二二四

投降した共産軍宣伝科長陳小鵬の共産軍の内容に関する筆述／ソウェート聯邦国家機関の改造／日本左翼劇

場関係者の行動／ソウェート聯邦と英人技師／孟買に於ける港務関係者の取扱振／トロツキー氏歐洲に來り

て独逸共産党反対の活動を強化せんとす／C・G・T

・U執行委員会の決議／農民土地相続権の發生／労働組合加入に關し独逸労働階級に告ぐ！独逸労働戦線の

結成！／反ファシスト欧羅巴大会／奥国の国民社会党

禁止令／米国税関吏の外国船舶に対する同国品強制

附録

ロシア共産党並に共産インターナショナルの史的発展

(七) 二二五〜二五八

第一三四号 一九三三(昭和八)年九月

ヒットラー独裁完成の経緯大要 一〜四八

外国事情

ソウェート聯邦

清党に關するカガノーウィツチの演説

四九〜六五

コミンテルン二十一ヶ条

オ・ピヤトニツキー 六六〜八五

労働人民委員部機能を継承せる全聯邦労働組合中央

評議會及労働組合の諸任務

シュベルニツク 八五〜八九

ソ聯邦憲法制定十周年

蘇聯極東地方の一般状況 八九〜九四

蘇聯邦農業五ヶ年計画の成果と一九三三年度共産党

計画案 一〇〇〜一一〇

コミンテルン機関紙に現はれた日本事情

一一〇〜一三六

赤色労働組合インターナショナル誌に現はれたる日

本事情「非常時」 一三六〜一四六

独逸

ヒットラー内閣の施政実況(其の四) 一四六〜一七〇

独逸ファシズムの對外政策問題に対するジノウイエ

フの批判 一七〇〜一七九

国民社会主義国家における農業婦人の任務

仏蘭西 仏蘭西共産党中央委員会 一七九〜一八二
一八二〜一八四

英吉利 愛蘭の現状 一八四〜一八六

研究資料

独逸宣伝省の組織権限 一八七〜一九七

独逸ニ於ケル市民権取得取消及ヒ国籍剝奪ニ関スル法律 一九七〜一九九

独逸ニ於ケル市民権取得取消及ヒ国籍剝奪ニ関スル法律 一九九〜二〇〇

国民投票ニ関スル法律 二〇一

新政党樹立禁止法 二〇一〜二〇二

米國ニ於ケル公文書保護法制定ニ関スル経緯要領 二〇二〜二〇四

二〇五〜二三二

彙報

ソ聯邦検事局設置／平和主義の名に於て行はれる各種

非愛國反軍事運動／国民社会党員突撃隊員銃隊員に

与ふるヒットラーの告諭／アムステルダム・インター

の分裂／英国共産党と日本帝国主義

人事動靜

二三三〜二三五
二三六〜二五二

米國人の観た五・一五事件／荒木に奉仕する二煽動者

／帝都に於ける支那留学生等の反日左傾運動／蘇聯邦

の承認問題／浦潮に於ける教育機関／第一回極東コル

ホズ農大会決議／ミラット被告の控訴に対する判決

／ガンヂの新戦術／国際教育勤労者大会並同社会主義

者大会状況／国際青年デーを九月一日に変更／英国独

立労働党の共産党への回答／英人技師の釈放／米國反

帝国主義聯盟

第一三五号 一九三三（昭和八）年一〇月

モツプルに就て スタツソヴァ 一〜一八

外国事情

中華民國

国民党支那に於ける農民革命運動と支那共産党の任

務 エフゲニイ・クオ 一九〜二九

中国紅軍と蘇聯邦との聯絡状況

モリソン 二九〜三四

ソウェート聯邦

第一次五ヶ年計画の成果 三五〜四一

雜報

蘇聯極東地方の状況 四一〜七〇

ポリシエウイキー党の三十ヶ年 七〇〜八八

露西亜フアシズム党小綱領 八八〜一〇〇

独逸

ヒットラー政府の社会的術策の問題

一〇〇〜一一〇

独逸社民党とフアツシヨ独裁 一一〇〜一一三

仏蘭西 巴里に於ける教職員大会 一一三〜一一七

北米合衆国

独逸に於ける猶太人迫害に対する紐育地方の反対運

動 一一七〜一二二

太平洋の要害布哇 片山 潜 一二二〜一三四

研究資料

ユダヤ人排斥問題に就いて 一三五〜一四六

彙報 一四七〜一六八

佐野鍋山の転向に就いて／蘇聯邦を脱出せる同国人を

巡つて／根拠地としての小笠原諸島、恐らく海軍前衛

地／浦塩港出入外国船舶に対し特別法制定実施

人事動靜 一六九〜一七一

雑報 一七二〜一九〇

国際海員倶楽部のアドレス／哈爾濱に於けるフリー

メイソンの活動／私人の語る蘇聯邦の状況／蘇聯邦農

民は彼等を解放に導く日蘇戦争の勃発を待望す／仏国

前首相エリオ氏の訪露／反戦青年世界大会／ニユルン

ベルク党大会に於けるゲツベルスの演説／理想的共産

主義者の順番が来た／歐羅巴勤労青年に発せる反フア

シスト歐羅巴青年大会の檄

埋草

南支に於ける英米の航空機販売状況並英国の航空学校

設立計画説 一八

第一三六号 一九三三(昭和八)年二月

ヒットラー内閣の施政実況(其の四) 一〜四五

外国事情

中华民国

支那ソウエート政権の経済政策

ワン・ミン 四五〜六一

蔣介石の剿共施設

支那のフアツシヨ藍衣社の活躍 六二〜七二

ソウエート聯邦 蘇聯邦政府機関紙の報せる日本事情

七七〜 九三

独逸 独逸プロレタリアートの反ファッショ闘争

九三〜一〇六

奥太利 オーストリアの情勢と共産党の任務

一〇七〜一一一

英吉利 英帝国主義の反ソウエート政策並に英国プロ

レタリアの抗議運動 一一二〜一一九

莫報 一九一八年の日本米騒動の十五周年(片山潜)／上海

の赤色テロと白色テロ／間島地方に於ける共産党の発

展史／英国警察制度の一大変革、軍隊化は政府当局の

思想運動弾圧の権謀術策／ストライキ闘争の新形態に

ついて 一六二〜一六四

人事動静 一六五〜一八〇

雑報 満洲に於ける冒険は日本政府の責任なることを証明す

る文書／満洲に於ける日本帝国主義／ソウエートと満

洲／脱出蘇聯邦人の語る蘇聯の農業状態／共産党主義

者逮捕／蘇聯労働組合五人組の検挙と五人組の組織／

独逸

蘇聯と米國／巴里「ソウエートの友の会」の状況／米

國共産党創立第十四年祭

埋草

世界大船主(一九三三年六月ロイド調査) 四四

労農赤軍の戦闘技術を例の社会主義競争で鍛練 一一九

共産党と英国独立労働党 一六四

第一三七号 一九三三(昭和八)年一二月

ヒットラー内閣の施政実況(其の五) 一〜二三

外国事情 中華民國 支那の政治状況と中国共産党の任務

ソウエート聯邦 コン・シン 二五〜 三九

ソウエート聯邦 ソ聯邦政治警察オ・ゲ・ペ・ウの組織と内情

ゲ・エス・アガベークフ 四〇〜 五四

コメンテルン機関紙の報せる日本事情 五四〜 六九

独逸

独逸

独逸フアツシスト統治の五ヶ月

ヴァイク・パーカー 六九〜七六

国民社会主義独逸とその平和への使命

七六〜八四

仏蘭西

反戦反フアツズム世界青年大会 八四〜九九

労働総同盟、統一労働総同盟の大会 九九〜一〇四

英吉利 コミンテルンと独立労働党 一〇四〜一一〇

北米合衆国

米共産党第十四回記念大会 一一〇〜一二一

米共反戦会議の状況 一二一〜一二七

研究資料

全国文化協会法（*独逸） 一二九〜一三四

法律平和保障に関する法律（*独逸） 一三五〜一三六

新聞記者法（*独逸） 一三六〜一四三

彙報

片山潜の死亡／片山潜の葬儀に於ける日本共産党代表

岡野某の弔詞／アンリ・バルビユース並にロマン・ロ

ランに寄する片山潜の書翰／露領方面に於けるラヂオ

放送／蘇聯邦見聞記／中、露共産党代表会議開催

人事動静

雑報 一六四〜一六七

ソウエートの友の会の第六周年／露西亜フアツシスト党

の小沿革／ソウエート聯邦擁護の為大衆運動を組織せ

よ／米国に紹介された日本のプロ文学／露領方面に於

けるラヂオ放送聴取状況

埋草

沿海州に於ける清党状況 二三〜二四

全聯邦共産党第十七回大会の開催期日及びその議事日

程 一二七〜一二八

莫斯科の失策 一二八

コムソモールに関する統計 一四三〜一四四

印度に対する共産主義宣伝 一六七

附録

アムステルダム組合官僚大会の総果 一七五〜一九〇

第一三八号 一九三四（昭和九）年一月

ヒットラー内閣の施政実況（其の六） 一〜二九

外国事情

満洲国

最近の満洲国の治安問題

三一〇 五一

北満の白系露人政治団体の概況

五一〇 七三

ソウエート聯邦

プロレタリア革命の第十七年を迎へて

七三〇 八七

社会主義経済の組織者たる全聯邦共産党

ヤロスラフスキー 八七〇一〇一

ソ聯共産党機関誌の報道せる日本事情「新しい冒険

に遭遇せる日本帝国主義」 一〇一〇一〇一

独逸 独逸の現状と独逸共産党の任務

一一〇〇 一二七

英吉利 英国に於けるストライキ闘争

一一二八 一三八

研究資料

機密国家警察ニ関スル法律（*独逸） 一三九〇一四二〇

彙報 一四三〇一七〇〇

現下の日ソ関係と将来の日ソ関係の展望／十月革命記念日に際して（モロトフ）／米国軍部の軍事根拠地労働者に対する虐待

第一三九号 一九三四（昭和九）年二月

最近に於けるソ聯共産党の活動

一〇 三五

人事動靜

雑報

一七一〇一七三

日本に於けるプロレタリア闘争の現勢／荒木中將を盟主とする四名の者が日本を支配し布哇の急遽占領を策す（テイモシイ・オ・コンロイ）／五・一五事件公判

と独逸国会議事堂放火事件公判／極東地方住民の負担軽減に関するソ聯人民委員會議及びソ聯共産党中央委員会の布告及其反響／片山潜の葬儀／国際新聞會議／比律賓の独立

埋葬 一七五〇一九六

コムソモールの任務に就て 二九〇 三〇

南京政府外交文書伝送規則 一四一〇一四二〇

ソ聯旅行者の談 一七三〇一七四〇

附録

ロシヤ共産党並に共産インターナショナルの史的発展

（八） 一九七〇二一六

第一三九号

附録

（八）

一九七〇二一六

第一三九号 一九三四（昭和九）年二月

最近に於けるソ聯共産党の活動

一〇 三五

一〇 三五

外国事情

ソウエート聯邦

全聯邦共産党の組織改正 三七〇 六一

ソ聯邦に於て発行する新聞紙及雜誌類の状況

六一〇 六六

印度 印度に於けるストライキ闘争 六六〇 七七

伊太利 伊太利の情勢と共産党の任務 七七〇 八八

独逸

独逸の現状と独逸共産党の任務 八九〇 九六

フランスより見たる独逸の軍備 九六〇 一〇三

北米合衆国

玖瑪に於ける革命的新局面 一〇三〇 一一一

米国共産党の見たる玖瑪騒乱の全貌及全米反戦大会

への反響 一一一〇 一二七

研究資料

プロシアに於ける外国人取扱に関する警察命令

一一九〇 一五五

独逸国民労働調整ニ関スル法律 一五五〇 一七六

独逸に於ける新聞記者法関係法令 一七六〇 一九二

彙報 一九三〇 二二五

ソ聯邦に於ける下級機関の強化／非合法活動問題／国

會議事堂放火事件公判の法律的觀察／国会會議事堂放火

事件の判決／全米反戦大会の状況／国民社会主義的銀

行改革

人事動静 二二六〇 二二八

雜報 二二九〇 二四四

「赤旗」の資金は如何にして集めらるるか／上海に於

ける米蘇両国系露字新聞発行計画／藍衣社の外廓機関

「上海市忠義会」の組織／ソ聯極東地方住民に対する

負担軽減の布告発表の原因／ソ聯共産党極東地方委員

会幹部改選／蝕ばまれたる蘇聯邦農民当面の小康／新

任ロシヤ共産党中央執行委員会／ソ聯邦モツプル会則

／波斯帝国の安全及独立反対者処罰法／ヒットラー新

年に際し黨員に檄す／極東派遣代表の帰来と上海會議

の結果／駐米外国代表者屈出規定の適用例／帝政露国

記念日創設

埋草

満洲国公使館の満洲国帝政実施に関する声明書発表

三五〇 三六

コミンテルン第七回大会招集 一一七〇 一一八

国際共産青年同盟執行委員会総会

一一八

附録

ロシア共産党並びに共産主義インターナショナルの史的発展(九)

二四五〜二七七

第一四〇号 一九三四(昭和九)年三月

ヒットラー内閣の施政実況(其の八)

一〜四〇

外国事情

ソウェート聯邦

赤色沿海州

四一〜五一

コミンテルン執行委員会第十三回総会

五一〜六八

ソ聯邦中央執行委員会第四回会議

六八〜一〇三

独逸 ヒットラーの第一年

一〇三〜一一三

仏蘭西 巴里の暴動

一一四〜一二二

埃太利 オーストリアの動乱

一二二〜一二五

西班牙 スペインに於ける革命的組合反対派の状況と

その展望

一二五〜一三二

英吉利

近代武器と革命

一三三〜一四二

愛蘭の独立運動

一四二〜一五〇

南亞米利加 南米を繞つての帝国主義闘争に於ける新

要素としての日本

一五〇〜一五七

研究資料

独逸映画法

一五九〜一六六

彙報

中国ソウェート区經濟建設大会の状況/イデル・ウラ

一六七〜一九六

ルの独立運動/全国各地の教育界の情勢/米国及加奈

陀太平洋沿岸地方に於ける入国取締の概況/英国独立

労働党に与ふ

人事動靜

一九七〜一九九

雜報

二〇〇〜二一八

上海に於けるウクライナの独立運動/ソ聯邦の極東住

民に対する特典再布告/莫斯科赤軍の第十七回党大会

祝賀デモと陸海軍人民委員ウオロシーロフの演説/第

十七回共産党大会に於けるモロトフの開会の辞/宣伝

相ゲツベルスの反動分子弾劾演説/ナチス政府成立一

周年紀念日に於ける内相フリックの檄/国際婦人デー

の状況

埋草

全ソ聯邦党政治局員コシオールの対日アヂ演説

一五七〜一五八

附録

ロシア共産党並びに共産主義インターナショナルの史的発展(十)

二一九〜二五五

第一四二号 一九三四(昭和九)年四月

全聯邦共産党第十七回大会

一〜一〇一

外国事情

ソウエート聯邦

ソウエート・ロシア一ケ年の成功 一〇三〜一〇八

コミンテルン機関誌の見たる日本事情

一〇八〜一二六

米国新聞記者のソウエート・ロシア観

一二六〜一三九

仏蘭西 フランスに於けるファツシヨ運動

一三九〜一四九

奥太利 維納の教訓

一四九〜一五四

西班牙 西班牙武装労働者ファシズムブロックに対する抗争、動乱

一五五〜一五八

英吉利

英国に於ける「ファツシズム」発達の特徴

一五八〜一六七

英国帝国主義の現在の戦争政策

一六八〜一七三

北米合衆国 米国共産党、N・R・A、米国社会党、

三角関係

一七三〜一八〇

研究資料

独逸機密国家警察に関する法令

一八一〜一八五

全聯邦共産党統制委員会及びソウエート統制委員会規則

一八五〜一九四

彙報

紅軍の情勢／コミンテルンの日本軍隊内赤化宣伝並にコミンテルンの対日活動／極東特別赤軍司令官「ブ

リユツヘル」の極東情勢観／第十七回ソ聯共産党大会

カリニンの閉会の辞／英国のミリタリズムと学生／

スタウイスキー事件／青年大衆のファツシヨ化及び軍

国主義化と諸国共産青年同盟の任務／コミンテルン執

行委員会第十二回総会后、諸国共産党の労働婦人大衆

中に於ける活動／来るべき世界新大戦及び米国大建艦
計画に対するレーニンの予言及びレーニン主義と現今
の国際情勢／蘇聯女間諜の策動

人事動靜

雜報

日本に於けるユダヤ人／満洲国の組織其他に就いて／
極東露領に於ける反共産主義運動／ソウエート聯邦政
府機関紙イズヴェスチャ編輯長の更迭／蘇聯邦総領事
館の邦人に対する通過査証取扱変更／第十三回コミン
テルン執行委員会総会の採択せる決定及報告／奥太利
とナチス／国家改造法に関する内相フリックの講演／
国外移住者名簿／ダンチツヒに於て独逸共産党の秘密
運動発覚す／火十字聯盟の年次大会／米国に於けるフ
リーメイソン／米国軍部愛国的侵略主義貫徹の準備週
間
埋草
漢堡に於ける行政組織の变革
ソ聯邦水運人民委員の更迭
満洲国境に於てソ聯特別大演習挙行

二三八〜二四一
二四二〜二六〇

第一四二号 一九三四（昭和九）年五月

独逸の現状と共産党の任務

外国事情

中華民國

中国ソウエート政権を目指して闘ふ労働組合

李 民 一五〜二四

「コミンテルン」執行委員会主席団より中国共産党

に与ふる書

二四〜四三

ソウエート聯邦

コミンテルンの十五箇年

オ・ピヤトニツキー 四三〜六四

ソ聯共産党機関誌所載日本事情

岡 野 六四〜八三

五ヶ年計画と労働者農民

八三〜八六

蘇聯邦オ・ゲ・ペ・ウの監獄及裁判制度

ウラヂミール・ブルノウスキー 八六〜一〇五

ソ聯沿海州及び浦塩の状況

一〇五〜一〇九

独逸 最近に於ける独逸労働戦線

一一〇〜一二六

一〜一四

埃太利 オーストリアに於ける二月蜂起の教訓

一二六〜一三二

伊太利 ローマに於けるファシスト大会

一三二〜一三七

西班牙 スペインの不安

一三七〜一四二

英吉利 英国の農村に於ける階級闘争

一四二〜一五一

研究資料

瑞西聯邦に於ける治安維持法

一五三〜一六四

彙報

外国人登録規則

一六五〜一七〇

布施氏との腹藏なき対話（カール・ラデツク）／朝鮮

一七一〜二二四

共産党行動綱領／広汎に用ひられつつある新罷業闘争

戦術／党の潜行運動への転向に関する諸問題（リフテ

エル）／何故にアルテルは現状勢下に於てコルホズ運

動の唯一の正しい形態であるか／改良主義的労働組合

及びファツシヨ系労働組合内に於ける活動の決定的改

人事動靜

二二五〜二三二

雜報

二三三〜二七二

コートトネイー・テリルの談

中国「ソ」区内に於ける紅軍家族優待／剿匪地区内の

取締及防務機関の統一／ソ聯邦中小学校生徒及びピオ

ネールに対し社会政治学的課題の廃止／海防港船客税

／世界のプロレタリアへ／ソ聯攻撃の日本の戦争準備

計画を独逸諸新聞激賞す／白系運動は亡びず／脱出ソ

ウエート飛行家ドミトリエフの談／国立新聞記者養成

大学の改造（ノデーリ）／権力獲得闘争を指して／

我ソウエート領土を敵に跨がすな／パリに於ける旧出

征軍人全国大会／ベルギーに於ける新治世と共産党／

埋草

ナチスベルリン支部会議に於けるゲツベルスの演説／

米国内に於ける共産党の活動に関するマシユー・ウオ

ルの記事／北滿に於けるゲ・ペ・ウの状況／ビロビジ

ヤン猶太民族小区が猶太自治州となる

「日本帝国主義者は黒人を解放しない」と桑港「労新

の夕」で語った同志ラストン・ヒューズ 一四

スパイ狂日本の外人に対する猜疑 一五一〜一五二

附録

ロシア共産党並びに共産主義インターナショナルの史的発展(十一) 二七三〜三二三

第一四三号 一九三四(昭和九)年六月

独逸国民社会党史の研究(一) 一〜三八

外国事情

中華民国

コミンテルン執行委員会第十三回拡大総会に於ける支那代表王珉の演説 三九〜五九

中国紅軍の闘争 五九〜七四

中華ソウエート第二次全国代表大会状況 七四〜九〇

ソウエート聯邦 プロフィンテルン機関誌の見たる日

本事情 田中 九一〜一〇三

伊太利

一九三三年末期に於ける伊太利の経済的情勢

一〇三〜一〇六

伊太利の組合国家実現 一〇六〜一一二

独逸

国民労働調整法の問題 一一三〜一二四

ヒットラー地獄 一二四〜一二七

北米合衆国 米国共産党の第八回大会に提起する決議案 一二七〜一四六

研究資料

奥国新憲法抜萃 一四七〜一五二

彙報 一五三〜一七二

日、支、仏、奥、独諸国に於ける共産党機関紙の活動

状況／労働赤軍の状況／独逸国民——独逸労働博覧会

開会式に於けるゲツベルスの開会の辞／仏蘭西の諸党派——相競ふ愛国諸団体／公然ドルフスの独裁と成る

／英国集合収容所(ファイルポット)／米国民衆の實際

行動

人事動静 一七三〜一七六

雑報 一七七〜一九二

蘇聯邦作家同盟大会／コミンテルン執行委員会の発せ

るメーデーの檄文／メーデー当日赤色広場に於けるソ

聯邦陸海軍人民委員ウオロシロフの演説／各国に於

けるメーデーの概況／秘密国家警察博物館訪問記／エ

ナン——リエタールに於ける王党の集会と社会党及び
共産党の襲撃／国家財政再建に対する旧出征軍人の協
力と官公吏の運動／国防軍とナチス突撃隊の關係
埋草

米領アリユーション列島視察談 一四五～一四六
ファシスト組合制度の仏蘭西に於ける評判 一五一～一五二

ソ聯邦刑法の国事犯に対する規定補足 一七二
コミンテルン第七回大会日程 一七六

附録

ロシア共産党並びに共産主義インターナショナルの史
的發展(十二) 一九三～二一二
コミンテルンと革命運動年表抄 二一三～二三八

第一四四号 一九三四(昭和九)年七月

独逸国民社会党史の研究(二) 一～六八

外国事情

ソウエート聯邦

最近に於けるソウエート聯邦の諸事情

内務人民委員会の設置と合同国家保安部の廃止 六九～八五
八五～九一
コミンテルン機関誌の報ずる日本事情 九一～九八

赤衛軍内党組織の改正 九九～一〇八
軍隊内の共産党の活動に就て 一〇九～一一六
全聯邦共産党及同共産青年同盟の組織改造について 一一六～一三一

波蘭 ポーランドに於ける階級闘争の尖鋭化と革命的
組合運動の諸問題 一三一～一四〇

独逸

所謂レーム陰謀事件に就て 一四一～一九〇
プロレタリア革命家グレゴリ・デイミトロフと対独
逸ファツシズム闘争 一九〇～一九八

仏蘭西 仏蘭西共産党の情勢 一九八～二〇八

英吉利 英国労働党の真相 二〇八～二一四

研究資料

澳地利新憲法

蘭領東印度入国令改正令説明書 二一五～二五六
二五六～二七〇

彙報

二七一〜二八九

レナムの決議の一般化とその実行に就いて

新世界戦の前日／極東に於けるナチス党支部機関紙の

二五〇 四五

一年／伊太利の新制度／伊太利に於ける組合設立命令

伊太利 ファッシズムと伊太利青年 四五〇 五一

／伊太利に於けるファシスト大衆組織中に於ける階級

独逸 N・S・D・A・P (国民社会主義独逸労働党) 東

闘争の進展／仏蘭西各地に於ける極右派對極左派の闘

争 宿命の制度 一九三三年度概報 五二〇 六五

人事動静

二九〇〜二九一

独逸に於ける諸事件の真相 六五〇 六九

雑報

二九二〜三〇二

軍需品原料を求めてファッショ独逸の戦争準備 七四〇 七八

蘇聯邦内務人民委員部設置／ソウエートの懲罰制度／

西班牙 西班牙共和国の危機 七八〇 八一

蘇聯邦作家同盟大会日程／第七回國際プロレタリア協

英吉利 英国労働党とオリムピア事件 八一〇 八五

調デー／ヴァンセンヌに於ける反戦反ファシズム示威

ロザミーヤ卿とサー・オスワルド・モズリー 八六〇 八八

／公の集会の秩序／倫敦オリムピア (ビル) に於ける

英国挙国政府のファッシスト的動向 八九〇 九一

ファシスト集会／ファッシズムと法律／一党国家の誤

北米合衆国 米国に於ける仲仕船員争議 九一〇 九五

謬／法廷に於ける労働者の自衛

第一四五号 一九三四 (昭和九) 年八月

独逸国民社会党史の研究 (三)

一〇 二四

外国事情

研究資料

ソウエート聯邦 コミンテルン執行委員会第十三回プ

独逸に於ける刑法及刑事手続規定一部の改正

彙報

一〇七〜一二〇
一二一〜一五八

日本の空軍／支那のファツシヨ団体藍衣社の近状／支

那に於ける新生活運動／国家保安部（O・G・P・

U）の廃止／ソウェート国家保安部（O・G・P・

U）の終焉／全聯邦内務人民委員部の設置／現下の財

政及労働情勢と新世界戦争／独逸の通商／仏蘭西共産

党全国会議に於けるレイモン・ギヨの報告

人事動静 一五九〜一六〇

雑報 一六一〜一七四

印度の共産主義／第七回聯邦ソウェート大会の召集と

大会日程／新任のナチス突撃隊総司令ビクトール・ル

ツツエ氏の抱負に就て／仏蘭西共産党ドリオを除名す

／サン・ドニに於けるファツシズム／カリエール・

スー・ボアに於ける王党派の屋外集会／市俄古警察の

サード・デグリー（拷問）（リース・スミス）／仏ソ接

埋草

ナチス機関誌記事 一〇五〜一〇六

ソ聯邦刑法の改正補足 一二〇

日本から西伯利線經由旅客数並にソ聯鉄道と日本鉄道
との分前 一五八

北滿在住ソ聯人引上状況 一六〇

附録

東亜（支那、日本に於けるナチス運動の概況 一七五〜一八八

第一四六号 一九三四（昭和九）年九月

独逸国民社会党史の研究（四） 一〜二四

ヒットラー内閣の施政実況（其の十） 二五〜六四

外国事情

ソウェート聯邦

ソウェート聯邦作家大会 六五〜一〇二

コミンテルン及プロフインテルン機関誌の報道する

日本事情 一〇二〜一三五

独逸 オーストリア国民社会党の叛乱

一三六〜一六二

仏蘭西

仏蘭西に於ける旧出征軍人団体の近況

一六三〜一六九

仏蘭西に於ける社会党及び共産党の協調実現

一六九〜一七二

北米合衆国 ミルウォーキー市電車従業員罷業の教訓

一七二〜一八〇

彙報

一八一〜二二一

強力政権を希求する日本金融資本／中国民族対日作戦の基本綱領及之に対する論争／中国白色区域内に於ける革命運動の発展と中国共産党の任務／二十年の教訓

／ルーマニア国に於けるナチス系団体解散／突撃隊の機構改革に関する突撃隊新総司令ルツツエの意見／ナチスの囚人取扱

雑報

二二二〜二四〇

印度の国民党／馬來聯邦居住本邦人に外国人登録法適用／伊太利に於ける婦人勤労者大衆の地位と反戦闘争

／ファッシズムの破産／独逸労働者の悲境／巴里の警察学校／ロンドン警察官の服装／米国共産青年同盟第七回全国大会

埋草

支那革命作家諸氏に与へたゴリキーの檄

第七回コミンテルン大会召集延期

附録

国民社会主義的世界観念に於ける經濟

アルツール・エル・ヘルマン、アルツール・ニツチュ、二四三〜三〇八

二四一〜二四二

二四二

第一四七号

一九三四（昭和九）年一〇月

独逸国民社会党史の研究（五） 一〜三二

独逸国民社会党史の研究（六） 三三〜九八

ヒットラー内閣の施政実況（其の十二） 九九〜一四〇

外国事情

ソウエート聯邦

プロレタリア独裁と社会的財産擁護 一四一〜一六五

ソ聯労働組合の組織改造 一六六〜一八二

全聯邦ソウエート第七回大会及びソウエート改選 一八二〜一九一

資本主義国軍隊内に於けるコミンテルンの工作 一九一〜二〇五

独逸 独逸の謎 二〇五〜二二二

西班牙 西班牙の動乱 二二二〜二二九

英吉利 英国ファッシズムと労働党 二一九〜二二四

研究資料

独逸労働戦線組合員関係準則 二二五〜二四二

彙報 二四三〜二七三

出版物「日本」／伊太利に於けるファシスト指導者逮

捕の政治的意義／ナチス文化闘争団体の統制とその基

礎工作／ハイド・パークに於けるファシスト及び反

ファッシストの対立集会／米国共産党中央委員会の全

米的罷業問題に関する解剖論／国際労働防護団の綱領

と其の工作

人事動静 二七四〜二八一

雑報 二八二〜三〇二

モスクワ演劇祭状況／国際革命演劇同盟の通信文／ソ

聯邦極東方面在住労働者の窮状／伊太利に於ける社会

党及び共産党の協力／奥地利は何うなるか／ファッシ

ズムと奥地利労働者／丁抹に於ける制服禁止／マンチ

エスター市に於けるファッシスト集会／マンチエス

ター市警察の対ファッシズム戦／英国労働組合の政策

／ブラジルに於ける共産主義的罷業運動／共産青年イ

ンターナショナル第六回万国大会／共産主義及社会主

義両「インターナショナル」代表の会見

埋草

陳独秀等に係る共産党事件の上訴審判決 九八

第一四八号 一九三四（昭和九）年二月

一九二六年英国緊急事態ニ関スル諸法令 一〜三八

外国事情

満洲国 中国共産党満洲省委員会と国際共産党との関

係 三九〜四三

ソウエート聯邦

ロシヤに告別して ウイリヤム・

ヘンリー・チエムバリン 四三〜 五二

ロシヤの新国民主義 五三〜 五七

ボルシエヴィズムと戦争

ゲ・ヂノウイエフ 五七〜 九二

一九一四年より一九三四年に至る期間の国際労働運

動概観 ウエ・クノーリン 九二〜一一九

独逸

ビユツケベルクに於けるヒットラーの演説——七十

万農民に寄す 一一九〜一二八

農業食糧相ダツレの農業政策基礎論——保証と調整

一二九〜一三三

仏蘭西 マルセイユ兇變の顛末

一三四〜一四三

北米合衆国 米国西海岸海運界の大罷業に就いて

サム・ダーシー 一四四〜一七五

研究資料

中華民国憲法草案

一七五〜一九二

彙報

日本帝國主義者の新しき挑発／男子修道院の状況／国

一九三〜二〇三

民党の共産黨員自首轉向奨励と共産党人自首法の改正

／通過査証に依る旅行者のソ聯邦滞在／英国労働運動

と不平煽動取締法案

人事動靜

二〇四〜二〇九

雜報

二一〇〜二三二

東京市電従業員ストライキから新しき闘争へ／日本軍

部の進出／第七回ソ聯邦ソウエート大会への代議員数

に就て／「ヒットラー青年」の発達史／英国労働党と

共産党／マンチエスター市に於けるフアツシスト集会

埋草

中華ソウエート共和国臨時政府所在地瑞金の中央軍に

依る収復 三八

第一四九号 一九三四（昭和九）年二月

北滿に於けるソ聯の共産主義運動 一〜三二

外国事情

ソウエート聯邦

ソ聯邦勞農民警（ミリーツイヤ）の制度及職能

三三〜四一

キエロフ暗殺事件の顛末 四二〜五一

切符制度及びマシン・トラクター配給所政治部の廢

止 五二〜八七

赤色ロシヤの後退 カルテンボーン 八七〜九二

独逸 第六回國民社会主義独逸労働党大会に於ける

ヒットラー總統の演説 九三〜一一〇

仏蘭西 仏蘭西の近状 一一〇〜一二〇

埃太利

オーストリア新憲法の第二段階

シユーシユニック 一二〇〜一二七

祖国戦線党の組織

ワルテル・アダム 一二七〜一三一

奥太利の運命

ユーゴスラヴィア マルセイユ凶変とユーゴスラヴ

イア共産党

一三一〜一三八
一三九〜一四三

北米合衆国

第二次米国反戦反ファシズム会議

一四三〜一四九
一四九〜一五八

米国紡績罷業に関する共産党機関紙の社説

一五九〜一八八

第七回コミンテルン大会に対する論壇／第七回コミン

テルン大会に対する国際労働組合運動問題／日本に於

ける反戦闘士の弾圧／中国共産党の通信連絡／米国共

産党創立第十五週年祝賀に対する中央委員会の声明書

人事動静

一八九〜一九〇
一九一〜二一八

雑報
不平煽動取締法案の英国両院通過／独逸の独裁政治／
軍事企業に於ける日本共産党の活動に関する警察記事

／ドイツ内務省機構改革案／ザール地方に於けるナチ

スのテロル／刺客の犠牲／米国に於ける反共産主義運

動の擡頭と其影響／英国ファッシスト首領モズリーの

起訴／日本共産党の東京市失業労働者の共同戦線獲得

闘争／極東ソ領の現況／ソ聯に於ける独逸軍事スパイ

団事件／革命的国際労働組合運動の新任務／来往外国

人の増加

埋草

最近ソ聯邦国民収入の動態

三二

第一五〇号 一九三五（昭和一〇）年一月

最近に於けるソ聯経済状況 一〜 六八

外国事情

中華民国

中国紅軍の情勢 六九〜 九三

中国国民党五中全会の概況 九三〜一〇四

中国社会科学者聯盟の綱領 一〇四〜一一〇

ソウエート聯邦

全聯邦労働組合中央評議会第五回総会の総果

キーロフ暗殺事件 一〇〇～一一六

ソ聯の恐怖政治 一一六～一四五

独逸 一四五～一四八

国民社会主義農業政策の基礎 一四八～一五三

ゲーリングの新ジャーマン法説明 一五三～一五五

仏蘭西 第二十一回アクション・フランセーズ大会 一五五～一六二

英吉利 英国に於けるファシスト運動 一六三～一七五

彙報 一七七～一九八

反戦反ファシズム世界学生大会の開催／ファシズムの犠牲／ザール問題に対するコミンテルン機関紙の論調／ザールに於ける自由戦線と其「現状維持」の為の闘争／日本軍隊に関する露紙の記事／露字紙の見た日本の危機／日本の予算に対する共産インターナショナルの論調（エム・レーウイン）／反日満団体東北協会の章程と職員

人事動静 一九九～二〇〇

雑報 二〇一～二一四

米国のN・R・Aとソ聯の社会主義建設に関するウ

エールス対スターリンの問答／極東ソ領に於ける生活

／ソ聯の文盲退治の成果／中国共匪区内の秘密探偵機関／最近の浦塩市発展状況

埋草

昭和九年上半期（自一月至六月）渡来外人数 六八

中国共産党満洲省委組織系統図 一七六

附録

独逸に於ける政治社会各種運動に対する制限及び取締

（第二輯） (一)～(二〇)

第一五一号 一九三五（昭和一〇）年二月

満洲国に於ける中国共産党の状況（上） 一～三八

外国事情

満洲国 中国共産党満洲省委員会の三箇月計画

三九～四七

中華民国

中国共産党内部の派別状況 四七～五三

中国に於ける共産主義運動取締状況 五三～五六

中国共産党最近の工作方針と上海に於ける活動状況

五六〇 五八

中国民族武装自衛運動

五八〇 六四

中国共産青年団の闘争綱領

六四〇 六六

ソウエート聯邦

第十六回全露ソウエート大会

六七〇 七二

ジノーウイエフ、カメネフ等の告訴状と判決

七三〇 八二

ジノーウイエフとカメネフ

八三〇 八五

独逸

独逸の強制収容所

八五〇 八八

独逸猶太人の近状

八八〇 九一

第三国家改革法案

九一〇 九三

奥地利 奥地利聯邦議会議に於けるシューシュニ

九三〇 一〇四

ツク首相の演説

一〇五〇 一〇七

西班牙 西班牙はファッシストとなるか

一〇七〇 一一一

北米合衆国 コミンテルン第七回大会に提出する米国

共産党の議案

一一一〇 一一一

露西亜社会主義聯邦ソウエート共和国ソウエート及び

ソウエート大会選挙に関する訓令 一一三〇 一一三一

彙報

一三三〇 一四〇〇

独逸と伊太利のファッシズム／反戦反ファッシズム世界

学生大会の声明／全ソ聯共産党中央委員会総会の決議

事項／極東地方若干の企業及小区の改称に就て

人事動靜

一四一

雜報

一四二〇 一五八

中国に於ける革命紀念日／ソ聯に於ける映画祭と上山

草人の入露／ソ聯中央執行委員会所属機関員の氏名／

エチオピア国と日本との関係／満洲国の総人口と在満

外国人の人口

埋草

ソ聯に於ける新聞の種類と発行部数 一一一〇 一一二

ソ聯邦法令解説 一一三〇 一一三二

附録

在京外交団名簿 (一一一) 〇 (一一八)

浦塩市重要機関其他の所在地図

独逸に於ける政治社会各種運動に対する制限及び取締

(第二輯)

(一九) 〇 (六二)

第一五二号 一九三五（昭和一〇）年三月

仏蘭西

仏蘭西に於ける政治的避難者の取扱振

一〇一〜一〇二

満洲に於ける中国共産党の状況（下）

一〜三四

パリに於ける二・六事件の一周年

一〇三〜一〇七

外国事情

満洲国 北滿に於ける露国レジチミスト派の現状とキ

伊太利 伊太利組合制度の活動

一〇八〜一一一

リール皇帝の檄等

三五〜四五

西班牙 西班牙最近の政情

一一一〜一一四

中華民国

八年来の赤匪の騷擾と国軍の清剿経過

四五〜五五

第十三回英国共産党大会

一一五〜一一九

英国自治領に就て

一一九〜一二二

国民党の共産黨員転向誘致策

五五〜六一

研究資料

上海に於ける中国共産党の年関闘争状況

六一〜六四

ソ聯邦に於ける外国人の権利義務

一二三〜一三七

彙報

中国労働協会創立大会の状況

六四〜六八

第七回コミンテルン大会への準備／中国共産黨員の自

一三九〜一五〇

ソウェート聯邦 第二第三両インター提携問題に對す

る露西亜メンシエヴィーキの態度

六八〜七四

首転向状況／キーロフ暗殺事件を繞るトロツキーの反

一五二〜一七〇

瑞典 瑞典の社会主義青年運動

七四〜七七

人事動靜

一五一

独逸

ザール問題の顛末

七七〜九六

浦塩海員倶楽部の近況／米国官憲の英国著作家追放／

一五二〜一七〇

独逸宣伝相の歳末ラヂオ放送

九六〜一〇一

中国江西省南部のソ区視察記（一）

埋草

ソ聯邦貨幣の流通高 一三七〇—一三八〇

ソ聯で大衆的逮捕続く 一五〇

附録

独逸に於ける政治社会各種運動に対する制限及び取締
(第三輯) (六一)〜(九二)

第一五三三号 一九三五(昭和一〇)年四月

一九三三年度に於ける全聯邦共産党の活動 一〜二六

外国事情

中華民國

中国紅軍の情勢 二七〜四三

中国政府の文化建設に関する新宣言 四三〜四八

上海に於ける中国左翼文化団体の活動状況 四八〜五一

暹羅 暹羅の革命

五一〜五四

リスミアニア 在メーメル独逸人の公判とメーメルの現
状 五四〜五八

独逸 独逸の猶太人政策と政治的避難民

埋草

五八〜六九

伊太利

ローマに於けるファシスタ大評議会 七〇〜七九

希臘 ギリシヤの革命 七九〜九〇

英吉利 英国に於けるファシスト運動

九〇〜九二

研究資料

独逸に於ける政治組織及び国民社会党の組織の概観

九三〜一二三

彙報

日本主戦派の活躍／労働組合統一問題／贛東北ソ区並

北上抗日先遣隊の敗亡／ザール人民投票後のモープル

の声明／独立労働党の将来

人事動静 一五六

雑報 一五七〜一七四

独逸語著書「太平洋に戦雲揚る」に対するポリシエウ

イキ誌の論評／歐洲に於ける間諜恐怖熱／猶太人と建

国運動／中国江西省南部のソ区視察記(二)／第二イ

ンター本部の移転

埋草

新疆住民種族数

二六

波蘭治安攪乱者隔離所

九二

独逸断種法実施の状況

一二四

附録

独逸に於ける政治社会各種運動に対する制限及び取締

(九二) ～ (一二八)

第一五四号 一九三五(昭和一〇)年五月

ソ聯邦第七回ソウエート大会(一)

一 ～ 四六

外国事情

中華民國

支那ソウエート闘争経験より

ミフ 四七 ～ 五七

外蒙に於ける労働組合運動

ヤンダク 五八 ～ 六二

印度 新印度政策

レヂナルド・ブリツヂマン 六二 ～ 七〇

ソウエート聯邦

聯邦中央執行委員会第一回會議

七〇 ～ 九三

北鉄の譲渡

九四 ～ 一二二

波蘭 ポーランド新憲法の基礎

一二二 ～ 一二六

独逸 独逸共産青年同盟の全国會議 一二七 ～ 一二九

仏蘭西 仏蘭西社会党の統一戦線維持

一二九 ～ 一三一

北米合衆国 米国共産党細胞及び会員の緊急工作

一三二 ～ 一四一

研究資料

独逸国民社会党の組織に就て

一四三 ～ 一四九

彙報

日本の協同戦線運動に就て／第二インターナショナル

一五一 ～ 一七九

の指導者蘇聯及び共同戦線／中共中央の上海移転説と

新決議

人事動静

一八〇

雑報

中国江西省南部のソ区視察記(三)／スコツツボロー

一八一 ～ 一九二

事件／南露地方に於ける反蘇運動／独逸避難民ヤコブ

誘拐事件の後報／駐日中国公使館の大使館昇格

埋草

ソ聯重要都市名と人口

一四二・一五〇

附録

独逸に於ける政治社会各種運動に対する制限及び取締

(第二輯) (二二七) ～ (二四八)

第一五五号 一九三五(昭和一〇)年六月

ソ聯邦第七回ソウエート大会(二)

モロトフ 一 ～ 三二

外国事情

中華民國

中国紅軍の情勢

中国に於ける新生活運動の綱要

印度

有為の指導者なき印度

印度の新憲法に就て

比律賓 比律賓の独立

カーレス・ジョーンズ 五七 ～ 五九

ソウエート聯邦

北鉄讓渡と旧北鉄蘇聯従業員の引揚

ソ聯に於ける未成年者犯罪に対する特殊立法とプ紙

の社説

ソ聯国家計画委員会の改組

ソ聯共産党幹部部設置

全露共産党中央委員会文化宣伝部の改組

独逸 独逸の軍事条項廃棄宣言

伊太利 ドポラヴオーロの創立十週年記念

愛蘭 愛蘭近情

北米合衆国 北米合衆国に於ける革命的労働運動の新

戦術

彙報

朝鮮共産主義指導的集団の同文通謀／コミンテルンの

空想的計画「ソウエート英国」／コミンテルン大会に

就て／日本共産党の現況と闘争／極東に於けるナチス

の情勢／国際避難民諮問委員会の新勧告

人事動静

雑報

ソウエート樺太の十年／中国江西省南部のソ区視察記

(四)／仏蘭西に於けるメーデー

六六 ～ 六九

六九 ～ 七四

七四 ～ 七九

七九 ～ 八〇

八〇 ～ 九二

九二 ～ 九四

九五 ～ 九八

九八 ～ 一〇七

一〇七 ～ 一一九

一一九 ～ 一二〇

一二〇 ～ 一二一

一二一 ～ 一二六

一二六 ～ 一二七

一二七 ～ 一二八

一二八 ～ 一二九

一二九 ～ 一三〇

一三〇 ～ 一三一

一三一 ～ 一三六

埋草

ソ聯邦人民委員會會議の構成

三二

蒙古の主要地名

一〇八

附録

独逸に於ける政治社会各種運動に対する制限及び取締

(第二輯) (一四七) ～ (二〇九)

第一五六号 一九三五(昭和一〇)年七月

ソ聯邦第七回ソウエート大会(三)

一 ～ 四二

外国事情

満洲国

中共東満党団特委聯席大会の開催と其の決議

四三 ～ 五一

満洲国内に於ける在家裡の現況

五二 ～ 五九

中華民國

中国共産党特務隊の活動情況

五九 ～ 七四

中国共産主義同盟の近状

七四 ～ 八〇

中共党の有吉大使着任反対不穩計画

八〇 ～ 八六

中国左翼団体の日支提携反対宣伝

八六 ～ 九四

比律賓 比律賓大衆の自由の爲の武装闘争

ハリソン・ジョージ 九五 ～ 九八

ソウエート聯邦

赤軍大学卒業式に於けるスターリンの演説とソ紙の

論調 九九 ～ 一〇七

第二次党機関清掃の結果に現はれた党活動

一〇七 ～ 一一三

ダンチヒ ダンチヒ選挙

一一三 ～ 一一九

独逸

国民社会党創立十五周年祭に於けるヒ総統の演説

一一九 ～ 一二六

独逸の宗教闘争

一二六 ～ 一三〇

仏蘭西 仏蘭西の政情

一三〇 ～ 一四〇

英吉利 英国共産党第十三回大会

一四〇 ～ 一四四

彙報

一四五 ～ 一七一

コミンテルンの対外政策／戦争の脅威と反戦闘争／一

九三三年極東反戦大会の決議／支那朝鮮労働者間に於

ける共産党工作／ソウエートの輿論と日本／全露共産

党中央委員会当面の宣伝工作に関する決定／プラウダ

紙の見た北支問題／帰来独逸避難民の取扱振

雜報 一七二〜一九六

倫敦に於ける独逸の秘密警察／南京政府の密偵養成規

則／諸外国に於ける共產党のテロ／猶太人の諸問題／

英帝の銀冠式祝賀舞踏会と失業者

埋草

世界に於ける独逸民族の分布 四二

エチオピア国人の特徴 一四四

新疆の面積と人口 一七一

第一五七号 一九三五（昭和一〇）年八月

ソ聯邦第七回ソウェート大会（四、終） 一〜一五

外国事情

満洲国

在哈全露ファシスト党世界大会 一七〜一九

哈爾賓ソ聯居留民会の設立 一九〜二三

中共満洲省委の満洲臨時人民革命政府綱領

二三〜二七

中華民國

中国共産党の最近の活動 二七〜三四

中共文化運動の起源と崩潰 三四〜四〇

藍衣社の訓練工作計画 四一〜五〇

中華民族武装自衛委員会福建省籌備会の緊急宣言

五〇〜五三

ソウェート聯邦

エヌキーゼの除名と露字紙の論調 五三〜五九

全ソ聯レーニン共産主義青年同盟中央委員会の事務

構成改組 五九〜六一

独逸

独逸に於ける非合法共産主義新聞 六二〜六四

独逸の聯盟脱退と猶太人圧迫 六四〜六七

ナーチのメーデー 六七〜六九

仏蘭西

仏蘭西革命記念日の状況 六九〜七一

仏蘭西旧出征軍人団体の動静 七二〜七四

仏国に於ける労働運動統一闘争 七四〜七六

奥地利 オーストリアの五月一日 七六〜八一

チェッコスロヴァキア チェッコスロバキアに於ける

ナチスの躍進 八一〜八四

英吉利 英国の政党政治家及新聞紙の概観

北米合衆国

八四〇 八八

米国航空輸送諸会社の内国線及び外国線による旅客数

一三八

米国青年収容所の状況

八八〇 九五

附録

米国ファシズムと共産党

九五〇 九七

中国共産党の秘密通信法

(一)〇 (一)三

米国軍事祭典に於ける共産党の宣伝

九七〇 一〇〇

米国学学生反戦ストライキ

一〇〇〇 一〇一

第一五八号 一九三五(昭和一〇)年九月

彙報

日本共産党の統一問題／第七回コミンテルン大会／コミンテルン第七回世界大会に関するプ紙の社説／反戦

コミンテルン第七回大会の状況概要

一〇三〇 一三八

反ファシズム世界委員会動静／ソ聯邦憲法委員会第一

外国事情

一〇三〇 一三八

回総会と分科委員会の設置／中国共産党自首法の改正

満洲国内に於けるソ聯共産党の工作

六七〇 七〇

／中国労働者出国条例／プラウダ紙の日本議会議論／

在哈全露ファシスト党世界大会

七〇〇 九三

日米戦に対するプ紙の論説

中華民国

一〇三〇 一三八

人事動静

一三九

中国共産党中央の近況

九三〇 九四

雑報

ゲペウの反革命者弾圧状況／瞿秋白の銃殺／旧北鉄ソ

一四〇〇 一六四

中国共産青年団の抗日倒蔣運動

九五〇 九九

聯従業員の引揚

中国民族武装自衛委員会の抗日反蔣運動

九九〇 一〇一

埋草

九九〇 一〇一

独逸の防空法

一五〇 一六

中国共産党の秘密工作基本規則

一〇一〇 一〇四

米国に於ける飛行機の産額

一〇二

南京政府の検閲振

一〇五〇 一一二

エドガー・スノー

一〇二

エドガー・スノー

一〇五〇 一一二

蒙古人民共和国首相の施政報告 一一二〜一三〇

比律賓 比律賓と日・米

ガレス・ジョース 一三一〜一三三

印度 印度新憲法の要点 一三四〜一三七

ソウエート聯邦 左翼共産主義者に対する闘争

エヌ・ベレジン 一三七〜一五一

波蘭 波蘭の反猶太人党 一五一〜一五二

独逸 独逸の近情 一五三〜一六〇

仏蘭西

仏国に於ける全国教員組合の大会 一六〇〜一六四

仏蘭西航空警察の再組織

ジョルジュ・アルク 一六四〜一六六

奥地利 シューシュニツク内閣の施政方針

一六六〜一七二

北米合衆国 米国共産党の労働組合侵蝕

一七二〜一七七

研究資料

独逸に於ける労働勤務法 一七九〜一八四

全国労働勤務期間及人員ニ関スル首相告示 一八四

彙報 一八五〜一九八

ユダヤ人問題の一考察——(一) 欧羅巴の癌(ゼー・

エフ・シー・フラー)・(二) フリーメイソンとユダ

ヤ主義(レオン・ド・ボンサン)・(三) ポルシエウ

イズムとユダヤ主義(ヘルマン・フェーイスト)／国

際反帝聯盟の反帝示威運動に関する指令／日華エスベ

ラント通信連絡／第二インターの伊工紛争に対する決

議と英国労働団体の動向

人事動静 一九九

雑報 二〇〇〜二一二

アンリ・バルビユスのモスコウ客死／上海に於ける反

戦デー／中国国民党神戸支部の機関紙発刊／共産黨員

たる蔣介石の長子より母に宛てたる書信／中共満洲省

委の人民革命歌／旅券に指紋添付の決議

埋草

コミンテルン執行委員会第一回総会の開催 一七八

第一五九号 一九三五(昭和一〇)年一〇月

コミンテルン第七回大会に関するプラウダ紙の社説

一〜一八

満洲国康徳二年度の予算と事業計画 一九〇 三四

外国事情

中華民国

コミンテルンと中共の歴史的関係 三五〇 四三

中国民族武装自衛委員会の抗日戦一般綱領 四四〇 四九

九・一八の記念運動状況 五〇〇 五二

ソウエート聯邦

労農赤軍指導部員の階級制創設と労農赤軍参謀部の

改称 五二〇 五六

第三回モスクワ演劇祭の状況 五六〇 五八

ソ聯邦共産党の地位 五八〇 六〇

リトアニア

メーメル問題 六〇〇 六二

メーメル視察談 六二〇 六四

ダンチツヒ ダンチツヒの近情 六五〇 六九

仏蘭西 在郷軍人団体の大会 六九〇 七一

亜米利加合衆国 「Gメン」警察隊 七二〇 七四

彙報 七五〇 一〇四

共産青年インターナショナル第六回世界大会の開催／

第二インター宛コミンテルンの檄／赤色スポーツ・イ

ンターナショナルと社会主義労働スポーツインターナ

ショナルとの合同商議／猶太建国主義者第十九回大会

／ボルシエウイキ誌の蒙古に於ける日本帝国主義の政

策論評／イズベスチャ紙の日本軍部内紛論評／プラウ

ダ紙の日本財政論評／陸相の更迭と陸軍パンフレット

に対するプラウダ紙の論評（アル・ハマダン）／日ソ

間関係に関する米紙の日本攻撃／黒竜会とエチオピア

問題に関するプラウダ紙の記事 一〇五〇 一二〇

雑報 比島人教授の比島独立観／英国ファッシスト同盟会長

と制裁規定（オスワルド・モズリー）／上海中国小学

校の排日教材

埋草 中共の六中全会開催説 七四

第一六〇号 一九三五（昭和一〇）年十一月

コミンテルン第七回大会に於けるピツクの演説

一〇 六六

外国事情

中華民國 中国国民党の識字運動と中共青年団の反対

宣伝 六七〇 七六

比律賓 ケゾン大統領の演説とマカーサー顧問の意見

七六〇 七八

ソウエート聯邦

蘇聯に於けるパン価格引下並に肉類其他食料品の切

符制度廃止 七八〇 九八

第十八回ソ聯十月革命記念祭のスローガン

九九〇 一〇四

ソ聯邦内務人民委員部国家保安総管理局指導員の階

級的特別称号の設定 一〇五〇 一〇六

波蘭 波蘭の共産党 一〇六〇 一〇八

独逸

ニュルンベルク第七回国民社会党大会

一〇八〇 一一三

独逸の食糧難

一一四〇 一一八

ザールに関する独逸内相の演説

一一八〇 一二〇

仏蘭西 仏国に於ける上院選挙

一二〇〇 一二二

英吉利

英国労働組合会議大会及び英国労働党年次会議の概

要 一二二〇 一二六

英国政府及び各政党の選挙宣言 一二六〇 一三一

北米合衆国 ナチス党旗侮辱事件 一三一〇 一三四

彙報 一三五〇 一五二

国際赤色労働組合誌の日本に於ける労働組合統一に関

する指導的論評／コミンテルン第七回大会以後に於け

る歐洲各国の反戦反ファシズム統一戦線の施行状況

／コミンテルンの反戦檄文／第二インター書記局に宛

てたコミンテルン執行委員会の檄と回答／倫敦に於け

る波蘭猶太人の世界大会／仏国空襲防護法の制定／上

海武装自衛委員会青年部第一次代表大会召集準備／中

国第六次全国運動大会に対する左翼団体の反対運動

雑報 一五三〇 一六〇

印度の共産主義取締／哈爾濱に於ける十月革命記念日

の状況／在欧白系露人の満洲国移住計画／在満白系露

人事務局の動静／ソ聯に於けるスタハーノフ運動／論

旨退去者の語る沿海州事情／監獄に関する国際聯盟委

員会の報告／比律賓大統領ケゾンの人為

第一六一号 一九三五（昭和一〇）年一二月

コミンテルン第七回大会に於けるデイミトロフの演説

一〇 六四

外国事情

中華民國

陝甘方面に於ける紅軍問題

六五〇 六六〇

中国共産党の赤色工会再建運動

六六〇 六九〇

中国抗日救国大同盟の活動状況

六九〇 七〇〇

上海の将来

七〇〇 七三〇

印度 印度の自治制と政界

七三〇 七六〇

ソウエート聯邦

最近のソ聯邦

七六〇 七九〇

バムラダ強制労働收容所の状況

七九〇 八四〇

波蘭 波蘭の最近情勢

八四〇 八七〇

独逸

一九三五年度チナス党大会の状況（一）

八七〇 一二二〇

独逸国家文化院の新設

一二二〇 一二五〇

仏蘭西

仏蘭西労働組合の合同問題

一二五〇 一二七〇

文化擁護国際作家会議

一二七〇 一三三〇

埃及 埃及の騷擾

一三四〇 一三七〇

彙報

一三八〇 一四八〇

労働組合運動に関する第七回コミンテルン大会の決議を如何に実施すべきか／日本の労働運動に関するプラ

ウダ紙の論調／林陸相辞任後の日本（エー・ジユコフ）／蘇聯に於ける名誉章の制定

雑報

ソ聯の総保安委員の称号設定と付与／ソ聯の新元帥／ソ聯邦政治要路の猶太人現勢／ソ聯の高等宣伝員学校設立／中蘇文化協会の組織

一四九〇 一六二〇

第一六二号 一九三六（昭和一一）年一月

コミンテルン第七回大会に於けるマタイルスキーの演説

一〇 四二〇

外国事情

中華民國

学生其他民衆団体の華北自治反対運動と左翼団体の策動 四三〇 六〇

陝北地方に於ける共匪の状況 六一〇 六二

中国左翼文化団体の新綱領 六二〇 六九

印度 印度の情勢 六九〇 七二

アフガニスタン 経済を主とするアフガニスタン事情 七二〇 八四

独逸

一九三五年度ナチス党大会の状況(二)

八四〇 一一五

独逸に於ける軍人の政治関与禁止 一一五〇 一一九

独逸共産党の目的 一一九〇 一一九

智恵古 チェツコの近情 一一二〇〇 一一二二

仏蘭西 仏国に於ける武装団体解散武器携帯禁止法案の成立 一一二二〇 一一二四

希臘 国民投票後の希臘 一一二四〇 一一二八

英吉利

英国総選挙の結果 一一二八〇 一一三〇

英国共産党の英国労働党への加入申込

ハリー・ポリット 一一三〇〇 一一三二

伯刺西爾 伯刺西爾合衆共和国の不安 一一三二〇 一一三六

彙報

コミンテルン第六回大会後に於ける日本共産党及朝鮮

共産党の情況／世界反戦運動大会

雑報

中共外廓団体「前進社」の組織／全聯邦レーニン主義

共産青年同盟第十回大会の開催と議事日程／ソ聯中央

執行委員会第二回会議の召集と議事日程／第二十二回

アクション・フランセーズ大会／トロツキーの危篤と

第四インター／プラウダ紙の日独軍事協定説

第一六三号 一九三六(昭和一一)年二月

コミンテルン第七回大会に於けるデイミトロフの結語演

説 一一〇 一一二八

コミンテルン第七回大会に於けるアンガレチスの報告演

説 一一二九 一一三一

外国事情

中華民國

学生其他民衆団体の華北自治反対運動と左翼団体の策動 三三〇 四八

北京に於ける共産党及同系諸団体の状況 四八〇 五四

ソウエート聯邦

ソ聯共産党中央委員会十二月総会の決議 五四〇 七二

建設問題に関するメジュラクの演説 七二〇 七六

トルグシンの廃止と留新換算率の公定 七七〇 八二

独逸

一九三五年度ナチス党大会の状況(三) 八三〇 一〇七

ザールの一年 一〇七〇 一〇九

西班牙 共同戦線に関する西班牙共産党の奮闘 一〇九〇 一一一

英吉利 英帝国共産党の共同宣言 一一二〇 一一四

埃及 埃及騒擾の其の後 一一四〇 一一五

彙報 一一六〇 一二六

華北問題を中心とする中国共産党中央の反日宣伝／中国共産主義同盟の討論提案／広田外相の議会演説に對するソ聯紙の報道／コムソモール大会に関するプラウダ紙の社説／ソ聯に於ける外国人の滞在制限強化／伊国經濟及財政に関する記録及文書発表制限規則／仏紙の日本軍の大連會議と印度支那觀(ジャン・ル・ビオ)

オ)

ソ聯の出生・死亡率／一九三六年藍衣社の活動計画

ソ聯紙の「支那に於ける反日運動」記事／ユーゴスラビアに於ける赤化文書押収／鮮人のコルホズに對するの演説(キム・テンリゼフ)

埋草

米国のタマニー・ホールとは? 三二〇 三二

第一六四号 一九三六(昭和一一)年三月

コミンテルン第七回大会に於けるエルコリの演説 一〇 六二

外国事情

一〇 六二

中華民國

最近に於ける中国紅軍の動靜 六三〇 六五

三會議に現はれた支那政局の新傾向 六六〇 八二

上海新聞記者の言論自由獲得及救国運動

八二〇 八四

上海文化界救国会の活動狀況 八四〇 九二

ソウエート聯邦

スタハノフ運動批判 九三〇 一〇〇

白系露人に対するソウエート政府の新政策

一〇〇〇 一〇四

独逸 ラインランド問題 一〇五〇 一〇九

仏蘭西

仏蘭西最近の政情 一〇九〇 一一三

仏国の右翼団体取締法制定 一一三〇 一一五

ダンチツヒ ダンチツヒの情勢 一一五〇 一一六

彙報 一一七〇 一三七

叛乱事件に関する外国新聞の論調／国際聯盟と避難民問題／滿洲国と蒙古の關係／在滿ソ聯領事館撤廃問題／ソ聯共産青年同盟中央委員会に於ける児童文学に関する第一回會議／ソ聯共産青年同盟の改組／南米コロ

ムビアに於ける共産党の活動／チエツコスロヴァキア

に於ける航空警察／ソ共和国第十六次選出中央執行委

員会第二回會議／上海婦女救国会の英文檄發出／上海

職業界救国会の活動

一三八〇 一四六

新生不敬事件の社重遠獄中訪問記／哈爾賓居住ソ聯人

の大量引揚説／西比利鉄道の改築／チエツコ新聞記者

の独逸追放／印度の赤化宣伝／アラスカの日本人スパ

イ

第一六五号 一九三六（昭和一一）年四月

コミンテルン第七回世界大会の諸決議 一〇 三〇

外国事情

滿洲国 康徳三年度滿洲国予算に就て 三一〇 四四

中華民國

山西省に於ける紅軍及剿匪狀況 四五〇 四六

中共党の国防政府及抗日聯軍の組織計画 四六〇 五一

復旦大学学生騒動と七十二烈士殉国記念運動の狀況

中国の近情 五一〜 五三
五四〜 五六

冀東防共自治政府成立後の状況 五六〜 五八

ソウエート聯邦

第七次選出ソ聯邦中央執行委員會第二回會議の状況 五九〜 一七

全聯邦レーニン主義共產青年同盟の新規約 一七〜 三二

独逸

独逸の秘密国家警察網 一三二〜 一三五

ラインランド進軍と独逸総選挙 一三五〜 一四二

彙報 一四三〜 一五〇

中国浙江省寧波方面に於ける共產党の活動／ナンセン

事務局の将来（マイケル・ハンソン）／国際共產主義

婦人デーに関するソ聯共產党の決議／ウオロシーロフ

の労農赤軍紀念日に発した命令／莫斯科の仏蘭西共產

党称揚／瑞西に於ける独逸国民社会党関係団体の禁止

／英国労働党内の左翼と共産党との共同／パレストアイ

ンの憲法案

雜報 一五一〜 一六四

回教に対する日本の関心／C・C団に就て／汪兆銘狙

撃犯人の起訴状／上海の近情／在天津日露協會創立に

関する露国人団体の通告文／ソ聯邦の共產主義アカデ

ミヤ廃止／ソ聯高等宣伝員学校の開校／奥国社会民主

党員の公判／北滿各地に於ける日蘇開戦風説の流布

埋草

昭和十年度滿ソ蒙国境ソ聯側の不法行為 一四二

第一六六号 一九三六（昭和一一）年五月

プロフィールの十五ヶ年

ア・ロゾフスキー 一〜 三二

外国事情

滿洲国 在滿白系露人事務局の組織と活動状況

三三〜 四二

中華民国

最近に於ける中国紅軍の動靜

四二〜 四五

中国紅軍は何処へ行く

四五〜 四八

蒙古人民共和国

エヌ・ハルヒン 四九〜 五六

ソウエート聯邦

全聯邦共産党中央委員会附属党統制委員会第三回総
会の二決議 五六〇 六八

コミンテルンのメーデーに対する檄 六九〇 七三

全聯邦共産党の一九三六年度メーデー・スローガン 七四〇 七八

メーデーに際し極東赤軍に与へたブリュール元帥
の命令 七九〇 八〇

露西亜雜感 八〇〇 八二

波蘭 波蘭に於ける猶太人迫害 八三〇 八四

独逸 独逸の宗教問題 八五〇 八九

奥地利 奥地利最近の動向 八九〇 九三

伊太利 伊太利軍隊内に於ける赤化工作 九三〇 一〇三

北米合衆国 ブローダーと農民労働党 一〇四〇 一〇八

彙報 一〇九〇 一四一

日本人民戦線の必要 (岡野〓野坂参貳) / 二・二六事
件に関する左翼紙の論調 / 共産系反日雑誌「中国呼
声」の創刊 / 全聯邦レーニン共産主義青年同盟第十回
大会の閉会 / ソ聯邦労働農民警に対する称号設定 / ソ聯

に於けるコサツク人の赤軍勤務制限撤廃
雜報 一四二〇 一五二

各国のメーデー / 興安北省长等の通蘇事件に関する外
蒙側の意見 / 藍衣社員の文書遞送仮装法 / 大田大使の

ソ聯首脳部招待 / 全聯邦鉄道運輸スタハーノフ十日

デー / プラウダ紙のスタハーノウエツ欄記事 / 全聯邦

科学学士院三月総会の開催 / ソ聯の一九三六年度春時

国家計画 / 独逸スパイに対する英国の公判 / ベラ・ク

ン西班牙で活躍

第一六七号 一九三六 (昭和一一) 年六月

ボルシェウイズムと猶太主義

ヘルマン・フェースト 一〇 三四

外国事情

中華民國

中共の「中国統一的民族解放運動」 三五〇 四〇

上海市中等学校学生聯合会の抗日運動

四〇〇 四三

上海復旦大学学生救国会の策動

四四〇 四六

ソウエート聯邦

コルホズ農民の私有經濟及ソウエート商業

四六〇 五〇

ビロビジャン猶太人自治州第二週年

エム・ハウキン 五〇〇 五二

独逸

コンツェントラチオンスラーガーに就て

田中内務事務官 五三〇 六一

独逸に於ける帝國議會議員の総選挙 六一〇 七四

仏蘭西 仏蘭西に於ける二大労働組合組織の合同

七四〇 七八

西班牙 スペイン近情

七八〇 八二

英吉利 労働党の共同戦線反対に対する共産党の反駁

キヤンベル 八二〇 八八

北米合衆国 米国共産党のナチス反対のデモ

八八〇 八九

日本に於けるファッシヨ軍部に対する平和と自由の戦

線(西川)／平和、米、自由の爲の統一戦線(山本懸

蔵)／日本軍部の常套手段／ソ聯邦憲法改正草案の成

彙報

立／左傾外人の中国之友社組織／西北抗日紅軍大学の
学生募集運動／反侵略反植民地国際同盟／米国共産党
のハースト系新聞不買準備

雜報

一一八〇一三〇

在哈全露ファシスト党創立五週年記念祭の状況／旅行

者の見たロシア／中国の抗日意匠入衣類販売／ソ聯の

重工業経営者技術家の妻の会／全ソ聯邦の国勢調査／

ソ聯邦船の本邦不開港場寄港に関するソ聯紙の記事／

白耳義皇帝の共産党首領引見

埋草

暹羅在留支那人の立場

奥国に於ける共同戦線

附録

中国共産党組織系統表

第一六八号 一九三六(昭和一一)年七月

全聯邦レーニン共産青年同盟第十回大会の状況(上)

外国事情

一〇 六四

中華民國

冀東貿易の状況

六五〇 七三

中国共産党の新政策実施後の状況

七三〇 八四

中華全国各界救国聯合会成立大会の状況

八四〇 九五

中国学生救国聯合会の組織運動並に成立大会の状況

九五〇 一一〇

上海政治犯教誨委員會の組織と政治犯の現状

一一〇 一一三

ソウエート聯邦 ソ聯邦新憲法草案に就て

一一三 一四〇

仏蘭西 共産化する仏蘭西

一四一 一四四

西班牙

西班牙に於ける人民戦線の勝利

一四四 一五〇

人民戦線勝利後のスペイン

一五〇 一五六

チエツコスロヴァキア チエツコ・ナチスの問題

一五六 一五八

北米合衆国 全米学生反戦ストライキ

一五九 一七〇

彙報

一七一 一八一

コミンテルンの満洲赤化計画／日本に於ける反ファツ

シスト闘争に必要なメーデー／日本の支那侵略／第

三帝国の黒色サムラヒ／中国文芸家協會の組織／南京

西南両派の衝突に関するソ聯紙の論調／印度コングレ

ス党の軋轢

雑報

一八二 一八六

外人の見た日本の秘密結社（エドモン・ドメール）／

ソ聯邦の出版物／独逸秘密警察手先ウエーゼマンの公

判

第一六九号 一九三六（昭和一一）年八月

全聯邦レーニン共産青年同盟第十回大会の状況（下）

一 九二

外国事情

中華民國

中国の新生活運動

九三 一〇二

中共中央が救国運動に関し華北学生及文化界指導者

に与へた指令

一〇二 一〇八

全国各界救国聯合会の国民党二中全会に対する策動

上海日本廠工人救国聯合会の組織運動 一〇八〜一一〇

上海著作人協會の成立大会状況 一一〇〜一一三
ソウエート聯邦 一一四〜一一七

新憲法草案に関するラデツクの論文

避難権とロシア新憲法 一一七〜一二六
独逸 独逸警察制度の統一 一二六〜一三〇

仏蘭西 仏蘭西の罷業 一三〇〜一三一
勃牙利 ブルガリヤ共産党中央委員会第六回總會 一三二〜一三四

英吉利 国民自由党(サミュエル派)の新憲章 一三四〜一三八
一三九〜一四〇

研究資料 第一七〇号 一九三六(昭和一一)年九月

帝国労働奉仕団 一四一〜一六七

ソ聯邦国境地帯及国境禁止地域への入国及一時居住に 最近に於けるソウエート聯邦經濟事情 一〜七五
関する規定 一六八〜一七〇 外国事情 中華民國 七五

彙報 第三第四両インターの合同會議／避難民問題(ハンソ 中華民族武装自衛委員會の解消 七七〜八一
中華ソウエート人民共和国中央政府の内蒙古人民に

ソ)／日本の躍進／中国民族武装自衛委員會の西南派 擁護／中華ソウエート共和国中央政府及中国紅軍革命

軍事委員會の停戦媾和一致抗日通電(毛沢東、朱徳) 及司法両人民委員部の設置／全聯邦共産党中央委員会

附屬党オルガナイザー高等学校の設立

雜報 一八五〜一八八
ソ聯邦に於ける地中埋藏物(イ・エム・グブキン)／

「赤」狩出法案のアルバニー州議會通過／滿洲国鉄浜 洲線のゲージ変更

埋草 紐育タイムスの二・二六事件判決評 九二

第一七〇号 一九三六(昭和一一)年九月

最近に於けるソウエート聯邦經濟事情 一〜七五

外国事情 中華民國 七五

中華民族武装自衛委員會の解消 七七〜八一
中華ソウエート人民共和国中央政府の内蒙古人民に

対する宣言 毛沢東 八一〜八三

中共中央の抗日運動に関する重要文献

八四〜一〇一

中共中央北方局の抗日救国宣言 一〇一〜一〇六

中共の新政策執行に対する一部幹部の反対運動

一〇七〜一〇九

上海工人救国会組織運動の状況 一〇九〜一一四

ソウエート聯邦

ソ聯邦要人暗殺陰謀事件 一一四〜一二八

第二十二回国際青年デーに対するスローガン

一二九〜一三二

赤軍現役徴集年齢の引下

一三二〜一三五

ソ聯邦の低金利政策

一三五〜一四六

独逸・塊地利 独塊協定

一四七〜一五〇

仏蘭西 仏国に於ける右翼団体の解散

一五一〜一五二

英吉利 英国皇帝危難を免れさせらる

一五三〜一五四

研究資料

中華民国旅券査証弁法改正と現地官憲の取締実状

彙報

一五五〜一六五

一六六〜一七七

帝都叛乱事件の処置に対するソ紙の論調——危険は国

内より切迫す（アナトリー・カントロウイチ）／サム

ライ一五名処刑（イエ・ヨールク）／日本の人民戦線

／日本の統一戦線運動／第三第四両インター提携説に

対する第四インターの声明／世界猶太人大会

雑報

一七八〜一八四

日本の新前哨（ウイリヤード・プライス）／ソ聯イン

ゲルマン地方少数民族の悲劇／ソ聯赤軍指揮官等への

授章

埋草

独逸死亡率の増加 七五〜七六

ソ聯居住邦人数 一七七

第一七一号 一九三六（昭和一一）年一〇月

上海国難教育社の活動状況

外国事情

中華民国

小学生を以てする救国団体結成運動 四三〇 四六

在上海反日的露国居留民機関の策動 四七〇 五二

支那共産党の十五週年を迎へて 五三〇 五五

上海に於ける九・一八紀念運動の状況 五五〇 六〇

ソウエート聯邦

ソ聯国民間に於ける新憲法草案審議状況に関するプ
紙の論説 六〇〇 六六

ソ聯に於ける国際青年デー 六六〇 六九

ソ聯邦労働赤軍の演習とウオロシロフの演説 六九〇 七三

コルホズは如何に経営されてゐるか 七三〇 七七

ア・バリエ 七八〇 八一

米国社会主義者のソ聯邦印象記 八二〇 八四

独逸 ニュルンベルグ第八回ナチス大会 八五〇 九〇

仏蘭西 仏蘭西の近状 九〇〇 九一〇

英吉利 英国共産党中央委員会會議の状況 一一一〇 一一三〇

英国労働組合會議第六十八回大会 一一三〇 一一四〇

英埃改訂条約の調印 一一五〇 一一六〇

北米合衆国 米国共産党第九回大会の状況 一一六〇 一二六〇

彙報 一二七〇 一五三〇

市川正一に関する共産インター誌の論評(岡野野坂
参貳) / 陰謀事件判決後に於けるトロツキーの動静 /

トロツキー庇護に関するプラウダ紙の小論 / 滿洲事変
五週年に関するソ紙の論説(アナトリー・カントルウ
イツチ、イエ・ヨールク) / 日本の内蒙侵略計画(カ
ルリオ) / 侵略的意図(ゲ・ウエハワイチンス
キー?) / 日支事件 / 日本の新聞紙

雑報 一五四〇 一五六〇

中山兵曹暗殺事件の判決 / アフガニスタン陸軍大臣の
モスコウ訪問 / ソ聯の日用品の質的改善問題 / 米国勞
働総同盟の分裂 / 上海の左翼演劇運動 / ソ聯邦婦人西
班牙へ義捐金送附 / 瑞西に於ける帰化取消法案

第一七二号 一九三六(昭和一一)年二月

抗日聯合戦線結成運動 一〇 五二

外国事情

中華民國

上海各界救国聯合会の青帮及警察官に対する誘引策

五三〇 五六

上海学生救国界の組織

五六〇 五八

在中国ソ聯邦諸機関の現況

五八〇 六〇

中国共産党成立十五週年紀念会と救国時報の論説

六一〇 六四

ソウエート聯邦

全聯邦レーニン共産青年同盟中央委員会総会

六五〇 七五

全聯邦共産党の党员採用復活

七五〇 八八

ロシア社会主義ソウエート共和国の人民委員部新設

八八〇 九〇

第十九回ソ聯十月革命記念祭のスローガン

九〇〇 九二

第十九週年革命記念日のコミンテルン執行委員会の

概 九二〇 九六

独逸 第二次四箇年計画

九七〇 一〇一

白耳義 白耳義レックス党の擡頭

一〇二〇 一〇六

仏蘭西

パリ地方に於ける示威及集会の禁止

一〇六〇 一〇八

北部国境地方に於ける共産党の活動

一〇八〇 一一〇

英吉利

ロイド・ジョージの演説

一一一〇 一一七

英国共産党会議

一一七〇 一二八

英国ファシストの示威行列

一二八〇 一二〇

研究資料

最近に於ける独逸労働運動統制の概観(其の一)

一二一〇 一二五

独逸に於ける警察法委員会の設置

一二五〇 一三七

彙報

ブラッセルに於ける国際平和会議／墨国陸軍の外国武

官待遇心得／満洲に於けるパルチザン運動(東京寺田)

一四六〇 一五八

雑報

ヒットラーとヘンライン／ソ聯邦海軍演習の挙行／ソ

聯邦のスペイン救援／仏国汽船に赤旗／米国政府事業

の新請負条件／米国海員に対する独逸裁判所の判決／

哈市及上海に於ける十月革命記念日の状況

第七七三号 一九三六（昭和一一）年一二二月

中国の抗日運動に関する二文献 王明 一〇 二八
外国事情

中華民国

「支那国民の独立と自由のための闘争」と題する王

明の論文 二九〇 五〇

上海市警察救亡同志会の組織 五〇〇 五一

在上海国民党系諸団体及救国団体の孫文誕生記念大

会の状況 五一〇 五七

比律賓 比島革命派の陰謀暴露 五八〇 六一

ソウエート聯邦

スタハーノフ年度の三四半期の成績

ア・メンデリシン 六一〇 六五

ソ聯労働階級の状態

エヌ・シユベルニク 六六〇 七〇

ソ聯極東地方の近情

エル・ラウレンチエフ、
エル・アロンシタム 七〇〇 八〇

聯邦軍需品工業人民委員部の新設 八〇〇 八二
第八回臨時全聯邦ソウエート大会の開催 八二〇 八四

ダンチツヒ自由市 ダンチツヒ自由市の其の後 八四〇 八六

独逸

独逸労働戦線の四年 ライ 八六〇 九一

日独防共協定 九一〇 九

仏蘭西

仏国反人民戦線の陣営 一〇九〇 一一三

C・G・T指導部組合運動より政治活動を排除 一一四

羅馬尼

ルーマニヤに於ける国民主義の擡頭

一一五〇 一一七

羅馬尼に於ける右翼運動

一一七〇 一二五

西班牙 西班牙内乱とカタルニア事情 一二五〇 一三四

研究資料

英国の公安維持法案とガージヤン紙の論評

一三五〜一四〇

瑞西に於ける外国人演説者の政治的集会参加及共産主義運動取締命令

一四〇〜一四二

ソ聯の経済間諜とメトロポリタン・ヴィツカース事件

一四三〜一五二

彙報

一五三〜一六八

中国共産党最近の陣容／日本の主人／日露戦争記述著

書を紹介せるボルシェウイキー誌の論文(エヌ・クラブ

イセフ)／共産主義運動に反対する米国カソリック教徒

の演説／藍衣社の「民族義勇団」組織／「ソ」聯邦

中央執行委員会第三回会議の召集期日並に議事日程

雑報

一六九〜一八六

米国宣教師の入国禁止と紐育タイムス紙の記事／外人

の日本警察観(W・H・チエムバーリン)／日本のス

パイ恐怖症／外人の見たる台湾(ウイリアム・テイー

リング)／ソ聯の第十九回十月革命記念祭／ナーチの

反ソウェイト展覧会／基隆に於ける英国水兵取調事件

第一七四号 一九三七(昭和一二)年一月

ソ聯邦新憲法草案に関するスターリンの説明演説

一〜二四

外国事情

中華民國

綏遠事情と西安事件の概況

二五〜三〇

西安事件直前に於ける西安地方救亡運動状況

清澄 三〇〜三四

西安事件に対する救国団体の態度

三四〜三七

西安事件に対する中共党の宣伝

三八〜四〇

在上海日本紡績工場の罷業状況

四〇〜五〇

上海ソ聯邦居留民俱樂部創立大会の開催

五一〜五三

中国官憲の救国運動指導者一斉検挙

五三〜六四

上海市学生界救国会の工作綱領

六四〜六六

全欧華僑抗日救国聯合会の組織状況

六六〜七六

独逸 独逸に於ける芸術批評禁止問題

ゲツベルス 七七〜八一

仏蘭西 C・G・T全国委員会の開催 八一〜 八三

北米合衆国 米大統領教書の要旨 八三〜 八五

研究資料

仏国に於ける独逸亡命者に対する身分証明書発給規定

八七〜 八八

仏国に於ける最高放送審議会設置に関する大統領令

八九〜 九一

彙報

日独防共協定に関するソ紙の論調／日本に於ける統一

労働者人民戦線樹立の為の闘争（東京寺田）／西安事

件に関するプラウダ紙の論調／中国共産主義同盟の西

安事件に対する態度／蘭領印度に於ける共産党の活動

／全聯邦共産党中央委員会の旧党証明書の効力に関する

決議

雑報

一一四〜一二〇

汪精衛暗殺未遂事件の判決／中山事件の控訴判決／国

民革命軍攻撃停止命令に関する毛沢東の談話／米国大

統領選挙戦に於ける各政党の得票数と運動費／白ロシ

アに三人民委員部新設

埋草

極東主要国の人口及び面積

八六

第一七五号 一九三七（昭和一二）年二月

一九三七年度ソ聯邦国家予算 グリンコ 一〜 四八

外国事情

中華民国

抗日並に統一戦線問題に関する英人記者と毛沢東の

会見記 エドガー・スノー 四九〜 五九

国民党三中全会に対する救国団体の主張と動向

五九〜 六五

中国人民戦線の真相と其の理論的検討

六五〜 六九

全国各界救国聯合会の対外抗戦対内平和請願運動発

起 六九〜 七一

中共中央及中ソ中央政府の平和と内戦停止の為の通

電 七二〜 七三

西北各界救国聯合会の活動状況と時局宣言

七三〜 七五

上海学生界救国会の機関誌発行と「半年來の上海学

生運動の回顧

七五〇 八〇

英吉利

南京政府の経済的基礎 チャン・ウ 八〇〇 八四

英国左翼の聯合と共同戦線宣言書 一二六〇一二九

ソウエート聯邦

愛蘭自由国の憲法改正 一二九〇一三〇

全聯邦勞農赤軍指揮指導部員の妻の会開催 八四〇 九七

北米合衆国 失業労働者救済公共土木事業打切による 失業群と共産党機関紙の論説 一三〇〇一三四

ソ聯邦国防人民委員代理の新設と任命 九七〇 九八

研究資料

独逸政治警察の任務

ピヤタコフ一派の反革命陰謀事件の公判 九八〇 一〇一

ウエルナー・ベスト 一三五〇一三九

独逸

最近に於ける独逸労働運動統制の概観(其の二) 一三九〇一四八

独逸の自給自足経済 一〇一〇 一〇三

満蘇国境地方旅行又は移住者の取締 一四八〇一五五

欧洲諸国に於ける独逸ゲシュタポの活動状況 一〇三〇 一〇二

彙報

林内閣成立に関する露字紙の論調——日本政府の危機(イエ・ジューコフ)／日本の新政府(アル・ハマダ)／中国全国各界救国聯合会の機関新聞発行／中国 一五六〇一七〇

仏誌の見た独逸労働者の闘争 一一二〇 一二六

チエコスロバキヤ チェツコに於けるソ聯の活動 一一七〇 一二九

仏蘭西 仏蘭西社会党の内訌 一一九〇 一二二

学生救国聯合会の機関紙発行と西安事件に対する態度 表明／ソ聯の転向に関する上海白系露字紙の論説／労働赤軍内に共産党同情者グループの設置／ソ聯邦各加盟共和国の人民委員部新設／国際亡命者保護法會議／スカンディネヴィヤ諸国に対する独逸の宣伝／奥国首

伊太利 伊太利の新政策 一二一〇 一二四

西班牙 仏国右翼代議士の西班牙革命軍視察談 一二四〇 一二六

一二四〇 一二六

相の独逸の文化宣伝禁止／「一単位としての世界」運動／希臘に於ける奇怪な裁判

雑報

一七一〜一八二

中ソ文化協会のプーシキン百年祭挙行／トロツキーの墨西哥亡命（ハーレイ・ガンズ）／綏芬河グロデコウ
オ間欧亜連絡列車の運転休止／全世界に呼掛ける白系
露西亜新労働青年同盟執行局の檄文／第十三回レーニン・デーの状況／エジヨーフに国家総保安委員の名称
附与／奧地利に於ける共産黨員検挙

第一七六号 一九三七（昭和一二）年三月

瑞西に於ける公安擁護令の制定

一〜二四

外国事情

中華民国

三中全会の概要

二五〜三五

上海各界救国聯合会の「三中全会に対する宣伝大綱」

三六〜三九

宋慶齡、馮玉祥等の三中全会に対する聯ソ容共政策

採択提議

三九〜四〇

上海各界救国聯合会主催「上海各界慶祝三中全會開幕大会」の状況

四〇〜四三

中国学生救国聯合会の活動状況と「工作報告書」

四三〜五二

中国共産党中央政治局の「抗日救亡の新形勢と民主

共和国に関する決議」

五二〜五八

中国共産党の救国会に対する指令

五八〜六一

上海各界統一救国大同盟の結成

六一〜六五

新生活運動三週年紀念日に於ける蔣会長のラヂオ訓

辭

蔣介石 六六〜七〇

比律賓 新政体下に於ける比律賓

フレッド・エル・クローフオード 七〇〜七六

ソウエート聯邦

最近のソ聯邦に於ける「官僚主義」反対闘争の動向

エヌ・クループスカヤ 七六〜八四

ロシヤの文化運動

八四〜八六

ソ聯邦の独逸よりの輸入額激減

八六〜八八

波蘭 波蘭の猶太人

八九〜九〇

ダンチツヒ ダンチツヒ自由市の其の後

九〇〜九二

独逸 独逸の第二次四ヶ年計画 九二〜一〇〇

仏蘭西 仏蘭西共産党の全国大会 一〇〇〜一〇三

英吉利 英国の間諜 一〇四〜一〇六

北米合衆国 米国に於けるゼネラル・モーターズ労働

争議 一〇六〜一〇九

研究資料

ソ聯邦沿岸領水及港灣に於ける外国商船の取扱

一一一〜一二六

彙報

日本と外国市場（エドモンド・ツマノーフ）／日本の

戦略資源問題（金子）／中国共産党北方局の西安事変

和平解決に対する宣言要旨／加特力教徒世界大会／蘭

印と日本の進出

雑報

一四一〜一四六

其後のトロツキー／抗日的歌曲の普及状況と「民族革

命的大衆歌曲」／英国公安維持法違反事件裁判

埋草

暹羅に於ける華僑

二四

アラスカ漁場の排日

一一〇

第一七七号 一九三七（昭和一二）年四月

独逸新官吏法に就て

一〜七八

外国事情

中華民国

紅軍と西北

エドガー・スノウ

七九〜一〇三

統一運動と中国スターリン党

一〇四〜一二一

東北抗日聯軍の活動状況

一二一〜一三〇

最近に於ける中国救国団体の活動

一三〇〜一三五

三中全会以後

一三五〜一四一

赤匪転向の途

一四一〜一四四

華北に於ける日本語研究熱

一四五〜一四九

上海市総工会の内情

一四九〜一五六

上海新白系露字紙「避難民の思想」再発行と其の傾

向 一五六〜一六三

ソウエート聯邦

ロシアの印象

キヤザレット

一六三〜一六八

ゲ・ペ・ウの取調状況

ア・チリガ

一六八〜一七二

一九三六年度のソ聯工業 一七二～一七六

ソ聯邦に於ける国際共產婦人デーの状況 一七六～一七八

西比利亜鉄道の複線工事

エヌ・フレンケル 一七九～一八一

洪牙利 洪牙利の政情不安 一八二～一八四

西班牙 西班牙問題に関するコミンテルン執行委員会

幹部会の決議と西班牙共産党の檄 一八四～一九二

独逸 人民戦線を提唱する独逸反ナチ派の檄

一九三～一九五

仏蘭西 クリツシーの騷擾事件 一九五～一九九

英吉利

英国はファツシヨ化するか

ルイジ・ヴィラリ 一九九～二〇二

西班牙に関する英国共産党中央委員会の決議

二〇二～二〇四

労働階級統一に関する英国共産党中央委員会の決議

二〇四

英帝国枢密院司法委員会、加奈太労働法規に違憲を

宣告

二〇五～二〇八

北米合衆国

米共産党の一九三七年度闘争方針

二〇八～二一四

一九三七年に対する米共産党の希望

二一五～二一八

彙報

首都商店新生活運動規則及訓練方法／無神論的共産主

義排撃のローマ法王の廻状／支那に於ける日本密偵の

覚書（アドルフ・ハマダン）／杉山大将の有力な証言

（ア・アントノフ）

雑報

二二七～二三八

ソ聯邦重工業人民委員オルジョニキーゼの死去と後任

者／ソ聯邦通信人民委員ヤゴダの罷免検査と其の後任

／伊太利水兵の在上海ソウエート映画宣伝劇場襲撃／

西班牙政府軍に対する墨国武器の供給の内幕／日本と

自由批判（モルガン・ヤング）／徳王の野心／米国外

業労働者数の概況

第一七八号 一九三七(昭和一二)年五月

C・G・Tの史的発展

一〇 二一

各国に於ける一九三六年の人民戦線運動 二一〇 三四

外国事情

中華民國

毛沢東と米国婦人左翼作家スメドレーとの中日問題

に関する談話

三五〇 四五

最近の中国救国団体の活動状況 四五〇 五〇

人民戦線派の民族解放先鋒隊の成立と策動

五〇〇 五七

国民党の上海に於ける特務工作機関 五七〇 五八

国民党の特務工作に関する秘密指令 五九〇 六三

留露同学会の成立 六三〇 六五

蘭領印度 蘭領印度事情一斑 六六〇 六九

印度 印度自治制の齎す諸変化 六九〇 七六

ソウエート聯邦

ソ聯の第三次五ヶ年計画立案 七六〇 七九

全聯邦共産党の一九三七年メーデー・スローガン

八〇〇 八二

独逸 独逸に於ける本国帰還者保護局 八二〇 八四

仏蘭西 パリ万国博覧会と暴利取締法案 八五〇 八六

英吉利 英国造船職工の解雇 ビシヨップ 八六〇 八九

英国に於ける親露大会 ビシヨップ 八九〇 九二

北米合衆国 米国に於ける反赤色同盟組織委員会 九二〇 九四

彙報 九五〇 一二四

日本の謀報組織に関するプラウダの小論／日本国民と

ファシスト／窮局打開を求める日本(ア・カントロウ

イチ)／日蘇の対峙と其将来／日本の議会解散と其の

後(ル・ネ・ラヴィニユ)／上海世界語者協会のエス

ペラント五十週年記念祝賀会举行計画／国共合作交渉

停頓説／全聯邦レーニン共産青年同盟中央委員会総会

の開催／全聯邦職業組合中央会議規約の改正

雑報 一二五〇 一二八

西班牙出征義勇隊員の交驩／ソ紙掲載の日ソ漁業協定

関係の投書(ア・ドルジーニン／エム・エム・リトヴ

グ)

イノフ) / 朝鮮に於ける華僑 / 哈爾濱のメーデー
埋草

極東地方に於ける朝鮮人の人口並其の分布状態 三四
ソ聯クートベの組織強化 九四

第一七九号 一九三七(昭和一二)年六月

全聯邦共産党中央委員会(二月―三月)総会に於けるス
ターリン及モロトフの演説 一〇 六六

外国事情

満洲国 満洲国の政治行政機構改革大綱

六七〇 七七

中華民国

最近に於ける中国救国団体の状況 七七〇 八七

中国学生救国聯合会の日本学生に対する宣伝

八八〇 九三

五九紀念日の状況

九三〇 九八

西安事変後に於ける中国共産党の活動方針

九八〇 一〇七

中共の発出せる「国民党三中全会後の我等の任務に

関する宣伝大綱」 一〇七〇 一一一
東亜和平擁護同盟籌備会の機関紙発行 一一二〇 一一七

ソウエート聯邦

ソ聯赤軍(陸海軍)軍管区軍事會議の設定

一一七〇 一一九

征服せられたるゲ・ペ・ウ

一一九〇 一二三

四十四名銃殺事件

一二三〇 一二六

独逸 独逸の人心転換策

ハンス・ベールント 一二六〇 一二三〇

仏蘭西

パリ警察の再組織

一三一〇 一三二

仏蘭西に於ける無政府主義運動

一三三〇 一三五

仏蘭西に於ける新組合運動の発生

一三五〇 一三八

反人民戦線派の集会

一三八〇 一四〇

西班牙

西班牙新内閣

一四〇〇 一四四

カタロニヤ事情

一四四〇 一四七

英吉利

倫敦の婦人警察官

一四七〇 一四九

英国労働界の近状 一四九〜一五一

英国労働党の社会主義同盟除名 一五一〜一五二

出版の自由 一五二〜一五五

研究資料

ソ聯に於ける外国人の移転及居住規則

一五七〜一五八

彙報

巴里に於て開催せられたる共産党国際会議／日本に於けるメーデーの禁止／上海ソ聯邦機関紙の我が政変に

関する社説

一五九〜一六四

雑報

倫敦、巴里、紐育、莫斯科のメーデー／日本軍一新兵

を主題とせるプラウダ紙の物語／ソ聯邦モツプル中央

委員会第六回総会の状況／ナンセン事務局

埋草

天津に於ける猶太人倶楽部の拡充 六六

赤軍指揮官、政治部員及技術家に対する「ソ聯邦の英雄」の称号及勲章授与 一五六

第一八〇号 一九三七（昭和一二）年七月

中華民族解放先鋒隊の秘密文献 一〜二三

外国事情

中華民國

国民党中央の密発せる特務工作員訓練に関する秘密

文献 二五〜三九

中央政治学校概況 三九〜四〇

抗日統一戦線に関する総弁証書 四一〜四八

共産党活動分子大会に於ける毛沢東の講演 四八〜五八

西北青年救国代表大会状況 五八〜六二

ソヴィエト聯邦

新選挙法実施に関するソ聯共産党の方針 六二〜八〇

全聯邦職業組合中央会議第六回総会の状況 八〇〜九三

全聯邦共産党第十二回極東地方大会 九四〜一〇〇

社会主義祖国の擁護

エヌ・クイヴイセフ 一〇〇〜一一六

上海國際飯店に於ける蘇聯大使の講演

ボゴモロフ 一一六〜一二七

モスコイ裁判に対するトロツキーの暴露演説

一二七〜一三九

印度

印度コンGRES党の赤化傾向 一四〇〜一四二

ガンヂの「就任拒絶決議」の解釈 一四二〜一四三

仏蘭西

仏蘭西に於ける左翼陣營の近況 一四三〜一四六

自由戦線の結成と右翼陣營の動靜 一四七〜一四九

和蘭 和蘭に於ける国民社会主義の衰退

一四九〜一五一

西班牙 マドリッドの生活状態 一五一〜一五二

研究資料

修正警察官任用条例（中国） 一五三〜一五六

埃及に於ける治外法権の廃止 一五六〜一五七

彙報 一五九〜一七六

上海業余集團旅行社の工作計画／抗日女子青年会歌詠

団の組織／最近に於ける山東の排日情勢／紅軍將領の

蔣介石及国民政府將領に与へたる檄文／國際的防共戦

線の結成を提案せる上海の露西亞文化祭／ソ聯の指導

に依る反日滿人民戦線／印度の国境政策

雜報 一七七〜一八六

露人の書いた「滿洲国に於ける露国人」なる文献（ギ

ンヘ）／中央党部宣伝委員會の発した新生活運動に関

する宣伝文／中共駐蘇代表王明等の紅軍董振堂の戦没

追悼文／中蘇文化協會主催「ゴリキキー」一週年祭／

ダンチツヒ監督委員の動靜／独逸自由党／ロマノフ朝

皇族追悼会並に記念講演会の状況

埋草

ソ聯機の北極圏横断無着陸米國訪問飛行の成功

二三〜二四

伯国に於ける共產主義暴動事件関係者の判決 一五八

第一八一号 一九三七（昭和一二）年八月

救亡工作の技術問題（中国） 一〜三四

外国事情

滿洲国

北満に於ける共産党の概況 三五〇 七〇

満洲国に於ける恩赦詔書の煥発 七〇〇 七六

中華民國

中共中央の新政策指令と之に対する国民党の論評 七六〇 八一

宋慶齡を中心とする「救国入獄運動」状況 八一〇 八七

独逸 独逸の保健政策 八七〇 九一

仏蘭西 仏蘭西に於ける物価昂騰抑止策 九一〇 九四

西班牙 カタロニアに於けるアナキストの擾乱 九四〇 一〇〇

研究資料

ソ聯邦新選挙制度の検討 一〇一〇 一二八

軍用文官任用暫行条例（中国） 一二九〇 一三二

彙報 一三三〇 一四六

支那事変に関する各国新聞論調（其一）／「北支停

戦」と題するイズヴェスチャ紙の論説／「北支の軍事

行動」と題するプラウダ紙記事／ソ聯諜報勤務員の満

洲国派遣／ソ聯国防公債発行／第二、第三両インター

の西班牙援助提携／和蘭の総選挙

雑報 一四七〇 一五六

蘆溝橋事件に対する救国会の活動／蘆溝橋事件／モス

クワリヴォルガ運河開航／トハチエフスキーの最後の

書簡／王外交部長（王寵恵）のアメリカへのラヂオ演

説

埋草 英国共同戦線の分離 一〇〇

第一八二号 一九三七（昭和一二）年九月

東北抗日聯軍第四軍及東北義勇軍 一〇 三一

外国事情

ソヴィエト聯邦

ソヴィエト聯邦最近の農業政策 三三〇 四四

本年上半期のソ聯重工業成績 四四〇 四七

独逸 独逸穀物管理令 四七〇 四九

仏蘭西

仏蘭西共産党中央委員会開催 四九〇 五一

仏蘭西内情 五一〇 五五

仏蘭西に於ける中産階級総聯盟の成立

五五〇 五六

希臘 ギリシャの近状

五六〇 五八

西班牙

西班牙共産党の目的

五八〇 六三

西班牙の国際義勇隊

六三〇 六五

研究資料

国際スパイ

六七〇 七〇

日本スパイ

七一〇 九三

日本諜報機関の破壊工作

九三〇 一〇一

外国諜報機関のスパイ募集法

一〇二〇 一〇七

日本軍事機密事項に関するソ聯誌記事

一〇七〇 一一三

彙報

支那事変に関する各国新聞論調（其二）／外字紙の見

一一五〇 一三〇

たる日支の国力／首都新生活運動会の市民に告ぐる書

／日本の侵略の裏にあるもの

雑報

一三一〇 一四八

満井河鉄橋に於ける列車顛覆事件の概要／在哈全露フ

アシスト党の聖ウラヂミール記念会開催状況／重工業

人民委員部分割及造機工業人民委員部の新設／日蘇戦争の予想／第二十五回国際青年デーのスローガン

埋草

朝鮮、台湾、琉球人民に独立を煽動する帰滬留日学生

の策動

三二

陰謀事件爾正後のソ聯在外大使顔触れ

六六

独伊労働組合の協調

ロバート・ライ、トエリオ・チアネツテ 一一四

（*附録）

満洲国政府組織系統及重要職員表

国民党中央執行委員会中央宣伝部組織系統及重要職員表

第一八三号 一九三七（昭和一二）年一〇月

最近に於ける全聯邦共産党の活動 一〇 七五

外国事情

中華民国

抗日方針に関する中国共産党の主張

毛沢東 七七〇 八四

支那事変に關してトロツキー派中国共産主義同盟の

發したる檄文

八五〇 八八

支那事変に対する中国民衆団体の策動状況

八八〇 一四一

危害民国緊急治罪法

一四一〇 一四二

ソヴェエト聯邦 スターリン治下のロシア

一四二〇 一五〇

仏蘭西

仏蘭西社会党全国大会

一五〇〇 一五三

人民戦線と農民

一五四〇 一五五

仏蘭西に於ける外国人取締強化

一五五〇 一五六

伊太利 伊太利に於ける反猶太主義

一五七〇 一五九

研究資料

ソ支不可侵条約締結に關する考察

一六一〇 一七三

彙報

支那事変に關する各国新聞論調（其三）／中国共産党

一七五〇 二一四

の發したる「抗日救亡綱領」／左派救国会の新工作及

方針／中国学生救国聯合会の留日中国学生に与へたる

救国運動に關する指令／中国学生運動の一年／中国共

産党の職工運動工作

雜報

二一五〇 二三四

蘆溝橋事件に關し中共中央及紅軍將領の發出せる通電

／全救上海邦人紡績工場職工策動／日本下級將士に対

する反戰的宣伝文／汪兆銘のラヂオ演説／中国共産党

駐ソ代表王明の署名論文／現在に於ける東北抗日聯軍

第四軍の内容及其の政治綱領／ロシアの対民衆政策／

侵略に対する集团的攻撃と集团的平和保障（リトヴィ

ノフ）／全聯邦共産党極東地方委員会定期總會及極東

地方執行委員会第六回總會／ソ聯邦最高ソヴェエト

選挙施行準備／ゴスプランの機構改革／新聞記者追放

問題を繞る英独の紛議

埋草

「恐ソ病」に依つて牽制される日本 七五〇 七六

仏蘭西に於ける旅券偽造団体の逮捕 一六〇

在スペインの伊太利軍 一七四

モスコで女易者逮捕さる 二一四

第一八四号 一九三七（昭和一二）年二月

毛沢東の論説『国共両党の統一戦線成立後に於ける中国

革命の切迫せる任務』 一〇

外国事情

満洲国 満洲国の新行政執行法 一一〇

中華民国

支那事変に対する中国民衆団体の策動状況 一二〇

上海に於ける学生団体の統制 一三〇

ソヴェエト聯邦 一四〇

蘇聯邦改正住宅法 一五〇

蘇聯邦に於ける宗教界の反蘇的スパイ活動 一六〇

ロシアの新歴史編纂方針 一七〇

第二十回革命記念日に対する全聯邦共産党のスピーチ 一八〇

ガソリン 一九〇

独逸 国民社会主義の食糧政策 二〇〇

独逸に於ける余暇利用組織 二一〇

北米合衆国 米共産党十八週年記念大会状況 二二〇

八八〇 九二〇

蘇聯より見たるゲンユタポ 九三〇

彙報 一〇九〇

支那事変に関する各国新聞論調（其四）／戦地総動員

委員会の工作綱領／上海に於ける国際倶楽部の成立と

俞市長の講演／米国に於ける外国人組織の活動／瑞西

に於ける要塞地帯保護令発布 一一〇〇

雑報 一二〇〇

中国共産党発出のソ区観察感想録「中国紅軍」／国民

政府内政部長のラジオ演説（蔣作賓）／中共中央の華

北事件に関する第二次宣言／国共妥協に関する一共産

党員の書翰／駐支蘇聯邦大使館付陸軍武官レーピン少

将の経歴 一二〇〇

余録 無監督の郵便函 一二〇〇

中国軍陣地跡にて発見せる日本反戦宣伝ビラ 一三〇〇

国営商店電氣器具部の不正 一四〇〇

第一八五号 一九三七（昭和一二）年一二月 一五〇〇

支那事変に対する中共駐蘇代表王明の演説 一六〇〇

研究資料

支那事変に対する中共駐蘇代表王明の演説 一〇〇〇

外国事情

中華民國

支那事変に対する中国民衆団体の策動状況

二五〇 五八

蘇浙行動委員会別動隊総指揮部の活動状況

五八〇 六四

ソヴェイエト聯邦

スターリン治下のロシア(二) 六四〇 七〇

蘇聯邦に於ける一九三八年度生産計画

七〇〇 七三

仏蘭西 フランス新社会党の声明 七三〇 七五

伊太利 伊太利に最高自給經濟委員会設置 七五〇 七七

伊太利の制裁第二週年記念大会 七七〇 七九

彙報 八一〇 一三五

彙報

支那事変に関する各国新聞論調(其五) / 中共機関紙

「解放」の主張する対外策 / 中共中央委員会発出の同

志に告ぐる書 / 嘘の上に立つソヴェイエトの大廈(ケ

レンスキー) / 十月革命二十週年記念に際しコミンテ

ルの発したる檄文 / 独逸の植民地返還要求(フォン

・エツプ) / テロリズム防遏に関する國際會議 / 英伊

關係 / カタロニヤ社会・共産党の声明 / 日貨ボイコッ

トと米国共産党

雜報

一三七〇 一五二

東北抗日聯合軍の現勢及其の編成表 / 滿洲国に於ける

白系露人の排共運動 / 滿洲に於けるパルチザンに

對する在哈蘇聯領事館員の批判 / 十一月中の漢口状況

／新任駐支蘇聯大使の略歴及其の使命 / 独逸の仏国新

聞記者追放 / 昨今の米国クラー・クラックス・克蘭団

余録

スパイに判決下る 二四

ソヴェイエト選挙終了 八〇

旧地主の警官への復讐 一三五

チエーカ創立第二十週年記念 一三六

第一八六号 一九三八(昭和一三)年一月

第一回ソヴェイエト最高會議選挙

一〇 三〇

外国事情

中華民國

支那事変に対する中国民衆団体の策動状況

三一〜三八

最近上海に頻発するテロ事件概況

三九〜四一

ソヴェエト聯邦

ソ聯邦に於ける十月革命二十周年記念状況

四一〜五七

ソヴェエト政權二十年間に於ける国民經濟の展望

五八〜七七

独逸 国民社会主義宗教政策の目的

七七〜八二

仏蘭西

仏右翼の陰謀事件

八二〜九一

第九回共産党大会状況

九一〜九五

彙報 支那事変に関する各国新聞論調／「戦時日本」／ソ聯邦に於ける家畜調査／一九三八年度農産物増産の為の

九七〜一二〇

スローガン

一一一〜一二九

一帰国支那人の感想「日本の一切から離別して」／中国共産党第七次大会開催説／蒋介石が全抗日軍隊に発

したる「抗戦全軍将士に告ぐる書」／ソ聯邦人民委員

一一一〜一二九

雑報

一一一〜一二九

一帰国支那人の感想「日本の一切から離別して」／中

一一一〜一二九

国共産党第七次大会開催説／蒋介石が全抗日軍隊に発

一一一〜一二九

したる「抗戦全軍将士に告ぐる書」／ソ聯邦人民委員

一一一〜一二九

会議附属經濟委員會會議の新設／ファシスト示威行列

に対する抗議（英国）／巴里発行独字新聞の取締／フ

ランス帝派のゼネヴァ会合

余録

非合法墮胎院曝露さる

ソ聯邦初代海軍人民委員スミルノフ及新国防人民委員

代理メフリスの経歴

第一八七号 一九三八（昭和一三）年二月

全聯邦共産党清党工作訂正宣言

一〜一〇

外国事情

支那 全欧華僑抗日救国聯合会第二次大会概況

一一〜三五

中共党ソ区政府機関紙に掲載された陝北の情况

一一〜三五

中共党ソ区政府機関紙に掲載された陝北の情况

一一〜三五

蒋介石の自ら編輯せる秘密文書「抗敵戦術集録」

三五〜三九

蒋介石の自ら編輯せる秘密文書「抗敵戦術集録」

三五〜三九

蒋介石の自ら編輯せる秘密文書「抗敵戦術集録」

三五〜三九

蒋介石の自ら編輯せる秘密文書「抗敵戦術集録」

三五〜三九

蒋介石の自ら編輯せる秘密文書「抗敵戦術集録」

三五〜三九

蒋介石発出の第二次訓示

四三〜四七

文化界救亡協会が今後の抗日運動に関して密発した
指令 四八〇 五一

ソヴェエト聯邦

日支事変とコミンテルンの新戦術 五一〇 五六

ソ聯邦重工業に於ける新社会主義競争

五六〇 六三

最近に於けるモスコと第二インターの関係

六三〇 六六

独逸 独逸に於ける海外組織

六六〇 六九

仏蘭西 革命行動秘密委員会の活動

七〇〇 七八

伊太利 伊太利の小麦收穫戦争

七八〇 八〇

北米合衆国 消費者大会と日貨ボイコット

八〇〇 八一

羅馬尼 羅馬尼の猶太人

八二〇 八三

研究資料

新憲法に依る第一回ソヴェエト最高会議

八五〇 九九

彙報

一〇一〇一三九

支那事変に関する各国新聞論調(其七) / 国民政府の
重大声明 / 国民經濟建設運動 / 非常時期監察權行使法

／文化界救亡協会の密発せる抗日伝單 / 國際反ファシ
スト連帶団規約 / 日独伊防共協定に対するソ聯側の反
響 一四一〇一五五

雜報

全聯邦共産党中央委員会附屬中央新聞養成所開設 / ソ
聯邦新憲法發布一周年記念 / 日本政府の赤及平和主義
者檢挙 / 日本の病的輸出貿易と日貨排斥 / スターリン
の恐怖政治曝露 / 日本の軍需工業

余録

ゴスプランの機構再改革

八三

滿洲国の学制改革

八四

毛沢東と大公報記者との会見記

一〇〇

米人女共産主義者アグネス・スメドレーの近況

一四〇

在哈爾濱リトワニヤ領事の行動

一五六

第一八八号 一九三八(昭和一三)年三月

新民主主義の理論と実践(上)

繆斌、宗介、張燕郷 一〇二八

外国事情

支那

中華民國臨時政府の組織

二九〇 三九

回教総聯合会の結成

四〇〇 五〇

陝甘寧特区(ソヴェエト区)に関する諸情報

五〇〇 五八

上海に於ける「一・二八」六週年紀念日の状況

五八〇 六七

第四國際書記局の「中日戦争に対する決議草案」

六八〇 七一

ソヴェエト聯邦

全聯邦共産党一月宣言と極東

七一〇 八一

イワノフの質問状とスターリンの返書

八一〇 八七

ゲ・ペ・ウ二十週年紀念日の状況

八八〇 九二

独逸 独逸警察の機構

九二〇 九八

仏蘭西 旅券偽造団の横行

九八〇 一〇〇

北米合衆国

沙市に於ける共産運動の弾圧

一〇〇〇 一〇一

米国に於ける軍事的施設の撮影模写禁止法案

一一〇

一〇二

西班牙 フランコ内閣の確立

一〇三〇 一〇五

チエッコスロヴァキア 集団保障の死滅

一〇六〇 一〇七

パレスタイン パレスタインに於ける伊太利の反英陰謀

一〇七〇 一一〇

彙報

支那事変に関する各国新聞論調(其八) / 事前直前に

国民党中央が密謀せる機密指令「国難期間各級党部臨時工作綱要」 / 最近抗戰形勢に関する周恩来の談話 /

国民党陝西省党部と中共陝西省委との抗争 / 中国共産

党關係の諸情報

一一一〇 一一三

雑報

中国共産党と中国共産主義同盟(トロツキスト)との

論争 / 汪兆銘の反侵略大会への放送演説 / 元ソ聯邦人

民委員レイス暗殺事件 / 赤軍二十週年記念に際しての

記念章の交附と特赦令の発布 / 海峽植民地灯火管制法

案 / 三角枢軸 / 戦争煽動家

余録

チタ市に於ける液体燃料保有量

一一〇

英国恃むに足らず	一三二
短命なる哉仏内閣	一四六

第一八九号 一九三八(昭和一三)年四月

新民主義の理論と実践(下)	一〇
一〇	二一

外国事情

支那

上海に於ける最近の抗日反漢奸、親日派運動概況

二三〇 三六

最近に於ける支那人民戦線派の動静

三六〇 四四

国共合作の近況

四四〇 四七

抗日団体機関紙に掲載された「鉄蹄下の華北」

四七〇 五五

救亡日報に掲載された「現段階の民衆運動」

五五〇 六二

国際反侵略運動大会中国分会状況

六二〇 七一

ソヴェエト聯邦 右翼トロツキスト・ブロック反蘇

七一〇 八六

陰謀事件

八六〇 八九

仏蘭西 フランスの近情 八九〇 九四

印度 印度の昨今 九四〇 九九

北米合衆国

ニューゼーシー市長の弾圧政策に対するC・I・O

一〇〇〇 一〇六

及共産党の抗議

一〇七〇 一一一

研究資料

米國諸団体の日貨ボイコットと排日

一〇七〇 一一一

滿洲国に於ける市街村自衛法の公布並施行

一一三〇 一一七

滿洲国に於ける市街村自衛法の公布並施行

一一七〇 一二〇

中華民國臨時政府に於ける省公署、道公署、県公署組

一二〇〇 一二五

織大綱の制定公布

一二六〇 一二七

危害民国緊急治罪法ノ改正

一二九〇 一六四

支那事変に関する各国新聞論調(其九) / 中華民國武

康県国民党員総動員工作計畫書 / 防共戦へ回教徒の大

団結 / 東亜反共同盟会 / 蔣介石は真に對日長期抗戦を

指導し得るか / 蘇聯邦の計畫する對日作戦 / 國際労働

組合統一問題（マックス・ウェーバー）／支那に於ける戦争と国際間の矛盾

雑報

一六五〜一七六

流寇式遊撃戦術／国民党中央の密発せる非常時期各級党部民衆団体抗敵後援工作指導弁法／河北に於ける敗残兵匪の情況／中国共産主義同盟の発したる「現下抗戦中に於ける我々の任務と策略」／蒋介石が上海戦線にて師長以上になせる訓話／王克敏狙撃事件／コミンテルンの世界赤化新戦術／奥国内政治犯人に対する大赦／支那共産党に与へたるコミンテルンの指令／ヒツトラーの親書

余録

コムソモール組織に関する規定

二一

日本軍の損害

二二

理髪館を整理せよ

一一

抗日民族戦線下の中国カソリック教徒

一一二

スイス国民戦線闘員の逃亡

一二八

スーチャン駅の旅客冷遇

一七六

(*附録)

中华民国臨時政府組織系統並人名表

第一九〇号 一九三八（昭和一三）年五月

国民大会後の中国国民党 一〜二四

外国事情

支那

晋察冀辺区軍政臨時代表大会並晋察冀辺区青年籌備

会 二五〜四七

ソヴェエトより民主共和制度へ 四七〜五三

国民政府の制定せる省政府組織大綱 五三〜五六

上海各界救亡協会の三月分宣伝大綱 五六〜六四

国民党臨時全国代表大会に関する宣伝大綱

六四〜六七

王明の「目前抗戦形勢及任務宣伝大綱」

六七〜七〇

中共蘇区党代表大会に於ける毛沢東の演説

七一〜七七

ソヴェエト聯邦

右翼トロツキスト・ブロツク反蘇陰謀事件（続）

七七〜九五

ソヴイエート民衆の声 九六〇～一〇一

独逸 ナチス党教育機関の新設 一〇二〇～一〇四

仏蘭西

上院威嚇の示威運動 一〇四〇～一〇九

ブルムよりダラデイエ内閣へ 一〇九〇～一一三

英吉利 英、愛新協定に就て 一一三〇～一一六

北米合衆国

亜米利加労働総同盟とスターリン 一一六〇～一一九

ルイス失業者救済の急務を叫ぶ

ジョン・ルイス 一一九〇～一二〇

亜米利加共産党会議

エム・オリギン 一二〇〇～一二二

研究資料

新民会首都指導部の成立 一二三〇～一二三

内蒙に於ける各政権の成立経緯とその政治機構

一三一〇～一四四

北支新政権官吏服務規則

一四四〇～一四六

彙報

日本の中国新政権擁立政策に対する逆宣伝／抗日戦の新段階／ゲシュタポの活動状況／非常時期工作指導綱

要／日本の陸海空軍兵士に告ぐ

雑報 一六九〇～一七九

一党専政に関する毛沢東と新中華報記者との談話／事

変中の支那奥地を觀て／晋察冀辺区に於ける抗日軍人

家族優待条例と抗日遊撃軍の規律／中国青年党（国家

主義派）と国民党との接近

余録

貧弱な停車場 九五

倶楽部の猛省を期待す 一七九

北支だより 一八〇

第一九一号 一九三八（昭和一三）年六月

独逸合併とチェッコ問題 一〇～二三

外国事情

支那

本年度上海に於けるメーデーの状況 二五〇～三四

上海に於ける学生抗日運動の現状 三四〇～四〇

華僑の救国運動を展開せよ 四〇〇～四四

戦時民衆運動工作の基本原則 四四〇～五一

ソヴェエト聯邦

コムソモールの肅正工作

五二〇 六〇

ソヴェエト新聞デー

六〇〇 六五

ソヴェエト民衆の声

六六〇 六九

仏蘭西

「人民の家」に於ける共産党中央委員会

七〇〇 七二

仏労働総同盟とオスローに於ける国際労働組合理事

總會 七二〇 七六

伊太利 ジェノアに於けるムツソリーニ首相の演説

七六〇 八〇

洪牙利 独塊合併と洪牙利

八〇〇 八二

波蘭 波蘭に於ける独逸小教民族

八三〇 八五

羅馬尼 ゴガ内閣の辞職と新内閣成立後の政情

八五〇 八八

研究資料

修正上海市大道政府警察局組織規則並に水上警察隊組

織暫行規則

八九〇 九七

国民政府指導下の戦時警察勤務法

九七〇 一〇六

彙報

一〇七〇 一四四

広州に於て組織せる「帰国華僑抗敵後援会」／反国民

党、反三民主義図書雑誌の取締／中共中央総書記張聞

天と救亡日報記者洛基の時局談／総動員法案が日本へ

与へ得たものは何か／鹿地巨夫妻の反日逆宣伝（鹿地

巨／池田幸子）／ソ聯共産党、本年度メーデースロー

ガン／スターリンとの死刑囚群／ソ聯との共同戦線／

瑞典工業界に於けるソ聯のスパイ行動／支那事変を繞

る世界のデマ

雑報

一四五〇 一六三

中国共産党抗日救国十大綱領／上海に於ける五卅記念

運動／国際共産婦人デー第二十五周年記念祭／救亡

日報に掲載された邦人の反戦寄稿／現国際情勢下に於

ける猶太人の勢力

余録

ロンドン警視庁欠員募集

二四

西班牙に於ける伊太利義勇軍

六五

「人造原料化学専門分科会」設立

八八

漢奸自首条例

一〇六

葡国人民戦線弾圧

一三七

新人スミルノフとは如何なる男か？

一六四

第一九二号 一九三八(昭和一三)年七月

肅正工作訂正宣言後の全聯邦共產党 一〇三
 外国事情 一〇三

支那

華北に於ける共產運動の状況 三九〇
 国家社会党の国民党支持表明 四四〇
 陳独秀問題を中心に国共兩派文化人の論争 五〇〇

ソヴェエト聯邦

一九三八年度のソ聯邦国民經濟計画 エヌ・オズネンスキー 五六〇
 ソヴェエト民衆の声 七七〇
 仏蘭西 フランス三大政党首領の最近の演説 八一〇

北米合衆国 米国共産党大会

エルル・ブラウダー 八四〇
 伯羅西爾 クーデタの失敗と在留外人 八九〇

研究資料

波蘭共産党解散か 一三〇
 滿蘇国境事件の裏にヒットラー 一五二

仏蘭西に於ける外国人の取締 九三〇
 戦地守土奨励条例 一〇二〇
 彙報 一〇五〇

彙報

港粵見聞記／米国に於ける独逸のスパイ団／秦那憲の論じたる「国際主義と革命的民族主義」／哈爾濱回教聯盟排共大会／鹿地亘のラヂオ放送／蘇聯メーデーに参列せる各国労働代表／煙草、葉による抗日宣伝

雑報

広東から漢口へ／蘇聯の真相を語る／ソ聯邦海軍人民委員スミルノフの演説／各救亡団体の文化擁護運動／Gメンの經費削減／上海に於ける反蘇排猶宣伝ビラ／新兵器と支那軍／蘇聯邦並行諜報路線極東中央部上海支局幹部の更迭／上海に於けるコミンテルンの活動状況／国民政府の出征抗敵軍人家族優待弁法／在上海アメリカン倶楽部有力者の支那事変に対する観測
 余録

国防並に第三次五ヶ年計画資金公債五〇億留募集

五五

波蘭共産党解散か

一三〇

滿蘇国境事件の裏にヒットラー

一五二

国民の厭戦心転換が日本の肚 一五二

第一九三号 一九三八（昭和二三）年八月

ソ聯邦加盟共和国及自治共和国最高ソヴェエト選挙 一〇一

外国事情

支那

上海に於ける各党各派の抗日運動状況 一九〇

支那共産党中央委員会代表者の宣伝及びコミンテルン執行委員会幹部会の決定 三〇〇

在上海藍衣社の現勢 三二〇

北京の治安状況及び警察関係事項 三三〇

ソヴェエト聯邦

支那に於ける新四軍 三七〇

蘇聯邦の林業 四五〇

ソヴェエト民衆の声 五〇〇

仏蘭西 社会労働農民党の樹立 五五〇

希臘 希臘に於ける独裁 六一〇

研究資料

問諜戦縦横談 六九〇

埃及の結社、集団禁止法 七三〇

瑞西「スウイツ州」に於ける治安維持法 七四〇

彙報

ソヴェエト露西亜の瞥見（ダブリュー・ルイソン） 七七〇

／日支戦時財政の比較／海外に於けるゲ・ペ・ウの活動／フリーメイソン結社の反ファシズム統一戦線／日蘇開戦とブリヤード蒙古共和国の重要性／張鼓峰事件を繞る各国新聞論調／ソ聯放送局の現勢 一一三〇

雑報

上海のテロリズム／国民政府軍事委員会政治部の発出せる「全国民衆に対する宣伝大綱」及其の「宣伝実施弁法」／我軍占拠地区に於ける中共乃至人民戦線派の抗日根拠地建設運動と救亡工作に関する指示／猶太系米人第四十二年次大会の情況／蘇聯邦人の見た日本の

四五〇

警察(ベ・ソコロフ)／合衆国沿岸の日本諜報網
(ヂー・ラインハルト)／英国に於けるスパイ裁判／
中国エスペラント協会の成立大会／共産党幹部十七名
処刑さる

余録

ブリュッヘル元帥の布告

一八

独逸は戦争を準備している

六七

英国に於ける人民戦線運動の強化

六八

スペイン援助の舞台裏

七五

ソ聯邦極東海軍の強化を計画

七六

第一九四号 一九三八(昭和一三)年九月

全聯邦検事会議を繞る若干の問題

一〇 二八

外国事情

支那

事変一週年に際し蔣介石の爲したる声明書

二九〇 三五

江蘇、浙江、安徽三省に於ける土匪海賊残兵調

三五〇 四四

最近華北に於ける共産遊撃軍及び其他匪賊の概況

四五〇 四八

冀東地区京古線地方に於ける治安状況

四八〇 四九

ソヴェエト聯邦

第二回全聯邦最高會議

五〇〇 六一

一九三九年度ソ聯国勢調査

六二〇 六三

ソヴェエト民衆の声

六四〇 六八

仏蘭西 彼等の外交政策に就て

六九〇 七三

伊太利 ファシスト首脳部の編成について

七三〇 七六

研究資料

遊撃隊の組織及び戦闘実施

七七〇 八九

ソ聯極東地方執行委員会幹部会の緊急命令公布

八九〇 九〇

彙報

国民社会主義独逸労働者党大会略史／独伊に於ける猶

太人問題／米国に於ける独逸スパイ団検挙と伯林に於

けるその反響／独逸に於ける英国の間諜／国際共産党

の新設機関カランチン／北京に於ける諸状況／香港よ

り見たる国民政府の諸状況／海外に於けるゲ・ペ・ウ
の活動

雑報

一二五〜一六一

国共合作の将来性／第八十九軍政訓処の共産党取締密
令／日本に於ける防空の問題／カガノウイツチの蘇聯
人民委員会議長（モロトフ）代理就任／個人取引に対
するソ聯の弾圧／コミンテルンの対支援助と対日策動
／「アジア自治協会」参加の「上海経済建設会」の
活動概況／プラーグは莫斯科の藁人形である（ハンス
・クレブス／エフゲニアス・フォン・シュューメル・チ
エルメントフスキー／フランツ・ライニツプ）／張鼓
峰事件の顛末

余録

第二回世界青年大会開催

九〇

上海の蘇聯邦機関新英露字新聞創刊計画

一六二

第一九五号

欠

独逸のズデーテン合併とチエツクの将来 一〜三六

外国事情

支那

武漢陥落と国内の動揺 三七〜四二

河北に於ける国共機関の動向 四二〜四五

ソヴェエト聯邦

新党員の採用復活と其の実績 四五〜五七

第二十一回革命記念日に対する全聯邦共産党のス

ローガン 五七〜六〇

ソヴェエト民衆の声 六一〜六五

仏蘭西 動員下の仏蘭西 六六〜七〇

伊太利 伊太利知識階級の不平 七〇〜七三

米国 A・F・L・とC・I・O・の長期抗争

フランシス・パーキンス 七三〜七五

墨西哥 墨西哥大統領米国を衝く 七五〜七七

緬甸 緬甸国に於ける仏、回教徒の闘争事件

土田与一郎 七七〜八二

研究資料

蘇聯邦の新制法律

八三〜九八

第一九六号 一九三八（昭和二三）年十一月

共産軍の抗日戦術教科書「抗戦情報業務」の内容

九八〜一〇九

第一九七号 一九三八(昭和一三)年二月

独逸に於ける新外事警察令

一〇九〜一一〇

彙報

一一一〜一三五

昭和十三年度前半期における中共満洲党の運動概況

一〜三四

上海に於ける新文字運動と国共の対立／米国に於ける
独逸スパイ団の裁判消息／ミュンヘン協定後の中央欧

外国事情

羅巴／共産党世界情報(ウリベ)

支那

雑報

一三七〜一六三

第八路軍の抗戦一週年

三五〜四九

猶太問題世界情報／フリー・メーソン情報／和議排斥

十月下旬に於ける北支抗日軍の情況

五〇〜五三

と抗戦国策の確立／討蔣防共の伝単各種／第八路軍の

ソヴェエト聯邦 ソ聯東部並に極東地方に於ける農

青年師団／コミンテルンが中国援助に関し各国共産党

作物收穫に対する考察

五四〜六四

に与へたる指令／ソ聯邦出版物の国外輸出制限の強化

英吉利 英国の対日政策に就て

六四〜六七

／ヤコダとエジヨフ／仏蘭西警察機構の欠陥／ブリュ

エム・デイ・ケネデイー

六四〜六七

ッヘル將軍の末路／張鼓峰事件参戦ソ聯將兵の新入營

仏蘭西 人民戦線の一部的崩壊

六八〜七二

者に対する書翰／紐育州に於ける産業労働争議の近情

研究資料

余録

敵貨査禁条例及び資敵物品禁運条例

七三〜七五

エジヨフとブリュッヘル

六五

仏蘭西の間諜行為取締法規

七五〜八一

在支ソ聯諜報機関員プロストフの行動

一三六

彙報

八三〜一二一

抗日歌曲——救亡行進曲／国共合作行進曲

一六四

哈市に於ける反共運動週間の狀況／世界第二次大戦は

何処より／広東の陥落に就て／中華民国青年同盟救国

会の活動状況／共産党世界情報／共産党テロ日誌

雑報

一二三〜一五〇

第一九八号 一九三九（昭和一四）年一月

猶太問題世界情報／支那各地に於ける反蔣運動状況／

抗戦軍人の結婚停止／ソ聯邦はレーニン主義宣伝要綱

を是正す／九、一八記念に際し日本学生に告ぐる書／

哈爾濱に於けるソ聯邦革命二十一年記念日の状況／在

上海露西亞人法益擁護委員会の反日滿的策動／在比島

華僑の排日貨運動／滿蘇国境事変従軍日誌（サブイキ

ン）／蘇聯脱走兵との座談会／スペイン戦線の伊太利

軍／中共中央委員秦邦憲のU・P記者に語れる時局談

／中日媾和の条件／第二回世界青年会議の決議

余録

第四回フアシスト世界大会開催

七二

支那事変デマ

八二

英船内の反日演劇及救国基金募集

一一一

北京に於ける謠言

一二二

附録

中華民國臨時政府組織系統最重要職員表

中華民國維新政府組織系統及重要職員表

蘇聯邦懲治集團監獄の実情

一〜二九

外国事情

支那

中共六中全会の決議

三一〜四〇

上海に於ける十月革命、孫文誕生、上海陥落、各紀

念日の状況

四〇〜四三

新民会の動向並其の概況

四三〜五〇

日支事変と四川及び貴州両省の經濟

五〇〜五五

ソヴェエト聯邦 蘇聯首脳部の肅清状況

五五〜五九

仏蘭西 労働総罷業とその失敗

五九〜六四

印度支那 日本の發展途上に横はる印度支那

アレキサンドル・ヴァーレス 六五〜六九

研究資料

我軍占領地区に於ける共産党の救亡工作

七一〜一〇四

彙報

一〇五〜一四二

米国に於ける独逸スパイ団事件公判に於ける検事の起訴事実陳述要綱（レーマー・ハーデー）／外蒙古に於ける反蘇氣勢の激化／チユニス問題／新版全聯邦共産党史の解剖／支那の戦争と日本人民（野坂参貳）／独仏共同宣言／パレスタインの分割問題

雑報

一四三〜一五七

猶太問題世界情報／世界回教徒の分布／日本に於ける反戦思想の擡頭！／日独文化協定締結／滅共委員会の組織計画／孫科の長期抗日論／プリユツヘル元帥はどうなつたか？

余録

中共六中全会のスペイン共産党中央並に全党及全人民に与ふる通電

三〇

抗日支那紙の種々

六九

支那新聞の記事に見る

七〇

中国国民党党歌

一五七

白系露字紙の記事に見る——「ゲ・ペ・ウ」墨西哥に

潜入す／中国共産党員本国へ帰還

一五八

第一九九号 一九三九（昭和一四）年二月

人民戦線は敗退す

ヂミトロフ 一〜一六

外国事情

支那

上海に於ける一・二八記念日状況 一七〜二一
国民党内部の整頓並に拡充に関する指令 二一〜二六

最近に於ける中国共産党一派の活躍 二六〜二七

上海に於ける抗日諸機関の近況 二八〜二九

ソヴェエト聯邦

第三次五ヶ年計画の前駆としての蘇聯邦労働者手帖

法 三〇〜四五

ソヴェエト民衆の声 四六〜四七・一四九

仏蘭西 現欧州政局とフランス

ペルチナツクス 四八〜五一

独逸 独逸の東方進出とハンガリー 五一〜五三

英吉利 英国に於ける爆発事件 五四〜五五

北米合衆国 汎米会議

エス・セーウイン 五五〇 五九

葡萄牙 葡萄牙国家議員総選挙施行 六〇

パレスタイン パレスタインの委任統治

六〇〇 六一

研究資料

中国各地の共産党の活動概況(上) 六三〇 九〇

彙報 九一〇 一六

共産党及び共産軍の宣伝／革命二十一周年を迎へ蘇聯

邦人民委員会議長モロトフの演説／抗日的暗殺事件統

計表／現代日本の生活断面

雑報 一一七〇 一四九

猶太問題世界情報／在重慶中国国際放送局の抗日デマ

宣伝日本語放送／全蘇聯邦共産党第十八回定期大会の

召集原因に関する在上海白系露人方面の観測／汪兆銘

の声明に対する華北国共両党員動揺／福建省に於ける

各派勢力分野／緑川英子の中国朋友に与へたる談話／

共産党肅清の犠牲／北京学生の抗日遊撃隊加入

余録

ソ聯邦重工業人民委員部の改組 六一二

反スターリン派の撒布するリーフレット赤都に漲る

上海に於ける避難猶太人の職業調査 一一六

附録

中国国民党組織系統及重要職員一覽表

第二〇〇号 一九三九(昭和一四)年三月

伊太利国に於けるユダヤ人問題 一〇 三〇

外国事情

支那

中国回教民族の動向 三一〇 三五

在滬抗日テロ団体の組織概要と最近の状況

三六〇 四〇

ソヴェエト聯邦

第十八回ソ聯共産党大会の議事日程と党則改正案

四〇〇 五二

コムソモール中央委員会第七回総会 五二〇 六一

ソ聯邦に於ける労働規律調整令施行直後の実績

六一〇 六六

仏蘭西 国際共産党と仏蘭西 六六〇 七一

伊太利 羅馬主義普及行動委員會憲章 七一〜七八
西班牙 西班牙の避難民問題 七八〜八二

北米合衆国 米国民戦線派の近況

ウイリアム・フォスター、

ロバート・ベンチナー

墨西哥 墨西哥のソヴェエト化 九三〜九七

研究資料

中国各地の共産党の活動概況(下) 九九〜一二五

臨時政府制定の国籍法 一二五〜一三一

独逸に於ける「猶太人ノ贖罪令施行規則」

一三一〜一三三

国民政府の公布せる防空令 一三四〜一三五

彙報

日露漁業交渉／中共第七次全国大会の召集／北支に於

ける白系露人防共委員会(ヴェ・エフ・イワノフ)／

労働手帳制の施行に対するプラウダ紙の社説／共産党

の党的建設講授概要／本年のレーニンデー／中華工人

福益会の設立並にその現況／何故独逸は英国を屈服し

得たか／スターリン憲法下の二年

雑報

一六七〜二〇一

猶太問題世界情報／海南島概観／支那遊撃隊と独逸参

謀本部／中国国民党抗戦建国綱領／黒田善次の反戦的
逆宣伝(青山和夫)／我軍占領地に於ける支那言論機

関の現況／全露ファシスト同盟第四回大会の状況／在

米露西亜ファシスト党党首「A・Aウオンシヤツ

キー」の来滬／肅清後の蘇聯邦首脳部員／ゲ・ペ・ウ

長官ベリヤは如何なる人物か／蘇聯邦党規改正草案

余録

世界国防費一覽表 九八

一九三八年度中華民國海関収入総額 一三六

孔祥熙の宣言 二〇二

附録

上海共同租界工部局組織一覽表

第二〇一号 一九三九(昭和一四)年四月

全聯邦労働組合中央評議会第七回総会と最近に於けるソ

ヴェート労働組合の活動及動向 一〜一八

外国事情

支那

今日の新西南(上)

一九〜二八

最近の支那政治軍事情報 二八〇 三七

晋察冀辺区政府の概貌と其の経済政策 三八〇 五六

北支に於ける共産軍宣伝の近情 五六〇 六一

ソヴェエト聯邦

ソ聯邦に於ける兵力力量 六一〇 六七

ソヴェエト民衆の声 六八〇 七三

独逸 国会に於けるヒトラー総統の演説

七四〇 七九

波蘭 波蘭に於ける最近の国内政情 八〇〇 八六

印度 印度に於ける最近の共産主義運動 八六〇 九五

印度支那 印度支那に関する仏国の恐怖 九六〇 九九

パレスタイン パレスタイト会議の終了 九九〇 一〇〇

研究資料

国民参政会組織条例 一〇一〇 一〇三

国民政府の公布せる「修正保甲条例」 一〇四〇 一一〇

彙報 一一一〇 一二五八

國際ロータリーとフラン・マソン結社／蔣介石の教育

界人士に告ぐるの書／C・C団の改組／支那の戦争と

日本人民／旧法幣流通禁止と臨時政府通貨政策／共産
党情報

雑報 一五九〇 一七九

猶太情報（現紐育市長の略歴）／孤立の蘇聯米国を抱

き込む／文化施設による援蔣諸国の策動状況／最近に

於けるソ聯のMTS政策／労働規律調整法違反により

解雇されたる者に対する採用条件／極東に於ける白人

種最後の拠点

余録 六七

目覚時計 一八〇

支那各省の面積人口密度 一八〇

第二〇二号 欠

第二〇三号 一九三九（昭和一四）年六月

社会主義国と國際プロレタリアートの闘争 一〇 一五

外国事情

支那 今日の新西南(下) 一七〇 三一

蒙古 蒙古地域に於ける一般概況 三一〇 五八

ソヴェエト聯邦

全聯邦共産党規約改正に就て 五九〇 七二

ソヴェエト民衆の声 七三〇 七四

独逸 一九三八年の独逸史 七五〇 八一

北米合衆国 米国民衆対日ボイコットの内幕とコミン

テルン 八一〇 九五

研究資料

独逸に於ける猶太人に関する法規 九七〇 一一〇

彙報

一一一〇 一三一

苦悩するソ聯回教民族／日本と仏領印度支那／上海市

各界国民精神総動員協会の組織とその活動／共産党テ

ロ日誌

雑報

一三三〇 一四四

仏蘭西に於ける西班牙人避難民の現状／上海に於ける

円札相場下落とその影響／日本共産党に呼掛けたる新

華日報の社説／反共ニュース／元米国共産党員たる外

国人の国外追放

余録

タス通信のデマ記事——日本に対する伊太利の軍事的

援助 一六

滿蒙国境空中戦に参加機数尠大で米国驚愕す 九五

ソ聯短信——赤軍スタハノフ運動強化、国境でソ側不

法挑発の真因／滿蒙国に現はれたソ軍至宝機の性能 九六

冀中区に於ける国共遊撃隊の対立 一三二

第二〇四号 一九三九(昭和一四)年七月

国際情勢とソ聯の外交政策 一〇 九

外国事情

支那

天津英租界問題 一一〇 二一

北支に於ける反英運動の現状 二一〇 三二

華北に於ける物価問題 三二〇 三八

先天道総会の現況 三八〇 四四

ソヴェエト聯邦

極東防備の現段階 四五〇 五五

ソヴェート・ロシアの国内策 五五〇 六〇

独逸

一九三八年の独逸政治誌 六一〇 六五

独逸の国立自動車道路建設事業の現況

六五〇 六八

仏蘭西 第三十六回社会党年次大会

六八〇 七四

北米合衆国 アメリカ共産運動並に反共運動の現況

七四〇 七六

土耳其 土耳其の近状

七六〇 七八

研究資料

伊太利国に於ける国家に対する犯罪法令

七九〇 八八

彙報

最近に於ける華北国共軍策動状況／ナチス独逸の見たる日支戦争二週年／閩錫山の思想宣伝及施設状況／延安「抗日大学」の内容／新編赤色第四軍を指揮する項

八九〇 一一四

英とは如何なる人物か？／共産党テロ日誌

一一五〇 一三〇

雑報

黒田善次の反日記事／在上海露字新聞誌一覽表／米国の間諜取締法案／印度の外人取締／毛沢東と国際学生

同盟代表との一問一答

余録

孔祥熙の財政部長辭職説

勞農海軍の現役服務期間に関するソ聯邦最高會議幹部

会の決定

上海に於ける独逸籍猶太壯丁登録

附録

上海仏租界工部局機構一覽表

第二〇五号 一九三九(昭和一四)年八月

世界反共運動の現状

外国事情

支那

北支に於ける最近の反英運動情況

最近に於ける天津市の治安狀況

蔣介石の日本国民に告ぐるの書

蒙古

蒙疆地区の政治概況

蒙古民族共和国建設十五年史

一〇 一四

一五〇 一九

二〇〇 二四

二五〇 四〇

四一〇 四九

四九〇 五一

ソヴイエート聯邦

極東沿海州の民情

五二〇 六〇

ソヴイエート民衆の声

H・クルーシコフ 六一〇 六三

独逸 ナチス独逸に於ける反共運動の状況

六四〇 七六

英国 英国の共産主義

ジョン・ストラチエー 七七〇 八〇

瑞西 瑞西に於ける独逸勢力について

ルイレヴィー 八〇〇 八七

印度

印度に於ける労働争議

八七〇 九五

印度に於ける反英運動

九五〇 九八

研究資料

仏領印度支那警察法規

九九〇 一一四

瑞西国に於ける共産党運動取締の概況

一一四〇 一二〇

彙報

王政派同盟を中心とする在哈白系露人の動静／関内運

一一一〇 一二八

動統一に関する宣言／米国青年聯盟第五回年次総会／

一一一〇 一二八

現地に於ける新聞紙取締状況／共産テロ日誌

雑報

一三九〇 一五六

ベルギー共産党内のユダヤ勢力／北京に於ける反英運

動に対する英国側の対策／マルクスの誤算／中国共産

党運動年表／支那の日本軍に対する宣伝標語／大同学

園反戦同盟会／国共共同委員会華北分会組織大綱

余録

在上海蘇聯邦七年制労働学校の創設予定 六〇

張鼓峯事件一週年に對する露紙の論評 九八

第二〇六号 一九三九（昭和一四）年九月

ソ聯の思想動向

一〇 三〇

外国事情

支那

華北鉄道沿線の水災状況と敵匪の蠢動状況

三一〇 三五

東京会談中止後に於ける排英運動と其の影響

三五〇 三九

満洲国 満洲国現住人口の概況

三九〇 四二

満洲国 満洲国現住人口の概況 三九〇 四二

ソヴェエト聯邦

ブリヤート蒙古共和国の一般情勢 四二〇 四六

一九三九年度ソ聯邦の人口 四六〇 五一

独逸 独ソ不可侵条約の成立 五二〇 五八

北米合衆国 在米コミンテルン諜報機関と第四イン

ターナシヨナル 五八〇 六六

研究資料

国民政府非常時期經濟關係法令集 六七〇 一〇四

遊撃部隊の經濟的基礎 一〇四〇 一一五

愛蘭共和国の取締 一一五〇 一一九

彙報 一二一〇 一四六

滿洲国の回教／蔣政權の心臟成都昆明を行く／上海に

於ける労働争議／三民主義青年団の構成概況／英国の

対独宣伝戦としてのキングホール事件 一四七〇 一六五

雜報 一四七〇 一六五

極東の猶太人は何処に投資を求めてゐるか／歐洲戦乱

の英仏独波交戦国民留民に及ぼせる影響／アムステル

ダムに於ける第一回キリスト教青年世界會議／一米人

の見たる日英關係／日ソ停戦協定成立に関する各国新

聞論調

余録

第八路軍の強制徵発 一一〇

(*附録)

支那の軍事委員會組織図

第二〇七号 一九三九(昭和一四)年一〇月

第二次歐洲戦乱とその経緯 一〇 五八

外国事情

支那

中央政權樹立工作狀況とその後に來るべき蔣政權の

動向 五九〇 六四

在上海蔣政權抗日機關の活動狀況 六五〇 六八

ソヴェエト聯邦 独ソ不侵略条約に関するモロトフ

外相の議會演説 六八〇 七六

愛蘭 愛蘭の中立 七七〇 七八

印度 印度聯邦制実施の延期 七九〇 八〇

研究資料

伊太利に於ける猶太人に対する不動産所有權及商工業

活動の制限に関する法令 八一〇 一〇三

中国共産党の支部工作綱要

一〇四〜一一二

彙報

一一三〜一四五

コミンテルンの東亜赤化政策／蘇聯邦の戦闘力批判／

大衆に対する共産軍の政治教育／共産党世界情報――

独ソ接近と欧州戦争に対する各国共産党の論調

雑報

一四七〜一六四

世界ユダヤ人の対独戦争／国際上の政治的条約一覽／

第二十五回国際青年デーのスローガン／中国共産党正

統派のトロツキー派に対する駁論／王寵恵の声明を中

心とする重慶政府の和平工作／上海に於て流布された

る日支和平交渉説とその反響／独ソ条約に対するトロ

ツキーの批判

余録

露西亞人事務局

一四六

(*附録)

現代支那ノ諸党派一覽表

第二〇八号 一九三九(昭和一四)年二月

外国事情

支那

上海租界内に於ける新聞通信社の動向 九〜一七

新疆省内に於ける蘇聯の工作状況 一七〜一八

ソヴィエト聯邦

蘇聯の波蘭占領地工作 一八〜一九

北樺太、カムチャツカ等に於けるソ聯側の邦人処遇

其の他の状況 一九〜二四

独逸 独逸国防最高會議と戦時經濟に対する政策

二五〜三三

印度 戦時に於ける英国の印度政策 三三〜三七

三九〜七五

彙報

国共抗日宣伝の現況／中央政權樹立に対する重慶政府

の逆宣伝／現時欧亜時局と共産黨員に必要な認識／

現時国際形勢と中国抗戦に対する毛沢東の談話／独蘇

不可侵条約とコミンテルン／ダイズ調査委員会の状況

／共産党世界情報――英国共産党の対戦態度・米国共

産党の進言書

雑報

七七〜九二

ソ聯の外交転換理論を検討す

一〜八

共産党第八路軍青年隊組織綱領／侵略者日本を膺懲せ

よ／米国警察の強化と外謀取締状況／仏蘭西のラヂオ警察／リッペントロップ独逸外相と東日記者（楠山）のインターヴュー／在外邦人は斯く見る／澳門に就て／米紙の日本対支策批評

余録

租界内中等学校の転向

八

ソ聯短信

三八

上海租界内に於ける国共兩派の軋轢

七六

（*附録）

蒙古聯合自治政府組織表

第二〇九号 一九三九（昭和一四）年一二月

三民主義の真諦

汪兆銘 一〇

外国事情

支那

国民党六中全会の状況

一一〇 二七

支那共産党の展望

二七〇 三八

ソヴィエト聯邦

ソ聯西部国境の概観

三九〇 四三

社会主義大革命二十二週年祭に寄す 四三〇 四九

英国

（一）英国に於ける外国人帰化の取扱 四九〇 五一

（二）英国の新聞通信検閲 五一〇 五三

独逸 昭和十四年九月九日伯林テーゲル・ボルジツヒ

軍需工場で行はれたゲーリング元帥の演説

重成内務事務官 五四〇 六八

戦時に於ける独逸青少年少女の職業教育

六九〇 七一

独逸に於けるポーランド捕虜利用法 七二〇 七四

仏蘭西 仏蘭西共産党解散の顛末 七四〇 八一

研究資料

北支過剰人口の満洲移入問題 八三〇 九六

彙報 九七〇 一一六

ダイズ調査委員会の状況（その三）——米国軍部に対する赤色スパイ／亜米利加労働党の反共決議／「第二

次帝国内主義戦争講演提綱」毛沢東講演

一七〇 一二七

雑報

愛蘭の中立に就て／米国の偽造旅券対策／中国共産党

の党员獲得方法／支那の人民戦線／極東に於ける勝利

者は誰か？

余録

第一次世界大戦による联合国及中立国の船舶被害数

八〇

今次大戦に於ける商船の被害

八二

附録

蒙古聯合自治政府組織表

第二一〇号 一九四〇(昭和一五)年一月

戦争と資本主義国家の労働階級

G・ヂミトロフ 一〇一―一〇六

外交

フィンランド問題に関するモロトフのラヂオ放送

一七〇―一七九

政治

政治建設

楮民誼 一九〇―二〇五

各国国内事情

公衆の観点からの戦時英国

リチャード・リー 二六〇―二六九

戦線に於ける独逸S・A(ナチス突撃隊)の活躍

三〇〇―三二二

戦時に於ける独逸労働奉仕団

三二二―三五五

軍事

支那軍の抗戦体制と抗戦力量

三五〇―三七七

支那軍の抗戦体制と抗戦力量

三八〇―四一〇

経済

民国二十八年年度の中国税関接收状況

四二〇―四三三

コミンテルン

ダイズ委員会状況——(その三) 米国産業部門と赤色

スパイの贈賄状況／(その四) 共産党と国際労働者

救援会及国際労働統制会との連絡暴露／(その五)

米国共産党の共産主義化陰謀／(その六) 共産党員

の旅行券悪用違法事件／(その七) 米国共産党正式

裁判

米国共産党の声明書

支那の小莫斯科

帝国主義戦争に反対する各国共産党の闘争

蘇聯の諜報謀略 七八〇 七九

仏蘭西第二局の概貌

オズカー・レイ 七九〇 八一

参考資料

日系米人第二世の思想

マグナー・ホワイト 八五〇 九六

六号記事

上海に於ける猶太人避難民問題 八二〇 八四

トピック

英国の検閲 三七

メツサーシユミット機の設計凶盜難事件

八二〇 八三

仏蘭西の外国人取締新法令

八三〇 八四

マデノ線の補強工事

八四〇 八四

第二二二号 一九四〇(昭和一五)年二月

英国の諜報機関

一〇〇 一五

外交

友邦人士に告ぐるの書 蔣介石 一六〇 二〇

土耳其に於ける独逸工作の失敗

ルネ・ウイユ 二〇〇 二五

政治

ナチス政権獲得紀念日に於けるヒトラー総統の演説

二六〇 三四

印度への誓約と説望

三四〇 三六

汪、蔣、毛の和平論

三六〇 三八

各国国内事情

四一〇 四七

独逸国民の戦時生活

四八〇 四九

最近の蘇聯極東事情

四九〇 五〇

ソ聯邦の検閲

五一〇 五二

農村文化の向上

五二〇 五七

三民主義青年團上海支部組織工作大綱

五七〇 五九

陝北の民生民俗

五九〇 六〇

軍事

遊撃隊の活動と忠義救国軍の状況

六一〇 七二

文化

支那側新聞界の現状

七三〇 七六

コミンテルン

七三〇 七六

新党員の採用方針

七三〇 七六

ダイズ委員会状況——(その八) 米国共産党書記長投

獄さる／(その九) 聯邦政府官吏中赤色戦線に属す

る者五百六十三名ありと発表す／(その十) 「ナチ

ズム」「共産主義」調査進展／(その十一) 米国内に

於けるエドキンテルンの活動とル大統領夫人の証言

／(その十二) 亜米利加学生同盟内に「エドキンテ

ルン」の活動を否認、ル大統領夫人も関係あり

七六〇 八三

米国共産党臨時大会

八三〇 八四

防諜

スパイの技術

オスカー・レイ 八五〇 九四

中立国に伸びる英国の商業スパイ

九四〇 九五

参考資料

英国に於ける猶太人の勢力

九六〇 九九

極東に於ける猶太財閥サツスン

九九〇 一〇一

六号記事

独逸の極東貿易

三九〇 四〇

赤軍俘虜の心情

四〇〇

西班牙の復興

七二

米国共産党はソ聯の支配下にあり

一〇二

トピック

仏軍の宣伝ビラ

二五

英国の街灯

三七

スパイを死刑にする英国の立法

六一

米国のスパイ取締強化

六一

軍事工業の国有

六二

ソ聯領波蘭内に新州実施

六二

ソ聯邦の逆宣伝

六三

満洲国の徴兵制度実施に就て

六三

米国共産党の日本商品ボイコット

六四

郵便物の差押へに関する米国の対英抗議

六四

六四〇 六五

附録

軍事委員会蘇浙行動委員会忠義救国軍系統一覽表

第二二二号

欠

第二二三号 一九四〇（昭和一五）年四月

新編第四軍政治部の発表せる対偽軍工作

六九〜 八二

仏蘭西国内に再建されたるポーランド国軍及びチェッコ

経済

スロバキア国軍について

一〜 一五

重慶の経済状況

八三〜 八八

外交

仏国経済の弱点

八八〜 九一

ソヴェエト政府の対外政策に関するモロトフの演説

一七〜 三一

ソ聯の独逸向け物資補給に就て

九一〜 九三

ソ芬和平条約

三一〜 三三

米国共産党書記長ブラウダーに対する公判

九四〜 一〇六

政治

和平宣言

汪兆銘 三四〜 三六

ダイズ委員会状況——（その十三）トロツキー及びリ

各国国内事情

ヴェラを墨西可より召喚／（その十四）トロツキー

ソ聯邦極東事情

三七〜 四四

はダイズ委員会に事実を陳述せん／（その十五）消

西比利亜へ移民の奨励

四四

費者組合或は団体に対する共産党の魔手／（その十

戦時下独逸の治安状況（其の二）

六）ダイズ委員会今後の調査方針投票によって決定

重成 格 四五〜 四九

一〇六・一〇九・一四九

独逸国民の国防金属献納運動

五〇〜 五六

諜報・謀略

コミンテルンの看たる印度の独立運動

五七〜 六〇

資本主義諸国並に其代理者トロツキー・ブハーリン派

文化

諜報機関の爆破工作

戦時下の独逸新聞会議

六一〜 六五

ア・ウインスキー 一一〇〜 一二三

軍事

中立国に於ける英仏のスパイ活動

一二三〜 一二五

参考資料

一三二〜一三六

外交

ソ聯・ラトウイヤ關係並にソ聯・エストニヤ關係

三民主義青年団団員須知

一三七〜一四六

上海猶太避難民合宿所一週年報告

一四七〜一五一

ソ聯・リスアニア兩國間紛争の解決

一八〜二一

スターリン外交の一面貌

一五一〜一五八

政治

一九三七年の日支和平交渉失敗秘話

一五八〜一六一

愛蘭の地位

二一〜二二

歐洲戦乱に於ける帝国主義者の失敗と其の危険

各国国内事情

一六一〜一六四

ソ聯の八時間労働制並に一週七日制の実施

二三〜二五

パレスチナに於けるアラビヤ人とユダヤ人の労働問題

ソ聯に於ける国民教育

二五〜二八

英国の写真統制令

一六四〜一六七

米國に於ける政府転覆陰謀未遂事件

二八〜三一

六号記事

一六七〜一七〇

青年光復社

三一〜三三

蔣介石の抗日回教協會の設立

一二三

重慶政府の軍資金募集新方策

三四〜三五

第二一五号

欠

軍事

第二一六号

一九四〇(昭和一五)年七月

独仏休戦協定

三七〜四二

石油利権を繞る最近の米墨關係

一〜一六

独伊休戦協定

四二〜四五

第二一五号

欠

独伊英の空軍

四五〜五〇

第二一六号

一九四〇(昭和一五)年七月

印度に於ける英軍

五一〜五三

石油利権を繞る最近の米墨關係

一〜一六

經濟

石油利権を繞る最近の米墨關係

一〜一六

ナチス独逸の戦時經濟対策

五四〜五九

コミンテルン

ソ聯の鉄道

一一二

独逸軍の巴里進撃直前に於ける仏国共産党の宣言

六〇〜 六二

第二一七号 一九四〇（昭和一五）年八月

諜報・謀略

米国に於ける第五列の警戒

六二〜 六四

欧洲避難ユダヤ人の移住目標

一〜 三二

参考資料

ナチス親衛隊（S・S）の歴史、任務、組織

六五〜 八一

外交

ソヴェエト聯邦の对外政策に関するモーロトフの演説

三三〜 四一

伊太利に於けるユダヤ人の勢力

八二〜 九四

政治

ソ聯邦の新領土

四二〜 四五

上海に於けるユダヤ人の現状

九四〜 一〇〇

各国国内事情

共産主義とは何か

一〇一〜 一〇八

最近の国共相剋問題

四六〜 五四

蔣介石の磁鉄戦を痛斥す

一一五〜 一二七

中支方面の治安概況

五四〜 六七

和平運動の第二階段

一一八〜 一二一

独軍の英国侵入に際して市民の守るべき心得

六七〜 七〇

落傘

二二

ムツソリーニの伊太利参戦演説と戦時閣議により決定

芬蘭に於ける「ソ聯友の会」

三五

されたる各種法案

七〇〜 七五

支那の民間航空

三六

共産青年同盟中央委員会書記ミハイロフの報告演説並

支那新政府成立と福建省政府の策動

五九

に決議

七五〜 八七

重慶のスパイ団検挙

八一

財政・経済

ソ聯第三次五年計画国債の発行について

八八〇 九三

中国に於ける合作事業

九四〇 九六

軍事

ソ聯海軍の現状に関する海軍人民委員の報告演説

九七〇 九九

コミンテルン

米国共産党の反戦活動

一〇〇〇 一〇四

反共世界大会の開催計画と哈爾濱ロシヤ・ファシスト

団体 一〇五〇 一一〇

諜報・謀略

抗戦建国三週年記念「聯合特刊」の抗日宣伝

一一一〇 一一六

イギリスの防諜活動の近況

一一六〇 一一八

参考資料

独逸の通信郵送に関する命令

一一九〇 一二三

英国の対外国人政策

一二三〇 一二五

仏蘭西は独逸式教育を採用するか

ジェー・ウイリアムス 一二五〇 一二六

蘇聯邦と印度

一二七〇 一三二

北米合衆国に於ける共産主義新聞一覽

一三二〇 一三八

西班牙赤化用宣伝書類

一三八〇 一四六

(*六号記事)

ソ聯構成共和国

八七

米国に於ける反ナチ団体

九九

ソ聯共産党新採用者数

一一八

滇越鉄道の強制接收

一二六

第二一八号 一九四〇(昭和一五)年九月

支那の秘密結社

一〇 一八

各国内事情

中華民国共和党的消息

一九〇 二三

外蒙の赤化状況と蒙古民族の動向

田中事務官 二四〇 二八

中共の活動と抗日救国会組織大綱

二八〇 三〇

陝甘寧の辺区共産党第二次代表大会の決議

三〇〇 三九

ソ聯民間航空事業の一年

三九〇 四二

ソウイェト婦人の活動状況	四二〇	四四
ソウイェト民衆の声	四五〇	四六
独逸の人口増加状態	四七〇	五二
独逸の第一回戦時冬期救済事業の総決算	五三〇	五七
戦時下独逸の治安状況(其の四)		
重成事務官	五七〇	六二
米国の「灯台社」とその総検挙	六三〇	六五
経済		
ナチス独逸の戦時経済法	六六〇	七〇
軍事		
赤軍の政治委員制度の廃止	七一〇	七三
ソ聯海軍中等学校創設	七三〇	七四
コミンテルン		
ソ聯本年度国際青年日のスローガン	七五〇	七七
二十六週ンを迎へた国際社会主義青年	七七〇	八二
諜報・謀略		
最近に於ける新四軍の反戦宣伝活動		
嶋田書記官	八三〇	八七
北米合衆国に於けるユダヤ民族とユダヤ人の現勢		
上海の猶太避難民	八八〇	一〇六
新民主主義の憲政に就て	一〇六〇	一〇七
六号記事		
毛沢東	一〇八〇	一一四
米国の国防措置強化案の実施	四四	
米国の外国人船員取締強化	七四	
在米華僑の活動	八二	
ソ聯元帥星章の制定	一一四	
ヒトラー総統の対英演説	一一五	一一七
ナチスの看たる第五部隊	一一七	一一八
ローゼンベルグ	一一七	一一八
第二一九号	一九四〇	(昭和一五)年一〇月
高度国防国家の建設に邁進するソ聯	一〇	三〇
外交		
日独伊三国同盟の成立	三一〇	三五
ソ聯と三国同盟	三六〇	三七
各国国内事情		

共産軍と華北の治安状況 三八〇 四〇

支那に於ける第四インター 四〇〇 四四

滬西地区英軍撤退後の治安概況 四四〇 四六

ソ聯事情——U・P記者、P・ロツドスの見聞記

松尾事務官 四六〇 五〇

モスコウに於ける不良狩 五一〇 五二

ソ聯の鉄道運輸の現状 松尾事務官 五二〇 五四

ノールウエイ国の更生 五五〇 五八

ソウイェト民衆の声 ポポフ 五九〇 六一・八一

軍事

赤軍の欠陥とその更生策 六三〇 六五

諜報・謀略

米国の陸軍情報部 六六〇 六九

コミンテルン

第二十六回国際青年デーとレーニン共青同盟

松尾事務官 七〇〇 七六

参考資料

国外ドイツ人に対するナチスの指導と其の組織

八二〇 九九

ナチの第五列 九九〇 一〇五

ラテン・アメリカに於けるナチス工作とその対策 一〇五〇 一一五

独逸秘密国家警察の組織 一一五〇 一一九

国民政府の新聞検閲法 一一九〇 一二一

在華日本人民反戦革命同盟会の成立宣言・綱領並に該

会最近の動静 嶋田書記官 一二二〇 一二六

支那共産党問題に関する質疑応答 嶋田書記官 一二七〇 一三七

六号記事

仏蘭西政府の猶太人取締 三七

阿弗利加生れの猶太人 五八

仏国に於ける共産黨員検挙 六五

英国の放送聴取禁止 七六

日本が三国同盟を結ぶまで

ウーラツハ 七七〇 七九

ナチスの看たる日独伊三国同盟 八〇〇 八一

フランスの独逸占領地内猶太人 一三八

ロシヤ将校の権力増加 一三八

(*附録)

独逸秘密国家警察組織表

全国秘密国家警察内部組織

第二二〇号 一九四〇(昭和一五)年二月

新四軍の近状 八七〇 九六

コミンテルン

ソ聯本年度十月革命のスローガン 九七〇 九九

諜報・謀略

抗日秘密結社「在包頭同志会」

田中事務官 一〇〇〇一〇六

フアンスタ・イタリヤに於ける経済統制 一〇 二四

参考資料

イタリヤの戦時体制根本法

猪俣事務官 一〇七〇一四

方針 嶋田書記官 三六〇 六〇

伊太利に於ける猶太人問題 H・デ・

フリース・デ・ヘーケリンゲン 一一四〇一二四

ソウイェト政権の二十三年 六〇〇 六五

クズネツヨフ 六五〇 六七

ナチス党記念祭に於けるヒトラー総統の戦時演説

ソ聯農業博覧会閉会 六七〇 七〇

日支の協力 一二四〇一三七

ソウイェト民衆の声 ボルクノフ 七一〇 七四

独逸労働戦線長官の発表せる戦後独逸の社会事業

仏国政府の制定せるユダヤ人取扱法 一四九〇一五〇

七五〇 七八

財政・経済

(*六号記事)

重慶側の物資流出防止策 嶋田書記官 七九〇 八二

社会主義労働英雄の称号授与

独逸戦時経済立法 八三〇 八六

コムソモールの国防活動

九四

軍事

一九四〇年の資本主義の世界

九九

ソ聯共産党員数

一〇六

第二二二号 一九四〇(昭和一五)年二月

ヨーロッパ新秩序の現状

一〇 二一

外交

日支国交条約の締結

二二〇 二六

政治

国民政府組織法

二七〇 二九

各国国内事情

中支治安概況(八月分)

嶋田書記官 三〇〇 四六

国共分裂の危機(*朱徳談話)

田中事務官 四六〇 四八

重慶政府の戦時軍政体系

田中事務官 四八〇 五二

中共山東省政治委員会会議の内容

田中事務官 五二〇 五三

ソ聯東部各地の社会主義農業

イツコフ 五四〇 五六

ソ聯高等共産党学校事業の一年

イ・スターリン 九三〇 九四

カジミン 五六〇 五八

ソウイェト民衆の声

五九〇 六一・七三

布哇将来の地位

六二〇 六四

独逸労働奉仕団員の戦地活動

六五〇 六七

和蘭の現状

六七〇 七一

丁抹のナチス運動

七一〇 七三

軍事

ソ聯陸海軍下級指揮官並に兵員称呼の制定

七四〇 七六

中共第十八集團軍の軍拡計画

七六〇 七七

財政・経済

米国の対支投資

七八〇 八〇

戦争と米国の経済状態

八〇〇 八一

文化

魯迅芸術学院の概況

田中事務官 八二〇 八六

戦時に於ける独逸の映画

八六〇 八九

コミンテルン

米国共産党のコミンテルン脱退

九〇〇 九三

全聯邦共産党第十八回協議会開催決定

九三〇 九四

比律賓の動向と比律賓共產党 九四〇 九七

諜報・謀略

米国ダイズ委員会の対日独行動 九八〇 一〇〇

参考資料

調査統計局系抗日団の検挙

田中事務官 一〇一〇 一三五

日支条約の反響 田中事務官 一三六〇 一三九

米国総選挙と猶太民族 一三九〇 一四八

スタハーノフ運動を語る

アレクセイ・スタハーノフ一四八〇 一五〇 一五六

世界雑報

スパイか外交官か／上海猶太人委員会設置を拒否さる

／独逸の猶太人居住地計画／「Gメン」の増員／米大

統領ダイズ委員長に警告す／洗濯屋の記号／爆撃下の

倫敦の生活

附録

北平抗日殺奸団組織系統表

北米抗日殺奸団暗殺状況表

第二三三三号 一九四一（昭和二六）年一月

中国共産党の回顧と展望

外交

ソ聯対外政策の新しき勝利

政治

南京国民党の各県党部工作綱要

各国国内事情

最近に於ける国共相剋の情勢

中支治安月報（九月）

華北に於ける中共地下工作の進展状況

中共の都市工作強化

定県共産地区の概況

第九回ソヴェエトラトヴィア共産党大会（*カルンベ

ルジン報告演説）

ソ聯の国家社会保険

ゴルブノフ

六六〇 六六

六六〇 六九

朱徳の対重慶態度に関する演説

田中事務官 六九・八一

ソヴェエト民衆の声

七〇〇 七三

英国に於ける反戦「国民大会」の模様 七四〇 八一

軍事

新四軍の現状 田中事務官 八二〇 九三

財政・経済

ソ聯リスアニア共和国の国民経済の将来

イ・グロワツカス 九三〇 九五

諜報・謀略

蘭印の防諜 九六〇 九七

米国の防諜強化 九七〇 九八

満支に於ける共産系謀略団の検挙

田中事務官 九八〇 一〇一

米国ダイズ委員会の状況 一〇一〇 一二六

参考資料

北支に於けるモルヒネ密造並に密売の概況

一二七〇 一三三

英領香港は如何なる役割をなして居るか？

一三三〇 一三七

何故に英吉利は敗北の途を辿りしか？

一三七〇 一四一

中国共産党政府の諸法規法令集 一四一〇 一五一

世界雑報 一五二〇 一五六

蘭領東印度／ソ聯農業政策の一大転換／ロンドンのバ

ス／防塞気球／中華民国国定記念日／ソ聯間諜の逮捕

／ソ聯の家畜調査

附録

国際謀略団組織系統表

在天津謀略団系統表

第二二三号 一九四一（昭和一六）年二月

第十八回ソ聯共産党代表者会議 一〇 三四

各国国内事情

最近に於ける北支貿易の動向

田中事務官 三五〇 四二

国共相剋に関する中共側の態度

田中事務官 四三〇 四四

冀東地区の近況

田中事務官 四四〇 四七

中共党の民衆組織に対する指令

田中事務官 四八〇 五〇

世界雑報

田中事務官 一四一〇 一四七

一四八〇 一五二

ソ聯の牛乳義務納入に関する新法令

五〇〇 五三

アドルフ・ヒトラー学校／ソ聯内務人民委員部分割／

ソヴェエト民衆の声

五四〇 五七

英国に生れる新猶太団体／亜細亜人の亜細亜／「デー

独乙に於ける外国人労働者

五八〇 六二

リ・ワーカー」発行停止

財政・経済

(*六号記事)

ナチス独逸の戦時経済立法

六二〇 七〇

ソ聯・泰外交通商関係開始

七〇

コミンテルン

戦時下独逸国民の保健状況

九四

ダイズ委員会の公開せる「赤書」テキスト

七一〇 八二

第二二四号 一九四一(昭和一六)年三月

ラテン・アメリカに於ける共産主義運動

ジョン・W・ホワイト 八三〇 九〇

歐洲大陸諸国のユダヤ対策

一〇 二四

第一回モルダウイヤ共産党大会

九一〇 九二

各国国内事情

第四回エストニヤ共産党大会

九二〇 九四

重慶に於ける国民参政会第二期大会の状況

参考資料

二五〇 四四

紅槍会の概貌(上)

九五〇 一二四

共産党軍の物資対策

四四〇 四七

八路軍の華北に於ける三年來の抗戦

一二四〇 一三三

晋察冀辺区政府の整備強化

中共の村政工作

田中事務官 一三三〇 一三七

田中事務官 四七〇 四九

中共軍の対回民工作

一三八〇 一四〇

ソ聯本年度国家予算

四九〇 五八

敵側貿易政策に関する基礎法規

昨年度に於けるソ聯の農業

ベネヂクトフ 五八〇 六〇

ソ聯経済十五年計画の立案 六一・四七

ソヴェエト民衆の声 六二〇六六・七二

ナチス独逸に於ける自動車の利用 六七〇 七二

コミンテルン

ソ聯本年度国際共産婦人デーに関する党の決議 七三〇七四・九三

参考資料

英国の外交（一九一九年—一九三九年）（上） 七五〇 八二

米国人に反映する松岡外交 八二〇 八九

ナチス主催の英国フリー・メーソン展覧会 八九〇 九三

紅槍会の概貌（下）

九四〇 一〇六

世界雑報 一一七〇 一二〇

ソ聯から洪牙利軍旗返還／ソ羅通商条約成立／米国の

罷業状況／ウオロシロフ元帥生誕六十週年／ソ聯護謨

工業人民委員部新設／ソ聯・瑞西通商協定調印

第二三五号 一九四一（昭和一六）年四月

歐洲新秩序とドイツ占領地域の協働

ウォルタート 一〇 一一

外交

日ソ中立条約成立 一二〇 一五

ユーゴー政府に対する独逸政府の公式声明 一六〇 二〇

ギリシヤ政府に対する独逸政府の公式覚書 二〇〇 二二三

各国国内事情

八中全会の状況 二四〇 三六

占領地区に於ける中国共産党員の活動

嶋田書記官 三六〇 四〇

支那の専門学校以上卒業生の重慶遁入状況

田中事務官 四〇〇 四二

支那投降將校の語る敵側の情況

嶋田書記官 四二〇 四七

ソ聯の婦人 ニコラエワ 四七〇 五〇

ソヴイェト短篇ニュース 五一〜五四

官品私消者を銃殺／大泥棒の検挙／極東の漁撈成績

良好／平泳に世界新記録／動物に輸血／樺太に初の

汽船到着／高等通信体育専門学校／ロシア共和国高

等師範生徒募集／若き専門家の門出／ニコチンを含

まぬ煙草／ミンスクの洪水／極東の捕鯨／新二階式

無軌道電車／初、中等学校の各種競技集会を禁止

米国の赤色教授の肅正 五五〜 六〇

戦時下（一九三九年―一九四〇年）の独逸労働奉仕団 六〇〜 六三

バルカン進駐に際し独逸国民に対するヒ綏統の布告 六三〜 六五

軍事

新四軍最近の概況 六六〜 七六

コミンテルン支部の活動概況 七七〜 八八

巴里コミュニケーション七十週年記念演説

G・デイトロフ 八八〜 九四

上海を中心とするコミンテルンの活動 九四〜 九九

世界雑報 一〇〇〜一〇四・一一一

「リツペントロップ独逸外相の松岡外相歓迎の辞」／

バルカン進駐の独逸国防軍に対するヒトラーの布告／

西方諸国に於ける回教徒の概数／ソ聯住民交換終了／

ソ聯の養蚕業振興策決定

諜報・謀略

英国情報部の内幕

ロベール・ブーカール 一〇五〜一一一

参考資料

経済生活に於ける猶太人地位の根本問題

大東亜と日本 一一二〜一二二

ナチスの見たる日本と大東亜共栄圏 一二七〜一三五

外蒙人民共和国の新憲法

田中事務官 一三六〜一四六

英国の外交（二）

ジー・ビー・グーチ 一四七〜一五三

日ソ中立条約は両国に均しく有利

一五三〜一五六・二三・七六

ソ聯最高国家機関並に行政機関

附録

ソ聯最高国家機関並に行政機関図

スターリンの機密勤務に服して

W・G・クリヴィツキー (一) (三八)

第二二六号 一九四一(昭和一六)年五月

フランスの現状

一〇 二二

各国国内事情

重慶の戦時三箇年建設計画

田中事務官 二三〇 二八

冀南地区に於ける共産党工作の現況

田中事務官 二八〇 四二

国共相剋問題

田中事務官 四三〇 四六

便衣混成隊の活動状況

島田書記官 四七〇 五一

中支治安月報(三月分)

嶋田書記官 五一〇 六二

ソ聯邦の本年度メーデー

六二〇 七二

ソ聯本年度農業博覧会

七二〇 七五・一〇四

ソヴェエト短篇ニュース

七六〇 八一

州に於ける文盲退治／党の青年書記の講習／モスク

ワ・ストツクホルム間の定期飛行／極東の春蒔／黒

海の子豚猟／タヂツク民族芸術祭／外国語専門学校の

開設／水上競技会に於ける記録／カムチャツカの

火山噴火／北極探險飛行機帰還

独逸に於ける傷兵の産業復帰の概況

アドルフ・キースリングル 八二〇 八七

戦争に因るドイツの物的損害填補令 八七〇 八九

バルカン戦果に関するヒトラー総統の国会演説

八九〇 一〇〇

ルーズベルト政権の援英参戦に反対す

一〇〇〇 一〇四

文化

ソ聯新聞の現状

一〇五〇 一〇六

戦時下の英国新聞界

ウイルソン・ハリス 一〇六〇 一〇九

コミンテルン

国際婦人デーと帝国主義戦争

ドロレス・イバルリ 一一〇〇 一一五

コミンテルン極東局

一一五〇 一一七

参考資料

英国の外交政策 (三)

ジー・ピー・グーチ 一八〇—二二四

支那に於ける英米の対日圧迫策動 一二四—一二五

日本と英国の政策 一二五—一二七

日本の攻撃に備ふるアジア諸国 一二七—一三一

南進日本 一三二—一三五

世界雑報 一三六—一四三

ヘッス氏の離国／中央儲備銀行の現金準備と貨幣数額

／独逸海軍長官レーダーと同盟通信社伯林特派員江尻

記者との会見記／松岡外相独伊訪問の功績／ソ聯大公

使の等級制定／スターリンソ聯人民委員会議長に就任

／ソ聯・丁抹通商追加協定／フィリッピンに於ける排

日運動／最近の日米関係／和蘭占領治安維持／ナチ党

員の資格

附録

スターリンの機密勤務に服して

W・G・クリヴイツキー (三九) (七九)

第二二七号 一九四一(昭和一六)年六月

新国民政府の相貌 一—二

外交 一—二

独ソ開戦に際しソ聯に与へた独逸外務省の覚書

一三—一六

各国国内事情

最近の共産党軍並に延安共産抗日軍政大学の状況

一七—二六

晋察冀辺区に於ける犠牲同盟会の状況 二六—二九

共産軍の五家連座弁法 二九—三〇

在華日本人民反戦同盟会晋察冀支部の成立と其の活動

田中事務官 三〇—三四

上海工部局の人的構成並に一九四〇年度に於ける犯罪

検挙概況 三四—三七

戦時下のソヴェエト聯邦の概況 三七—四六

ソ聯の国家労働予備軍 モスカトフ 四六—五四

ソ聯第三次計画国債の発行 五五—六一

ソ聯邦モツプル機関活動の諸問題

エム・ア・ボグダーノフ 六一〜 六五

ソウイエト短篇ニュース 六六〜 七一

アメリカ・パレスチナ委員会の創設 七二〜 七三

アメリカの私設探偵社

エデイス・M・スターン 七三〜 七六

印度に於けるカクザール運動 七六〜 七八

財政・経済

独逸を主力とする欧大陸石油株式会社の設立

七九〜 八一

芬蘭の経済状態

文化

米国の対ラテン・アメリカ文化政策 八四〜 八七

参考資料

世界的問題としての猶太問題

アルフレッド・ローゼンベルグ 八八〜 九四

独ソ開戦に際しヒトラー総統の独逸国民及びナチス党

員への布告 アドルフ・ヒトラー 九四〜 一〇三

トッド軍需大臣の指導する独逸特殊労働隊の活躍

一〇三〜 一〇八

今次戦争と各国のラジオ戦術

一〇八〜 一一二

日本の対支和平の新傾向及対米態勢

エドウィン・ゼームス 一一二〜 一一五

ユーゴスラヴィヤに於けるアメリカの策謀

一一六〜 一一八

附録

スターリンの機密勤務に服して(三)

W・G・クリヴィツキー (八一)〜(九七)

第二二八号 一九四一(昭和一六)年七月

各国国内事情

現下北支の治安状況 田中事務官 一〜 九

中国共産党の現況及び陝甘寧辺区経済建設計画 嶋田書記官 九〜 一四

中国共産党の最近の動向 田中事務官 一四〜 一六

独蘇戦と中国共産党の態度 一六〜 一七

最近の支那西北事情 田中事務官 一七〜 二九

戦時下のソヴィエト聯邦 二九〜 三八

英国の閣取引 三九〜 四一

蔣党の異色党派切崩し 田中事務官 四一〜 四二

軍事

新四軍の近状

嶋田書記官 四三〇 四八

英ソ対独共同軍事協定

四八

赤軍内の政治宣伝機関の改組と軍事委員制の実施

四九〇 五〇

経済

重慶側経済遊撃隊の組織と戦術

嶋田書記官 五一〇 五六

コミンテルン

コミンテルン支部の活動状況

五七〇 六二

諜報・謀略

ソ聯の国民防諜

六三〇 六六

参考資料

英国に於けるユダヤ発展史

六七〇 八三

重慶側のガソリン不足に因る物資輸送状況

田中事務官 八三〇 八四

ソ聯内務人民委員部並に国家保安人民委員部の統合

八四

日本の対支新方針

オト・D・トリシユース 八四〇 八七

ルーズベルトとウイルソンの施政比較

アーサー・クロック 八七〇 九一

米国の世界戦争に対する態度

九一〇 九三

(*埋草)

ソ聯の悪どい宣伝振り

五〇

晋察冀辺区に於ける二十九年度救国公糧徴収

五六

附録

スターリンの機密勤務に服して(四)

W・G・クリヴイツキー (九九〇) (二二〇)

第二二九号 一九四一(昭和一六)年八・九月

国民政府の清郷工作

嶋田書記官 一〇 一三

各国国内事情

戦時下のソ聯邦

一四〇 二二

蒙疆地区治安の現況

田中事務官 二二〇 二六

支那奥地の抗日教育機関

嶋田書記官 二七〇 二九

延安に於ける最近三年來の市政工作

田中事務官 二九〇 三〇

重慶政府の東北鉄血団の組織と活動

田中事務官 三〇〇 三二

共産主義運動

中支における共産党軍の文化活動状況

中支に於ける中国共産党の活動と抗日民衆根拠地の概況

島田書記官 三二〇 三九

島田書記官 五九〇 六三

軍事・外交

中共党軍最近の動向及び晋冀予魯辺区政府の成立

香港の抗戦態勢

六三〇 六四

ヘンリー・C・ウルフ 四〇〇 四二

ソ聯本年度国際青年デー 六五〇 六八

日本の南進とA・B・C・D・ソ

ソ聯の抗戦を支持せよ 六八〇 七〇

ハンソン・W・ボールドウイン 四三〇 四六

ウイリアム・Z・フォスター、ロバート・ミノール 六八〇 七〇

張学良の再起用説 田中事務官 四六〇 四七

防共・防諜 華北防共委員会の成立 田中事務官 七〇〇 七一

米国の国防資材と極東の新情勢 四七〇 五一

参考資料 資本主義諸国に於ける労働組合の運動に就て 七二〇 八一

ソ聯援助に関する米ソ両国の覚書交換 五一〇 五三

ウエ・フロリン 七二〇 八一

ソ米通商協定の延長 五三〇 五四

全スラヴ民族大会 八一〇 八六

日米妥協説を繞る中共の強硬態度 田中事務官 五四〇 五四

蔣介石の九・一八・十週年記念日に於ける「全国民衆に告ぐるの書」 八六〇 八九

ソ英通商協定調印 五五〇 五五

ラチモアの西北地区視察(田中事務官)／ソ聯在任の猶太民族大会／日本国策遂行の進路転向難し／米国は日本の次に打つ手を監視(フランク・L・クラツク

荒木大将のインタビューに対するソ聯情報局長の見解 五五〇 五五

雑報 八九〇 九六

スパイ活動

米国に於ける独逸系二十九名のスパイ検挙 五六〇 五八

五六〇 五八

ホーン)

(*埋草)

蔣介石の官吏十戒 田中事務官

三九

重慶の欧洲戦参加義勇軍募集

九六

附録

スターリンの機密勤務に服して(その五)

W・G・クリヴィツキー (一二二) ~ (一二四)

第二三〇号 一九四一(昭和一六)年一〇月

ドイツ戦時経済の概貌(その一)

一 ~ 二二

防共・防諜

ソ聯の防諜

ア・アジシャン 二三 ~ 二七

各国国内事情

資本主義包囲中に於けるソ聯経済の独立

ミシウスチン 二八 ~ 三五

祖国愛に燃ゆるソウイェト女性

三五 ~ 四二

ソ聯政府の一部クイブイシエフへ移転

四二 ~ 四三

ソ聯の国防献金状況

四三

中共中央党部の何応欽に対する攻撃

参考資料

中共自衛団の綱領

八二

中共の抗日小学教員児童の利用

田中事務官

八〇 ~ 八二

山東中共の秋収工作の指令

田中事務官

七八 ~ 八〇

共産主義運動

外字紙のデマ集

六八 ~ 七七

特輯

重慶空軍再建の夢

六七

米国の対日恫喝 ハレット・アベンド

六五 ~ 六七

米国の対日輿論激化

六三 ~ 六五

ソ英米三国会議開催さる

五九 ~ 六三

ソソウイェト政府の対イラン政府覚書

五五 ~ 五九

ソ聯傷病兵の優遇と衛生隊員の褒賞規定

五四

ソ聯国民の軍事教育

五一 ~ 五四

日本空軍恐るゝに足らず ルーシエン・サヂヤロフ 四八 ~ 五一

軍事・外交

松尾事務官 四四 ~ 四七

日滿支に於ける旧露国人の概況 八三〜一〇三

上海の新聞雑誌一覽表 一〇三〜一〇九

雜報 一一〇〜一一三

ウラルの富源は無尺蔵(コマロフ) / 石油燃料と資産

凍結令 四七

(*埋草) 一〇九

ソ聯のスタハーノフ運動 四七

豆ニュース 一〇九

附録 一〇九

スターリンの機密勤務に服して(その六)

W・G・クリヴイツキー (一四三)〜(一六一)

第二三二一號 一九四一(昭和一六)年一一・一二月

ドイツ戦時經濟の概況(その二) 一〜一七

各国国内事情 一八〜二五

比律賓の現状に就て 二六〜三五

戦時下に於けるソウイェト聯邦 三五〜四四

フランス本国の近況 四四

重慶国民党の現状並に動向

田中事務官 四四〜四八

スパイ活動

南米に於ける独逸の秘密戦活動

ヴェ・マレクセエフ 四九〜五四

米国に於ける独逸スパイの公判 五五〜六五

軍事・外交

十月革命二十四週年記念祭に於けるスターリンの獅子

吼 六六〜八〇

ソ聯新聞の報ずる独逸の人的資源

イ・ズワイチ 八〇〜八三

日本の西進新攻勢を粉碎せよ 孫科 八四〜八八

中共機関紙の「泰国外交策根底の転変」

田中事務官 八八〜八九

特輯

外紙紙デマ集 九〇〜九五

共産主義運動

独逸占領地域に擡頭せる共産運動と反独思想

九六〜九九

中国共産党の構成 田中事務官 九九〜一一二

中国共産軍の状況断片 一一二〜一一五

華北中共の抗日機関紙 田中事務官 一一五〜一二六
防共・防諜

ソ聯の防諜

ア・ペトロフ、クドリヤフツエフ 一一六〜一二〇

参考資料

独逸の秘密国家警察組織

一一一〜一二四

ソ聯当局信教の自由を認む

一二四

ソ聯本年度革命記念日に対するスローガン

一二五〜一二七

支那満洲に於ける匪賊発生の思想的要因

一二七〜一二八

猶太人の性格

ヴェ・ヴェ・ロザノフ 一二八〜一三三

雑報

一三四〜一四〇

ソ英労働組合委員会の基本的任務／ソ聯極東正面軍に
対する命令／米人記者の観たる日本の情勢（オト・D
・トリシユース）／ソ聯革命記念祭の祝祭は一日／ソ
聯の現金・物品付富籤売出し

（*埋草）

近東ユダヤ人独立部隊編成／ユダヤ人医者の子産児制限

謀略／一、二等列車からユダヤ人閉出し 六五

リトヴィノフ氏駐米ソ聯大使に任命さる 八九

ウラル地方にチブス猖獗／ソ聯迫撃兵器製造人民委員

部創設 一二〇

附録

スターリンの機密勤務に服して（その七）

W・G・クリヴィツキー（二六一）〜（二八〇）

第二三三三号 一九四二（昭和一七）年一月

南洋華僑の現勢 一〜二〇

馬來半島に於ける統治機構 二一〜二八

英領マレー 二九〜三一

最近の緬甸事情 三一〜四〇

泰国の経済活動 四〇〜四三

仏印に於ける統治機構 四四〜六三

仏領印度支那の民族と風習 六三〜七〇

蘭領印度に於ける統治機構 七一〜七八

比律賓群島の標準語 八九〜九四

（*埋草）

安南人最初の日本留学生フアム・ダイ・タイ君の日本

観 七〇

ボルネオ 八八

附録

大東亜戦争とソヴィエト国内放送 九五〜一二

第二三三三号 一九四二(昭和一七)年二月

一九四一年度ソ聯外交の検討 一〜一六

各国国内事情

昨年度に於ける国民政府一ヶ年の治績 一七〜二六

華僑と重慶政権 二六〜三五

軍事・外交

ヒトラー総統の対米宣戦演説 三六〜六〇

防共・防諜

防共協定の延長と新加入国 六一〜六三

ソ聯の国民防諜 六四〜六八

参考資料

ソ聯プラウダ紙の社説「太平洋の戦争」 六九〜七〇

ソ聯の移転企業は国防部門に活躍中 七一〜七二

ソ聯の戦時税

ソ聯の独身税並に子無し税 七二〜七四

雑報 七四〜七五

ソ聯短篇ニュース 七六〜七八

(*埋草)

ナメド 三五

ペソ 六〇

ジャバの風俗 六三

附録

スターリンの機密勤務に服して(其の八)

W・G・クリヴィツキー (二八〇)〜(二八九)

第二三四号 一九四二(昭和一七)年三月

独逸の占領地経営の現状(その一) 一〜三四

共産主義運動

中国共産党組織系統概観 三五〜五〇

各国国内事情

中华民国新民会概貌 五一〜七五

南方特輯欄

泰国の経済活動

七六〇 七八

英人のマレー侵略と其の生活

七八〇 八六

軍事・外交

ソ聯の戦時犯罪に対する敲罰主義

八七〇 八九

上海在住欧羅巴人の失業問題

ア・アレシン 八九〇 九一

ソ聯使臣が新嘉坡陥落の祝詞を呈したとの報道は虚報

九一

ソ聯民間航空長官代理墜死

九一

雑報

ドイツ情報集

九二〇 九四

(*埋草)

台湾革命同盟会等の活動

村川事務官

五〇

苦悶する重慶の一断面

七五

附録

スターリンの機密勤務に服して(其の九)

W・G・クリヴイツキー (一九〇〇) 〃 (二〇〇八)

第二三五号 一九四二(昭和一七)年四・五月

独逸の占領地経営の現状(その二)

一〇 四一

各国国内事情

亜米利加合衆国のアラスカ植民案とソ聯極東開発の姿

勢 四二〇 五二

英国警察行政

飯島 五二〇 五七

セレベス島行政組織

海保事務官 五七〇 七〇

セレベス島警察組織

海保事務官 七一〇 八〇

南方特輯欄

余の印度観

ウイル・ジュアランド 八一〇 八四

英圧制下に於ける印度回教徒の闘争

八四〇 九五

セイロンと茶

ダグラス・ウツトラフ 九五〇 九九

共産主義運動

中共の根拠地に於ける軍区制度

嶋田書記官 一〇〇〇 一〇七

防共・防諜

米英の謀略に悩むポルトガル

一〇八〇 一一〇

ソ聯の国民防諜

一一〇〇 一一二

ソ聯ニュース 一一三〜一一六

ソ聯国防工業に銃後国民の動員／ハバロフスク・コム

ソモルの爆撃機編隊献納／日ソ関係悪化に関するタイ

ムスの報道を反駁／ソ聯の国防基金は二十一億留／米

機ソ聯領土に不時着

参考資料

戦時独逸の食糧問題 ドマン 一一七〜一二三

戦時下ドイツの交通輸送

ドルフミューラー 一二四〜一二六

(*埋草)

ルーズヴェルトへの警告 一一二

ソヴェエト汽船「アンガルストロイ」日本近海にて撃

沈 一二二

附録

スターリンの機密勤務に服して(其の十) W・G・クリヴィツキー (二〇九)〜(二二二)

第二三六号 一九四二(昭和一七)年六・七月

戦時下ソ聯官民の覚悟 一〜二二

各国国内事情

在満旧露国人概観 松田 属 二三〜五九

フィリッピンの政治機構 六〇〜六九

猶太問題

今次欧洲大戦とユダヤ人の動向

室川 七〇〜八一

軍事・外交

スターリン五ヶ年計画は如何にソ聯の戦力を強化した

か? 八二〜八八

共産主義運動

各国コミンテルン支部の状況 八九〜九二

参考資料

東洋の猶太人 アサヴァバフ 九三〜一〇四

附録

スターリンの機密勤務に服して(其の十一) W・G・クリヴィツキー (二二二)〜(二二九)

第二三七号 一九四二(昭和一七)年八・九月

戦時下米国に於ける国防上の諸問題

最近の米国共産党

林領事 一〇一
林領事 一七〇

中国共産党(軍)の近況

二一〇 五五

独ソ戦一ヶ年の政治、軍事的総決算

五六〇 六一

G・P・U・略史と機構

六二〇 七〇

フォン・ウオルフガング・フェールマン

七一〇 八〇

泰国の行政機構

七一〇 八〇

参考資料

クリツプスのソ聯邦観

八一〇 八七

スタフオード・クリツプス

八一〇 八七

コミンテルン誌の報ずる英米の労働運動

八七〇 九二

露西亞の暗黒

九二〇 九六

ソ聯の国民防諜

九七〇 一〇一

セレベス島トラヂヤ民族の習性

一〇一〇 一〇六

T・J・デーレンベルク

一〇七〇 一二四

「第五列」に就いて

一二五〇 一二七

重要外事日誌

一二五〇 一二七

附録

スターリンの機密勤務に服して(其の十二)

W・G・クリヴイツキー (三三〇)〜(三五四)

第二三八号 一九四二(昭和一七)年一〇・十一月

最近の米国労働組合運動

林領事 一〇一 八

ナチス独逸の警察

九〇 二八

ナチスの文化統制と宣伝

二八〇 四八

中国共産党の経済政策

村川事務官 四八〇 五二

「英ソ」並「米ソ」新協定

五三〇 六〇

ソ聯東部シベリヤの近況

松下事務官 六一〇 七二

参考資料

延安の市政状況

七三〇 七五

支那民心把握に対する中国側識者の見解

村川事務官 七六〇 八〇

晋察冀辺区北岳区童子軍の組織

村川事務官 八〇〇 八二

新四軍の宣伝工作

八二〇 九〇

日独伊三国同盟二週年記念日に於ける独逸リ外相の演説

リツペントロップ 九一〇 九四

ナチス独逸の防諜訓

九五〇 九六

ソ連邦愛国者の入党状況 九七〇 九九

ソウイェト学生を含む華府国際学生大会

一〇〇〇一〇二

ソウイェト短篇ニュース

一〇二〇一〇八

1 「全聯邦共産党小史発行部数」／2 「ラトウイア

共和国勤労民より赤軍へ贈物」／3 「新学年を迎へ

て」／4 「野菜泥棒に禁錮十年」／5 「英国海軍將

兵に勲章授与」／6 「マイスキーヘレーニン勲章授

与」／7 「両親を失った児童の搜索」／8 「四百名

の新入生」／9 「廃兵となつた学生」／10 「ソ聯

ルーブルの対外相場」／11 「第二回富籤の発売」／

12 「ギツサル大運河完成」／13 「将官遺族に対する

扶助料支給並に国葬執行に関する決定」／14 「軍用

飛行機設計製作功労者へ勲章」／15 「二、五〇〇ヶ

所に貯金局新設」／16 「シャポシニコフ元帥生誕六

十週年」／17 「祖国戦勲章制定」

外事重要日誌

一〇八〇一〇一

(*埋草)

アメリカ市民防衛十三箇条

一一一

スターリンの機密勤務に服して(その十三)

W・G・クリヴイツキー 一一二〇一二六

第二三九号 一九四二(昭和一七)年二月

最近に於ける重慶政権の内外重要方策

村川事務官 一〇 六

十月革命二十五週年記念日前夜に於けるスターリンの演

説 七〇 二一

ソ聯本年度十月革命のスローガン 二一〇 二五

如何にして中国を救ふか 汪 精 衛 二六〇 三二

赤軍に於ける一元統帥の確立と軍事委員制度の廃止 三三〇 四二

参考資料

中共挺進軍の偵察要集 村川事務官 四三〇 五四

ソ聯側より見たる太平洋に於ける日、米、英の兵力

V・アワーリン 五四〇 六七

ナチス運動犠牲者記念祭に於けるヒトラーの演説

六七〇 七〇

附録

独軍占領下のフランス地区に於けるユダヤ問題

七〇〇 七一

汪精衛 七〇〇 七二

ソ聯の国内宣伝機構 松下事務官 七一〇 七三

昭和十七年度国民政府重要事項誌 七三〇 七七

浦潮市に於ける革命記念日状況 七三〇 七六

ソ聯の独逸掠奪行為調査特別委員会 七七〇 七九

A・P通信員の質問に対するスターリンの回答 七六〇 七八

仏印に於ける住民の身分証明問題 七九〇 八一

七六〇 七八

智利国の新対外治安維持法 八一〇 八二

重慶政権の外人行動取締強化 七九〇 七九

中国共産党の術語解説(一) 八三〇 八八

外事関係重要日誌(十一月分) 八〇〇 八二

外事関係重要日誌(十二月分) 八九〇 九一

第二四〇号 一九四三(昭和一八)年一月

第二四一号 一九四三(昭和一八)年二月

戦時下に於けるソ聯の「社会主義競争」 一〇〇 一六

ドイツの占領地統治機構 一〇〇 二五

最近に於ける重慶の西北経営工作 一六〇 三一

ソ聯建国二十周年を迎へて カリーニン 二六〇 三四

村川事務官 一六〇 三一

コミンテルン各支部の最近の動向(其の二) 三四〇 四〇

重慶政権と新疆省 村川事務官 三二〇 三八

民国三十一年度の重慶 四一〇 四八

コミンテルン各支部の最近の動向(其の一) 三九〇 五六

国府参戦に対する反響 四九〇 五七

三九〇 五六

コミンテルン及び独逸共産党の旅券偽造と其の組織 五七〇 六九

最近に於ける重慶の西北工作 六〇〇 六三

五七〇 六九

村川事務官 五八〇 六〇

参考資料

中共の内部的派閥闘争 村川事務官 六一〇 六三

中国の本年度新国民運動の要点

参考資料

一九四二年度ソ聯重要事項誌 六四〇 七二

ソ聯の祖国戦パルチザン記事 七二〇 七三

中共中央の「抗戦五周年宣言」

松下事務官 七三〇 七五

甘肅省の近状 村川事務官 七七〇 七九

太平洋戦争一周年 村川事務官 八〇〇 八二

重慶側第三期国民参政会の動向 村川事務官 八二〇 八六

「中国総反抗の必要条件」 村川事務官 八七〇 八七

抗戦は何時終了するか 八八〇 八八

日・独・伊・経済協定とドイツの論調 八九〇 九二

英国より見たる独ソの戦時ラジオ宣伝 九二〇 九五

英米カサブランカ会谈の経緯 九六〇 九七

外事重要日誌（一月分） 九八〇 一〇一

第二四二号 一九四三（昭和一八）年三月

中国共産党の対日政治攻勢

村川事務官 一〇〇 二一

ソ聯のパルチザン戦 イー・トライニン 二二〇 三一

コミンテルン各支部の最近の動向（其の三）

村川事務官 三二〇 四二

赤軍二十五周年に対するソ聯共産党のスローガン

四三〇 四八

参考資料

国民政府の現組織系統 四九〇 五六

最近の重慶側経済状況 村川事務官 五七〇 五九

華北に於ける蔣系便衣混成隊の活動状況

村川事務官 六〇〇 六一

重慶の改正兵役法 渡辺書記官 六一〇 六四

中国共産党の術語解説（二） 六四〇 七六

ソ聯東部西比利亜の状況 松下事務官 七六〇 八〇

日ソ漁業暫定協定に就いて 八〇〇 八四

ソ聯東部西比利亜旅行の印象

松下事務官 八四〇 九七

赤軍記念日に於けるスターリンの訓令 九七〇 一〇二

民族別に見たるソ聯受勲者 一〇二〇 一〇四

赤軍記念日に於ける極東軍司令官の訓令

一〇四〇 一〇七

最近に於ける米英の対ソ関係 一〇七〇 一一二

ナチス独乙の防諜関係法令概説(一) 一一二〜一一九
外事重要日誌(二月分) 一一九〜一二四

第二四三三号 一九四三(昭和一八)年四月

華北治安の確立問題 村川事務官 一〜二一

一九四三年上半期に於ける中共の政治工作計画

村川事務官 二二〜 四〇

参考資料

中共中央北方局の根拠地民衆組織に関する新指示

村川事務官 四一〜 四四

重慶国民党中央党部調査統計局の華北に於ける最近の

活動状況

村川事務官 四四〜 四七

支那事変勃発以後に於ける重慶側主要会議

松下事務官 四七〜 五二

我方占拠地区に対する敵側の工作方策

村川事務官 五三〜 六〇

満洲共産党の組織並に領導関係

松下事務官 六〇〜 六四

国際共産婦人デーに関するソ聯共産党の決定

ソウイェト短篇ニュース 六四〜 六七
赤軍冬季戦綜合の戦果／ソウイェト汽船「コーラ」 六七〜 七三

号沈没／国民の献金中止方を要望／スターリン元帥

となる／哈府の国際共産婦人デー／昨年度スターリ

ン賞受賞者決定／ソ聯留の対外相場／英国軍事使節

団長モスクワに到着／ソウイェト青年反ファシスト

委員会總會／ヴィコフ大将航空元帥となる／僅か四

ヶ月で中將から元帥に／露領漁区競売の結果／シベ

リヤの一農婦スターリン賞を受く

ルーズヴェルト政権とユダヤ勢力 七四〜 八三

ナチス独逸の防諜関係法令概説(二) 八三〜 八八

前大戦に於ける独逸の食糧不足と聯合國の対独思想謀

略

八九〜 九五

大西洋憲章に就て 九六〜 九九

外事重要日誌(三月分) 一〇〇〜一〇二

附録

スターリン伝(其の一)

アイザック・ドン・レヴィーン(一)〜(一一)

第二四四号 一九四三(昭和一八)年五月

外事重要日誌(四月分)

一〇三〜一〇六
一〇七〜一一〇

附録

コミンテルンの解散

一〜二二三

スターリン伝(其の二)

ソ波断交の渦紋

二四〜三〇

アイザック・ドン・レヴィーン

(一)〜(二二)

参考資料

中共軍の組織系統

三一〜四三

第二四五号 一九四三(昭和一八)年六月

重慶側政治高等警察学提要

渡辺書記官 四三〜六五

コミンテルン解散に関する毛沢東の演説

一〜六

現下に於ける中共の労働政策

村川事務官 六六〜七二

ソ聯邦祖国戦争の二箇年

六〜一四

我が対支方針転換に伴ふ中共党軍の動向

村川事務官 七三〜七七

中共の対満策動概況

村川事務官 二三〜二七

米英の重慶政府に対する治外法権撤廃に関する中共側の宣伝状況

村川事務官 七七〜七九

中共の第八期対敵政治攻勢

村川事務官 二七〜二九

ソ聯本年度メーデーのスローガン

メーデーに於けるスターリンの訓令 八四〜八八

重慶側の物価統制状況

村川事務官 三〇〜三二

ナチス化するウクライナ経済

ナチス独乙の防諜関係法令の概説(三) 九三〜一〇二

ドイツの「会議企画中央会」の機能

ソ聯共産党幹部室工作の欠陥 四二〜四四

米議事に於ける英首相チャーチルの演説要旨

ソ聯東部地方の近況

スパイと潜水艦 五一〜五四

外事重要日誌（五月分） 五五〇 五八

附録

スターリン伝（其の三）

アイザック・ドン・レヴィーン (一)〇(一四)

第二四六号 一九四三（昭和一八）年七・八月

戦時下ソ聯の労働要員問題

松下事務官 一〇 九

中共北方局の一九四三年度軍事整訓計画

村川事務官 九〇 一七

ドイツ労働戦線の機能

支那に於けるフリーメーソン 一八〇 二四

参考資料

延安変工隊組織 二五〇 七七

重慶の軍事組織系統 七九〇 八二

ソ聯在住波蘭愛国者同盟大会 八二〇 九二

ソ聯の軍防諜 九三〇 九七

ドイツ国内に於ける仏人俘虜 九七〇 一〇〇

中共機関の改称 一〇一〇 一〇二

ソ聯駐割の各国大公使 一〇三〇 一〇四

外事重要日誌（六月分） 一〇五〇 一〇七

外事重要日誌（七月分） 一〇七〇 一〇〇

附録

スターリン伝（其の四）

アイザック・ドン・レヴィーン (一)〇(一五)

第二四七号 一九四三（昭和一八）年九・一〇月

ソ聯回復地の建設工作 一〇 三六

最近の西北支那 三七〇 五〇

伊太利背反の前後 五一〇 七一

参考資料

中共の暴露せる重慶の内情 七二〇 七四

重慶国民党の組織系統 七五〇 七九

三・二国民精神総動員四週年記念日に於ける蔣介石の

放送 八〇〇 八四

最近に於けるソ聯の宣伝映画 八四〇 八四

松下事務官 八四〇 九二

ドイツ宣伝中隊（P・K）の機能 九二〇 九七

戦時下のメキシコ アー・ウオルコフ 九八〇～一〇〇〇
ケベックに於ける英首相チャーチルの演説要旨

比島人の観たる日比関係史 一〇〇〇～一〇二二

グレゴリオ・エフ・ザイデ 一〇二〇～一〇六〇
世界に於けるユダヤ人団体の研究(其ノ一)

外事重要日誌(八月分) 一〇六〇～一一二二
外事重要日誌(九月分) 一一三〇～一二一六

附録
スターリン伝(其の五) 一一六〇～一二二二
アイザック・ドン・レヴィーン (一一〇〇)～(一二六〇)

第二四八号 一九四三(昭和一八)年二月

コミンテルンの解散と各国支部の態度表明 一〇〇～一九〇

最近の国共相剋 二〇〇～二四九
参考資料

冀南に於ける中共党の現況

村川事務官 五〇〇～五四〇

支那西北、西南地区に於ける最近の民衆暴動

村川事務官 五五〇～五八〇

ソ聯内に設置された自由独逸民族委員会

五八〇～六一〇

ソ聯の新宗教政策 六一〇～六四〇

枢軸国際新聞記者会議に於けるドイツ新聞部長デュー

トリツヒの演説 六五〇～六九〇

最近に於けるドイツの猶太対策強化について 六九〇～七二〇

最近のフランス国内情勢 ラヴアル 七二〇～七六〇
印度の飢餓問題に就て 七六〇～八一〇

米国の計画せる国際航空警察 八二〇～八五〇
世界に於けるユダヤ人団体の研究(其の二)

外事重要日誌(十月分) 八五〇～九〇〇
附録

スターリン伝(其の六) 九〇〇～九四〇

アイザック・ドン・レヴィーン (一一〇〇)～(一二二〇)

第二四九号 一九四三(昭和一八)年一二二月

十月革命記念祭に於けるスターリンの演説 一〇一―一〇六
参考資料

上海の猶太避難民三年史 渡辺書記官 一七〇―一七六
中共の諜報謀略機関とその活動状況

村川事務官 三七〇―三七六
中共婦女工作の実相 村川事務官 四七〇―四七六

重慶国民政府の組織系統 六二〇―六二六
中共の遊撃新戦法 松下事務官 七五〇―七五六

米英ソ三国会談 七七〇―七七六
ソ聯本年度十月革命のスローガン 八三〇―八三六

ソウイェト短篇ニュース 八七〇―八七六
共産青年同盟へ挨拶／対ソ武器貸与並に食糧供給に

関する第三次協定調印／伊太利はソ英米の共同交戦
国／外務人民委員部、在外公館員の制服制定／赤軍

高級幹部の新階級補足／モロトフ等に社会主義労働
英雄の称号賦与／ボグダン・フメリニツキー勳章の

制定／鹵獲兵器展覧会參觀者二五〇万人／三国会談

関係者一同観劇／回教僧侶及び教徒の大会／僧侶に

レニングラード防衛記章授与／「勝利」勳章制定／

革命記念日に際し僧侶より祝詞

ナチス党国外組織部の機能 九三〇―九三八

外事重要日誌(十一月分) 九九〇―一〇二〇

附録

スターリン伝(其の七)

アイザック・ドン・レヴィーン (二〇〇)―(二一五)

第二五〇号 一九四四(昭和一九)年一月

ナチスと宗教問題 一〇〇―一〇六

参考資料

ナチス党結成二十週年記念日に於けるヒトラー総統の

演説 五一〇―五三〇

コミンテルン戦術の変遷と今次解散の意義

五四〇―六一〇

ソ聯共産党黨員候補の政治教育問題

エフ・クズネツヨフ 六二〇―六五〇

ソ聯外交の検討 六六〇―六九〇

ソ聯と歐洲亡命政権

六九〇 七四

ソ聯の新国歌

七四〇 七五

伯林に於けるアラビア人の反バルフォア宣言大会

七六〇 七七

ブルガリア国に於けるユダヤ人取締について

七八〇 七八

ファツシヨ伊太利共和政府のユダヤ人法改正

七九〇 八〇

米国に於けるユダヤ人

八〇〇 八五

華北政務委員会の新機構

八五〇 九〇

外事重要日誌(十二月分)

九一〇 九三

附録

スターリン伝(其の七)

(二一〇) (二二〇)

アイザック・ドン・レヴィーン (二一〇) (二二〇)

第二五二号 一九四四(昭和一九)年二月

重慶政権の諸情勢

村川参事官

一〇〇 二三

参考資料

北支に於ける中国共産党の現況

二三〇 二八

重慶国民党第十一中全会及国民参政会第三期第二次大

会の状況

二九〇 三七

重慶国民党第十一中全会及第三期第二次国民参政会に

対する中共側の反蔣論評

村川参事官 三七〇 四四

「中国の命運」を評す 陳伯達 四四〇 七二

一九四三年度ソ聯重要事項誌 七二〇 八四

ドイツ保護領ボヘミヤ・モラヴィヤ地方現在の統治状況 マツクス・ベルゲマン 八五〇 八七

北阿に於ける共産主義運動 八七〇 九二

ドイツの新少年裁判法 九二〇 九三

附録

スターリン伝

(二一〇) (二二〇)

アイザック・ドン・レヴィーン (二一〇) (二二〇)

第二五三号 一九四四(昭和一九)年三月

ソ聯国防外務両人民委員部の改組

一〇〇 一四

ドイツに於ける外国人労働者とその保護施設

一五〇 三一

最近に於ける新四軍の動向 村川事務官 三一〇 四二

参考資料

各国共産党最近の動向 四三〇 五二

中共の農村諸政策の実態 村川事務官 五二〇 五七

中共の重視する吳滿有運動

村川事務官 五七〇 六三

ソ聯国家予算に関する財務人民委員の演説

ズウエリヨフ 六四〇 七二

堅実なるドイツの食糧政策 七三〇 七六

戦時下ドイツの人口動態 七六〇 七七

ハリファックス英国大使の将来の米英関係展望 七八〇 七九

西亜地方に暗躍する英国諜報機関「暗殺司令部」 八〇〇 八二

戦時犯罪から見たルーマニアの猶太人 八二〇 八三

重慶中央訓練団の組織 八四〇 八八

外事重要日誌(二月分) 八九〇 九〇

附録

スターリン伝(其の十)

アイザック・ドン・レヴィーン (二)〇(九)

第二五三号 一九四四(昭和一九)年四月

最近の外蒙事情

村川事務官 一〇 二二

参考資料

中国共産党と中華民族 村川事務官 二三〇 三二

中共二十二週年及抗戦六週年紀念の毛沢東の演説

村川事務官 三二〇 三六

日ソ協定に関するプラウダ紙の社説 三七〇 三九

赤軍二十五年史 四〇〇 五〇

ソ聯の銃後生活 松下事務官 五〇〇 五六

ソ聯とバドリオ政権の関係 五六〇 五九

ソ聯国際婦人デーに関する党中央委員会の決定 五九〇 六二

ドイツの見たる米国のアジア侵略政策 六三〇 六七

英国に於ける電報検閲の強化 六七〇 六八

ソウイェト短篇ニュース 六八〇 七二

ソ聯国際婦人デーに於けるニコラエフの演説/英国

参謀総長に一級スウオローフ勲章授与/ロシア共和

国最高会議第五会期/ソ聯労働組合中央会議第十二

回總會／ソ伊間の代表交換／出征軍人の児童に六〇

〇〇留を贈る／高等専門学校、技術学校入学規則／

カリーニンのソ聯国政指導二十五年／米國參謀總長

に勲章贈与／戦時下の國民教育

上海在住ソ聯人の概數

猶太事情

上海に於ける猶太人居住地域の設定

ソ聯邦内に於ける猶太人の現勢

猶太人代表の會合

ルーマニアに於ける反ユダヤ主義

ルーマニアに於けるユダヤ人共產主義運動

パレスチナに於ける猶太國家の問題

外事重要日誌（三月分）

附録

スターリン伝（其の十一）

アイザック・ドン・レヴィーン

第二五四号 一九四四（昭和一九）年五月

南支共産党の現状

村川事務官

一〇 一七

各國に於ける共產主義消息

戦時下に於けるソ聯共産党の宣伝

ペー・フェセーエフ

メーデーに於けるスターリンの訓令

参考資料

昭和十八年度に於ける華北中共の策動

村川事務官

晋察冀辺区に於ける重慶国民党の活動状況

村川事務官

中共側の暴露せる「重慶国民党の抗戦内容」

村川事務官

ソ聯の戦争目的とスターリンの真意

ソ聯本年度メーデーのスローガン

創設十周年を迎へたソ聯の猶太人自治州

ア・バフムツキー

伊太利共産党領袖エルコールの声明

ハンガリーに於ける猶太人のスパイ活動

重慶空軍の組織編成

附録

一八〇 四六

四六〇 五四

五五〇 五八

五五〇 五八

五五〇 五八

五九〇 六四

五九〇 六四

六四〇 六九

六四〇 六九

六九〇 七四

六九〇 七四

七四〇 七六

七四〇 七六

七六〇 八〇

八一〇 八三

八四〇 八五

八四〇 八五

八五〇 八七

八八〇 八九

八八〇 八九

スターリン伝(其の十二)

アイザック・ドン・レヴィーン (二)〜(七)

第二五五号 一九四四(昭和一九)年六・七月

コミンテルンの産業スパイ組織と戦術 一〜一八

参考資料

赤都延安を中心とする中共事情 一九〜三三

ボルシエヴィズムの脅威

ヒットラー 三三〜四〇

ソ聯企業に於ける党幹部室の工作に就て

ウエ・ウツク 四〇〜四四

ソ聯祖国戦争の三ヶ年

四四〜四九

ソ聯在住猶太人代表者会合

四九〜五一

第二戦線実現に至る経緯

五二〜六〇

元駐ソ仏国大使の発表せるソ聯世界政策の表裏

六一〜六六

土耳其に於ける波蘭反動分子の反ソ行動

六七〜六八

米国の黒人問題の悪化

長崎 六八〜七〇

附録

スターリン伝(其の十三)

アイザック・ドン・レヴィーン (二)〜(二五)

第二五六号以降

不明

執筆者索引・凡例

- 一、本索引は配列を五十音順とし、外国人名も名字（姓）を基準とした。また、中国人名は日本語読みに従った。
- 一、表記は、号数―頁数の順とした。
- 一、筆者のみでなく、談話者、報告者等も掲載した。但し、彙報、雑報等の中で扱いの小さい記事について採らなかつた筆者名等もある。
- 一、読み方、仮名遣い等もすべて原文の表記に従った。
- 一、頁数で（ ）の付してあるのは、附録のページである。

（編集部）

あ

青山和夫→黒田善次		ヴイラリ, ルイジ	177-199
アガベークフ, ゲ・エス	137-40	ウイリアム, ライス	128-160
アサヴァバフ	236-93	ウイリアムス, ジェー	217-125
アジシヤン, ア	230-23	ヴイリヤムス	122-1
アダム, ワルテル	149-127	ウインフィールド, パーシー・エイチ	46-1, 47-1
アバツド, シー・エツチ	127-160	ウーラツハ	219-77
アベンド, ハレツト	230-65	ウーリリフ	246-97
アマリ	96-201	ウエーバー, マックス	189-147
アルク, ジョルジュ	158-164	ウエ, ゲ	171-147
アルナ	92-220	ウオルコフ, アー	247-98
アルフレッド, エル	87-217	ウオルター, カーシエー	100-239
アレシン, ア	234-89	ウオルタート	225-1
アロワイエ	131-121	ウオルフ, ベルトラム・ド	81-1
アロンシタム, エル	173-70	ウオロシロフ	171-69
アワーリン, V	239-54	ウオンシヤツキー, A・A	200-186
アンガレチス	163-29	ウスマニ, ショウカツト	88-218
アントノフ, ア	177-226	ウツク, ウエ	255-40
アンドリュース	121-55	ウツドヘツド, エイチ・ダブリュ	122-206
飯島	235-52	ウツトラフ, ダグラス	235-95
池田幸子	191-124	ウラノフスキー	88-265
イツコフ	221-54	ウリベ	196-126
猪俣事務官	214-1, 220-107	ウルフ, ヘンリー・C	229-40
猪俣書記官	217-70	ウンシリフト, イ	123-52
イバルリ, ドロレス	226-110	エツプ, フオン	185-119
イワノフ→イワノフ, ヴェ・エフ		エマール, カミーユ	48-25
イワノフ, ヴェ・エフ[イワノフ]		エルコリ	130-260, 164-1
	188-81, 200-141	汪精衛	239-26, 240-70
ヴァーレス, アレキサンドル	198-65	王寵恵	181-156
ウイシンスキー, ア	213-110	汪兆銘	183-220, 188-134, 209-1, 213-34
ウイト, チウ	92-101	王明[ワン・ミン]	136-45, 173-1, 173-29, 180-179,
ウイユ, ルネ	211-20		

183-223, 185-1, 190-67
 王 眠 143-39
 岡野→野坂参貳
 オズネンスキー, エヌ 192-56
 オリギン, エム 190-120

か

カーシエー・ウォルター 100-239
 海保事務官 235-57, 235-71
 カガーノウイツチ→カガノーウイ
 チ, エル・エム
 カガノウキチ→カガノーウイチ,
 エル・エム
 カガノーウイチ, エル・エム〔カガノウ
 キチ, カガーノウイツ
 チ〕 49-1, 94-155,
 134-49
 カジミン 221-56
 鹿地 亘 191-118, 192-122
 片山→片山 潜
 片山 潜〔片山〕 65-196, 95-45,
 105-150, 117-185,
 120-172, 125-156,
 126-239, 130-244,
 133-182, 135-122,
 136-120, 137-155
 金子 176-132
 カリーニン 241-26
 カルテンボーン 149-87
 カルリオ 171-144
 カルンベルジン 222-56
 河上, KK 120-214
 ガンス, ハーレイ 175-172

カントルウイツチ, アナトリー
 →カントロウイチ, ア
 ナトリー
 カントロウイチ, ア→カントロウ
 イチ, アナトリー
 カントロウイチ, アナトリー〔カント
 ルウイツチ, アナト
 リー カントロウイチ,
 ア〕 170-166, 171-141,
 178-106
 キースリングル, アドルフ 226-82
 キーンズ, ジェー・エム 51-47
 キム・テンリゼフ 163-131
 キヤザレット 177-163
 キャンベル 167-82
 ギヨ, レイモン 145-155
 ギンへ 180-177
 クイヴイセフ, エヌ→クブイセフ,
 エヌ
 グーチ, ジー・ビー 225-147,
 226-118
 クオ, エフゲニイ 135-19
 クズネツヨフ→クズネツヨフ,
 エフ
 クズネツヨフ, エフ〔クズネツヨフ〕
 220-65, 250-62
 クドリヤフツエフ 231-116
 クノーリン, ウエ 148-92
 クブイセフ, エヌ〔クイヴイセフ, エ
 ヌ〕 173-155, 180-100
 グブキン, イ・エム 169-185
 クラーク, カムバーランド 91-1,
 92-1
 グラウバウフ, エフ 114-50,

115-1
 クラツクホーン, フランク・L 229-94
 クリヴィツキー, W・G 225-(1),
 226-(39), 227-(81),
 228-(99), 229-(121),
 230-(143), 231-(161),
 233-(180), 234-(190),
 235-(209), 236-(222),
 237-(340), 238-112
 グリシン, エム 106-1, 107-1,
 108-1
 クリツプス, スタッフオード 237-81
 グリンコ 175-1
 クルーシコフ, H 205-61
 クループスカヤ, エヌ 176-76
 クレブス, ハンス 194-133
 クロイツブルク, アウグスト
 106-136
 クローフォード, フレッド・エル
 176-70
 黒田善次〔青山和夫〕 200-173,
 204-115
 クロツク, アーサー 228-87
 グロワツカス, イ 222-93
 ゲーリング 209-54
 ケゾン 160-76
 ゲッツ, テー 102-118
 ゲツベルス 135-182, 142-266,
 174-77
 ケネデー, エム・デイ 197-64
 ケルステン, ウルリツヒ 121-66
 ゲルル, エフゲニー 48-1
 ケレンスキー 185-110

孔祥熙 200-202
 コマロフ 230-110
 コルヴィン, アイアン・デー 28-(1)
 コルナヴァン, ジー 102-181
 ゴルブノフ 222-66
 コンロイ, テイモシイ・オ 138-179

さ

ザイデ, グレゴリオ・エフ 247-102
 サズイキン 197-135
 サヂヤロフ, ルーシエン 230-48
 シーシキン, ペヨートル 98-28
 重成(内務)事務官 → 重成 格
 重成 格〔重成(内務)事務官〕
 209-54, 213-45, 218-57
 ジノヴェフ 35-171, 134-170
 渋谷三郎 40-56
 嶋(島)田書記官 217-54, 218-83,
 219-122, 219-127,
 220-25, 220-36, 220-79,
 221-30, 222-29, 225-36,
 225-42, 226-47, 226-51,
 228-9, 228-43, 228-51,
 229-1, 229-27, 229-32,
 229-59, 235-100
 シヤドウエル, ドクトル・エー 73-1
 ジュアラント, ウイル 235-81
 周恩来 98-65, 188-120
 ジューコフ, イエ → ジュコフ, エー
 シューシュニツク 149-120, 151-93
 ジュコフ, エー〔ジューコフ, イエ〕
 161-144, 175-156
 周 仏海 63-180

朱 徳	169-178, 221-46, 222-69	スタハーノフ, アレクセイ	221-148
シユベルニク, エヌ〔シユベルニツク〕	134-85, 173-66	スチュワート, JF	125-162
シユベルニツク → シユベルニク, エヌ		ストラチエー, ジヨン	205-77
シユルレル	77-128	スノー(ウ), エドガー	158-105, 175-49, 177-79
蔣介石	176-66, 180-168, 186-125, 187-39, 187-43, 189-170, 194-29, 201-111, 205-25, 211-16, 229-39, 229-86, 247-80	スノーデン, フイリツプ	27-(1)
蔣作賓	184-134	スピリ(ー)ド(ー)ウキチ, ア・イ	50-1, 52-1, 58-1, 63-1, 69-1, 70-1, 77-1
シヨウ, バーナード	120-216	スプラット, フイリツプ	84-92
ジョージ, ハリソン	156-95	スミス, リース	145-171
ジョース, ガレス	158-131	スマイルノフ	192-135
ジョーンズ, カーレス	155-57	スメドレー	178-35
シヨツト, ウエル	94-254	スモーリチ	78-1
シヨルマン, ベ	155-98	スレパツク	62-188
シン, コン	137-25	ズワイチ, イ	231-80
秦邦憲	192-112, 197-146	セーウイン, エス	199-55
ズウエリヨフ	214-104, 252-64	静 澄	174-30
スウエルドロフ	115-208	ゼームス, エドウイン	227-112
ズスマノヴァイツチ	92-65	宗 介	188-1
スターソフ, エ	107-197	ソコロフ, ベ	193-118
スターリン → スターリン, アイ(イ)		ゾムバルト	51-1
スターリン, アイ(イ)〔スターリン〕	43-1, 59-162, 65-1, 73-57, 156-99, 174-1, 179-1, 188-81, 221-93, 231-66, 239-7, 239-76, 242-97, 249-1, 254-55	ゾルフ	122-204
スターン, エデイス・M	227-73	ソローキン, ウ	42-1
スタツソヴァ	135-1	孫 科	231-84
		た	
		ダーシー, サム	148-144
		ダツト, クリーメンズ	81-175
		田中 → 田中(内務)事務官	
		田中(内務)事務官〔田中〕	143-91, 167-53, 218-24, 220-100, 221-46,

221-48, 221-52, 221-82, 221-101, 221-136, 222-14, 222-19, 222-40, 222-44, 222-45, 222-69, 222-82, 222-98, 223-35, 223-43, 223-44, 223-48, 223-133, 223-141, 224-47, 225-40, 225-136, 226-23, 226-28, 226-43, 227-30, 228-1, 228-14, 228-17, 228-41, 228-83, 229-22, 229-29, 229-30, 229-39, 229-46, 229-54, 229-70, 229-89, 230-78, 230-80, 231-44, 231-88, 231-99, 231-115		楮 民 誼	210-19
		チリガ, ア	177-168
		陳 伯 達	251-44
		土田与一郎	196-77
		ツマノーフ, エドモンド	176-127
		デートリツヒ	248-65
		テイーリング, ウイリアム	173-174
		デイミトロフ, (G)[ヂミトロフ, (G)]	161-1, 163-1, 199-1, 210-1, 225-88
		テールマン, エルンスト	101-165, 120-100, 125-34, 128-140, 129-126
		デーレンベルク, T・J	237-101
		テリル, サー・コートトネイー	142-224
		東京寺田	172-141, 174-103
チアネツテ, トエリオ	182-114	トーマ, アルベールネ	82-224
チエスタント, セシル	128-171	トハチエフスキー	181-154
チエムバ(-)リン, ウイリヤム(W)・ ヘンリー(H)	148-43, 173-172	ド マ ン	235-117
チエルメントフスキー, エフゲニアス ・フオン・シユーマル	194-133	ドメール, エドモン	168-182
		トライニン, イー	242-22
		トリシユース, オト・D	228-84, 231-137
		ドルジーニン, ア	178-126
ヂノウイエフ, ゲ	148-57	ドルニエ, ジヤツク	119-126
チホン	104-99	ドルフミユラー	235-124
ヂミトロフ, (G)→デイミトロフ, (G)		トレー, モーリス	125-1
チャーチル	47-210, 244-103, 247-100	トロツキー	48-106, 82-229, 90-318, 119-196, 180-127, 207-164
チャーナビン, ブイ	132-181		
チャン・ウ	175-80		
張 燕 郷	188-1		
ヂョージ, ロイド	172-111		

な

長崎	255-68
ニコラエワ	225-47, 253-68
ニコレツチ, エム	130-230
西川	167-91
ニツチユ, アルツール	146-243
ネイバウエル, テイ	107-24
野坂参貳〔岡野〕	133-182, 137-154, 142-64, 166-109, 171-127, 198-125
ノデーリ	142-250

は

パーカー, ヴイク	137-69
パーキンス, フランシス	196-73
ハーデー, ジョージ	70-140
ハーデイ, レーマー	198-105
ハウキン, エム	167-50
パウル, エデン	59-1, 60-1, 61-1
パウル, セダー	59-1, 60-1, 61-1
バフムツキー, ア	254-81
ハマダン, アドルフ	177-221
ハマダン, アル	159-98, 175-160
林 領事	237-1, 237-17, 238-1
バリエ, ア	171-73
ハリス, ウイルソン	226-106
ハリフアツクス	252-78
ハルヒン, エヌ	166-49
ハンセン, アーヴイッド	85-86
ハンソン	169-173

ハンソン, マイケル	165-144
ビオ, ジャン・ル	163-125
ビシヨツプ	178-86, 178-89
ヒ総統→ヒ(ツ)トラー, アドルフ	
ピ ッ ク	160-1
ヒ(ツ)トラー→ヒ(ツ)トラー, アドルフ	
ヒ(ツ)トラー, アドルフ〔ヒ 総統, ヒ (ツ)トラー〕	142-216, 148-119, 149-93, 156-119, 189-174, 201-74, 211-26, 218-115, 220-124, 225-63, 225-100, 226-89, 227-94, 233-36, 239-67, 250-51, 255-33
ピヤトニツキー→ピヤトニツキー, オ(-)	
ピヤトニツキー, オ(-)〔ピヤトニツ キー〕	66-1, 68-1, 104-1, 123-150, 131-45, 134-66, 142-43
ヒューバート, リチャード・エス	122-199
繆 斌	188-1
ピリニヤク	57-165
ファイフ, ハミルトン	52-135
フキメン, エド	117-202
ファイルポツト	143-167
ブーカール, ロベール	225-105
フェー(イ)スト, ヘルマン	158-190, 167-1

フェーダー→フェダー, ゴットフ リード	179-126	ベーレント, ハンス	179-126
フェールマン, フオン・ウオルフガン グ	237-62	ベスト, ウエルナー	175-136
フェセーエフ, ペー	254-46	ベセドフスキー	90-178, 91-98
フェダー, ゴットフリード〔フェー ダー〕	121-157, 122-221	ペトロフ, ア	231-116
フォスター, ウイリアム(・Z)	200-82, 229-68	ベネヂクトフ	224-58
プツケ, ウヤイネ	86-1	ベルゲマン, マツクス	251-85
ブハーリン→ブハリン, ニコライ		ペルチナツクス	199-48
ブハリン, エヌ→ブハリン, ニコラ イ		ヘルマン, アルツール・エル	146-243
ブハリン, ニコライ〔ブハリン, エヌ ブハーリン〕	31-(1), 32-(1), 33-(1), 34-(1), 48-82, 62-141, 62-190, 78-255, 102-133	ベレジン, エヌ	158-137
プライス, ウイリヤード	170-178	ベロウ, アンリ	88-1, 89-1
フラー, ゼー・エフ・シー	158-185	ベンチナー, ロバート	200-82
ブラウダー, エルル	192-84	ボールドウイン, ハンソン・W	229-43
ブラウン, アントン・フオン	123-85	ボグダーノフ, エム・ア	227-61
ブリツヂマン, アール	106-186	ボゴモーロフ	180-116
ブリツヂマン, レヂナルド	154-62	ポポフ	219-59
ブリユツヘル	193-18	ポリツト, ハーリ(ー)	90-248, 162-130
ブルナー, グレン	121-151	ボルクノフ	220-71
ブルノウスキー, ウラジミール	142-86	ホルワツト	125-96
フレンケル, エヌ	177-179	ポレツキー	97-179
フロリン, ウエ	229-72	ボロヂン	61-172
ヘーケリンゲン, H・デ・フリース・デ	220-114	ホワイト, ジョン・W	223-83
		ホワイト, マグナー	210-85
		ポンサン, レオン・ド	158-189
			ま
		マカーサー	160-76
		マタイルスキー	162-1
		マヂヤール, エル	128-145
		松尾事務官	219-46, 219-52, 219-70, 230-44
		松下事務官	238-61, 239-71, 241-73,

ら

ライ → ライ, ロバート
 ライニツプ, フランツ 194-133
 ライ, ロバート〔ライ〕 133-91,
 173-86, 182-114
 ラインハルト, デー 193-120
 ラヴァル 248-71
 ラヴィニユ, ル・ネ 178-119
 ラウレンチエフ, エル 173-70
 ラコフスキー, アレクサンドラ
 68-69
 ラデツク → ラデツク, カール
 ラデツク, カール〔ラデツク〕
 142-171, 169-117
 リー, リチャード 210-26
 リツチマン 90-251
 リツペントロツプ 214-76,
 225-100, 238-91
 リトヴィノフ → リトヴィノフ, エル
 ・エム
 リトヴィノフ, エル・エム〔リトヴィノ
 フ〕 178-126, 183-227
 リフテエル 142-198
 李 民 142-15
 ルイソン, ダブリュー 193-77
 ルイレヴィー 205-80
 ルーイス, ジョン 190-119
 ルビンスタイン 95-63
 レイ, オスカー 210-79, 211-85

レーウイン, エム 150-194
 レヴィーン, アイザック・ドン
 243-(1), 244-(1), 245-(1),
 246-(1), 247-(1), 248-(1),
 249-(1), 250-(1), 251-(1),
 252-(1), 253-(1), 254-(1),
 255-(1)

レヴェルトル, エヌ 45-1
 レーニン, エヌ 104-212
 ロイ, エム・エヌ 85-66
 ローズ, ウイルヘルム・エツチ・エツチ
 122-187
 ローゼンベルグ → ローゼンベルグ,
 アルフレッド
 ローゼンベルグ, アルフレッド〔ロー
 ゼンベルグ〕
 218-117, 227-88

ローレンス, テイジエー 46-1,
 47-1
 ロザノフ, ヴェ・ヴェ 231-128
 ロゾフスキー → ロゾフスキー, ア
 ロゾフスキー, ア〔ロゾフスキー〕
 59-185, 80-1, 98-1,
 117-66, 122-1, 133-104,
 166-1

ロツドス, P 219-46

わ

渡辺書記官 242-61, 244-43, 249-17
 ワン・ミン → 王 明

APR 25 2003

『外事警察報

補卷』
解題・
総目次・
索引

不二出版

総目次・凡例

- 一、本総目次は、弊社にて復刻刊行した『外事警察報』の「補巻」として、国立公文書館所蔵の第一〜八号・一〇〜二三号・三八号・五三〜五六号・一九五号・二〇二号を収録した。
- 一、仮名遣いは原文のままとし、旧漢字は新漢字に、異体字は正字に各々改めた。また、数字や外国人の名前その他も原文のままとし、あえて統一をはからなかった。
- 一、標題は原則として本文に従い、巻頭の目次も参照した。また、副題及び小題は基本的に——（ダッシュ）の後に示した。
- 一、（*）の記号のあるものは、本誌にできるだけ沿って編集部が補足したものである。
- 一、「人事動静」については内容を省略した。
- 一、本文中のルビは採らなかった。
- 一、明らかに誤植と思われるものは訂正した。
- 一、隠しノンブルには（ ）を付した。
- 一、第一号の刊行月は、本解題では大正十（一九二一）年四月としているが（八ページ参照）、本総目次では裏表紙に印刷されている大正十年二月を採用した。

（編集部）

第一号 一九二一(大正一〇)年二月

緒言

警保局外事課 前付

第一 西比利亞政情

一 革命後極東共和国政府樹立ニ至ル政情概観 一〇

八 哈爾濱の政情 四〇

二 極東共和国政府の樹立並びに其宣言 一〇

九 最近一般情況 四六

三 極東共和国憲法議會

(イ) 極東共和国憲法議會議員選挙規定 / (ロ) 憲法議會議員選挙の結果 一〇

(イ) 極東共和国政府の近状 四七

四 憲法議會に対する輿論

(イ) 極東共和国憲法議會に対する共産党の態度 / (ロ) チタ労働者の決議 / (ハ) 浦潮職業組合(共産党)の議員に対する命令決議 二七

(ロ) 極東新政府に対する在留露国人の感想 四八

(イ) 通貨政策 / (ロ) 食糧政策 (グロスマン) / (ハ) 財政整理方針 (トウガリノフ) 三二

第二 西伯利亞に於ける過激派宣伝情況

極東共和国政府の政策 二七

一 対内宣伝 六〇

六 各州地方政庁規定

三 対日宣伝 六六

七 浦潮政情

(イ) 沿海州政庁制定案 / (ロ) 最終の浦潮国民議會 (国民議會休会法案及州庁設定案通過) / (ハ) 浦潮諸官署の委讓 / (ニ) 沿海州政庁員の役割 四五

四 西伯利亞ニ於ケル過激派機關新聞雜誌（大正九年

八月一日調）

七〇

第三 在留露国人概況

一 在留露国人人数

七一

二 居住又は滞在の目的並生活費の關係

七一〜七三

三 来往露国人人数

七三

四 要視察及要注意露国人

七四〜七五

五 要注意露国人と我国社会主義者との關係

第七 在留支那学生概況

一〇〇〜一〇六

六 露国人団体

七五〜七八

第四 支那に於ける過激派

一 概説

八〇〜八一

二 在上海過激主義者並其の宣伝運動

八一〜八二

三 在上海過激派宣伝機關団体並其の活動

八二〜八三

四 在北京過激派動靜

八三〜八四

五 支那各地の赤化

八四

第五 支那に於ける排日情況

八四〜八五

一 概説

八四〜八五

二 支那各地排日実況

八五〜八六

三 排日的団体及其行動

八六〜九二

四 排日運動と英米人の煽動

九二〜九五

第六 最近支那に於ける欧米諸国の活動

一 七月政変後に於ける欧米諸国対支活動

九五〜一〇〇

二 在支英国商業會議所第二回聯合總會の情況

一〇〇〜一〇六

一 在留学生の思想及動靜

一〇七〜一〇八

二 支那動乱並飢饉と學費關係

一〇八〜一〇九

三 留学生団体

一〇九〜一一〇

四 留日学生風紀

一一〇〜一一一

五 一般留学生の対日感想

一一一

六 支那留学生と米国宣教師との關係

一一一

七 留学生優遇に関する特設機關

一一二

第二号 一九二一（大正一〇）年五月

第一、欧露過激派事情

一、第八回全露勞農會議に於けるレーニンの演説(*三

八、浦潮情況

月十九日浦塩発行『クラスノエ・ズナーミヤ』

一、知多政府の浦潮滞貨吸収策／二、極東非社会

に拠る)

レーニン 一〇 四

党大会事情 二二〇 二七

二、勞農政府の極東政策

四〇 五

九、哈市情況

三、勞農政府の極東宣伝

一、哈市に於ける猶太資産階級の行動

一、極東宣伝機関拡張計画／二、極東宣伝訓令

六〇 八

第三、支那過激派事情

二七〇 二八

第二、西伯利亞過激派事情

一、上海情況

一、極東共和国憲法議會第四日目に於けるクラスノシ

一、露人の過激主義宣伝／二、支那人過激主義抱

チヨコフの外交演説(二月二十二日浦塩発行

持者の活動 二八〇 三〇

『クラスノエ・ズナーミヤ』所載)

二、漢口情況 三〇〇 三〇

クラスノシチヨコフ 八〇 一一

三、北京に於ける対日宣伝計画 三〇〇 三〇

二、憲法議會に於ける農民党の宣言 一一〇 一四

四、寛城子附近に於ける主義宣伝並反猶太運動 三〇〇 三一

三、憲法議會に於ける共産党の宣言 一四〇 一五

四、憲法議會閉会時期 一五〇 一六

五、支那に於ける過激派取締

五、憲法議會議長シローフの略歴 一六〇 一七

一、露国人に対する取締令／二、過激宣伝雜誌取

六、極東共和国の購買組合政策 一七〇 二〇

締／三、南方に於ける孫一派の思想取締振

七、チタ政府の極東宣伝

三一〇 三三

一、共産党宣伝機関設置計画／二、共産党の排日

第四、支那に於ける排日問題

二〇〇 二二

一、概況／二、各地に於ける排日近情／三、青島

在住欧米人の対日感想 三三〇 三七

第五、在留外国人動靜

一、在留支那人／二、在留露国人／三、在留米国人／四、在留英国人 三七〇 五一

第六、雜之部

一、全世界に互る過激主義宣伝方法／二、英国過激宣伝取締方法／三、瑞典過激派情況／四、英国使節チタ派遣 五一〇 五四

第三号 一九二二(大正一〇)年六月

過激派宣伝経路一覽図

折込

第一 西伯利亚過激派事情

甲 過激派の宣伝

一 宣伝方法／二 極東宣伝機関／三 宣伝事例 一〇 一四

乙 知多政府統治組織改造及其顔触

一 七執政官／二 内閣 一四〇 二一

丙 米支両国の極東共和国に対する態度

一 米国の態度／二 支那の態度 二一〇 二五

丁 哈爾濱情況

一 哈市支那官憲の過激派役員捕縛 二五〇 二六

第二 支那事情

甲 支那に於ける過激派露国人

一 在上海カルコフの活動／二 天津に於けるホドロフの行動 二六〇 二八

乙 支那に於ける諸運動

一 北京自治運動同志会の行動／二 上海全国学生總會の決議 二八〇 三四

第三 在留外国人の動靜

甲 支那人

一 民国国恥紀念大会情況／二 學費問題と諸団体の行動／三 在留支那人の支那時局觀／四 過激主義者施存統の行動 三五〇 四二

乙 露国人

一 退去受命者エロシエンコ／二 グリゴリエフの行動／三 神奈川県下(主として横浜市)に於ける露国人概況 四二〇 五一

丙 其他

第四 雜

- 一 米国人の動靜／二 メーデーと在留外国人／
- 三 波蘭人ヘルトルの行動 五一〜 五五

第二 支那事情

- 甲 支那に於ける過激主義者の行動

- 一 エロシェンコ退去処分と世論／二 滿洲に於ける外国宣教師／三 英國情報部編纂革命運動情報録拔萃 五五〜 六〇

報録拔萃

五五〜 六〇

- 乙 支那に於ける諸運動

第四号 一九二二(大正一〇)年七月

- 一 北京各界対日情報／二 濟南に於ける日貨排斥近況／三 上海全国学生聯合会總會の行動 三九〜 三九

第一 西伯利亞過激派事情

第三 在留外国人の動靜

- 甲 極東に於けるモスクワ政府の政策 一〜 二

- 甲 支那人

- 乙 極東共和国政府の黒幕と其組織 三〜 八
- 丙 極東共和国派遣員使用の暗号 八〜 九

- 丁 浦潮並尼市に於ける政変

- 一 支那政局と在留支那人／二 学費問題の其後／三 無政府主義者施存統一派の動靜／四 広東省留日学生会の行動／五 要注意人の会合 三九〜 四五

- 一 政変前の概況／二 政変情況／三 政変後ノ概況 九〜 一九

概況

- 乙 露国人

- 戊 哈爾濱コンフェレンチャの内容及其活動

- 一 露国大使館と新浦潮政府／二 エ・ア・コロ

- 一 コンフェレンチャの性質／二 組織／三 各

- 三 ミエツの行動／三 チョック採鉱商行の事業／

- 機関の任務並活動狀況／四 有力人物 一九〜 二九

- 四 在留露国人委員會の創立 四五〜 五〇

一九〜 二九

- 丙 其他

一 和蘭人ビュールマンの行動／二 印度人アタールの死 五〇〜 五三

附録

露国労農政府職員 附、在米国労農事務所員（紐育市

統一露西亜協会発行 一九二〇） 五五〜 七六

緒言 紐育市 統一露西亜協会 五七

第五号 一九二二（大正一〇）年八月

第一 支那事情

甲 上海に於ける過激派並朝鮮人の情況

大塚内務書記官 一〜 一八

乙 各地情報

一 上海に於ける支那人の排日及思想団体／二

青島海関吏員の日支親善観／三 寛城子駅に於ける

コンフェレンチャ支部の状況 一八〜 二六

第二 露西亜過激派事情

甲 欧露の情況

一 莫斯科政府対内外政策の右偏／二 レーニン

派遣密偵の携有する旅券／三 労農治下に在る露

国の近情 二六〜 三三

乙 極東共和国の情況

一 極東共和国憲法議案／二 浦潮政変後に於ける

極東共和国 三三〜 三九

丙 浦潮方面情況

一 臨時沿黒竜州政府国民議會選挙状況／二 臨時

政府機関の構成／三 浦潮附近共産党の活動

三九〜 四八

第三 在留外国人情況

甲 支那人

一 留日学生總會の近況／二 朱啓鈴一行の渡来

／三 羅豁一派と本邦社会主義者 四九〜 五五

乙 露国人

一 オレスト・デ・プレトネルの言動

五五〜 五七

丙 其他

一 英国人バートランド・ラッセルの渡来

五七〜 六〇

二 太平洋會議に対する一米人の感想

ビー・ダブルユー・フライシャー

六〇〇 六一

三 長崎在留猶太種英国人の猶太観

アルバート・ラッセル 六一〇 六三

丁 哈市方面の情況

一 過激派の近況／二 猶太人の狀況

一〇〇 一九

第六号 一九二一(大正一〇)年九月

戊 其他

一 武市に於けるアムール国民議会の開会／二

日本国情調査関係図(自大正九年一月至大正十年六月)

オホツク近況

二四〇 二七

波蘭公使館員交際関係図

折込1
折込2

第二 支那事情

甲 支那政情

第一 露西亜過激派事情

一 太平洋會議と各地団体の行動 二七〇 三一

甲 欧露の情況

乙 支那に於ける過激派の近況

一 欧露饑饉と労農政府の対内策／二 労農政府の物資購入資金 一〇〇 五

一 上海在任鮮人と露國過激派並本邦社会主義者との關係／二 密門コンフェレンチャ支部の近況／三 間島方面に於ける過激主義宣傳事例

乙 極東共和国の情況

一 知多政府の対日交渉開始／二 極東共和国武力現況／三 ザ・バイカル近況 五〇 一〇

第三 在留外国人の動靜 三一〇 四七

丙 浦潮方面情況

甲 支那人

一 浦潮臨時政府各政務部長會議規定／二 浦潮臨時政府の政務部長問題／三 浦潮労働者大会／四 浦潮市の狀況／五 セミヨーフの亡命

一 支那公使の更迭説及其他／二 葉夏声の渡来／三 危険思想抱持者の行動 四八〇 五二

四 浦潮市の狀況／五 セミヨーフの亡命

乙 露國人

一 パンテレエフの略歴行動／二 イワン・ユズ
ロフの略歴及行動／附 エロシエンコ

五二〜 五五

クアロフ)／二 浦潮臨時政府の勘察加軍隊派遣
／三 蘇城労働者の動揺 一八〜 二六
丁 其他

第七号 一九二二(大正一〇)年一〇月

第一 露西亞過激派事情

甲 欧露情況

一 第三インターナショナル大会に於けるレーニ
ンの演説と大会決議(一九二二年七月十五、
十六日『ノーワヤ・ルスカヤ・ジズニ』所
載) レーニン 一〜 四

二 労農政府の対極東共和国指令 其一、其二

四〜 一一

乙 極東共和国情況

一 極東共和国政治の实情(*『ナシシ・ゴロ
ス』第二三号)／二 極東共和国配下の労農軍編
成制度 一二〜 一七

丙 浦潮方面情況

一 現浦潮政府主班メルクアロフの時局観(メル

第二 支那事情

一 ユーリンが労農政府に致したる報告(ユーリ
ン)他／二 北滿に於ける馬賊／三 在青島露国
人の狀況 三三〜 五〇

甲 支那人

一 在留支那人の各省自治及聯省自治觀察／二
在留支那人と本邦特別要視察人との關係／三 国
慶記念会狀況／四 中国基督教青年会創立十五週
年紀念大会狀況 五一〜 六一

第八号 一九二二(大正一〇)年一二月

第一 露西亞過激派事情

甲 欧露の情况

- 一 レーニンの書簡（「失敗の自認」）（『英国過激派月報』七月号） 一〇 六

（*附記）

- 二 レーニンの書簡に対する批評 一

ミルレル 六〇 一〇

- 三 労農政府の波羅的艦隊復興計画 一〇 一一

- 四 タンボフ州に於ける過激派の非常命令 一一 一三

乙 極東共和国情况

- 一 知多政府と対外関係／二 知多政府とパルチザン隊との紛擾／三 大連会議停頓に関する露字新聞の論調 一三 二一

丙 浦潮方面情况

- 一 浦潮最近の政情概況／二 浦潮政変計画とツエイトリン／三 浦潮政府の借款計画 二二 二七

- 一 時局問題と東三省に於ける学生取締／二 山東各界聯合会の成立／三 湖南地方情况（十月十九日『長沙特報』）／四 広東に於ける中韓協会の組織 二七 三五

乙 其他

- 一 セミョーノフの動静／二 エロシエンコの渡滬／三 過激派の赤化宣伝刊行物 三五 四二

第三 在留外国人

甲 支那人

- 一 学費問題の其後／二 在京留學生の生活状態／三 日華協会主催日支親善講演会の件 四三 四八

乙 露国人

- 一 東京在留露国人の近況／二 室蘭港外露艦の英船砲撃事件 四八 五六

丙 其他

- 一 英皇太子御来朝と在留印度人の意嚮 五六

第二 支那事情

甲 時局と各地情報

- 一 墨国に於ける過激派運動及其取締／二 仏国及塞耳亞に於ける露国人状況／三 中米聯邦の組

織 五七〇 六九

第一〇号 一九二二(大正一一)年二月

第三 在留外国人

一 濟南に於ける排日宣伝／二 天津に於ける排日排貨 三二〇 三三五

甲 支那人

一 施存統の追放顛末 附、警視庁に於ける施存統の陳述要領／二 学費借款の成立 三五〇 四三三

東支鉄道沿線ニ於ケル勞農政府並極東共和国政府諸機關

ト出張員トノ相互關係図

折込

第一 露西亞過激派事情

一 勞農露国の現在及将来

乙 其他

北田外務書記官 一〇 一九
二 知多国民議会の各国政府及国民に宛てたる通牒決議(十二月十八日浦潮『ゴロス・ローヂヌイ』

一 浦潮政府派米使節の言動と在留露国人の輿論／二 英皇儲殿下御來朝と在留印度人 四四〇 四七七

紙所載)

附録 片山潜の勞農新政策批評

三 浦潮政府の近情 一九〇 二二〇

片山 潜 四九〇 五〇〇

四 哈市に於ける反過激派の状況 二四〇 二八〇

第二 支那事情

第一号 一九二二(大正一一)年三月

甲 各地過激派の近況

一 上海共産党會議／二 海拉爾過激派機關／

第一 露国過激派事情

三 寬城子に於ける宣伝パンフレットの配布 二九〇 三三〇

一 勞農政府の文化政策(チエルジュンツェフ)／二 極東共和国情況／三 浦潮政府の内訌／四 哈市

乙 各地排日情況

反過激派の露国帝政復興運動／五 哈市に於ける

欧字新聞雜誌現況

一 二八

ヤールレス・クレーン / 三 莫斯科端信

第二 支那事情

五二 五六

甲 各地過激派情況

一 上海に於ける過激派員追放 / 二 上海に於ける無政府共產主義者の会合 / 三 北滿に於ける過激派と支那官憲 二八 三三

第二二号 一九二二(大正一一)年四月

乙 其他情報

一 天津排日詳報 / 二 北滿地方排日情況 / 三 香港に於ける支那海員の同盟罷業 三三 三九

第一 露国過激派事情
甲 欧露の情況

一 労働政府治下の經濟現況 / 二 第九回全露労働會議 一 一二

第三 在留外国人

甲 支那人

一 學費借款問題の其後 / 二 留日學生學費問題に關し京大學生の運動 / 三 在留支那人戸口調査 / 四 京都實業家の留學生招待 三九 四六

乙 極東共和國情況

一 知多政情 一二 一六

丙 浦潮方面情況

一 浦潮政府首班メルクロフの引籠 / 二 外人旅券に關する新令發布(二月二十八日)ルスキイ・クライ / 三 勘察加遠征隊近況 一七 二一

乙 其他

一 過激派系新聞主筆露国人クリオリンの渡來 /

丁 哈市方面情況

一 哈市に於ける労働及知多政府機關の行動概要 / 二 猶太國民金庫創設二十年祝賀會

第四 雜之部

一 追放英國人ビー・ピー・グレーの後報 / 二 前駐支米國公使チャーレス・クレーンの訪露感想(チ

第二 支那事情

二 二九

甲 各地排日

一 北滿に於ける排日詳報／二 上海商務總會と

第一三三號 一九二二(大正一一)年五月

平和博 三〇〇 三三三

乙 其他

一 エロシエンコの北京行／二 上海に於ける猶

第一 露國過激派事情

甲 歐露情況

太人／三 桂林に於ける孫大總統の演説(孫文)

三三〇 三七

一 莫斯科に於ける極東人民大会／二 勞農政府

の外國人に対する利權讓渡

一〇 一六

第三 在留外國人

甲 支那人

一 留日學生總會大會開催／二 留學生教育費國

乙 極東共和國情況

一 勞農政府の極東共和國根本的改造／二 極東

共和國籍喪失令の發布／三 知多に於ける支那

庫補助に関する請願 三七〇 四二

共產黨 六〇 一〇

乙 其他

一 アントーノフの渡來／二 サンガー夫人の渡

丙 浦潮方面情況

一 浦潮内閣成立と其政綱／二 ゴーロス・ロジ

來／三 セミヨーノフ其後の動靜 四二〇 四九

ヌイ紙発行禁止の真相 一一〇 一六

第四 雜之部

一 南亞に於ける同盟罷業概況

今井領事 四九〇 五〇

丁 哈爾濱方面情報

一 哈市過激派団の近情／二 東支鐵道沿線に於

ける赤化宣伝／三 哈爾濱に於ける列國の經濟的

勢力 一六〇 二三

第二 支那事情

一 北方政府の過激派取締其他／二 保定に於ける共

産主義宣伝／三 労農羈下に在る庫倫現況と張巡閱使の対策／四 日支合併事業禁止令 二四〇 三三

第三 在留外国人

一 学費借款問題の其後／二 支那労働運動犠牲者追悼会開催／三 本邦に於ける支那国民党支部の近状

附、中国国民党規則／四 ガンヂー逮捕と在神戸印度人 三四〇 四三

第四 雑之部

一 インターナショナルの変遷 四三〇 五一

内地在留及一時滞在外國人一覽表／内地在留外国人職業

別人員表（大正十年十二月末現在）

内務省警保局調 折込

第一四号 一九二二（大正一一）年六月

露国児童飢餓の惨状（*写真及文） 内務省社会局 口絵

第一 露西亜事情

甲 欧露情況

一 労農政府の新政策／二 労農治下の饑饉狀況
／三 ペトログラードの人口動態調査

乙 極東共和国情況

一 莫斯科政府との関係／二 極東共和国々立銀行の設立 一〇〇 一四

丙 浦潮方面情況

一 浦潮政府近状／二 浦潮商業會議所遣米議員の報告及決議 一四〇 一八

丁 哈爾濱方面情況

一 主要人物及団体の動靜 一九〇 二三

第二 支那事情

甲 各地社会運動

一 上海に於ける労働祭／二 日華紡績会社職工の同盟罷工／三 カール・マルクス紀念祭／四

非基督教運動 二三〇 二九

乙 其他

一 対露諸問題／二 露蒙通好盟約

二九〇 三五

第三 在留外国人

一 五七紀念会（国恥紀念会）開催／二 学費問題と一部留学生対公使館の紛争／三 山東鉄道株式募集と

在留支那人／四 露国人スパルウインの渡来

三五 四四

丁 哈爾濱方面状況

一 オゾルニンの帰任／二 マルフレフスキーの

動静／三 過激派系及米国系露字新聞の排日傾向

二九 三五

第四 雑之部

一 ガンヂー処罰の顛末

四四 四八

第一五号 一九二二(大正一一)年七月

第二 支那事情

甲 各地過激派動静

一 上海過激派端信 三六 三八

二 支那社会主義青年団中央執行委員会の行動

三八 四一

支那各省督軍系統図

折込

第一 露西亜事情

甲 欧露情况

一 全露中央執行委員会の決議／二 労農政府の

新幣制(『イズベスチャ』四月六日記載)

一 七

三 長沙情况 附、支那労働史に現はれたる労働問題(*『満洲日々新聞』より抄録)

王永昌 四一 四五

乙 極東共和国情况

一 労農政府対極東共和国の経済同盟／二 知多

方面情報 七 一三

一 黎總統の復任並新内閣の顔触／二 還附後の山東鉄道経営方針 四五 四九

第三 在留外国人

丙 浦潮方面情况

一 浦潮政変の経過／二 浦潮政府の義勇艦隊奪

取計画／三 浦潮在留邦人大会開催 附、在留邦

人現状 一三 二九

甲 支那人

一 留日学生總會近情／二 前國務總理一行の渡

来／三 支那時局と在留支那人／四 河南改造同

志会の行動 四九 五七

乙 其他

- 一 露国人オレグ・プレトネル追放の顛末／二 印度人アタールの追悼会開催／在哈過激派名簿、在哈反過激派名簿（大正十一年五月調）

五七〇 七五

声明影響

一六〇 二五

丁 哈爾濱方面情況

- 一 哈爾濱に於ける宗教の現況（大正十一年五月 憲兵隊調）

二五〇 二九

第二 支那事情

- 一 上海に於ける過激派の行動（木下内務事務官）／二 奉直開戦と北滿に於ける治安／三 安東に於ける労働組合設立計画／四 露支局部通商草約／五 蒙古

近情

二九〇 四七

第三 在留外国人

- 一 留日支那学生郊外討論会開催／二 西伯利撤兵と在留露国人／三 退去受命者オレグ・プレトネル後報／四 露国人イヴァン・コズロフに対する退去処分／五 セミヨノフの其後

四七〇 五九

第四 其他

- 一 在英露国人及其機関並過激派概況／二 キルソン元帥暗殺の因由／三 独外相の遭難

六〇〇 六五

第一六号 一九二二（大正一一）年八月

第一 露西亜事情

甲 欧露情況

- 一 勞農政府の新經濟政策の效果／二 勞農治下に於ける人民所有權（中央執行委員会新法案）露紙『ハルビンスキイ・デーニ』掲載）

一〇〇 一一

乙 極東共和国情況

- 一 極東共和国國民議會議員選挙／二 知多彙報

一一〇 一六

丙 浦潮方面情況

- 一 浦潮非社会党の起草せる地方議會召集委員會の組織法案／二 沿黒竜州地方議會召集規定 附、沿黒竜州地方議會党派別議員数／三 日本軍撤退

第一七号 一九二二(大正一一)年九月

農代表ヨツフェの行動／三 山東学生聯合会の排日運動 二九ゝ 三六

第一 露西亞事情

第三 在留外国人

甲 欧露情况

一 勞農政治の近情／二 勞農露国チェコ・スロ
ヅキヤ国間通商条約締結／三 過激派と正教

一 留日学生總會の近況／二 留日欠費各省公費生聯合會組織／三 梁士詒一行の退去／四 浦潮政府使節一行の渡米 三六ゝ 四二

乙 極東共和国情况

一 知多政府の支那人待遇 一ゝ 一〇

第四 其他 一 愛蘭自由国兩領袖の訃報／二 外客渡來の趨勢 四二ゝ 四八

丙 浦潮方面情况

一 地方會議開催の経過／二 地方會議の由来／
三 テリックスの経歴／四 浦潮政府の対張作霖協商／五 浦潮地方に於ける米人の活動

第一八号 一九二二(大正一一)年一〇月

第一 露西亞事情

一〇ゝ 二四

甲 欧露情况

丁 哈爾濱地方情况

一 オゾルニン機関の国籍登録事務開始／二 東支鉄道沿線に於ける共産党近情 二五ゝ 二九

一 勞農露西亞の予算／二 莫斯科政府新法令其他／三 全露中央購買組合の内容 附、西伯利聯合消費組合の内容 一ゝ 九

第二 支那事情

一 上海に於ける紡績女工罷工の状況／二 在北京勞

乙 極東共和国情况

一 知多情報／二 知多共産党諸機関の近情 九ゝ 一六

丙 浦潮方面情況

三 米国に於ける露国飢饉救済事業と共産党

一 浦潮政府の地方議會権限拡張／二 浦潮市の

六六〇 七〇

人口／三 浦潮地方に於ける共産主義宣傳事例

一六〇 二七

第一九号 一九二二(大正一一)年一月

第二 支那事情

一 上海に於ける支那海員同盟罷業狀況／二 陳独秀

第一 露西亞事情

逮捕の顛末／三 漢陽製鉄廠同盟罷工 二七〇 三六

甲 欧露情況

第三 在留外国人

一 支那国民党東京支部の近情／二 留日学生總會と

一 莫斯科政情／二 キエフに於ける知識階級の窮狀(*浦潮発行露字新聞『ナリシヤ、レーチ』九月三、四日掲載)／三 第三インターナショナル

支那人労働問題／三 露国諸名士の来往

の国際的宣傳方針

三六〇 四三

一〇 一五

第四 其他

乙 極東方面情況

一 長春會議

一 知多内閣の改造／二 知多政府の財政状態／

イ 會議の経過

四四〇 四七

三 第四回極東共産党會議開催／四 撤兵後の浦

ロ 大連協定案

四七〇 四九

潮狀況 一五〇 二一

ハ 會議決裂と露国人の感想

第二 支那事情

メルクローフ／グリゴリエフ／マルチン・ラ

一 ヨツフェと支那の思想界／二 陳独秀一派と無政

ミング／アサノキッチ／エム・クズメンコ／

府主義者との確執／三 南京に於ける文化運動(木下

ボサツク／エツチン他

事務官)／四 杭州に於ける思想団体(木下事務官)／

二 北米石炭罷業の顛末

五九〇 六五

五 北滿に於ける米人の活動／六 上海在留各人々

口 二一〇 三六
第三 在留外国人

一 国慶紀念祝賀会開催／二 陳春培追放の顛末／
三 横浜に於ける韃靼羅紗行商人の近情

三六〇 四九

第四 其他

一 近東時局とケマル・パシヤ／二 ラテナウの遭難
と共和擁護令の發布 附、独逸共和擁護令

四九〇 七四

第二〇号 一九二二(大正一一)年二月

第一 露西亜事情

甲 欧露情況

一 本年度農作と農民及都市労働者 一〇 八

二 莫斯科政府と対外關係

イ 瑞露通商問題の経緯／ロ 近東問題に對する
露国代表の所説(ラコウスキー) 八〇 一一

乙 極東情況

一 極東共和国廃止事情／二 共産党極東宣伝部

の内容／三 極東労働同盟会の任務／四 知多近
情(諜報) 一一〇 四〇

第二 支那事情

一 上海ライフの改題と同地に於ける露人經營の其他
新聞雜誌／二 北滿に於ける過激派の近情／三 陳一
派の平民女学校設立／四 日支諸問題と各地の輿論

四一〇 五四

第三 在留外国人

一 留日広東同郷会の行動／二 支那時局に對する支
那公使館員の談／三 政治的方面より見たる横浜在留
露国人／四 近東時局と在留回教徒 五四〇 六五

第四 其他

一 露国避難民処遇経緯／二 英国に於ける危険思想
宣伝取締法 六五〇 七一

第二一号 一九二三(大正一二)年二月

第一 露西亜事情

甲 欧露情況

一 労働政府の對世界抗議／二 第十回ソウエー

ト大会及労農共和国聯合事情（カメネフ）／三
義務兵役令の發布 一〇 九

乙 極東方面事情

一 赤軍入浦後の赤化事情／二 浦潮ソウエート
第七回例会／三 知多彙報／四 過激派の別働機
関並在支代表者の配属／五 第三インターナシヨ
ナルと在西伯利鮮人共産党 九〇 三五

第二 支那事情

一 上海に於ける思想団体／二 春暉中学校に於ける
共産主義者の会合／三 過激社会主義取締に関する運
動（王懷慶「過激取締法案建議」） 三六〇 五〇

第三 在留外国人

一 時局と留日支那学生の行動

イ 留日学生総会

五〇〇 五一

山東問題終結時の回顧

リーストンナ・ベーカー 五一〇 五四

ロ 満蒙問題と奉天、黒竜両省同郷会

五四〇 五五

ハ 山東同郷会

五六〇 五七

二 警視庁管下に於ける支那労働者並彼等渡來の真相

三 メルクローフ其後の行動 五七〇 六〇
六〇〇 六三

第四 其他

一 一米人の觀たる日本の外人待遇法（アイザク・エ
フ・マルコツソン「日本ノ外人待遇法」）／二 米国政府
制定の「The China Trade Act」の梗概 六三〇 六九

第二二号 一九二二（大正一二年）五月

第一 露西亜事情

一 第一回沿海県ソウエート會議の情況／二 浦潮に
於ける朝鮮独立示威運動／三 浦潮に於ける対邦人宣
伝事例／四 外国人居住登録に関する布達／五 現行
西伯利の行政組織／六 労農法制／七 欧露近情一束
一〇 二八

第二 支那事情

一 二十一箇条問題と上海排貨情況／二 武昌漢口地
方に於ける労働団体の近情（木下事務官）／三 威海
衛問題と北京学生団／四 東支鉄道沿線に於ける過激
派機関としてのドル・コム／五 奉天省の自費留學生

奨励

二八〇 四一

第三 在留外国人

- 一 時局と留日学生總會／二 支那留学生の特別予科
存置運動と日華学会／三 露国人サゾーノフ一味の行
動／四 アントーノフの談片 四二〇 五二

第四 其他

- 哈爾濱領事庁に於て査証を与へたる露国人の趨勢（大
正十一年中） 哈爾濱總領事 五三〇 五五
- 内地在留及一時滞在在外國人一覽表（大正十一年十二月末
現在） 内務省警保局調 折込

第二三号 一九二四（大正一三）年五月

第三インターナショナルの五年間

一〇 一一

米國に於ける共産黨の状況

大塚内務監察官 一二〇 一八

内外情報

露國事情

- 一 レーニン死去に関する宣言 一九〇 二二
- 二 ルイコフ新内閣議長施政の方針

三 英國政府の露國承認通告文の回答

ルイコフ 二二二〇 二二三

四 万国共産黨執行委員會

二二三〇 二二五

五 万国共産黨設立五週年記念

二二六〇 二二七

六 露國共産黨の内訌と共産黨大会

二二七〇 二三八

七 露國過激派の宣伝状況

二三八〇 二四一

八 浦塩海員俱樂部の現況

二四一〇 二四二

九 共産黨の対日宣伝事例

二四二〇 二四七

独逸事情 独逸共産黨の宣言

二四七〇 二四八

支那事情

一 ドルコム、メストコムと支那官憲の取締

二四八〇 二五三

二 哈市に於ける共産黨幹部の會合

二五三〇 二五五

三 上海に於ける極東万国共産黨支部代表者會議

二五五〇 二五六

四 露國共産黨と孫逸仙

二五六〇 二五七

孫文の同志勉勵文

孫文 二五七〇 二五九

五 營口フリーメーソンの現況

二五九〇 二六〇

六 日貨排斥擡頭

二六〇〇 二六一

国内事情

- 一 露国に送付せる日本共産党々則 六二〇 六五
- 二 支那留日学生総会の会則改正 六五〇 七〇
- 三 震災と外事関係 七一〇 八六
- 四 レニン号追放の顛末 八六〇 八九

彙報

九一〇一

- 一 浦塩政権の日本領事否認／二 邦人退去処分に関する露字新聞の記載／三 莫斯科宣伝学校の支那人募集と之に対する支那官憲取締／四 朱長官の赤党取締法制定／五 英国の労農政府承認に対する在留外国人の感想（アブリコソフ／ウラジミル、ラクーチン／ジ、エー、プロフィット／ハツパー）／六 浦塩に於ける邦人主義者の集合／七 万国労働者救済会代表者来／八 羅紗行商人の動静

人事動静

一〇二〇一〇三

雑報

一〇四〇一〇六

- 一 浦塩市の警察状態／二 労農政権樹立と家庭生活の新現象

附録

- ソウエート社会主義共和国聯邦憲法 (一) 一五

第三八号 一九二五(大正一四)年八月

資料

欧洲に於ける社会主義の十年 (米誌 *Foreign Affairs*, July 1925 所載)

- エミール・ヴンデンヴェルド 一〇 一五
- 支那各地に於ける排外運動 一五〇 六六
- 哈爾濱ソウエート総領事館組織 六六
- 内外事情

露国事情 国際共産党の制度会議及国外チエツカの創設 六七〇 七〇

芬蘭事情 芬蘭労働者の組合運動(**Työväen Kaarti*、一九二三年)より翻訳 六七〇 七〇

伊国事情 伊国共産党の活動 バンブオリ 七一〇 八六

巴爾幹事情 巴爾幹に於ける露国共産党の陰謀 (一九二五・四・二二『ロンドン・タイムズ』) 九〇〇 九五

国内事情

日露基本条約第五条政府の任務に在る在本邦労農露

国団体及人民

九五〜一〇二

支那船員罷業

一〇二〜一〇八

彙報

一〇九〜一二六

「独逸共産党運動／万国共産青年党（コムソモール）の

活動／露国共産青年黨員数／労農露国大学労働科入学

規程／東支鉄道教育機関のソウエート化と支那側の取

締／比律賓群島外国人入国規則

人事動靜

一二七〜一三〇

雜報

一三一〜一三七

全露職業同盟組合加入労働者會員手帳／日本、ラトヴ

イア間通商条約調印／外事警察講習会の開催

第五三号

一九二六（大正一五）年十一月

職業同盟工場委員会と査定調停委員会

前編

工場委員会と其の諸機関

一〜二八

外国事情

支那

国民党の新施政

二九〜三四

時局と上海総工会の行動

三四〜四〇

北滿洲に於ける赤色職業組合の情況（十一月七日附

哈爾賓『エホー』紙登載）

四〇〜四二

東三省官憲の赤化宣伝取締狀況

四二〜四五

勞農ロシア

第十五回全露共産党会議に対する党中央機関の態度

附、共産党機関紙の論調

四五〜四八

勞農ロシアに於ける右傾的傾向並反政府運動

四八〜五九

レーニングラード共産党大会に於けるブハーリンの

報告演説

ブハーリン 五九〜七五

英国総罷業と全露職業組合同盟

七五〜八一

勞農ロシアの外交政策

クリスチャン・ラコフスキー 八一〜八八

フランス フランス労働階級の生活難（『ル・ユーマニ

テー』より）

八八〜九一

ベルギー ベルギー共産党第四回例会（一九二六年九

月七日附『ユーマニテー』より）

九一〜九三

ハンガリー ラコジー事件の判決

ポーランド ポーランドに於ける陰謀事件と政治警察

部 一〇一〜一〇二

チエコ・スロヴァキア国通過旅客に対する査証 一〇二
研究資料

中国国民党総章及国民政府法制 一〇三〜一五〇

彙報 一五一〜一七〇

労働大使館に於ける革命記念祝賀会／各地に於ける十

月革命記念祭／満洲に於ける日露の關係と題する片山

潜の論文／渡来労働オペラ団に対する警察の監視状況

諷刺戯曲(シード)／在パリ・ケレンスキーの近情

／ポテムキン・フィルム禁止事件

人事動静 一七一〜一七三

チリ・国の白系ロシア移民歓迎 一七三

雑報 一七四〜一七八

北樺太の情況／露領極東の人口及び都邑数／労働商船

隊の明年度事業計画／赤衛軍の編成替／労働聯邦の外

国旅券下附手数料新規則／国際赤色救済会第一回パ

リ地方会議／独逸に於ける外国人労働者制限問題

第五四号 一九二六(大正一五)年一二月

各国に於ける万国革命者後援会の状況 一〜三八

外国事情

支那 上海に於けるロシア人の概況 三九〜一〇四

労働ロシア

第十五回ロシア共産党会議 一〇五〜一二一

ジノキエフ問題に対する第三インターナショナル常

置委員会の決議 一二一〜一二二

第三インターナショナル執行委員会総会召集

一二三〜一二四

ドイツ

ベルリン市会騒擾事件とドイツ共産党 一二四〜一二六

ドイツ議事に於ける赤色青年同盟及び共産党の解散

要求問題 一二六〜一二八

フランス フランスに於ける左傾団体の動静一束

一二八〜一三三

彙報 一三四〜一四四

オデッサ会議の觀察／ドイツ人の現代日本の諸問題観

(ユーベル・シャル)／仏伊両国共産党中央委員会

の共同宣言

新労働案 一四四

人事動靜

一四五〜一四七

雜報

一四八〜一五一

勞農ロシアに於ける朝鮮人主義者の狀況／在外ロシア

避難民數／在ベルリン植民地侵略反抗聯盟の弱小民族

大会開催計画

第五五号 一九二七(昭和二)年一月

社會主義序論

トーマス・カーカツプ 一〜七九

外國事情

支那

國民革命軍の北進が支那労働界に及ぼせる影響

八〇〜一二二

東支鐵道監事楊卓の処刑

一二三〜一二四

奉天官憲の日貨排斥

一二四〜一二六

露西亞 第七回共産インターナショナル執行委員會拡

大会の概況

一二七〜一五〇

フランス カタラニヤ独立運動の失敗

一五〇〜一五四

伊太利 治安維持法の制定とムツソリニの諭告

一五四〜一五六

英吉利 英国非常時権力法繼續施行に関する討議

一五六〜一五七

コミンテルン加盟各国共産党調(『スプートニクアギター

トラ』掲載「コミンテルン」執行委員會調) 一五七

研究資料

國民政府の工会条例

一五八〜一六二

広東省政府の罷工取締条例

一六三〜一六四

彙報

一六五〜一七二

勞農政府の猶太人植民地設定計画に対する援助／露國

の新政黨／勞農ロシアとトルコ／スエデン共産黨の動

員計画／デンマルクに於ける共産黨員の示威／ドイツ

共産黨と國粹黨員の連絡曝露／南支那駐在勞農政治部

員の増員

人事動靜

一七三〜一七五

自一九一七年至一九二六年に於ける露國共産黨勢力發展

の情況(『スプートニクアギタートラ』) 一七五

雜報

一七六〜一八〇

汎ヨーロッパ會議／勞農ロシアの國際革命闘士後援會

／勞農ロシアに於ける電化事業／勞農ロシアの宗教祭

日／英国炭坑に於ける共產主義者放逐問題に対するク
ツクの公開状／哈爾濱に於ける共產系露字新聞

第五六号 一九二七(昭和二)年二月

露西亞赤化史(其の三)

ア・イ・スピリドーウキチ 一〇 五二

外国事情

支那

奉天に於ける露国人の情況 五三〇 七四

支那革命と共產インターナショナル 七四〇 八九

労農露西亞の支配下に在る蒙古 八九〇 九三

漢口に於ける排英運動と革命軍の英国租界管理

九三〇 九九

武漢地方の労働風潮 九九〇 一〇三

露西亞 露西亞共産党の表裏(『フォレ・アフエス』一

月号) ビクトル・チエルノフ 一〇三〇 一一二

英吉利 万国労働組合統一運動と英露両国労働組合の

関係 一一二〇 一一四

伊太利

伊太利に於ける警察権の拡張 一一四〇 一一五

右傾せる伊太利労働組合首領 一一六〇 一一七

波蘭 波蘭の共産黨員検挙 一一七〇 一一八

チエツクスロワキヤ プラীগに於ける露西亞の間諜

一一八〇 一一九

南亞米利加 労農露国と南米諸国(二月二十四日『ア

ドヴァタイザー』、リオデジャネロ通信) 一二〇

研究資料

中国国民党の組織と政綱 一二一〇 一二三四

彙報

各地に於けるレーニン三週年祭の概況／根柢深き露国

共産党の内訌／共產インターナショナルの新幹部選挙

／リスアニアの大検挙に対する露国共産党執行委員会

の抗議／米国に於ける共產主義宣伝／在哈爾濱労農露

国副領事の不敬事件／支那革命運動と日本の立場(片

山潜)／支那に於ける革命と反革命／東方被圧迫民族

聯合会の組織及び宣言

人事動靜

雜報

労農作家ピリニヤクの日本印象記(ピリニヤク)／ソ

一一六〇 一一六二
一一七〇 一一七八

ウエート聯邦東方研究学会の活動／ソウエート聯邦市民登録規則／独逸の共產系書店の処刑／改正を要する英国労働法／埃及入国及び通過査証／浦塩官憲の出入邦船取締緩和／ノヴォ・シビルスクに於ける旧露曆降世祭の状況／支那国民革命軍の兵力

第一九五号 一九三八(昭和一三)年一〇月

最近に於ける英米人民戦線運動の動向 一〇 一四
外国事情

支那

中華民國臨時維新兩政府の聯合委員會の成立 一五〇 二〇〇
中華民國臨時政府の内部機構の改組 二〇〇 二六〇
八月中に於ける共產第八路軍並共產匪の動向 二六〇 三五〇

ソヴェエト聯邦

赤軍内に於けるコムソモル組織 三五〇 四六〇
スターリンと蘇聯の外交(六月十八日 巴里発行
『ルロープ・ヌーヴェル』誌) 四六〇 五〇〇

ソヴェエト民衆の声 五一〇 五六〇

独逸 第拾回ナチス党大会の概況とヒトラー總統の演説 五七〇 七一〇

英吉利

英国の外交政策に就て(*九月十六日『マンチエスター・ガーヂヤン』紙より)
ジャワハール・ネール 七一〇 七三〇

最近の英国共產党(八月十三日『マンチエスター・ガーヂヤン』)
瑞西 瑞西の近情(『コンテンポラリー・レビュー』九月号所載) 七三〇 七五〇

アール・エイ・フリードマン 七五〇 八〇〇

加奈陀 加奈陀共產党中央委員會第十三回總會(八月四日付『ルンドシヤウ』誌第三十九号)
フォン・サム・カルル 八〇〇 八二〇

研究資料

保甲暫行条例策案

八三〇 九七〇

三民主義青年団の組織(蔣中正「全国青年に告ぐるの書」他)
ナチス独逸の法律に依る猶太人名の一定化(『D・

九七〇 一一二〇

K・P』誌八月二十五日号所載) 一一二〜一一五

国家顛覆の惧ある宣伝資料禁遏に関する瑞西の新法令

一一六

彙報

一一七〜一四五

西班牙国民の英雄的闘争二周年を迎へて(デミトロ

フ)／仏蘭西に於けるスパイ事件／「欧羅巴を売る

者」と題する反共文献の内容解説／トロツキーのス

ターリン打倒声明(トロツキー)／支那新四軍の戦地

服務団(OSAKA 訳)／英国共産党対労働党／トリ

エステに於けるムツソリーニの演説(ムツソリーニ、

猪俣事務官訳)

雑報

一四七〜一五六

上海各界救国聯合会の護郵運動／外国に於けるナチス

文化／米国中立法改訂の用意あり／伊太利の猶太人追

放／仏蘭西の在留外国人／如何にして制裁の実現を争

取するか(OSAKA 訳)

余録

アメリカに於ける反ナチズム(『アクション・フラン

セーズ』、十月四日)

五〇

支那側の前線將兵に対する慰問状募集運動 一四六

第二〇二号 一九三九(昭和十四)年五月

最近に於けるソ聯邦労働統制諸規定 一〜一六

外国事情

支那

今日の新西南(中)

一七〜二九

安徽省北部蚌埠方面の政治経済状況 二九〜三二

ソヴェエト聯邦

全聯邦労働組合中央評議会第七回総会に於ける書記

長シユベルニクの演説(一九三八年九月五日附『イ

ズウエスチャ』紙) シユベルニク 三三〜五四

コムソモルの二十年、その現下に於ける諸問題と今

後の動向 五四〜七〇

ソヴェエト民衆の声 七一〜七二

仏蘭西

共産主義宣伝機関と文化団体について(『共産イン

ターの組織と活動』より訳出) 七三〜八一

仏伊紛争の地チユニス(三月二十二日露字紙『ウオ

ズロジユデーニエ』紙) 八一〜八九

印度 印度に於ける国家主義と大衆闘争 (英国『レー
バー・マンズリ』紙)

研究資料
ジャワハーラル・ネール 八九〇 九二

回教の智識 (『回教世界』より) 九三〇 九八

仏蘭西に於ける外国人関係の新法令 九九〇 一〇〇

彙報 一〇一〇 一二五

山西軍の俘虜の供述せる山西軍の概況／クレイギー、

カー両英国大使の会談に対する外人筋の観測／共産党

テロ日誌／最近華北に於ける邦人の動向

雑報 一二七〇 一四四

ユダヤ情報——一、東欧地方に於ける猶太人・二、

我々猶太人と反ユダヤ運動 (ネビル・ラスキー)／上

海市特別市党部最近の活動／四月攻勢後の動向を窺知

し得べき軍事会議の内容／一九三八年年度の収獲及ソヴ

イエト経済の見透し (猪俣事務官訳)

余録 華僑分布状況 (一九三四年南京僑務委員会調査)

一二六

